

## Ⅱ 市民意識調査結果の分析

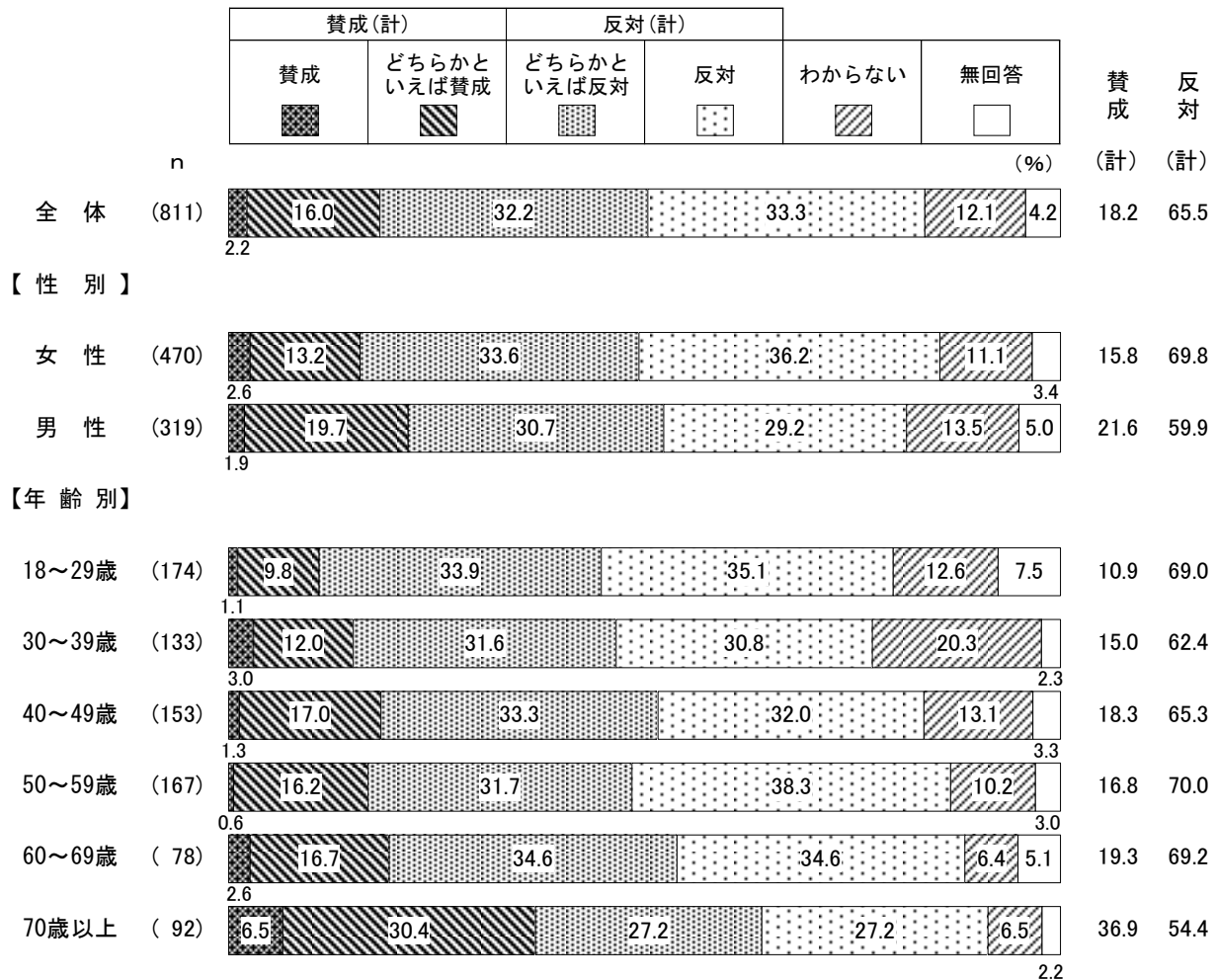


## II 市民意識調査結果の分析

### 1. 男女共同参画意識について

#### (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)



#### <全体／性別／年齢別>

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、全体では、「賛成」(2.2%)と「どちらかといえば賛成」(16.0%)を合わせた『賛成(計)』は18.2%となっている。一方、「どちらかといえば反対」(32.2%)と「反対」(33.3%)を合わせた『反対(計)』は65.5%となっている。

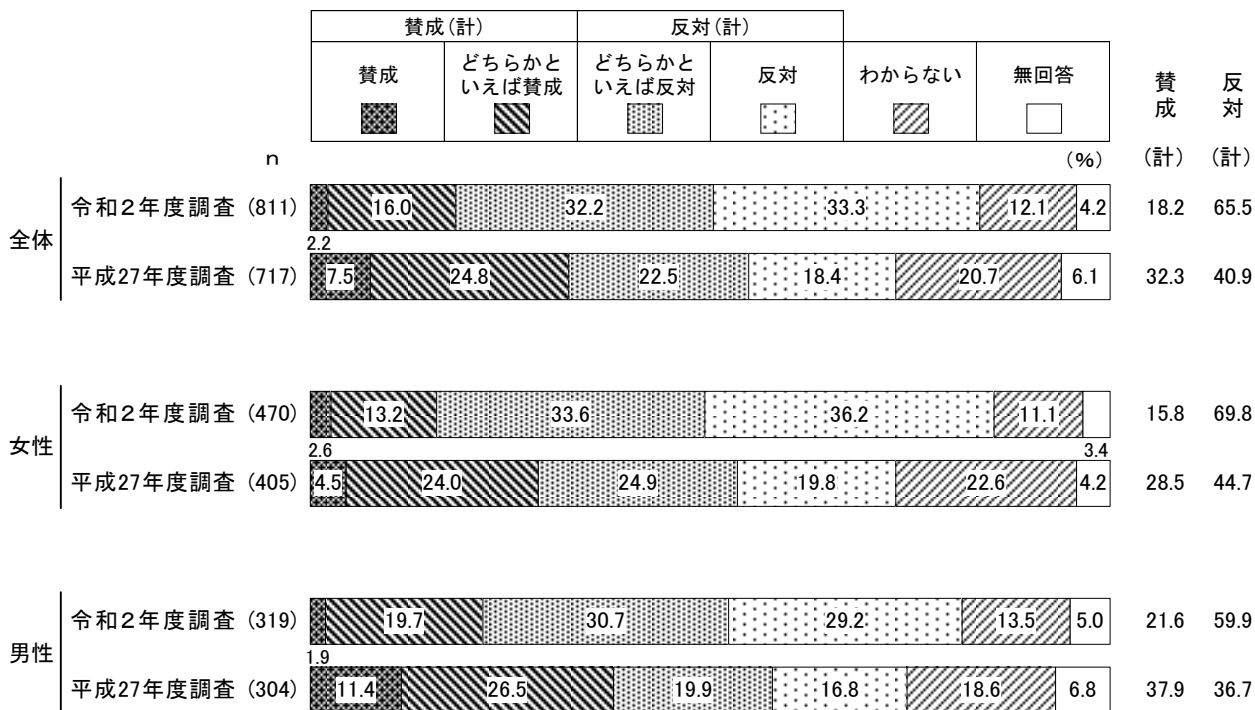
性別でみると、『賛成(計)』は男性(21.6%)が女性(15.8%)より5.8ポイント高くなっている。一方、『反対(計)』は女性(69.8%)が男性(59.9%)より9.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『賛成(計)』は70歳以上で36.9%と高くなっている。一方、『反対(計)』は50～59歳で70.0%と高くなっている。

### <経年比較>

過去の調査と比較すると、全体では『反対（計）』が平成27年度調査より24.6ポイント増加している。

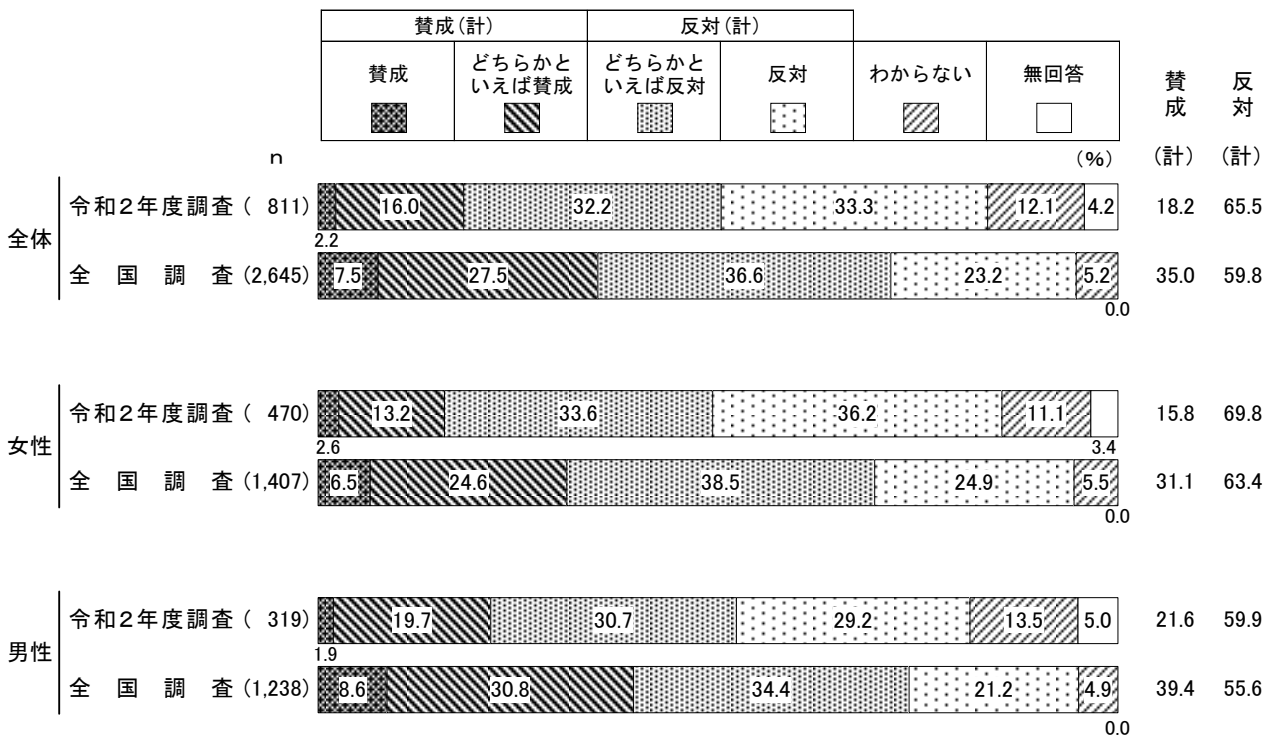
女性では『反対（計）』が平成27年度調査より25.1ポイント、男性では『反対（計）』が平成27年度調査より23.2ポイント、それぞれ増加している。



### <全国調査との比較>

全国調査と比較すると、全体では『反対（計）』が全国調査より5.7ポイント高くなっている。

女性では『反対（計）』が全国調査より6.4ポイント、男性では『反対（計）』が全国調査より4.3ポイント、それぞれ高くなっている。

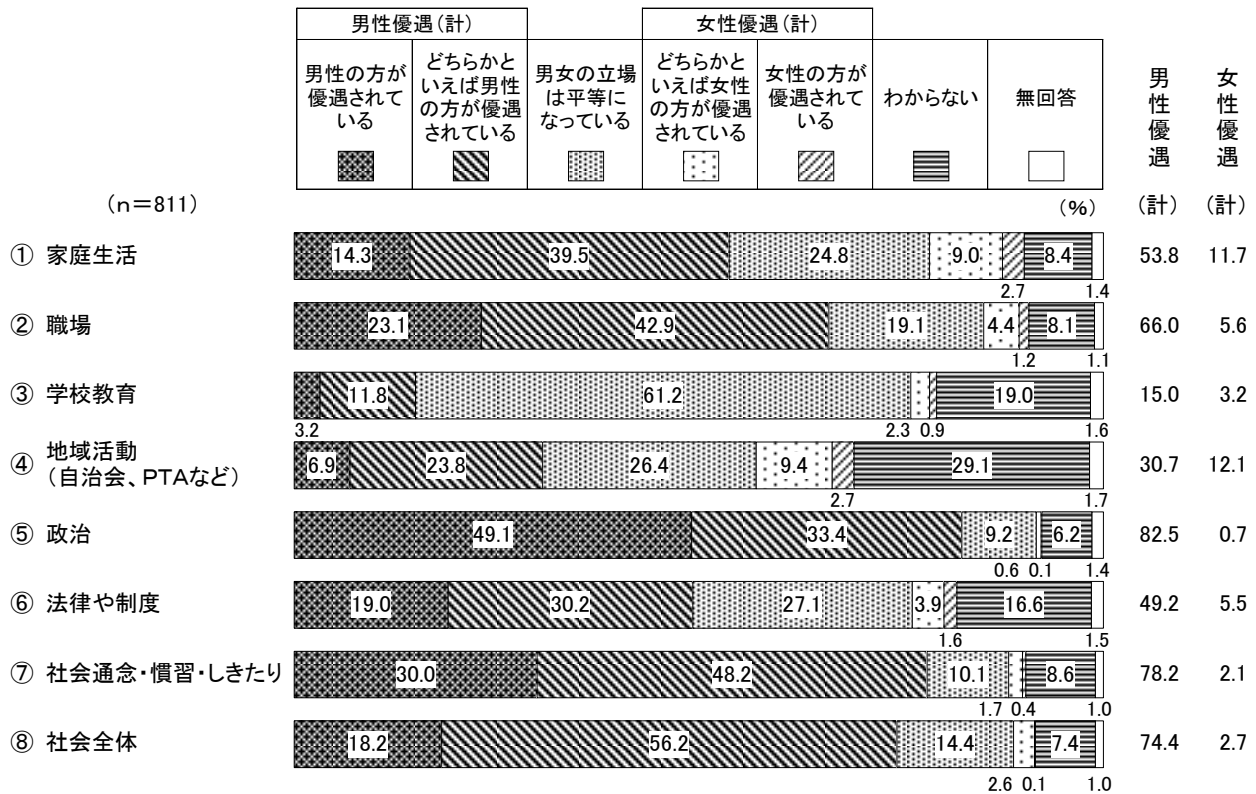


※全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月調査）

## (2) 男女の立場

問2 あなたは次の①～⑧にあげる分野で男女の立場が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)



### <全体>

男女の立場が平等になっていると思うかを、8分野について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇(計)』は“政治”が82.5%で最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたり”(78.2%)、“社会全体”(74.4%)となっている。

一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇(計)』は“地域活動(自治会、PTAなど)”が12.1%で最も高く、次いで“家庭生活”(11.7%)となっている。

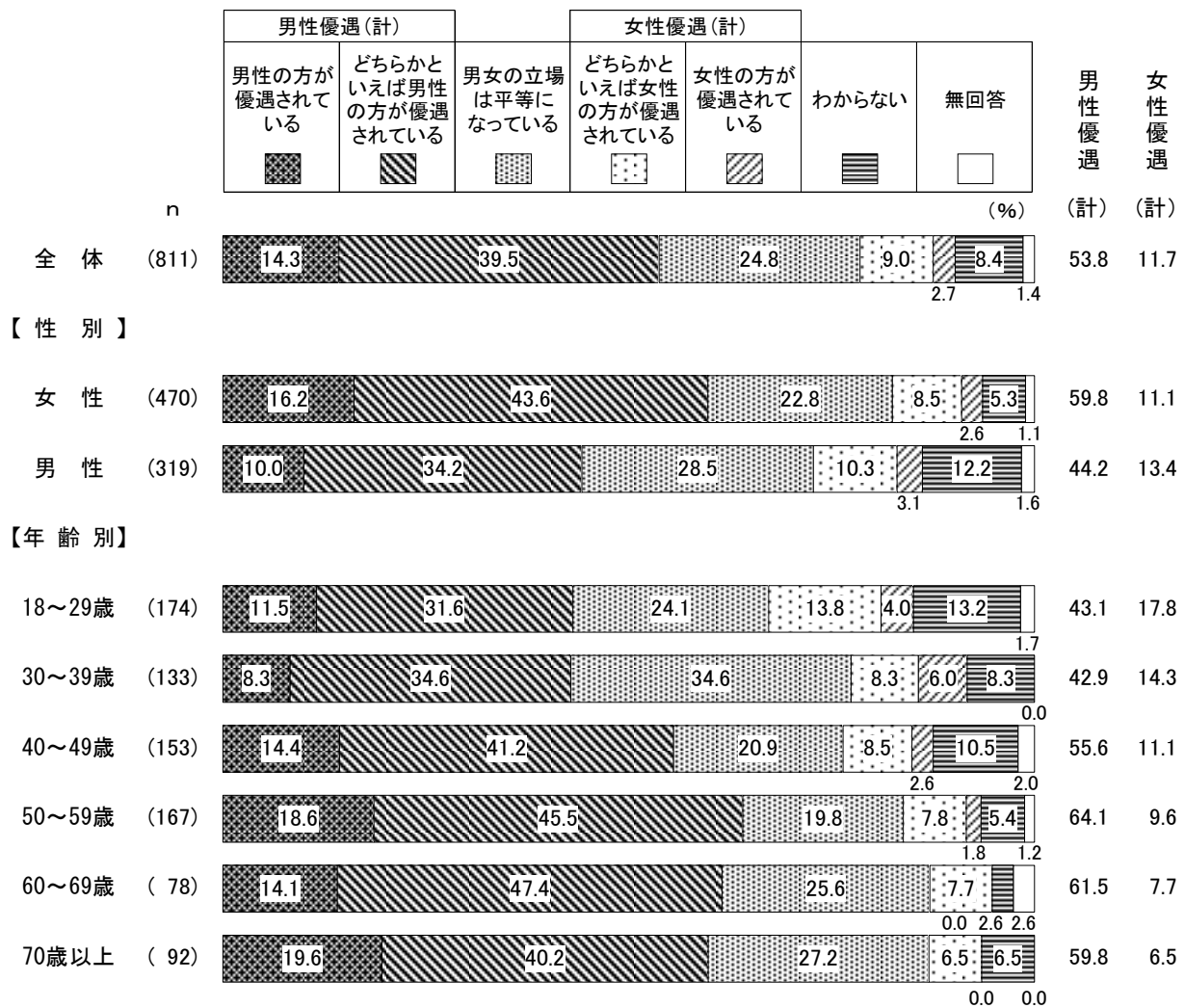
また、「男女の立場は平等になっている」は“学校教育”が61.2%で最も高く、次いで“法律や制度”(27.1%)、“地域活動(自治会、PTAなど)”(26.4%)となっている。

<全体／性別／年齢別> ① 家庭生活

家庭生活を全体で見ると、『男性優遇（計）』が53.8%、『女性優遇（計）』は11.7%となっており、「男女の立場は平等になっている」は24.8%となっている。

性別で見ると、『男性優遇（計）』は女性（59.8%）が男性（44.2%）より15.6ポイント高くなっている。一方、「男女の立場は平等になっている」は男性（28.5%）が女性（22.8%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は50～59歳で64.1%と高くなっている。また、「男女の立場は平等になっている」は30～39歳で34.6%と高くなっている。

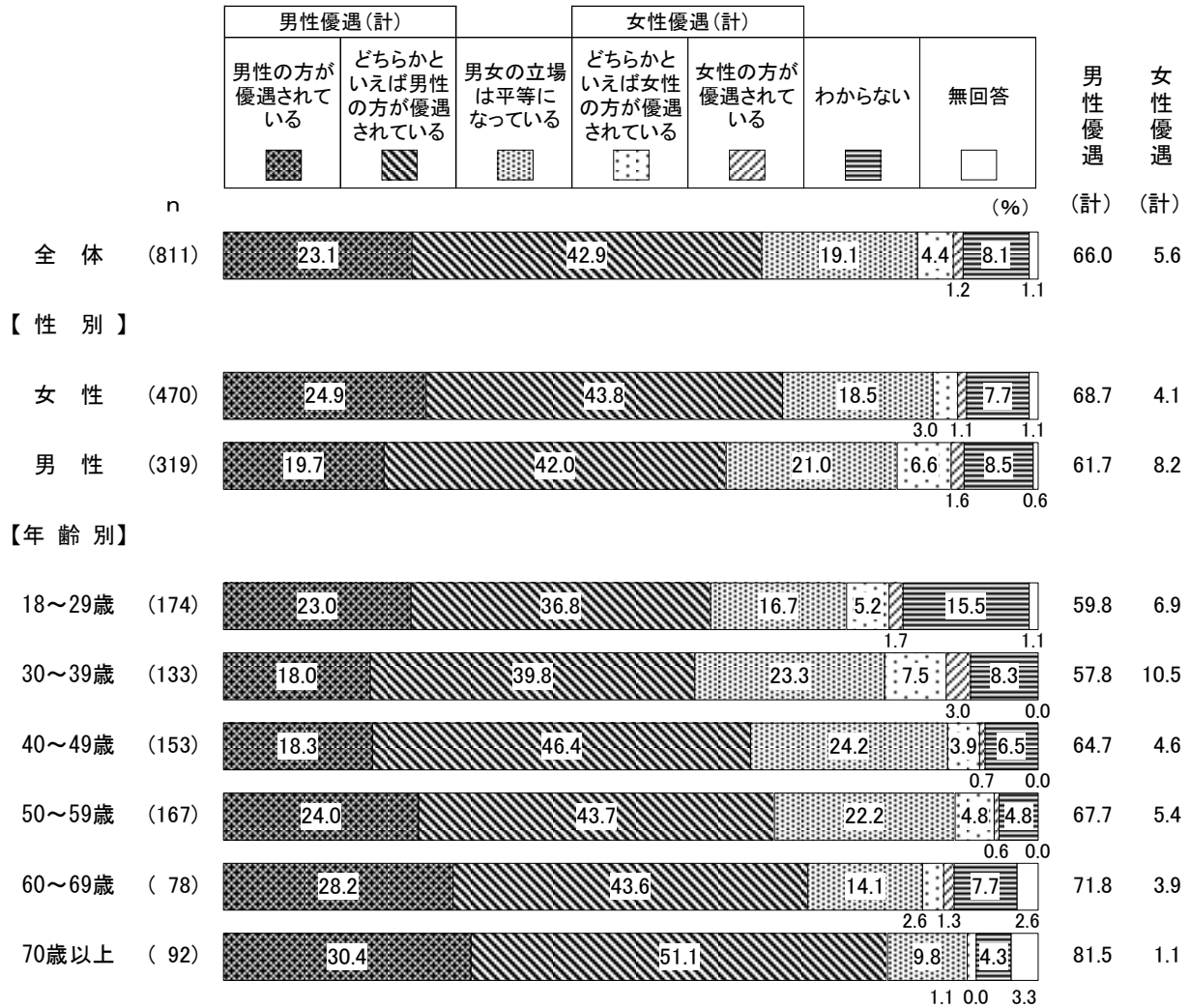


<全体／性別／年齢別> ② 職場

職場を全体で見ると、『男性優遇（計）』が66.0%、『女性優遇（計）』は5.6%となっており、「男女の立場は平等になっている」は19.1%となっている。

性別で見ると、『男性優遇（計）』は女性（68.7%）が男性（61.7%）より7.0ポイント高くなっている。一方、『女性優遇（計）』は男性（8.2%）が女性（4.1%）より4.1ポイント高くなっている。

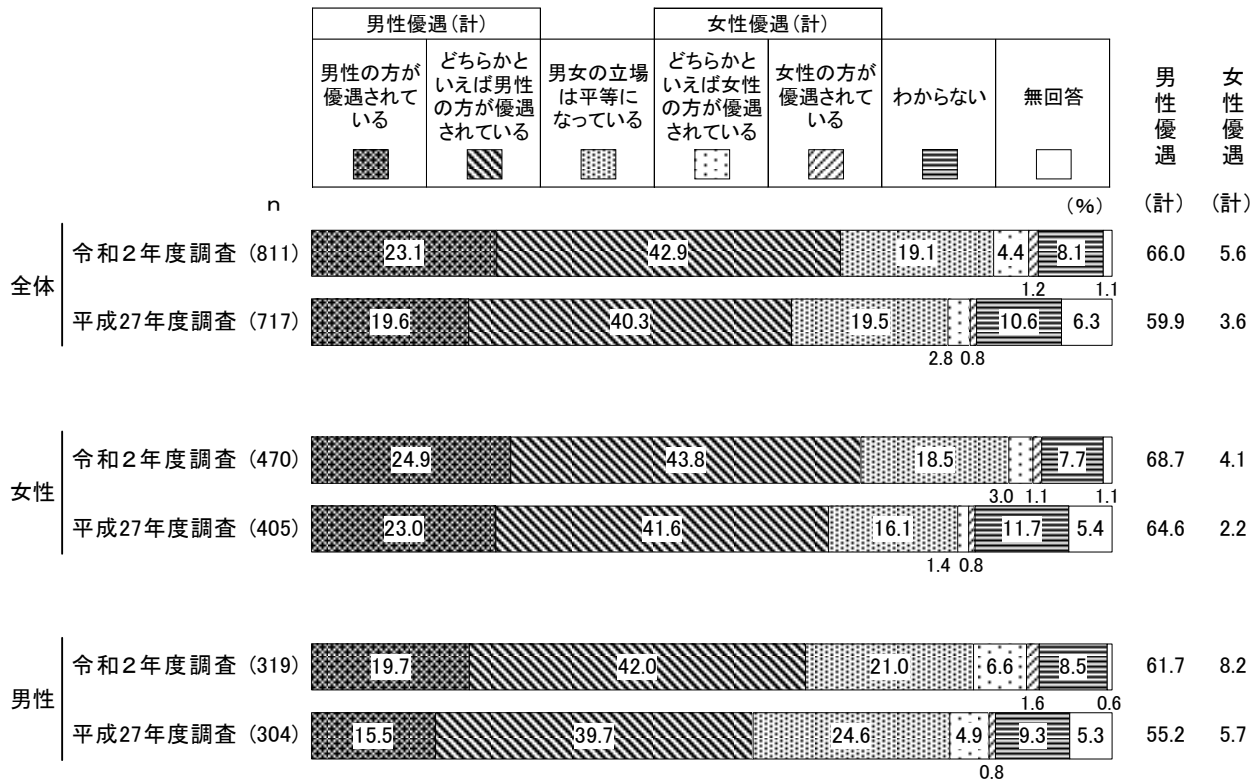
年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は70歳以上で81.5%、60～69歳で71.8%と高くなっている。



＜経年比較＞ ② 職場

過去の調査と比較すると、全体では『男性優遇（計）』が平成27年度調査より6.1ポイント増加している。

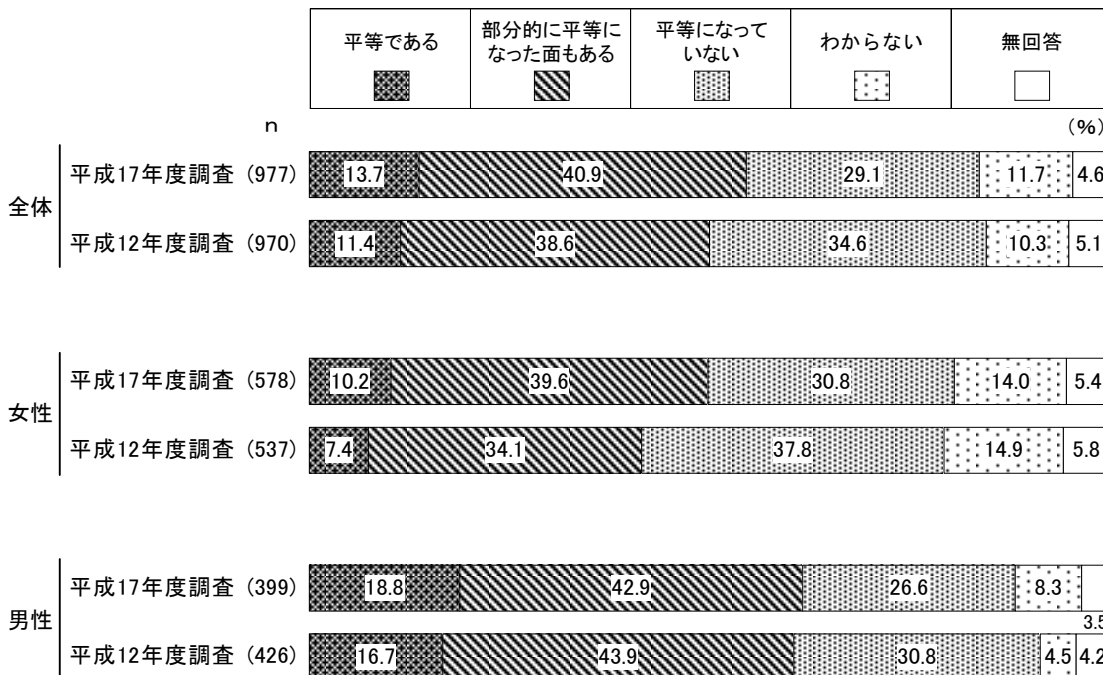
女性では『男性優遇（計）』が平成27年度調査より4.1ポイント、男性では『男性優遇（計）』が平成27年度調査より6.5ポイント、それぞれ増加している。



※「男性の方が優遇されている」は、平成27年度調査では「男性の方が非常に優遇されている」となっていた。  
 ※「女性の方が優遇されている」は、平成27年度調査では「女性の方が非常に優遇されている」となっていた。

（参考掲載）

平成17年度、平成12年度調査では、選択肢が大幅に異なるため参考に図示する。

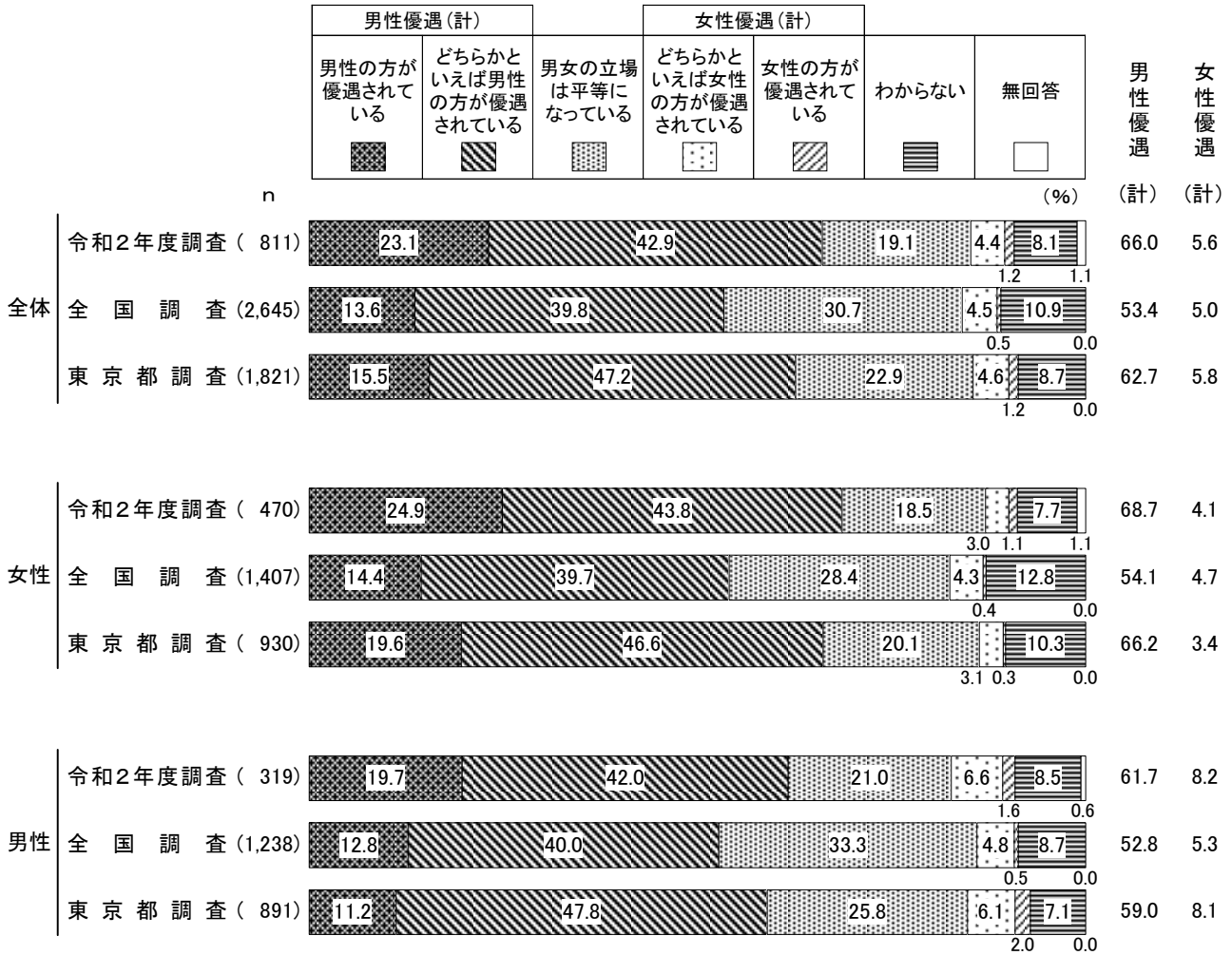




<全国・東京都調査との比較> ② 職場

全国及び東京都調査と比較すると、全体では『男性優遇（計）』が全国調査より12.6ポイント、東京都調査より3.3ポイント、それぞれ高くなっている。

女性では『男性優遇（計）』が全国調査より14.6ポイント、男性では『男性優遇（計）』が全国調査より8.9ポイント、それぞれ高くなっている。



※全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月調査）

※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）

※「男性の方が優遇されている」は、全国及び東京都調査では「男性の方が非常に優遇されている」となっていた。

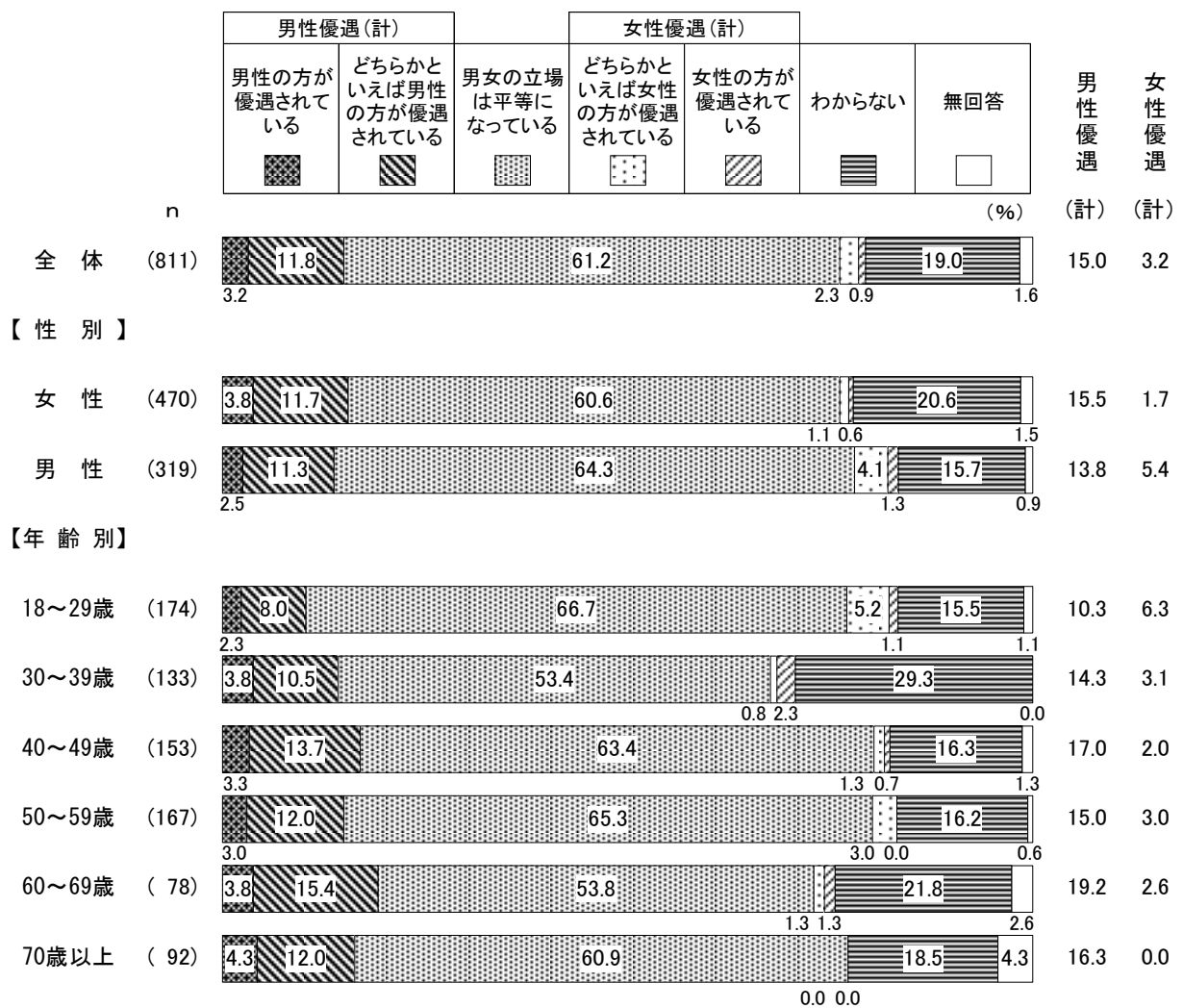
※「女性の方が優遇されている」は、全国及び東京都調査では「女性の方が非常に優遇されている」となっていた。

<全体／性別／年齢別> ③ 学校教育

学校教育を全体で見ると、『男性優遇（計）』が15.0%、『女性優遇（計）』は3.2%となっており、「男女の立場は平等になっている」は61.2%となっている。

性別で見ると、『女性優遇（計）』は男性（5.4%）が女性（1.7%）より3.7ポイント、「男女の立場は平等になっている」は男性（64.3%）が女性（60.6%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は60～69歳で19.2%となっている。また、「男女の立場は平等になっている」は18～29歳で66.7%と高くなっている。

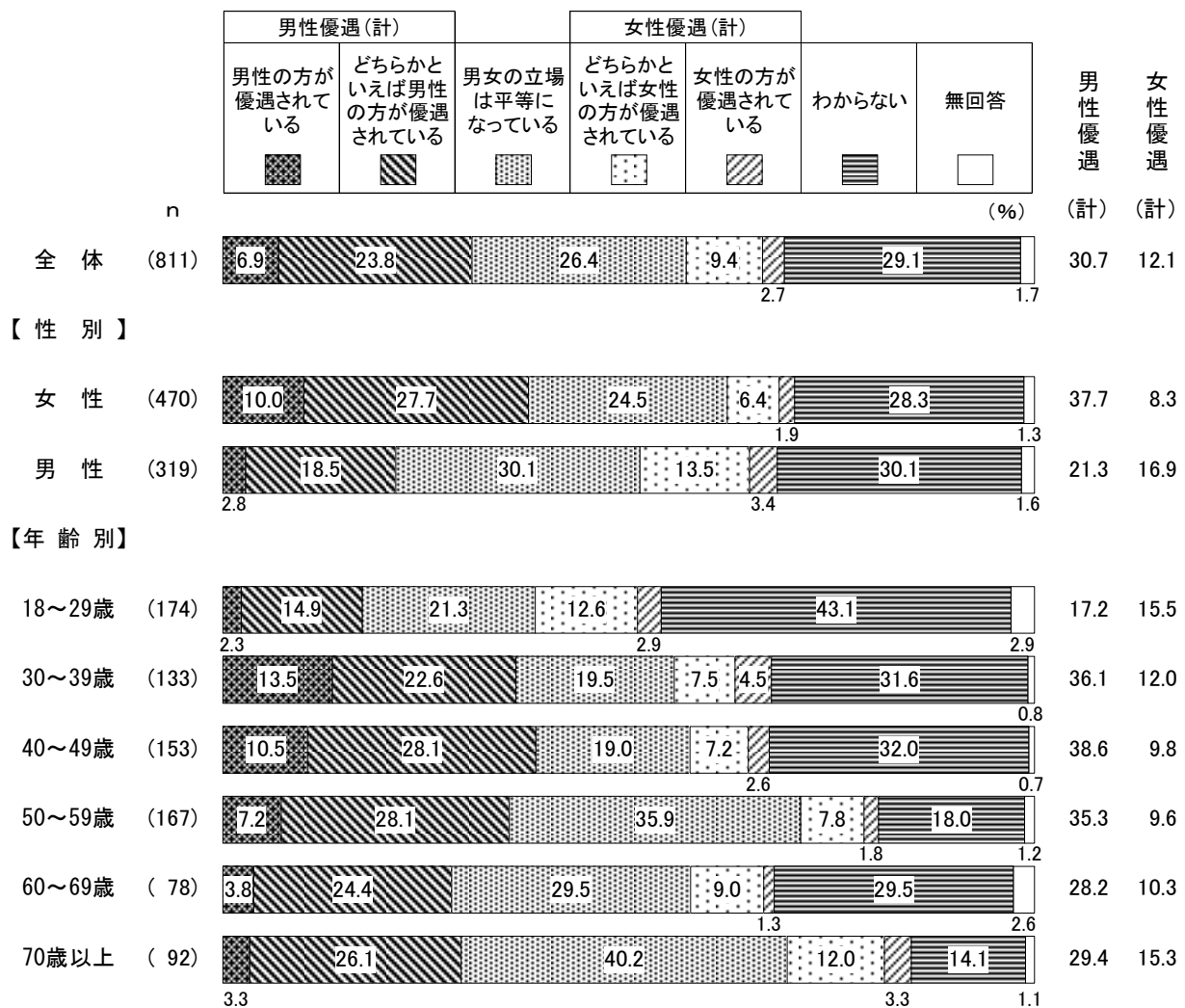


<全体／性別／年齢別> ④ 地域活動（自治会、PTAなど）

地域活動（自治会、PTAなど）を全体でみると、『男性優遇（計）』が30.7%、『女性優遇（計）』は12.1%となっており、「男女の立場は平等になっている」は26.4%となっている。

性別でみると、『男性優遇（計）』は女性（37.7%）が男性（21.3%）より16.4ポイント高くなっている。一方、『女性優遇（計）』は男性（16.9%）が女性（8.3%）より8.6ポイント、「男女の立場は平等になっている」は男性（30.1%）が女性（24.5%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、『男性優遇（計）』は40～49歳で38.6%と高くなっている。また、「男女の立場は平等になっている」は70歳以上で40.2%と高くなっている。

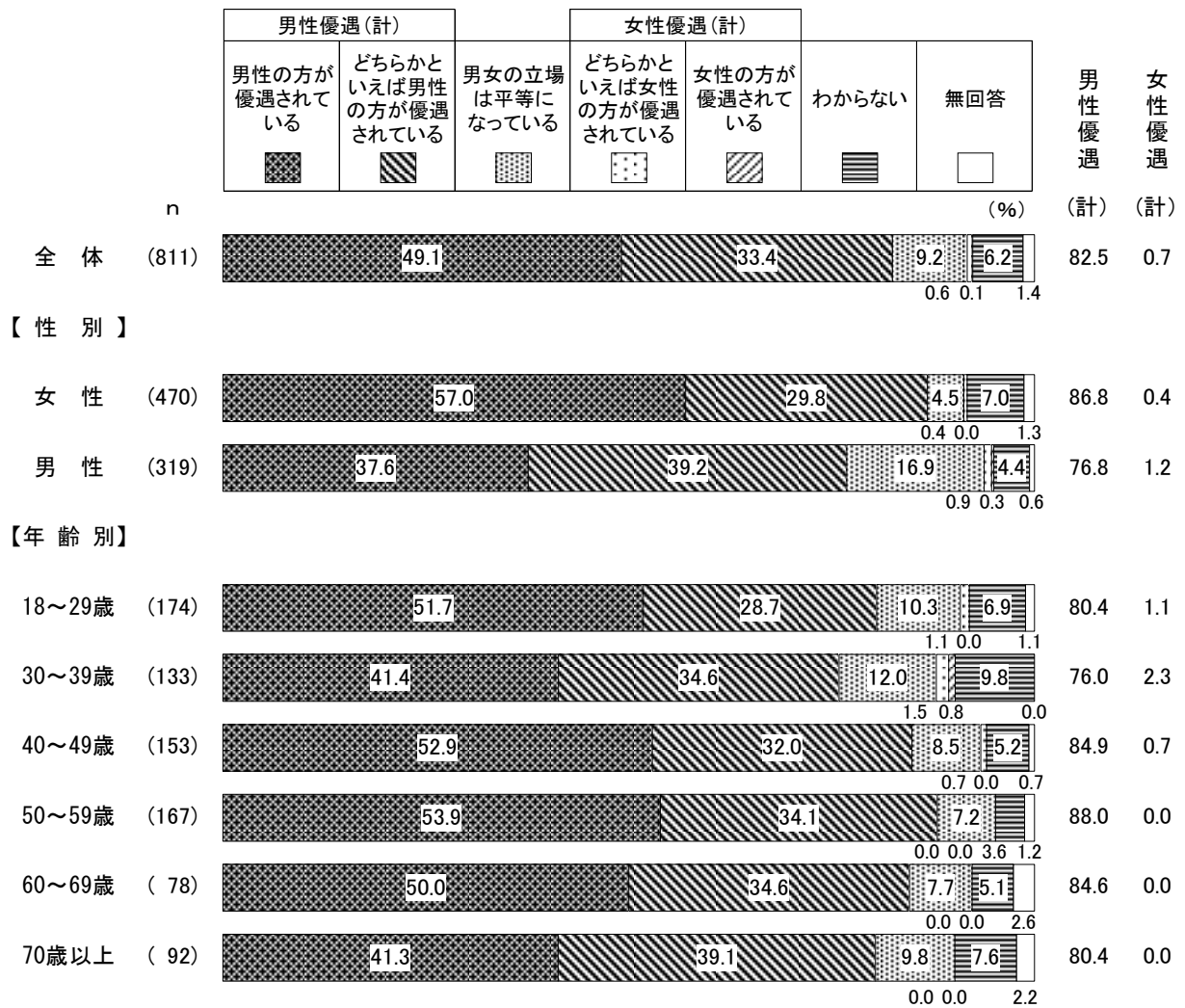


<全体／性別／年齢別> ⑤ 政治

政治を全体で見ると、『男性優遇（計）』が82.5%、『女性優遇（計）』は0.7%となっており、「男女の立場は平等になっている」は9.2%となっている。

性別で見ると、「男女の立場は平等になっている」は男性（16.9%）が女性（4.5%）より12.4ポイント高くなっている。一方、『男性優遇（計）』は女性（86.8%）が男性（76.8%）より10.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は50～59歳で88.0%と高くなっている。

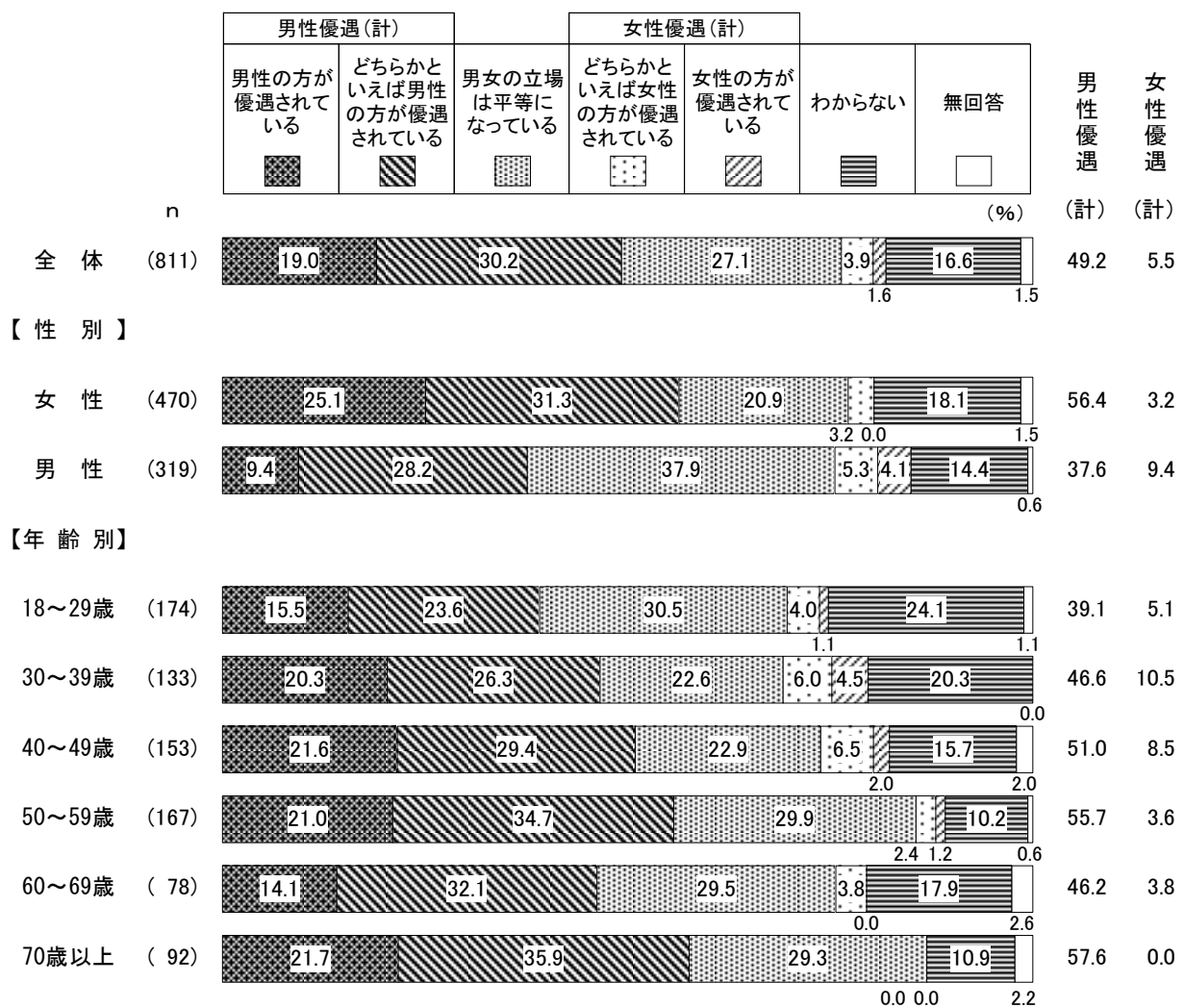


<全体／性別／年齢別> ⑥ 法律や制度

法律や制度を全体で見ると、『男性優遇（計）』が49.2%、『女性優遇（計）』は5.5%となっており、「男女の立場は平等になっている」は27.1%となっている。

性別で見ると、『男性優遇（計）』は女性（56.4%）が男性（37.6%）より18.8ポイント高くなっている。一方、「男女の立場は平等になっている」は男性（37.9%）が女性（20.9%）より17.0ポイント、『女性優遇（計）』は男性（9.4%）が女性（3.2%）より6.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は70歳以上で57.6%と高くなっている。また、「男女の立場は平等になっている」は18～29歳で30.5%と高くなっている。

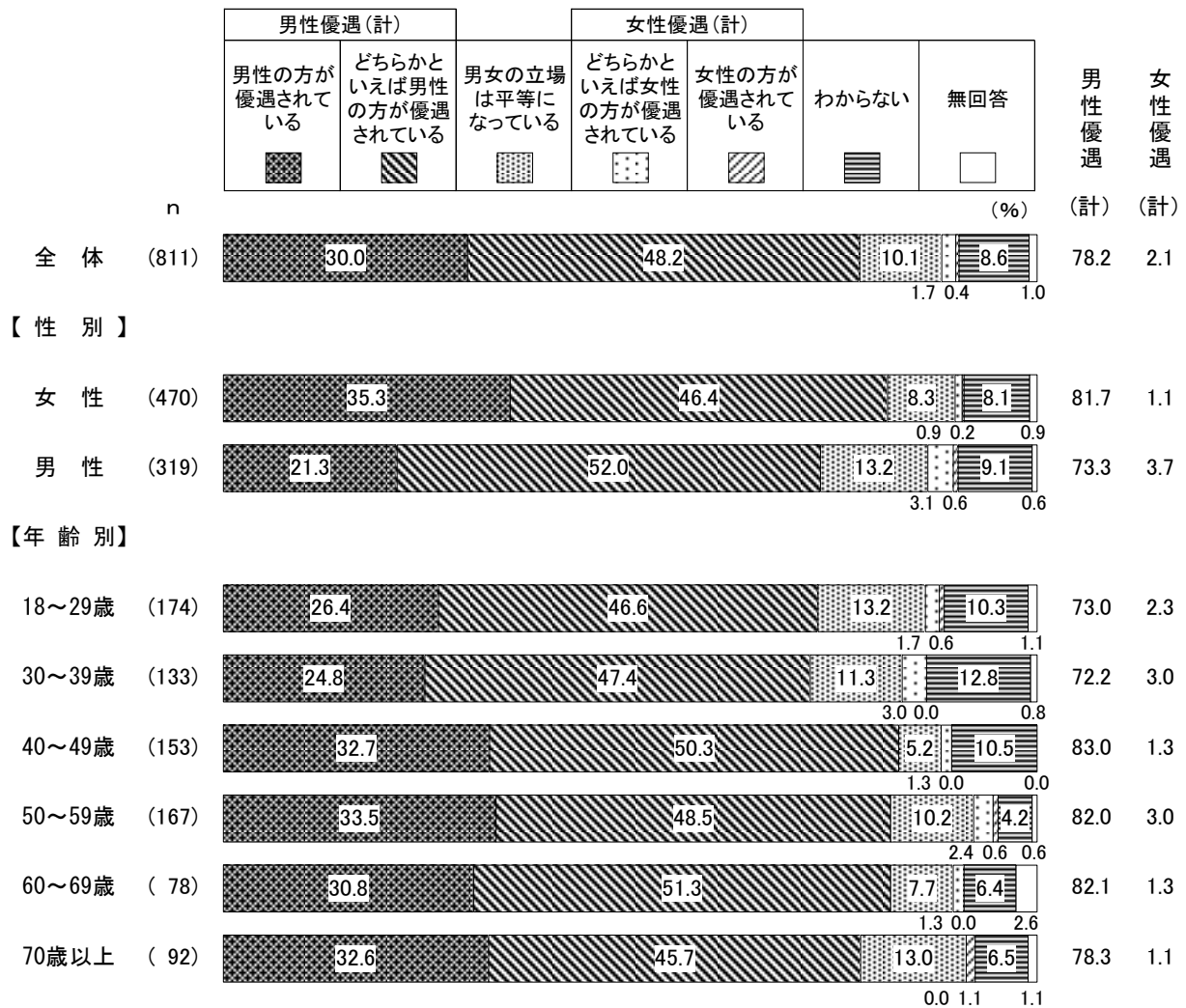


<全体／性別／年齢別> ⑦ 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりを全体で見ると、『男性優遇（計）』が78.2%、『女性優遇（計）』は2.1%となっており、「男女の立場は平等になっている」は10.1%となっている。

性別で見ると、『男性優遇（計）』は女性（81.7%）が男性（73.3%）より8.4ポイント高くなっている。一方、「男女の立場は平等になっている」は男性（13.2%）が女性（8.3%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は40～49歳で83.0%と高くなっている。

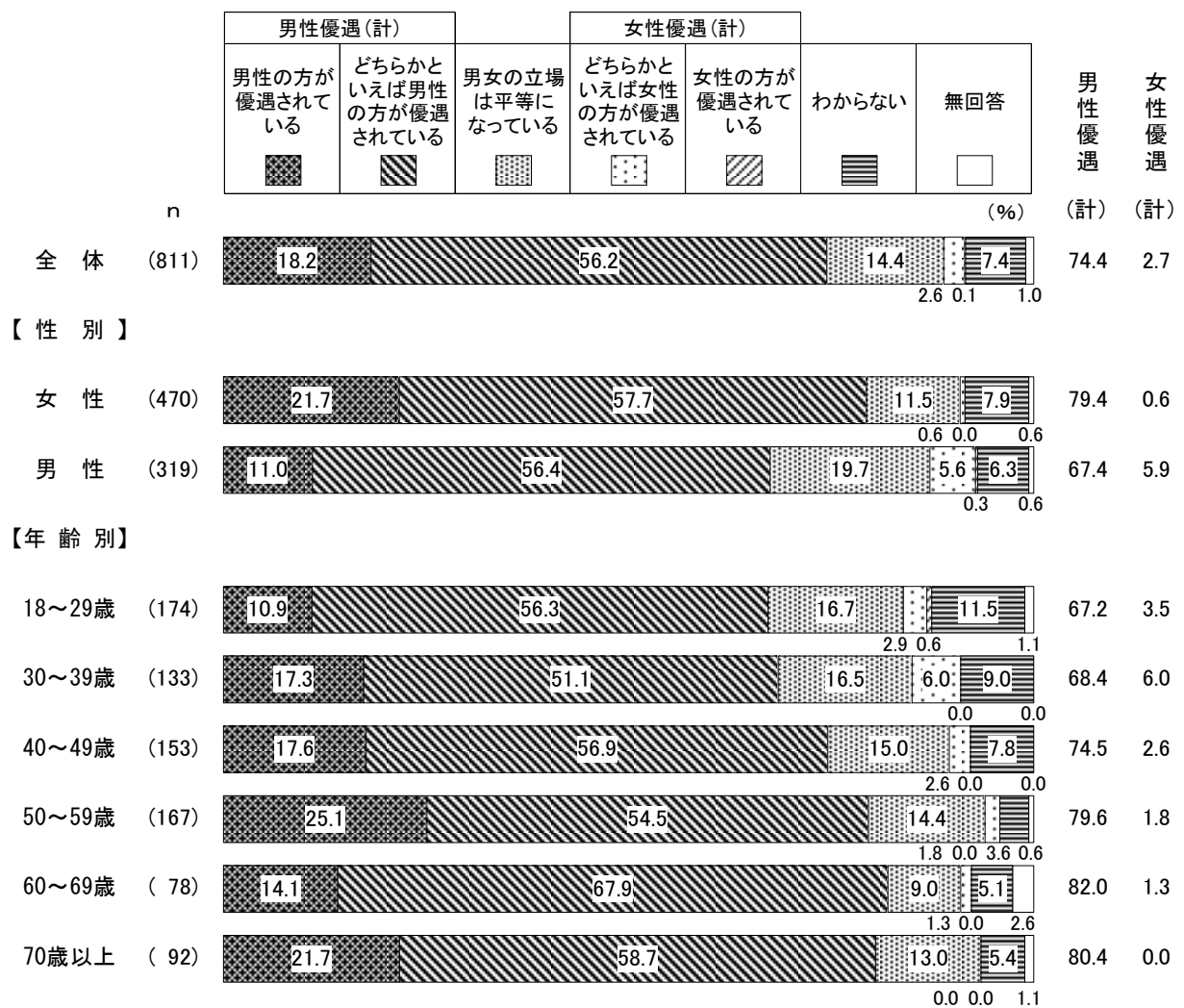


<全体／性別／年齢別> ⑧ 社会全体

社会全体を全体で見ると、『男性優遇（計）』が74.4%、『女性優遇（計）』は2.7%となっており、「男女の立場は平等になっている」は14.4%となっている。

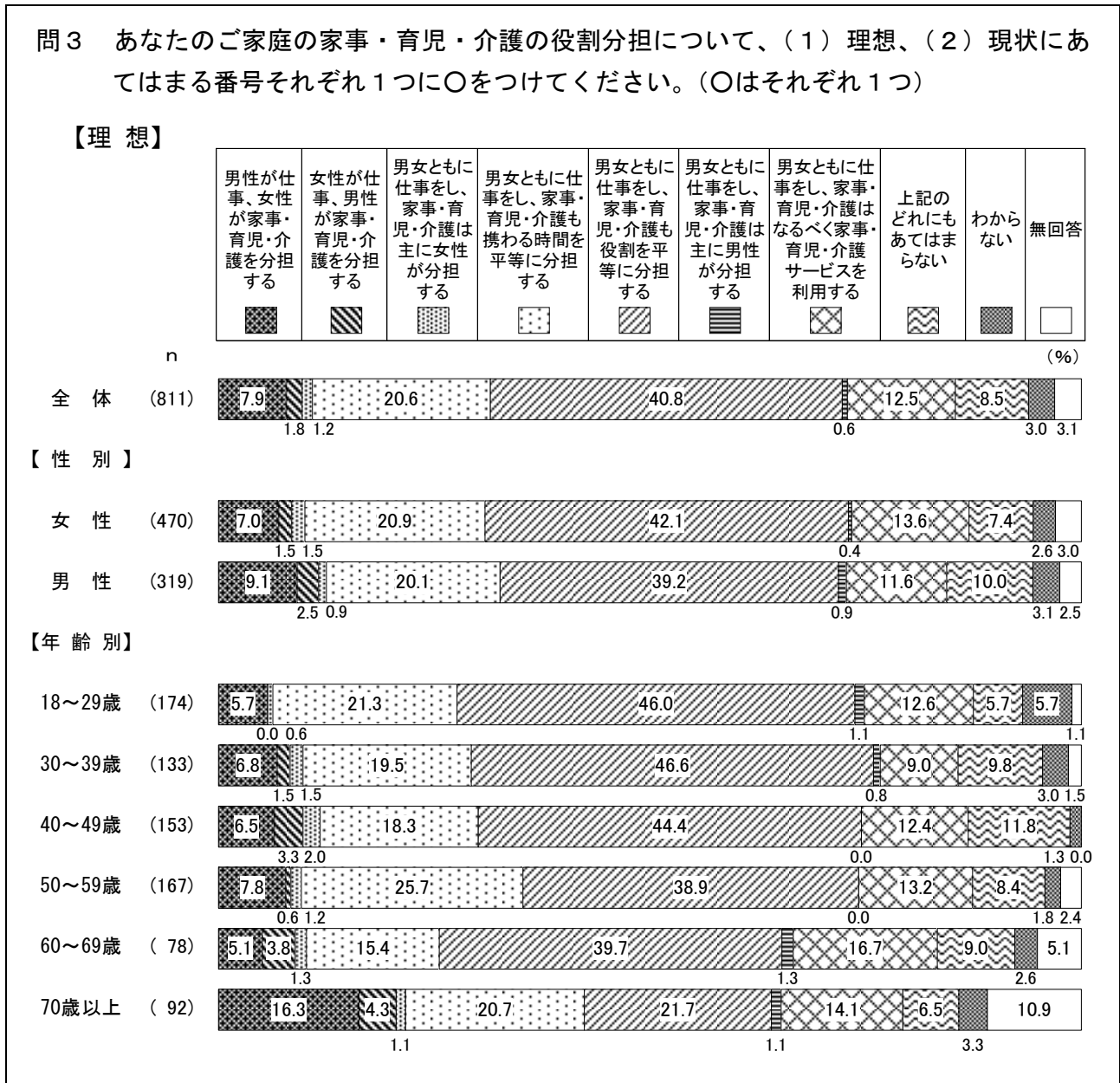
性別で見ると、『男性優遇（計）』は女性（79.4%）が男性（67.4%）より12.0ポイント高くなっている。一方、「男女の立場は平等になっている」は男性（19.7%）が女性（11.5%）より8.2ポイント、『女性優遇（計）』は男性（5.9%）が女性（0.6%）より5.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、『男性優遇（計）』は60～69歳で82.0%と高くなっている。



## 2. 家事・育児・介護について

### (1) 男女の役割分担（理想・現状）



#### <全体／性別／年齢別>

【理想】の家庭の家事・育児・介護の役割分担について聞いたところ、全体では、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」が40.8%で最も高く、次いで「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」(20.6%)、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する」(12.5%)となっている。

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別でみると、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」は50～59歳で25.7%と高くなっている。「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」は30～39歳で46.6%、18～29歳で46.0%と高くなっている。



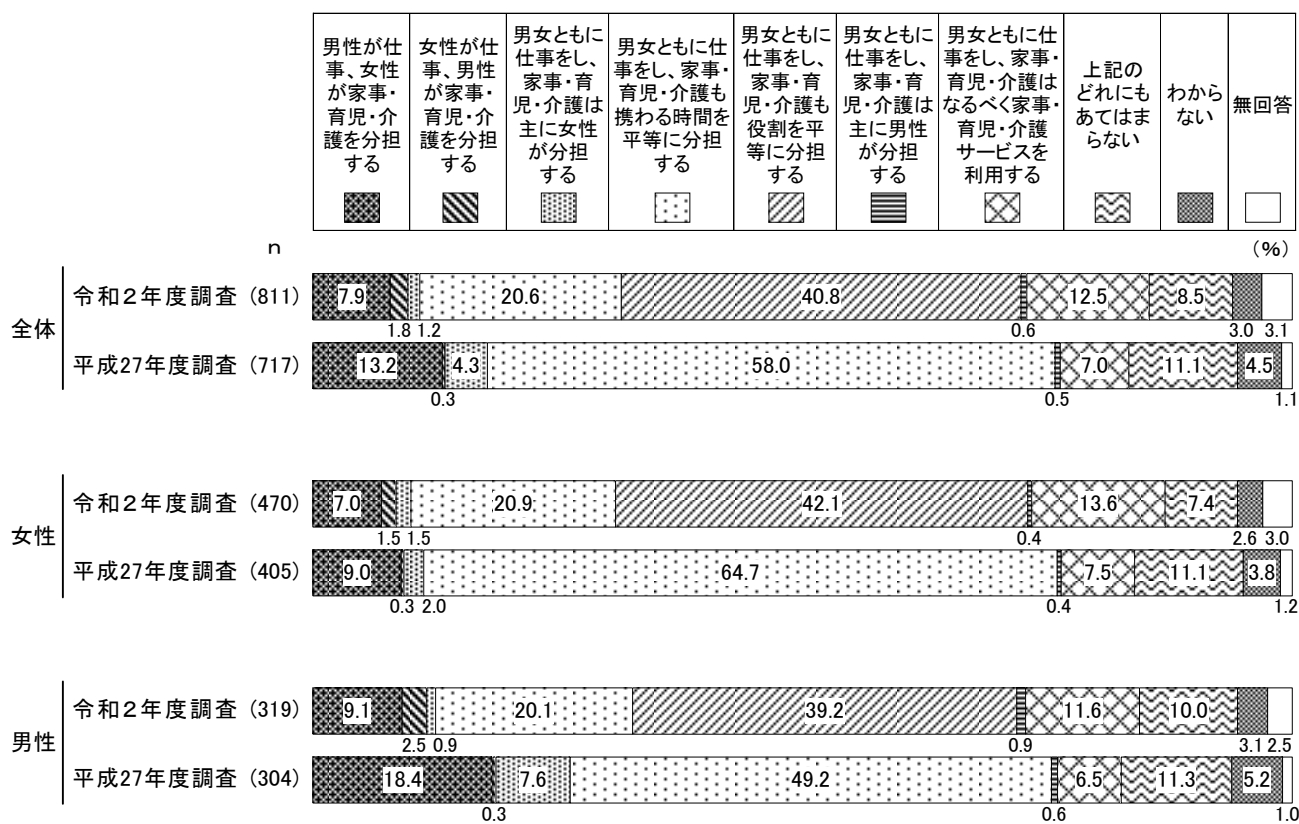
<経年比較>

【理想】を過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する」が平成27年度調査より5.5ポイント増加している。一方、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が平成27年度調査より5.3ポイント減少している。

女性では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する」が平成27年度調査より6.1ポイント増加している。

男性では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する」が平成27年度調査より5.1ポイント増加している。一方、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が平成27年度調査より9.3ポイント減少している。

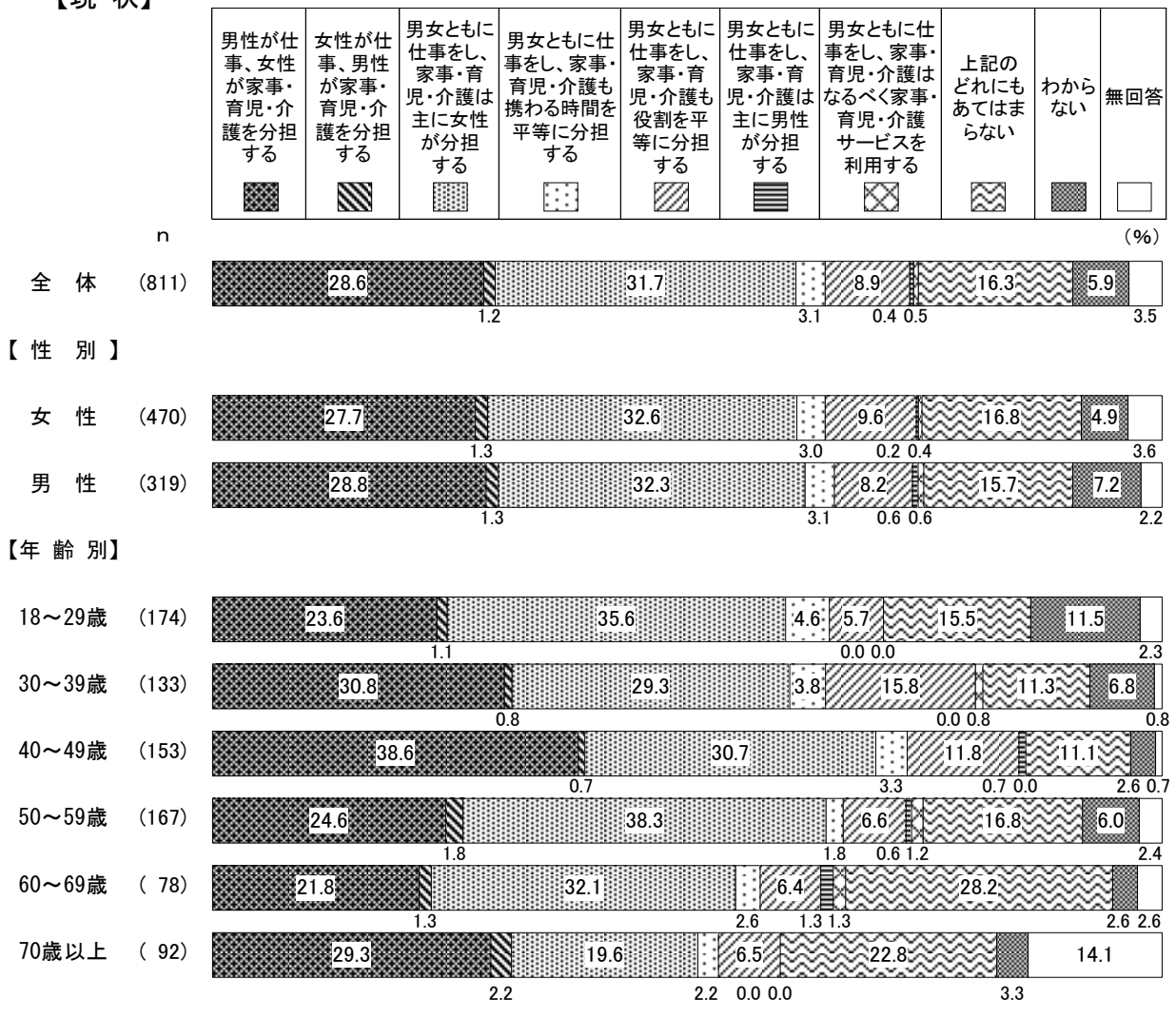
【理想】



※「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」と「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」の2つの選択肢は、平成27年度調査では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の1つの選択肢となっていたため、その値は「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」として表記している。

問3 あなたのご家庭の家事・育児・介護の役割分担について、(1)理想、(2)現状にあてはまる番号それぞれ1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

【現状】



<全体／性別／年齢別>

【現状】の家庭の家事・育児・介護の役割分担について聞いたところ、全体では、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が31.7%で最も高く、次いで「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」(28.6%)、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」(8.9%)となっている。

性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別で見ると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」は40～49歳で38.6%と高くなっている。「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」は50～59歳で38.3%と高くなっている。

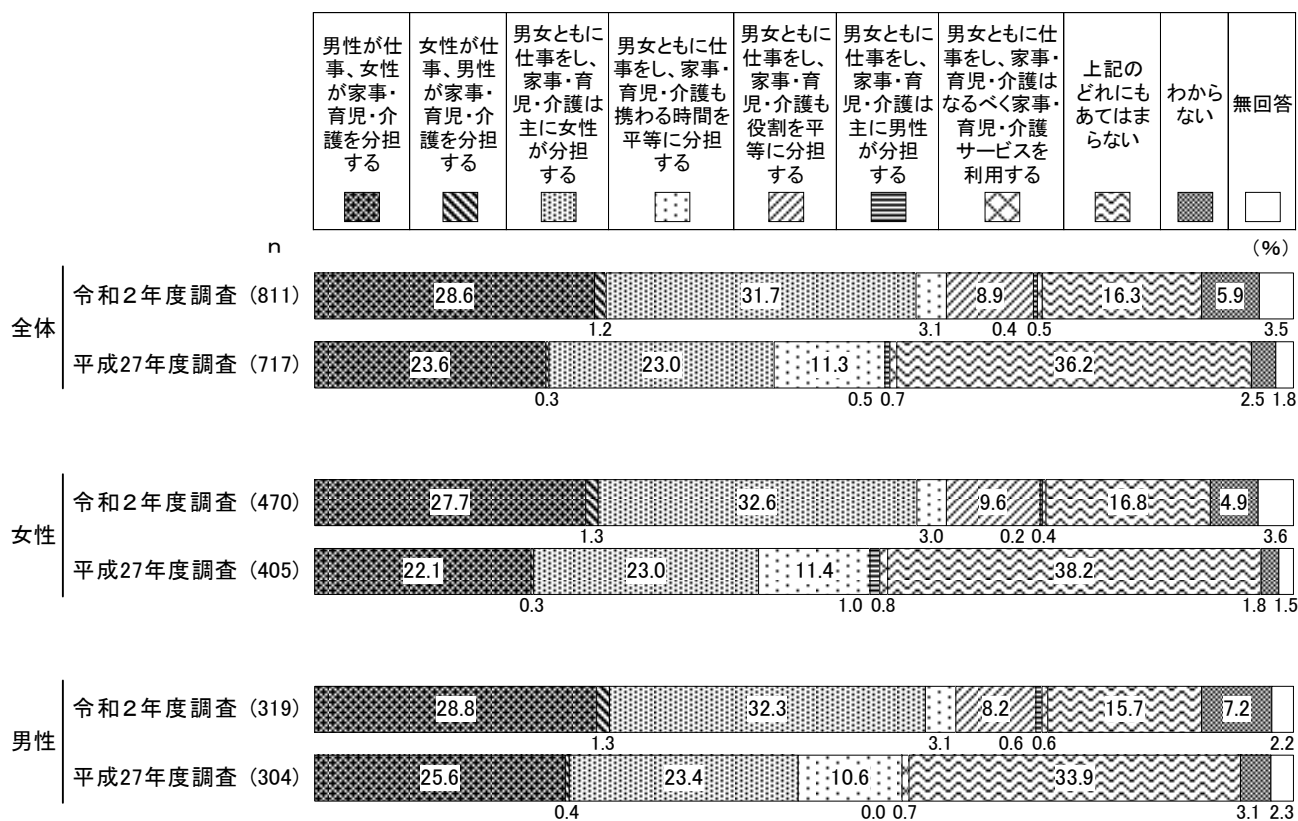
## <経年比較>

【現状】を過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が平成27年度調査より8.7ポイント、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が平成27年度調査より5.0ポイント、それぞれ増加している。

女性では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が平成27年度調査より9.6ポイント、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が平成27年度調査より5.6ポイント、それぞれ増加している。

男性では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が平成27年度調査より8.9ポイント、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が平成27年度調査より3.2ポイント、それぞれ増加している。

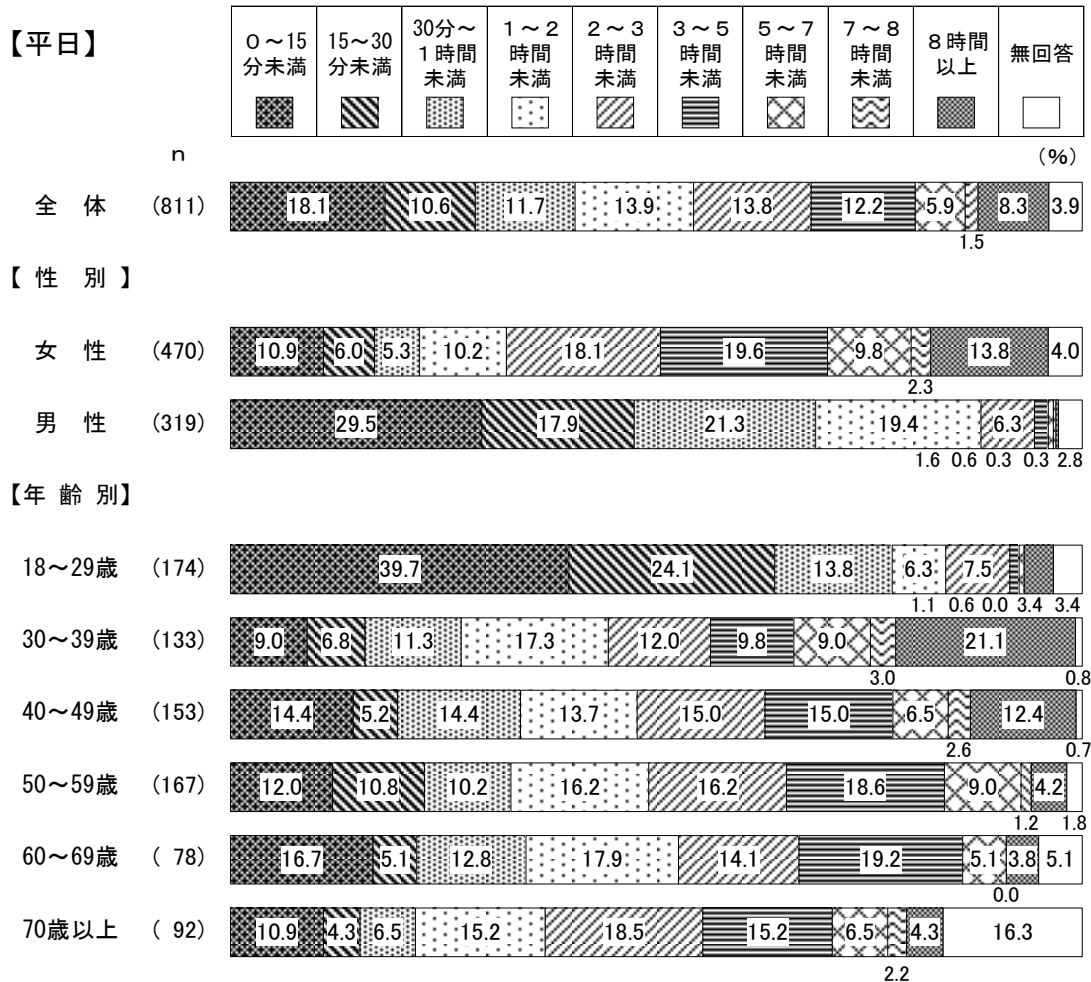
## 【現状】



※「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」と「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」の2つの選択肢は、平成27年度調査では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の1つの選択肢となっていたため、その値は「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も携わる時間を平等に分担する」として表記している。

(2) 家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間

問4 あなたが家事・育児・介護に携わる1日あたりの平均的な時間について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は①平日、②休日それぞれ1つ)



<全体/性別/年齢別>

【平日】の家事・育児・介護に携わる1日あたりの平均的な時間について聞いたところ、全体では、「0~15分未満」が18.1%で最も高く、次いで「1~2時間未満」(13.9%)、「2~3時間未満」(13.8%)、「3~5時間未満」(12.2%)となっている。

性別でみると、家事・育児・介護に携わる時間は女性が男性より長くなっており、「8時間以上」は女性(13.8%)が男性(0.3%)より13.5ポイント、「3~5時間未満」は女性(19.6%)が男性(1.6%)より18.0ポイント、それぞれ高くなっている。

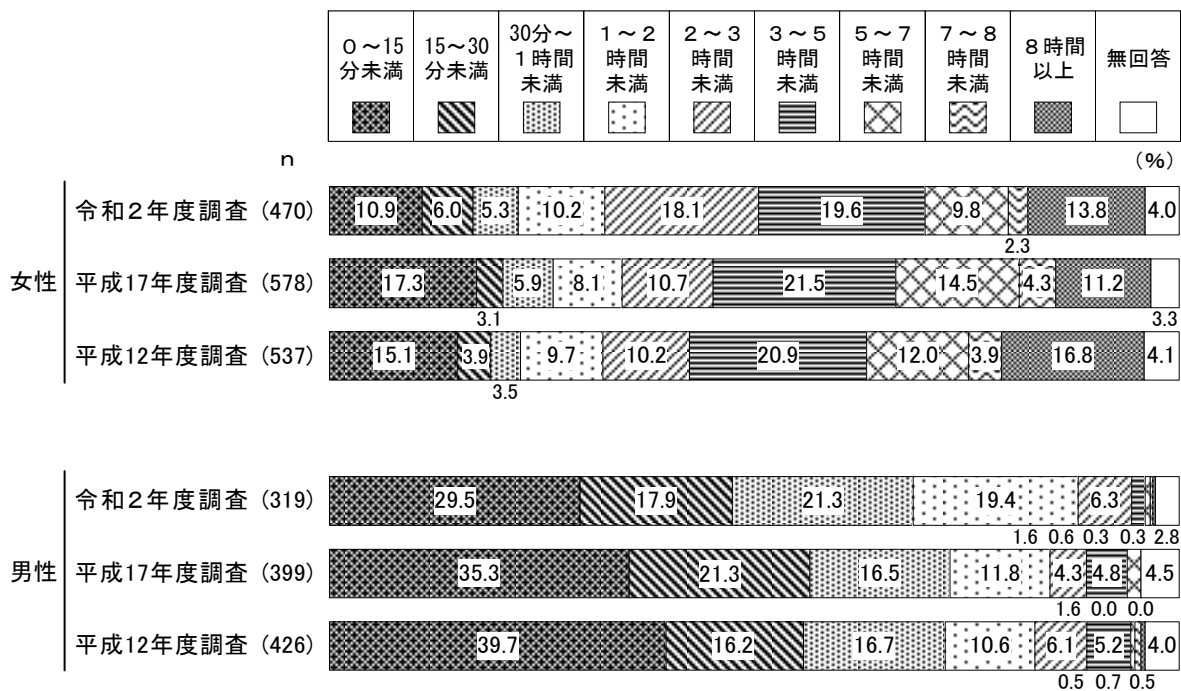
年齢別でみると、「0~15分未満」は18~29歳で39.7%と高くなっている。「8時間以上」は30~39歳で21.1%と高くなっている。

<経年比較>

【平日】を過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、女性では「2～3時間未満」が平成12年度調査以降増加傾向にあり、平成17年度調査より7.4ポイント増加している。一方、「5～7時間未満」が平成17年度調査より4.7ポイント減少している。

男性では「1～2時間未満」が平成12年度調査以降増加傾向にあり、平成17年度調査より7.6ポイント増加している。一方、「3～5時間未満」が平成17年度調査より3.2ポイント減少している。

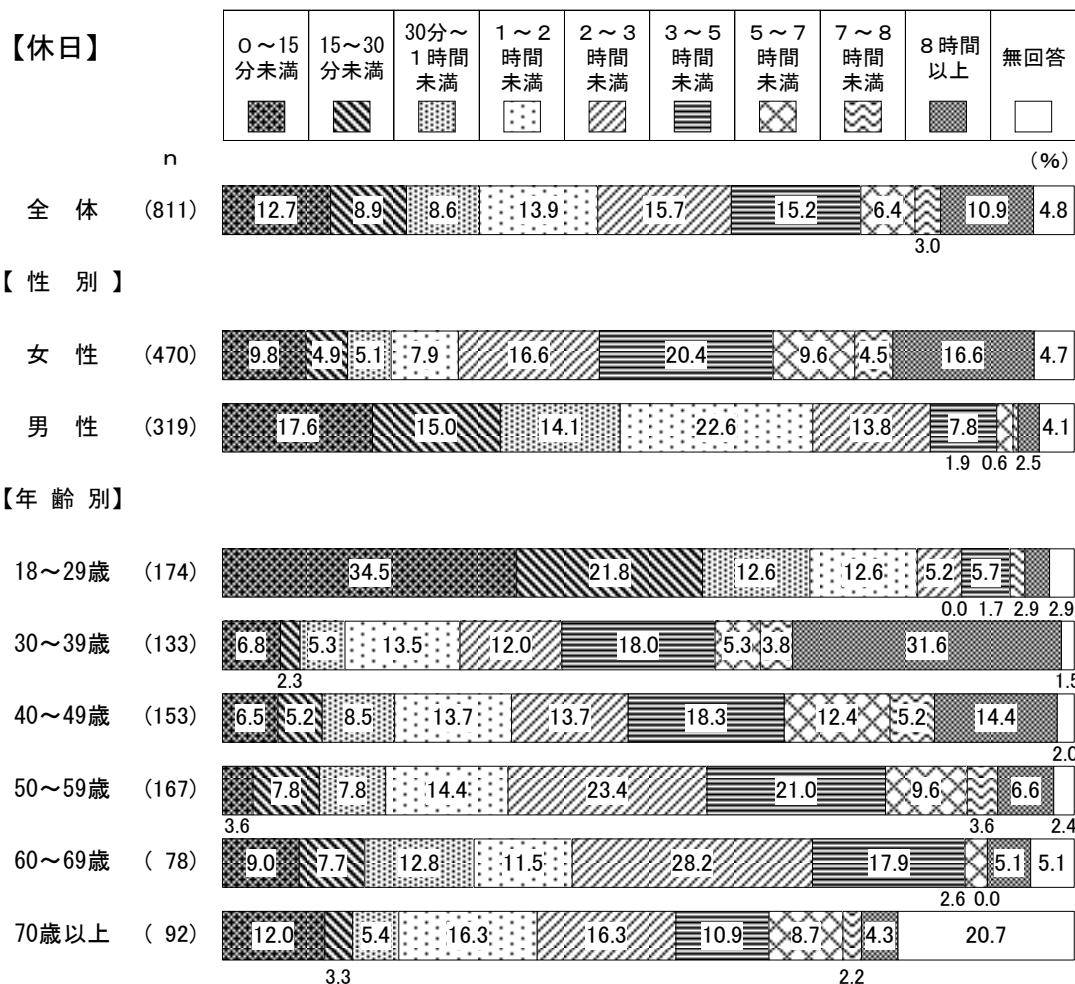
【平日】



※平成17年度、平成12年度調査では、令和2年度調査にはない「30分未満」「特にしていない」の選択肢があった。「30分未満」の値は「15～30分未満」、「特にしていない」の値は「0～15分未満」として表記している。

※平成27年度調査は選択肢が大幅に異なるため、掲載していない。

問4 あなたが家事・育児・介護に携わる1日あたりの平均的な時間について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は①平日、②休日それぞれ1つ)



<全体／性別／年齢別>

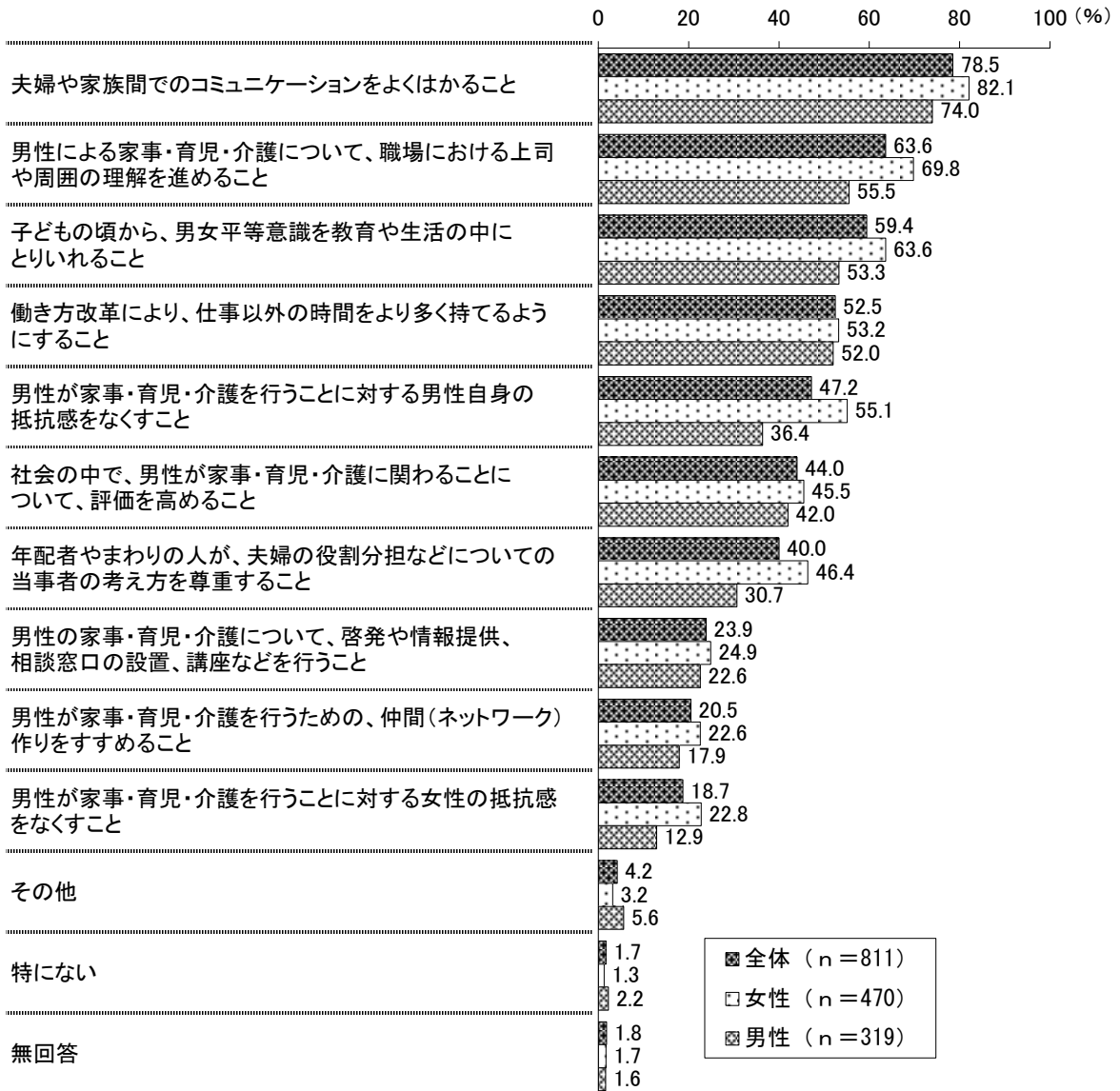
【休日】の家事・育児・介護に携わる1日あたりの平均的な時間について聞いたところ、全体では、「2～3時間未満」が15.7%で最も高く、次いで「3～5時間未満」(15.2%)、「1～2時間未満」(13.9%)、「0～15分未満」(12.7%)となっている。

性別で見ると、家事・育児・介護に携わる時間は女性が男性より長くなっており、「8時間以上」は女性(16.6%)が男性(2.5%)より14.1ポイント、「3～5時間未満」は女性(20.4%)が男性(7.8%)より12.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「0～15分未満」は18～29歳で34.5%と高くなっている。「8時間以上」は30～39歳で31.6%と高くなっている。

(3) 男性が家事、育児、介護を積極的に行うために必要なこと

問5 あなたは、男性が家事、育児、介護を積極的に行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



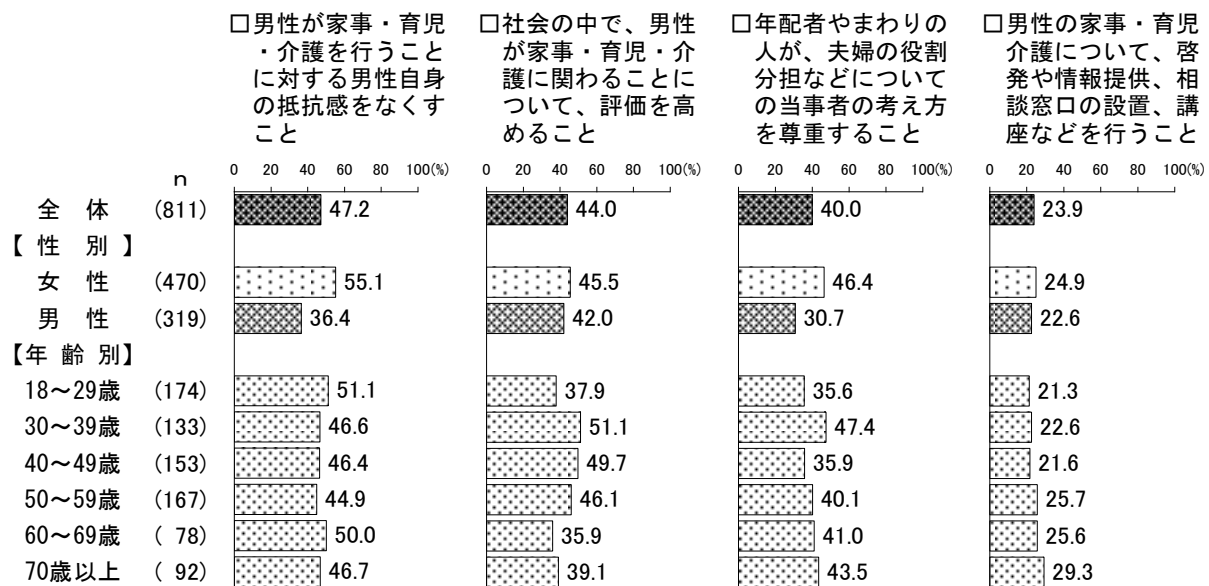
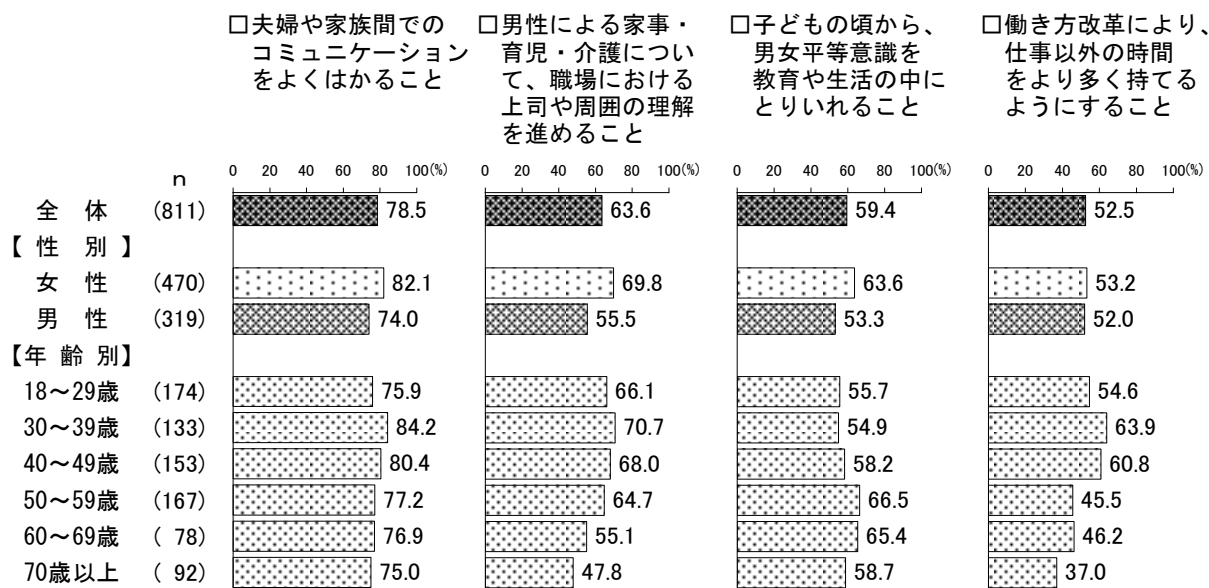
<全体>

男性が家事、育児、介護を積極的に行うために必要なことを聞いたところ、全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が78.5%で最も高く、次いで「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」(63.6%)、「子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること」(59.4%)となっている。

<性別／年齢別>

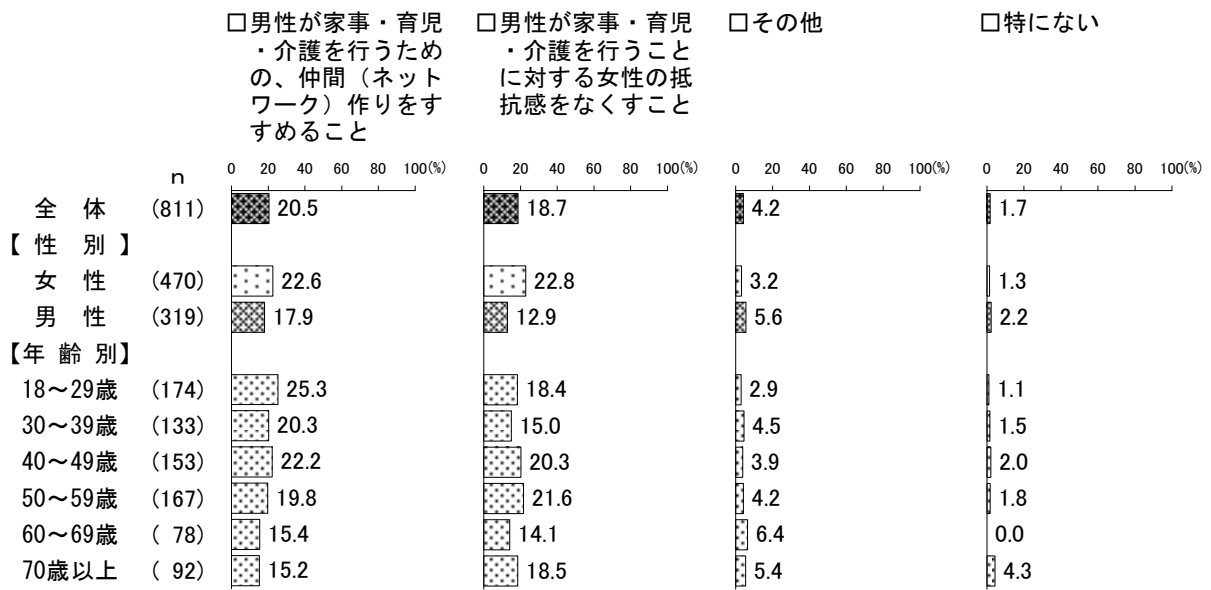
性別でみると、「男性が家事・育児・介護を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性（55.1%）が男性（36.4%）より 18.7 ポイント、「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」は女性（69.8%）が男性（55.5%）より 14.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」は 30～39 歳で 84.2% と高くなっている。「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」は 30～39 歳で 70.7% と高くなっている。「子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること」は 50～59 歳で 66.5%、60～69 歳で 65.4% と高くなっている。





<性別／年齢別> (つづき)

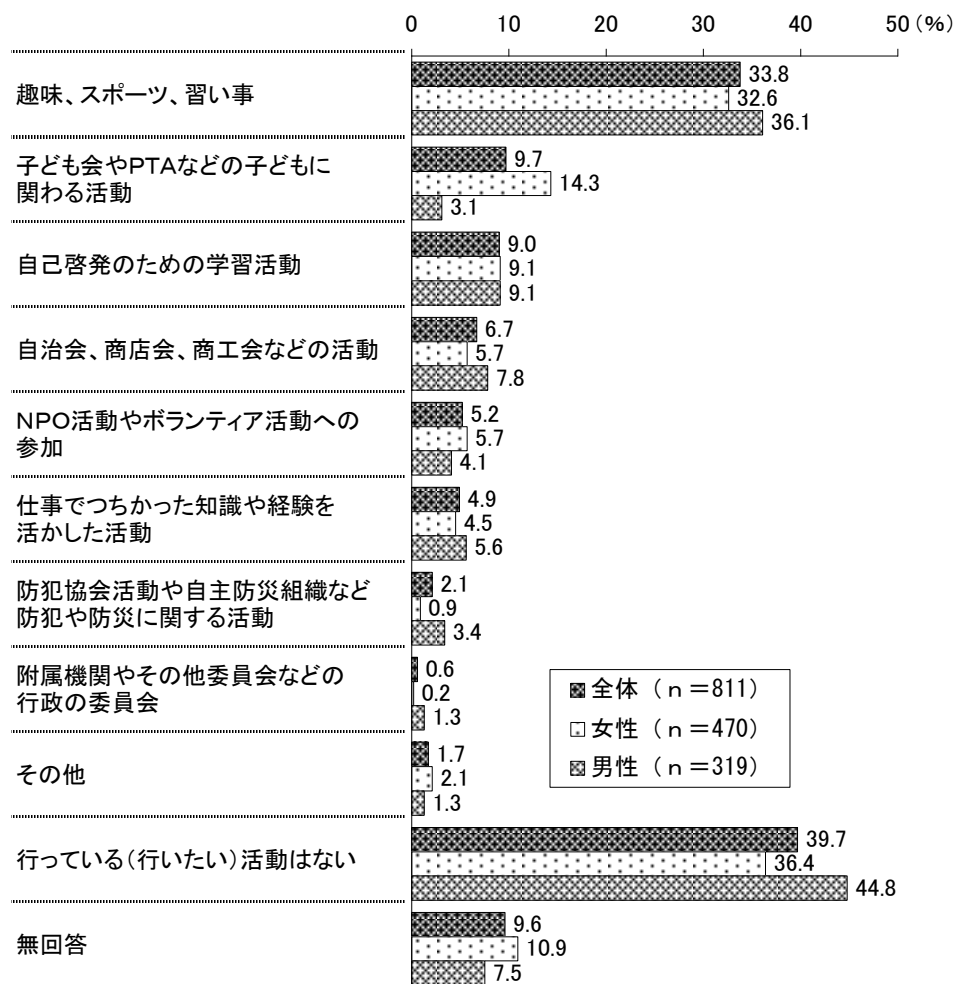


### 3. 地域活動・防災について

#### (1) 現在行っている地域活動、今後行いたい地域活動

問6 地域活動についておたずねします。あなたの(1)現在の活動と、(2)今後の活動意向について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

##### 【現在行っている地域活動】



#### <全体>

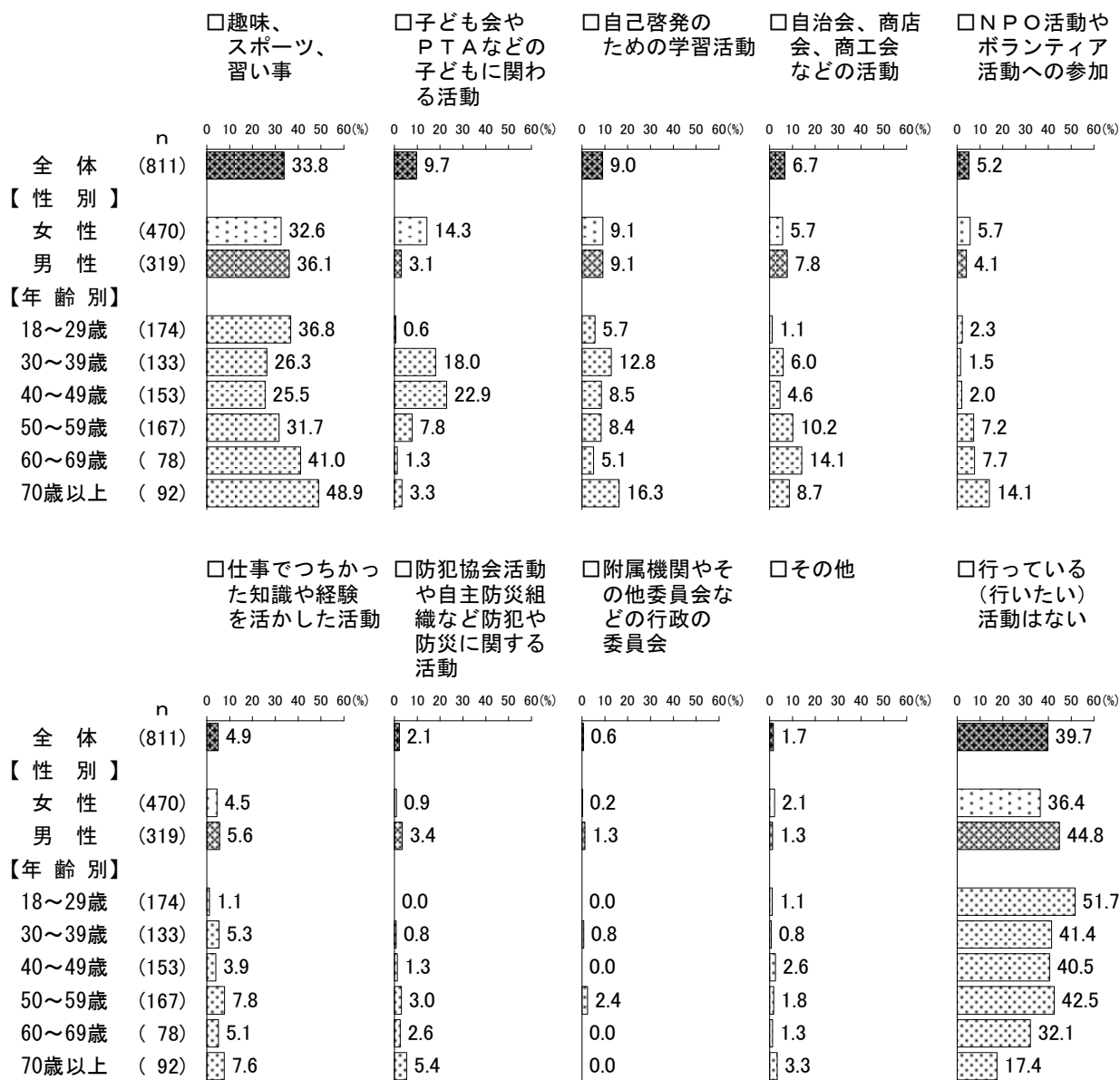
【現在行っている地域活動】について聞いたところ、全体では、「趣味、スポーツ、習い事」が33.8%で最も高く、次いで「子ども会やPTAなどの子どもに関わる活動」(9.7%)、「自己啓発のための学習活動」(9.0%)となっている。一方、「行っている(行いたい)活動はない」は39.7%となっている。

<性別／年齢別>

【現在行っている地域活動】について性別で見ると、「子ども会やPTAなどの子どもに関わる活動」は女性（14.3%）が男性（3.1%）より11.2ポイント高くなっている。一方、「趣味、スポーツ、習い事」は男性（36.1%）が女性（32.6%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「趣味、スポーツ、習い事」は70歳以上で48.9%と高くなっている。「子ども会やPTAなどの子どもに関わる活動」は40～49歳で22.9%と高くなっている。「行っている（行いたい）活動はない」は18～29歳で51.7%と高くなっている。

【現在行っている地域活動】



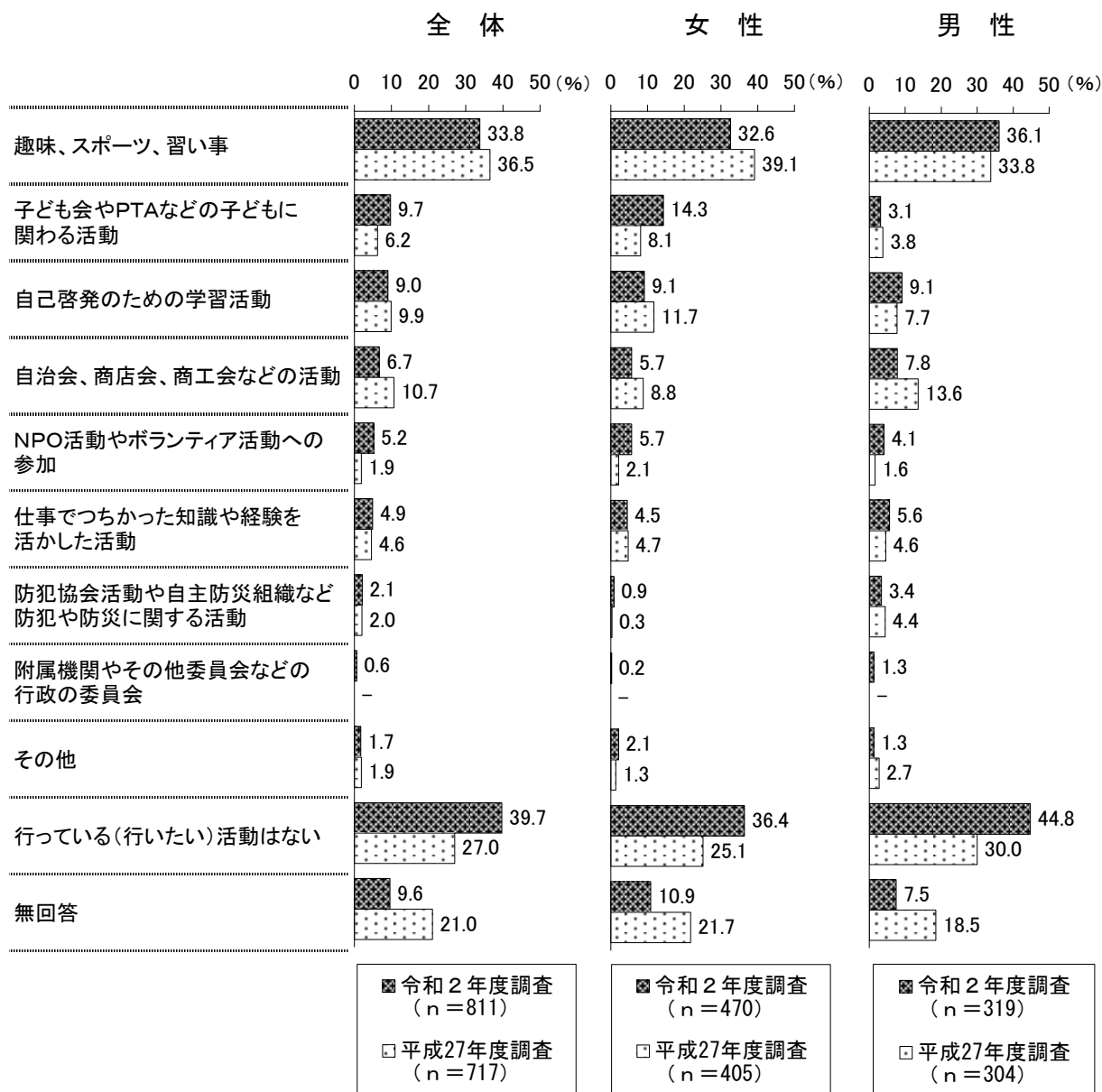
## <経年比較>

【現在行っている地域活動】を過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「行っている（行いたい）活動はない」が平成27年度調査より12.7ポイント増加している。

女性では「行っている（行いたい）活動はない」が平成27年度調査より11.3ポイント増加している。一方、「趣味、スポーツ、習い事」が平成27年度調査より6.5ポイント減少している。

男性では「行っている（行いたい）活動はない」が平成27年度調査より14.8ポイント増加している。

## 【現在行っている地域活動】



※「自治会、商店会、商工会などの活動」は、平成27年度調査では「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」となっていた。

※「NPO活動やボランティア活動への参加」は、平成27年度調査では「NPO活動への参加」となっていた。

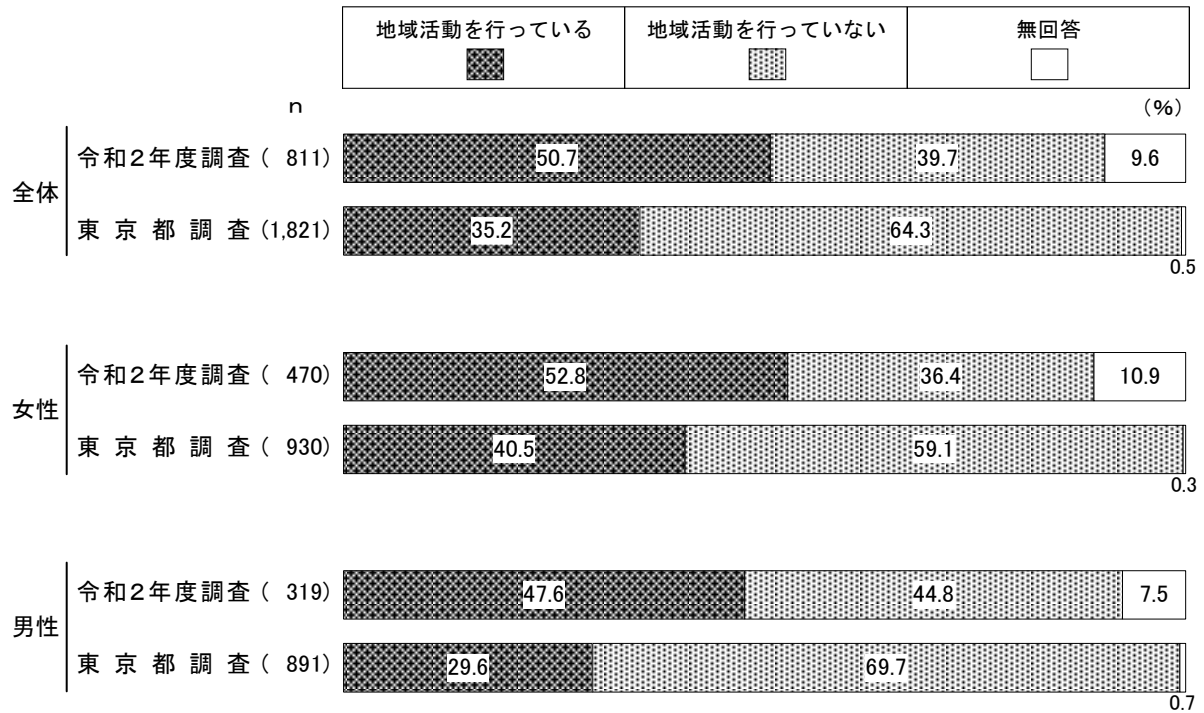
※「子ども会やPTAなどの子どもに関わる活動」は、平成27年度調査では「PTAの役員や子ども会などの世話役」となっていた。

※「附属機関やその他委員会などの行政の委員会」は令和2年度調査から追加された選択肢。

### <東京都調査との比較>

地域活動を行っている人の割合を東京都調査と比較すると、全体では「地域活動を行っている」が東京都調査より15.5ポイント高くなっている。

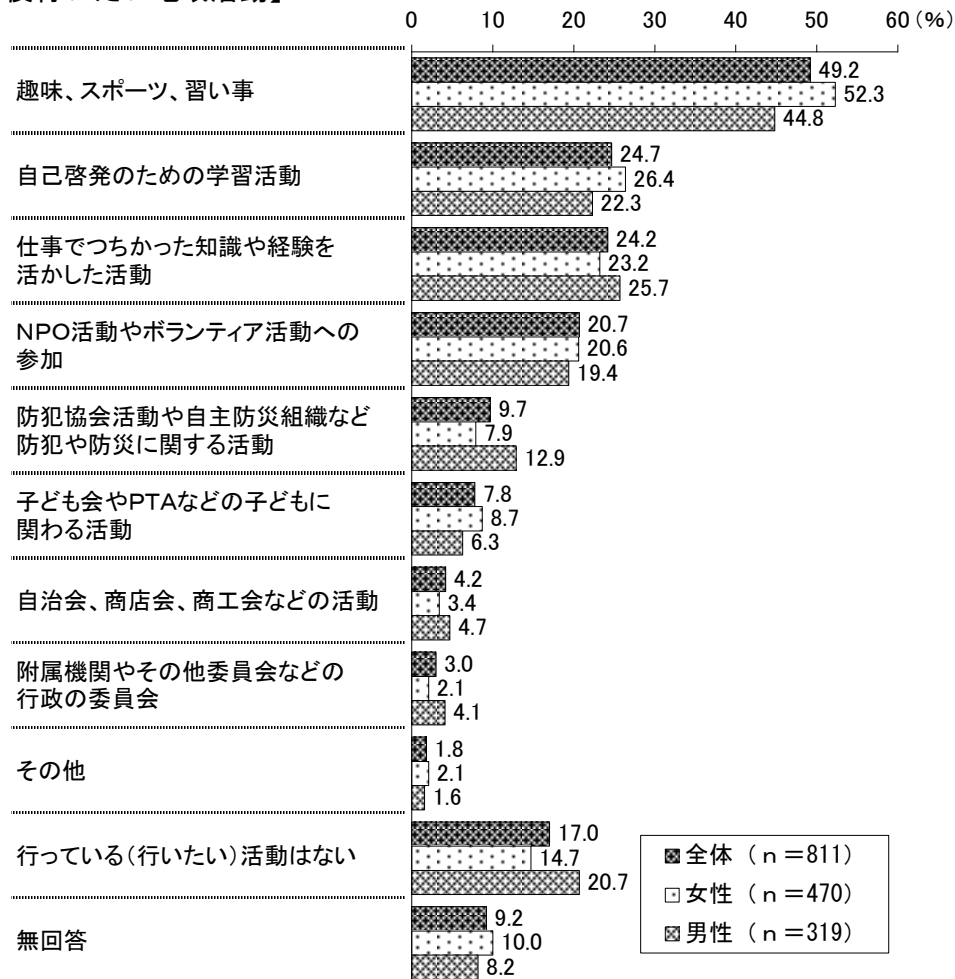
女性では「地域活動を行っている」が東京都調査より12.3ポイント、男性では「地域活動を行っている」が東京都調査より18.0ポイント、それぞれ高くなっている。



※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）

問6 地域活動についておたずねします。あなたの（1）現在の活動と、（2）今後の活動意向について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

【今後行いたい地域活動】



<全体>

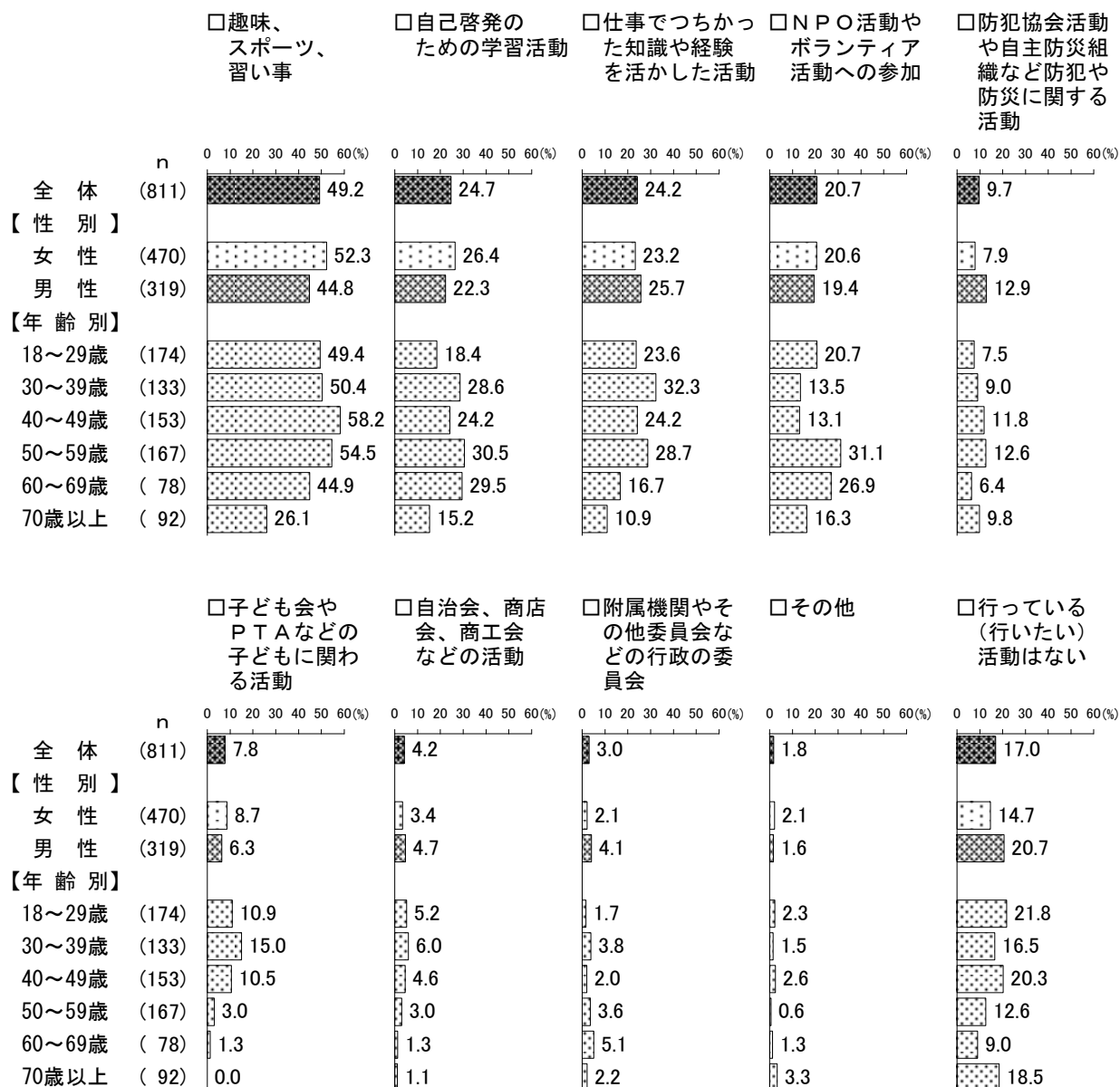
【今後行いたい地域活動】について聞いたところ、全体では、「趣味、スポーツ、習い事」が49.2%で最も高く、次いで「自己啓発のための学習活動」(24.7%)、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」(24.2%)、「NPO活動やボランティア活動への参加」(20.7%)となっている。

<性別／年齢別>

【今後行いたい地域活動】について性別で見ると、「趣味、スポーツ、習い事」は女性（52.3%）が男性（44.8%）より7.5ポイント高くなっている。一方、「防犯協会活動や自主防災組織など防犯や防災に関する活動」は男性（12.9%）が女性（7.9%）より5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「趣味、スポーツ、習い事」は40～49歳で58.2%と高くなっている。「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」は30～39歳で32.3%と高くなっている。「NPO活動やボランティア活動への参加」は50～59歳で31.1%と高くなっている。

【今後行いたい地域活動】



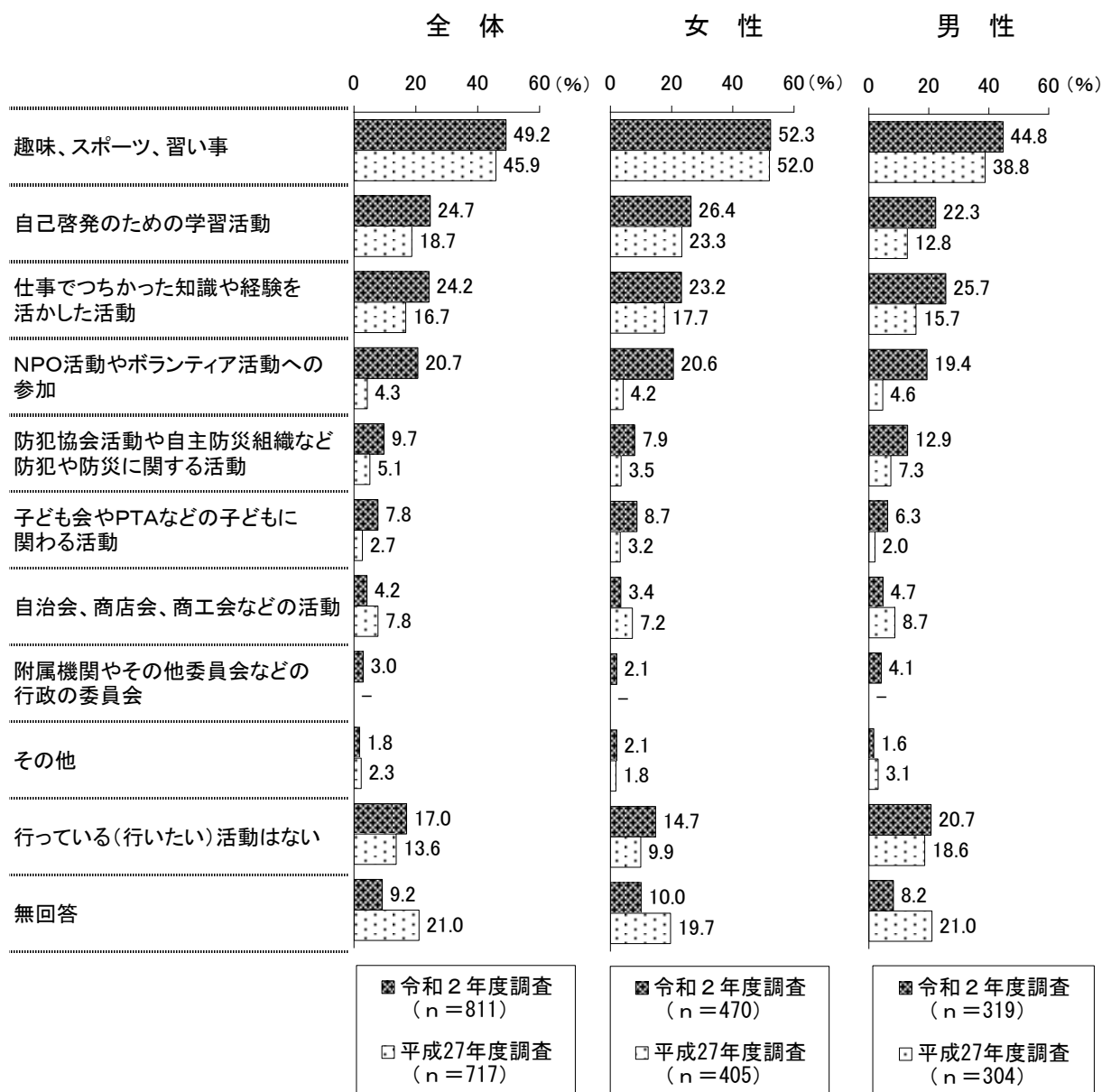
## <経年比較>

【今後行いたい地域活動】を過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」が平成27年度調査より7.5ポイント増加している。

女性では「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」が平成27年度調査より5.5ポイント増加している。

男性では「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」が平成27年度調査より10.0ポイント、「自己啓発のための学習活動」が平成27年度調査より9.5ポイント、それぞれ増加している。

## 【今後行いたい地域活動】



※「自治会、商店会、商工会などの活動」は、平成27年度調査では「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」となっていた。

※「NPO活動やボランティア活動への参加」は、平成27年度調査では「NPO活動への参加」となっていた。

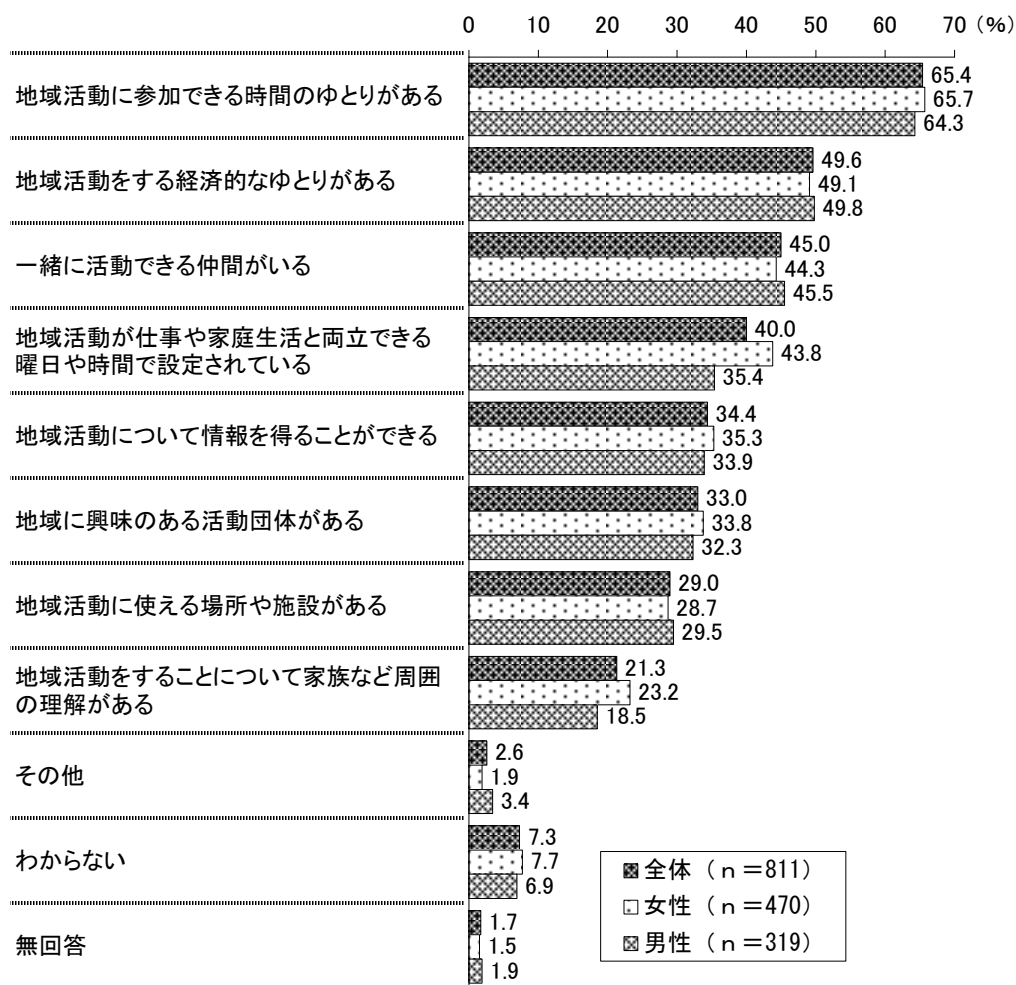
※「子ども会やPTAなどの子どもに関わる活動」は、平成27年度調査では「PTAの役員や子ども会などの世話役」となっていた。

※「附属機関やその他委員会などの行政の委員会」は令和2年度調査から追加された選択肢。



## (2) 地域活動に参加するために必要な環境や条件

問7 男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのような環境や条件が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



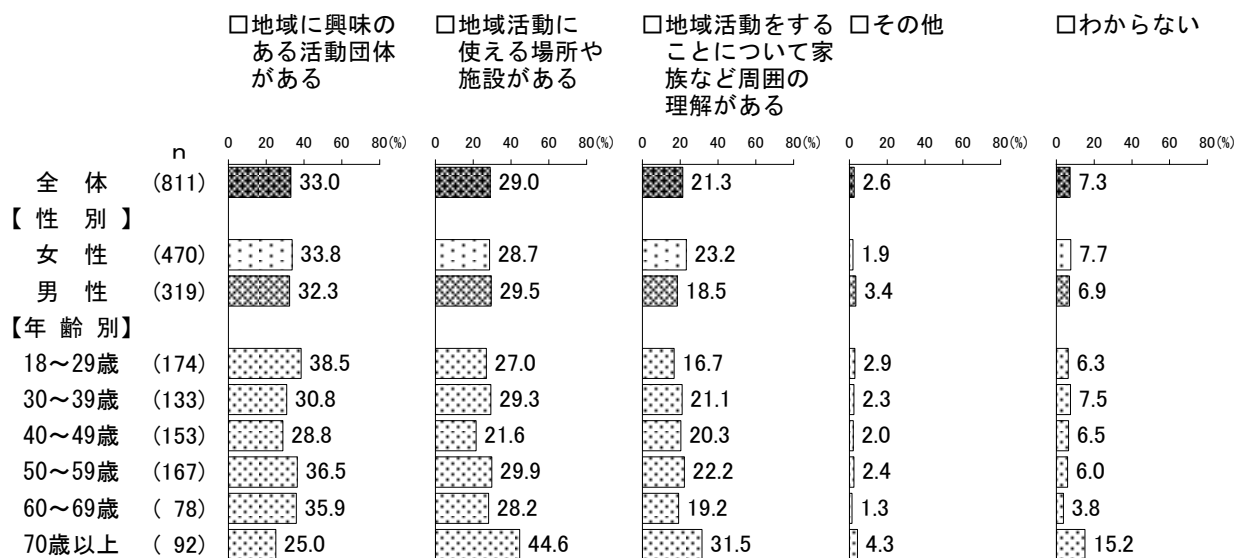
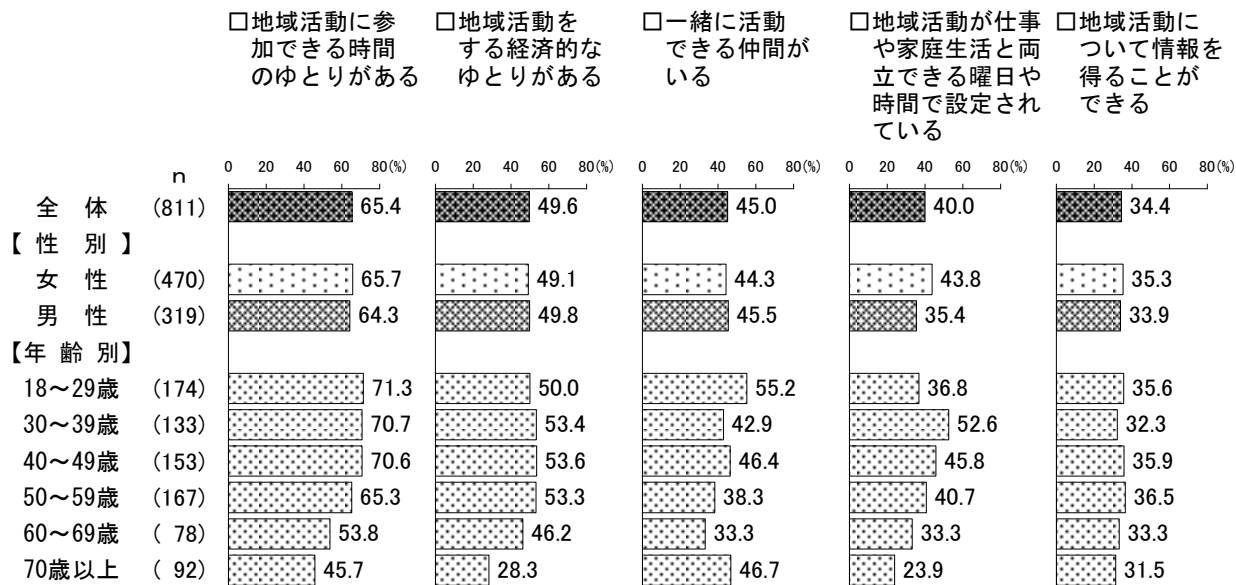
### <全体>

地域活動に参加するために必要な環境や条件を聞いたところ、全体では、「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が65.4%で最も高く、次いで「地域活動をする経済的なゆとりがある」(49.6%)、「一緒に活動できる仲間がいる」(45.0%)、「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」(40.0%)となっている。

<性別／年齢別>

性別でみると、「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」は女性（43.8%）が男性（35.4%）より8.4ポイント、「地域活動をするについて家族など周囲の理解がある」は女性（23.2%）が男性（18.5%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「一緒に活動できる仲間がいる」は18～29歳で55.2%と高くなっている。「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」は30～39歳で52.6%と高くなっている。「地域活動に使える場所や施設がある」は70歳以上で44.6%と高くなっている。

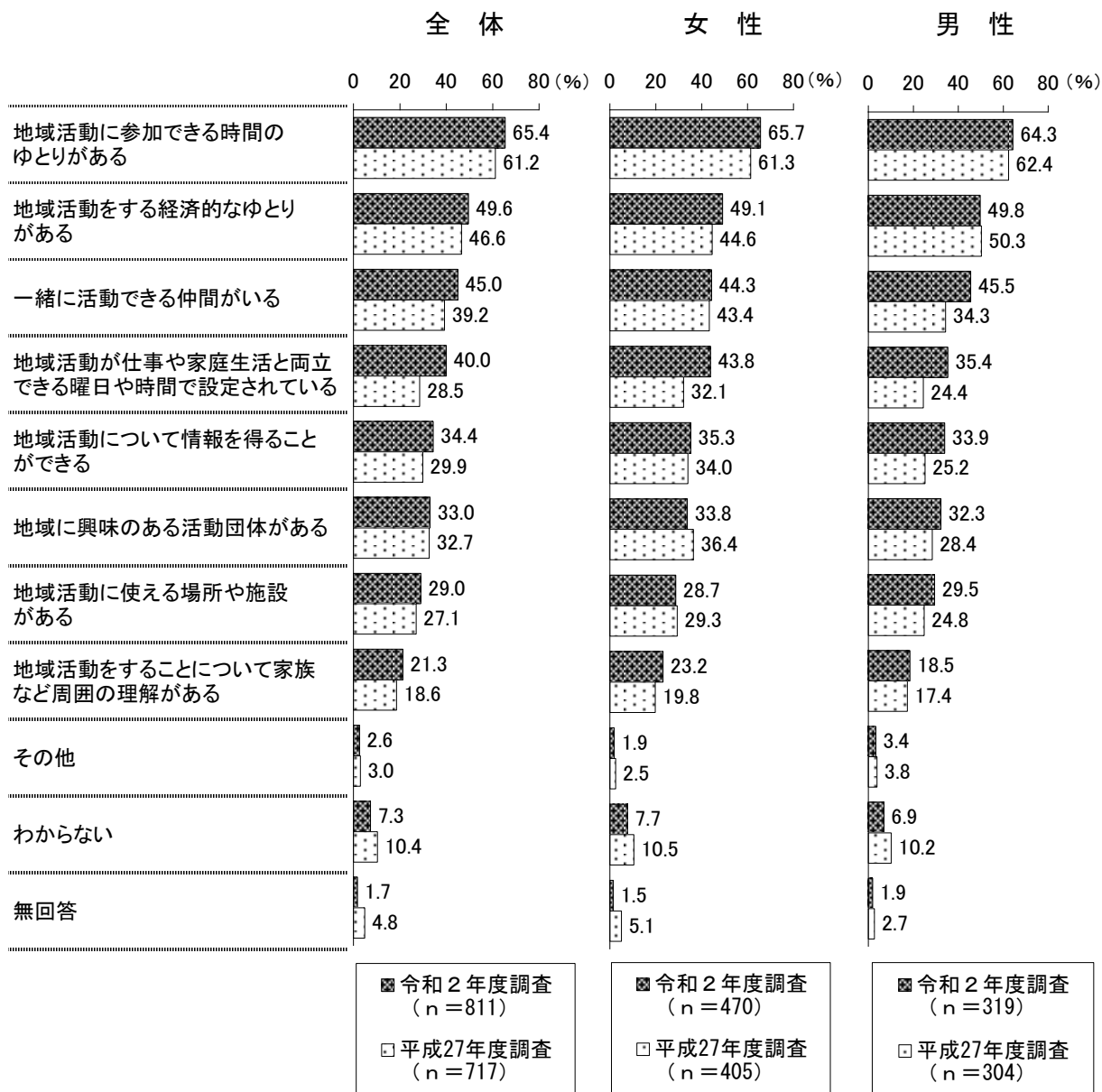


## <経年比較>

過去の調査と比較すると、全体では「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」が平成27年度調査より11.5ポイント、「一緒に活動できる仲間がいる」が平成27年度調査より5.8ポイント、それぞれ増加している。

女性では「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」が平成27年度調査より11.7ポイント、「地域活動をする経済的なゆとりがある」が平成27年度調査より4.5ポイント、それぞれ増加している。

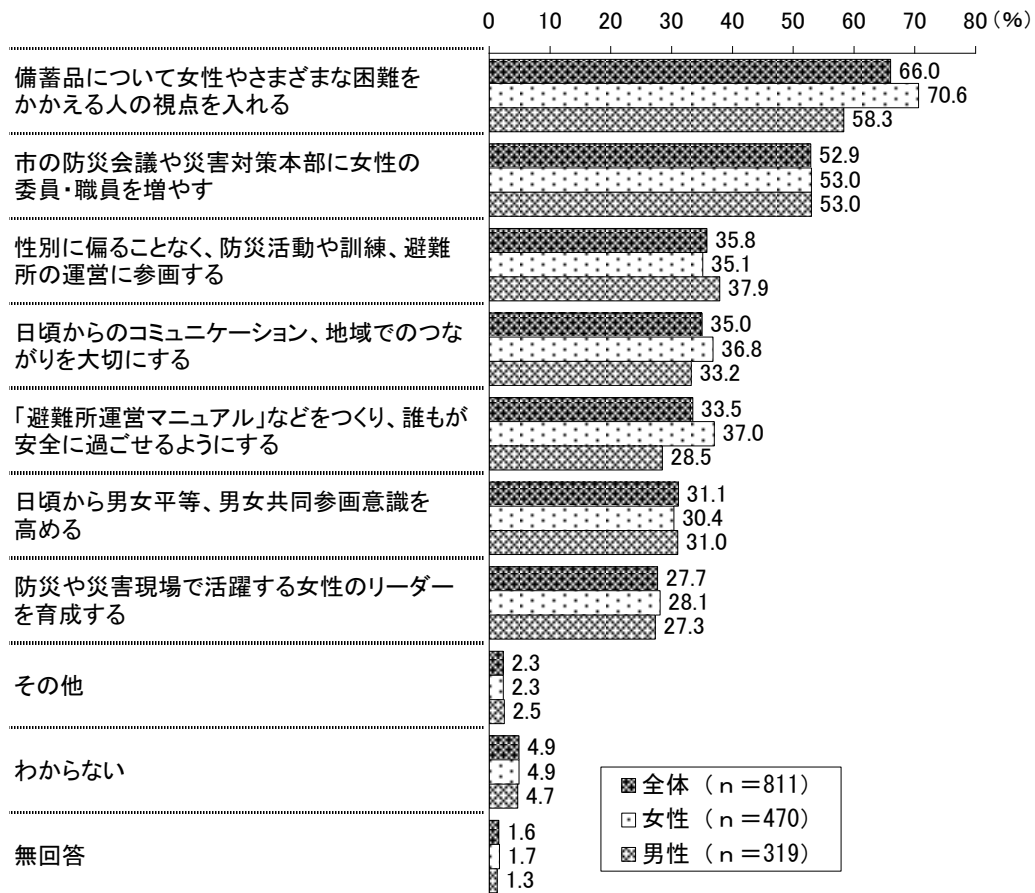
男性では「一緒に活動できる仲間がいる」が平成27年度調査より11.2ポイント、「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」が平成27年度調査より11.0ポイント、それぞれ増加している。



(3) 男女共同参画の視点を活かした防災対策のために必要な取組

問8 近年大規模災害による避難所運営において女性への配慮がなされず、防災対策にて男女共同参画の視点を取り入れるべきといわれております。このことについてどのような取組が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)



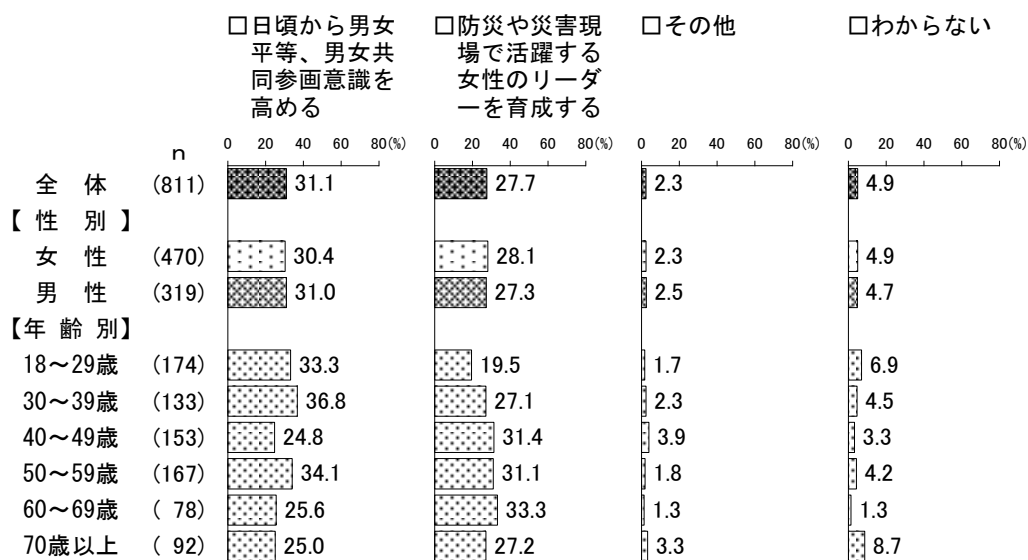
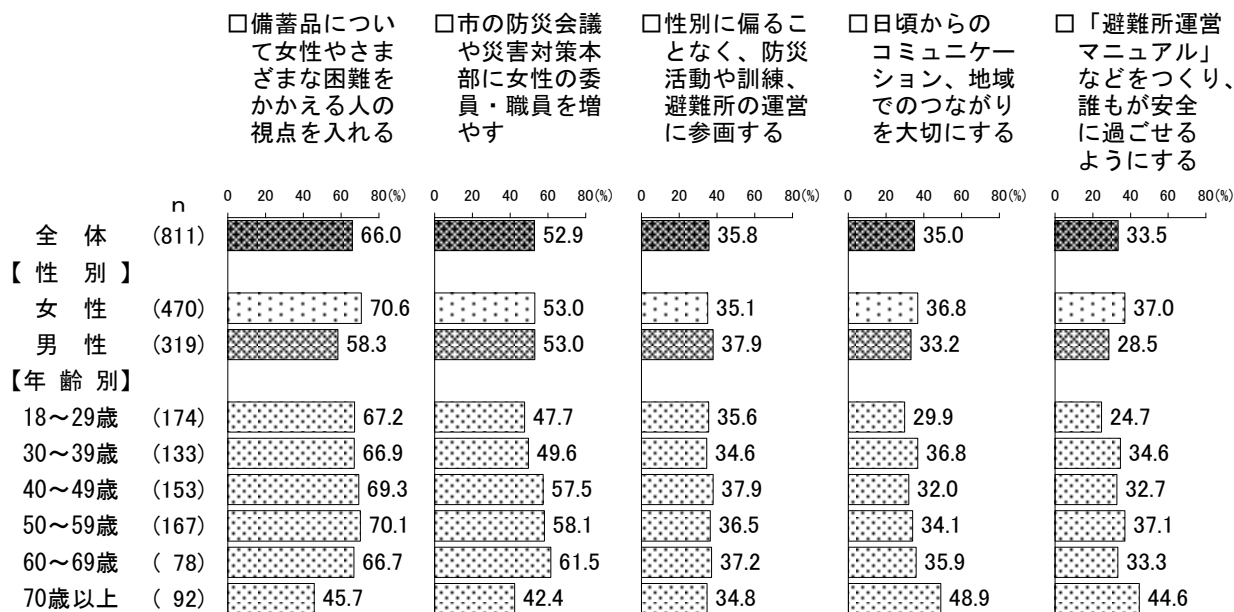
<全体>

災害に備えるために必要な取組を聞いたところ、全体では、「備蓄品について女性やさまざまな困難をかかえる人の視点を入れる」が66.0%で最も高く、次いで「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」(52.9%)、「性別に偏ることなく、防災活動や訓練、避難所の運営に参画する」(35.8%)、「日頃からのコミュニケーション、地域でのつながりを大切にする」(35.0%)となっている。

<性別／年齢別>

性別で見ると、「備蓄品について女性やさまざまな困難をかかえる人の視点を入れる」は女性（70.6%）が男性（58.3%）より12.3ポイント、「『避難所運営マニュアル』などをつくり、誰もが安全に過ごせるようにする」は女性（37.0%）が男性（28.5%）より8.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「備蓄品について女性やさまざまな困難をかかえる人の視点を入れる」は50～59歳で70.1%と高くなっている。「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」は60～69歳で61.5%と高くなっている。「日頃からのコミュニケーション、地域でのつながりを大切にする」は70歳以上で48.9%と高くなっている。

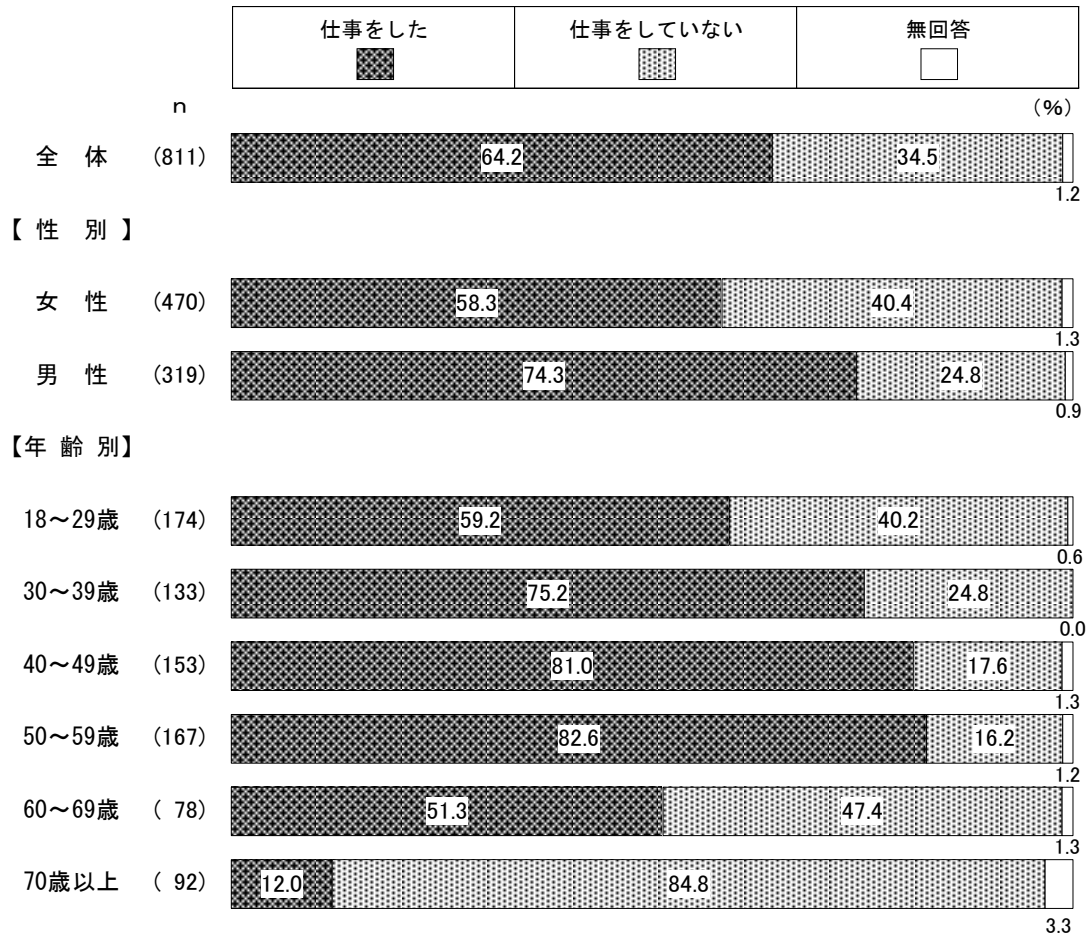


## 4. 仕事について

### (1) この1か月間の就労状況

問9 あなたは、この1か月間で収入を得る仕事をしましたか。(○は1つ)

※産休、育休、介護休業中の人は「仕事をしました」に○をつけてください。



#### <全体／性別／年齢別>

この1か月間で収入を得る仕事をしましたか聞いたところ、全体では、「仕事をしました」が64.2%、「仕事をしていない」は34.5%となっている。

性別で見ると、「仕事をしました」は男性（74.3%）が女性（58.3%）より16.0ポイント高くなっている。

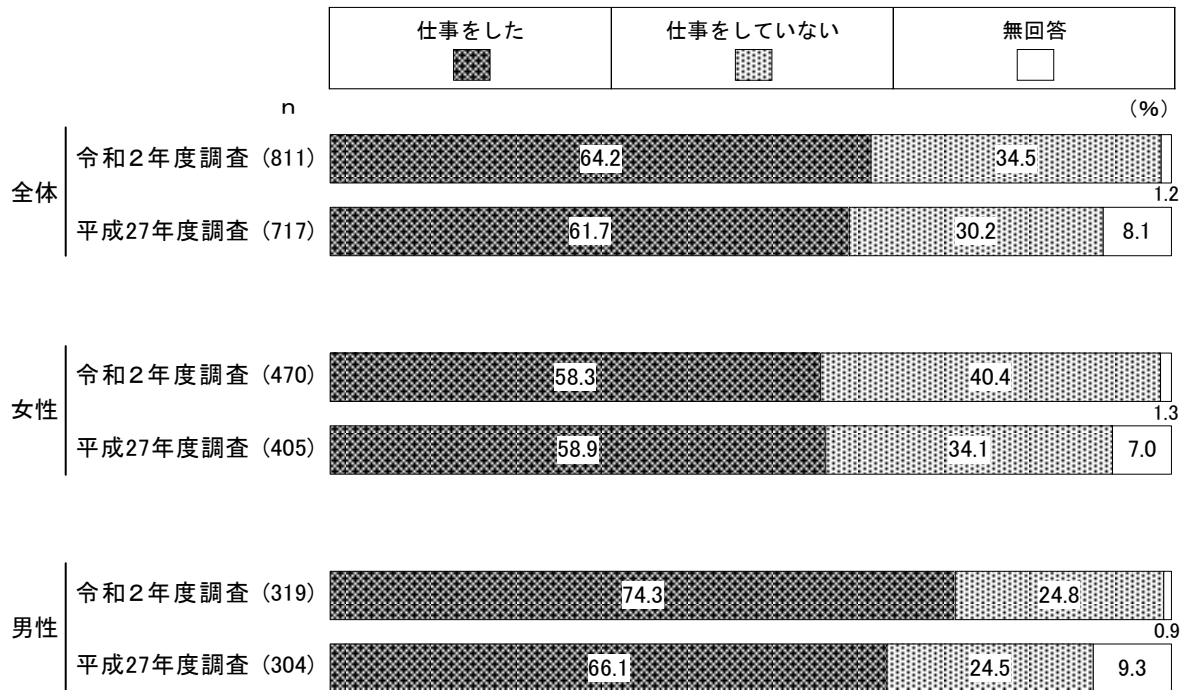
年齢別で見ると、「仕事をしました」は50～59歳で82.6%、40～49歳で81.0%と高くなっている。一方、「仕事をしていない」は70歳以上で84.8%と高くなっている。

### <経年比較>

過去の調査と比較すると、全体では「仕事をしていない」が平成27年度調査より4.3ポイント増加している。

女性では「仕事をしていない」が平成27年度調査より6.3ポイント増加している。

男性では「仕事をした」が平成27年度調査より8.2ポイント増加している。

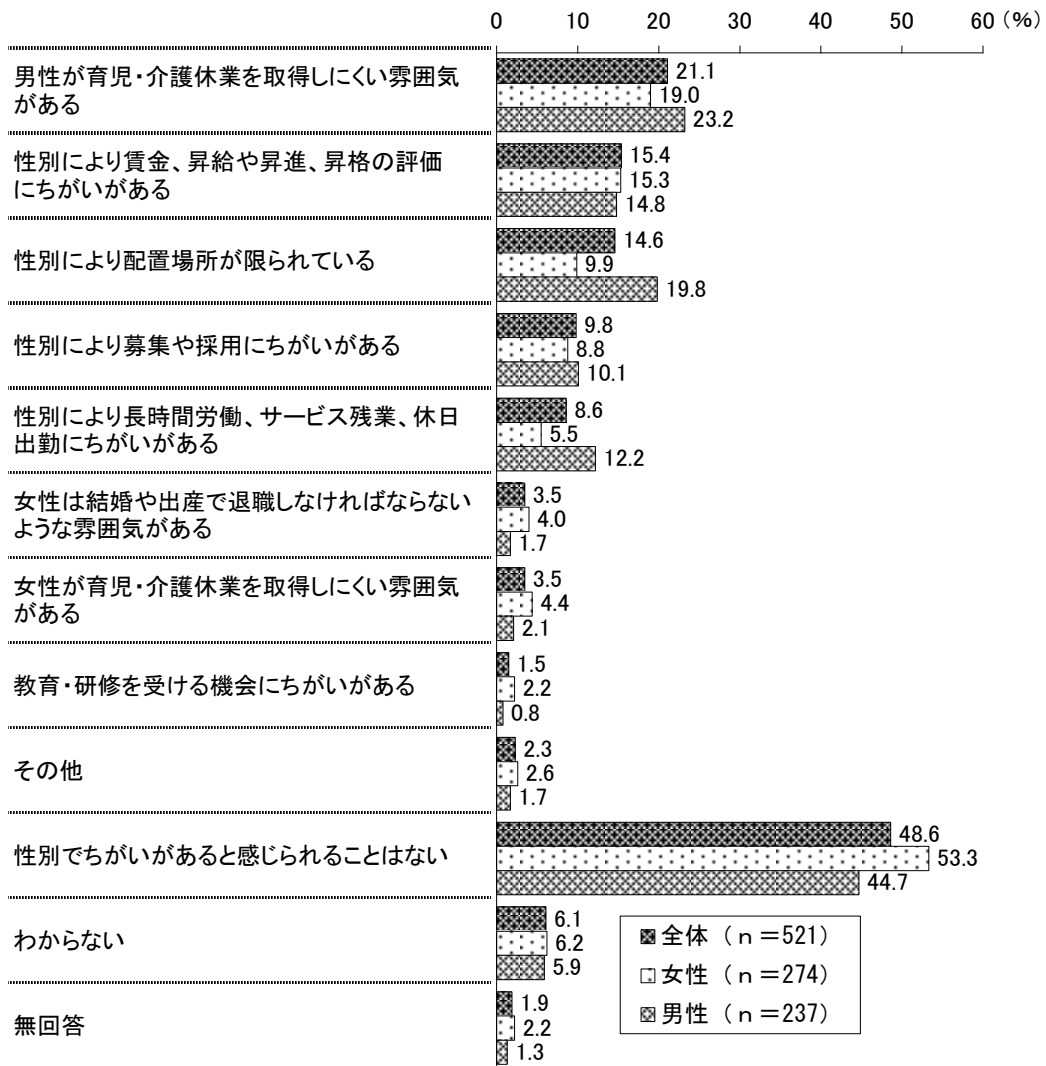


(2) 職場での性別によるちがい

【問9で「仕事をした」と答えた方におたずねします】

問9-1 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、性別によりちがいがあると感じられることがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)



<全体>

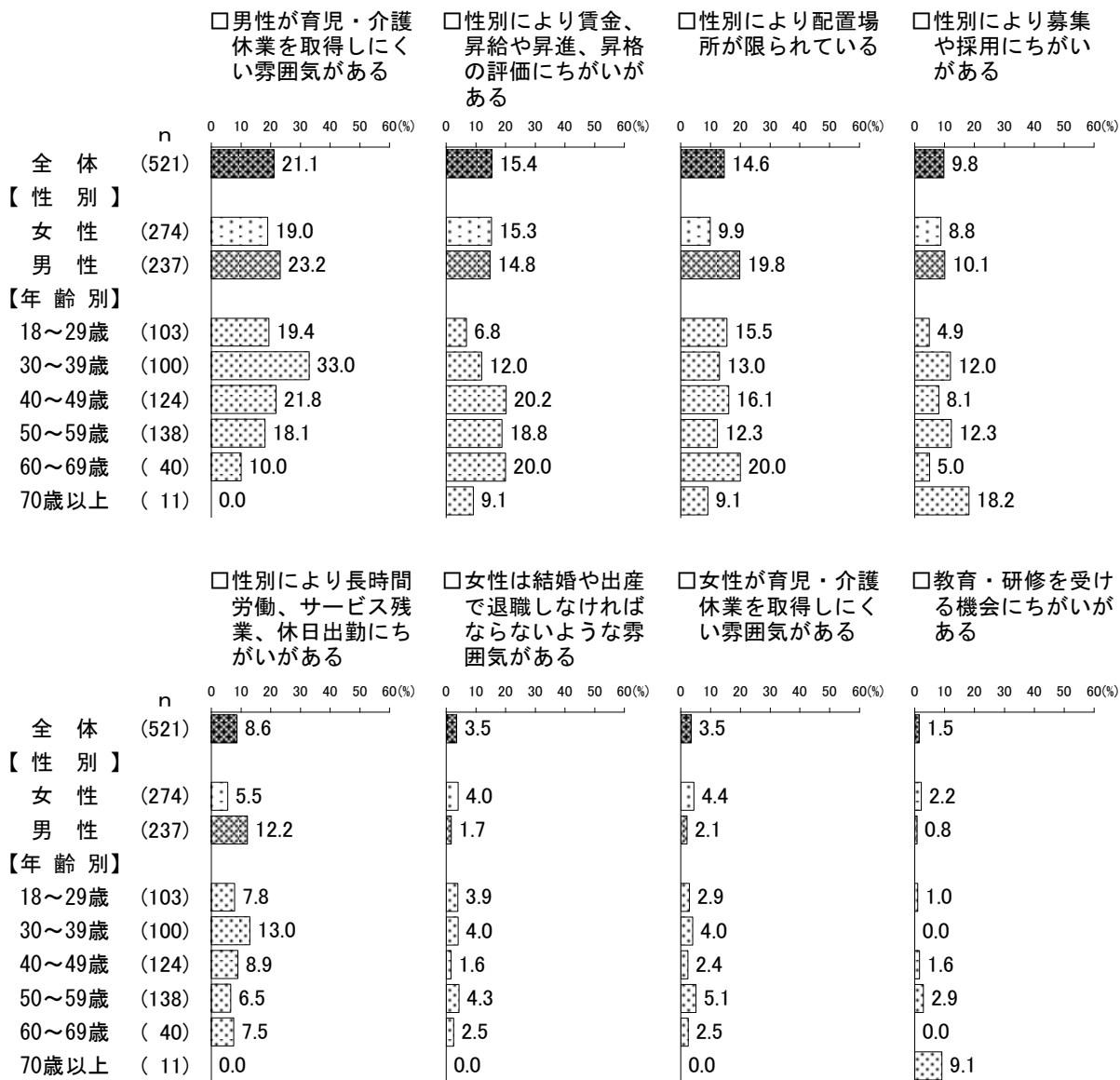
この1か月間で「仕事をした」と答えた方に、職場で性別によりちがいがあると感じられることがあるか聞いたところ、全体では、「性別でちがいがあると感じられることはない」が48.6%で最も高くなっている。性別によりちがいがあると感じられる中では、「男性が育児・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」が21.1%で最も高く、次いで「性別により賃金、昇給や昇進、昇格の評価にちがいがある」(15.4%)となっている。



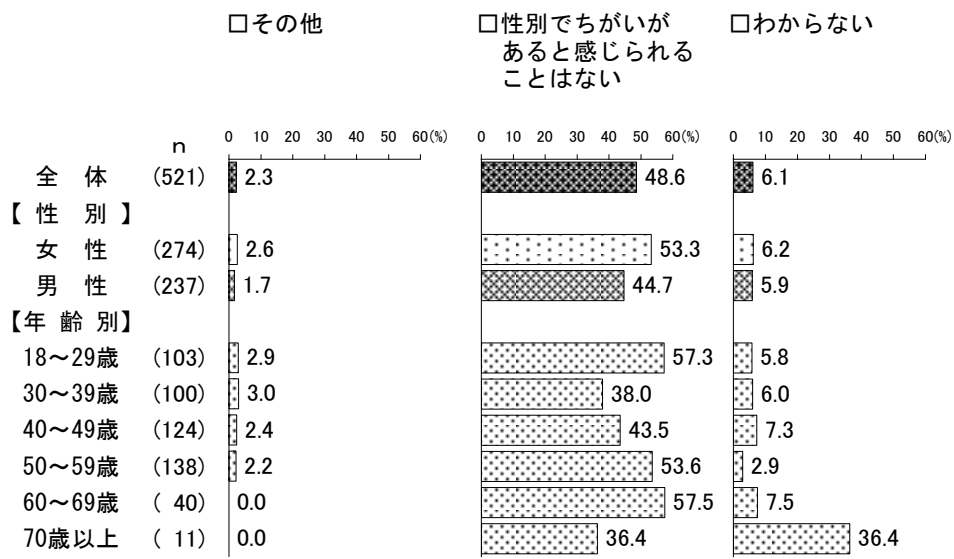
<性別／年齢別>

性別でみると、「性別により配置場所が限られている」は男性（19.8%）が女性（9.9%）より9.9ポイント、「性別により長時間労働、サービス残業、休日出勤にちがいがあがる」は男性（12.2%）が女性（5.5%）より6.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「性別でちがいがあがる感じられることはない」は女性（53.3%）が男性（44.7%）より8.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「男性が育児・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」は30～39歳で33.0%と高くなっている。「性別により配置場所が限られている」は60～69歳で20.0%と高くなっている。

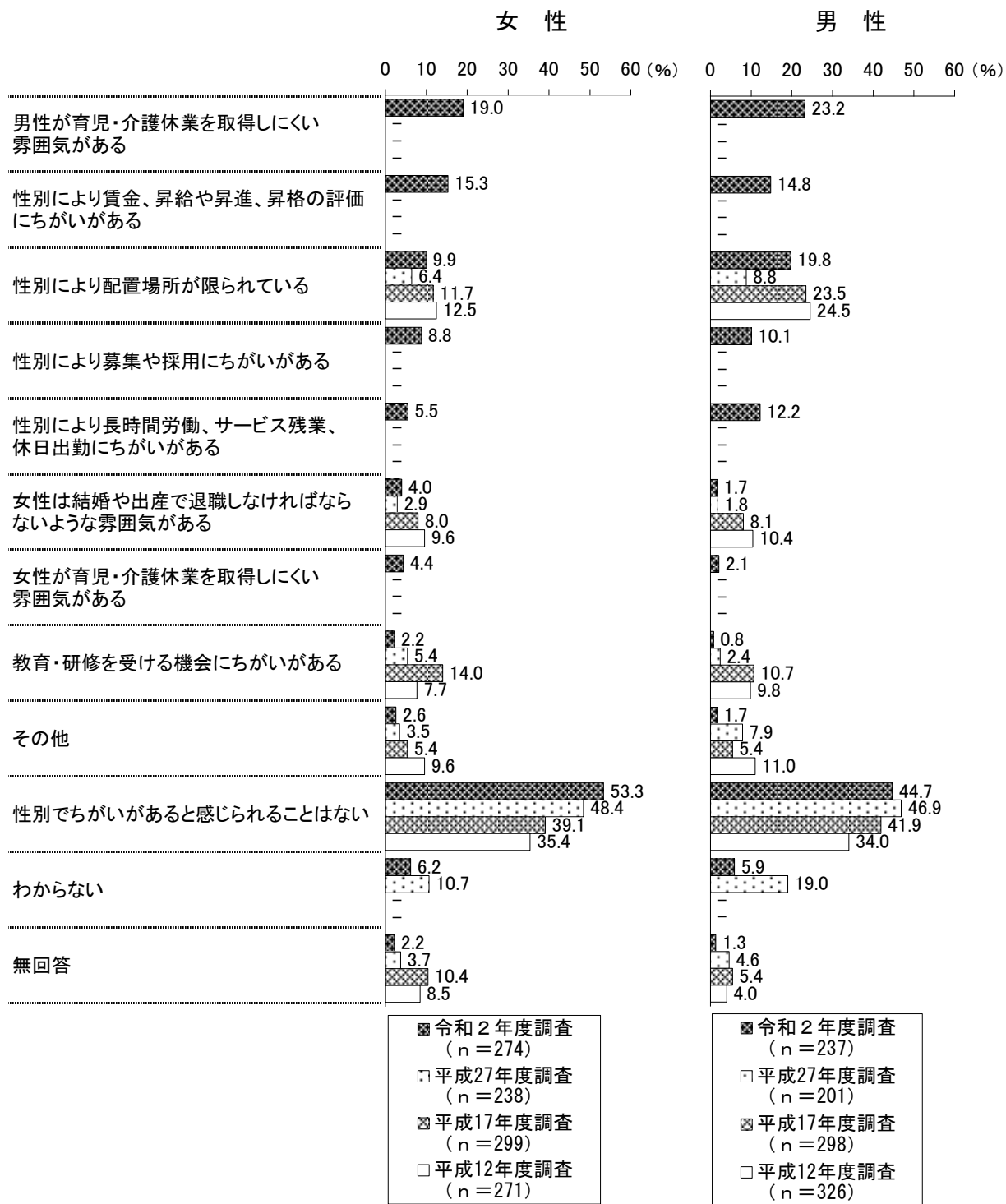


<性別／年齢別> (つづき)



<経年比較>

過去の調査との比較は、選択肢が大幅に異なるため参考に図示する。



※「教育・研修を受ける機会にちがいがあ」は、平成27年度調査では「女性は教育・研修を受ける機会が少ない」、平成17年度調査以前では「教育・研修を受ける機会が少ない」となっていた。

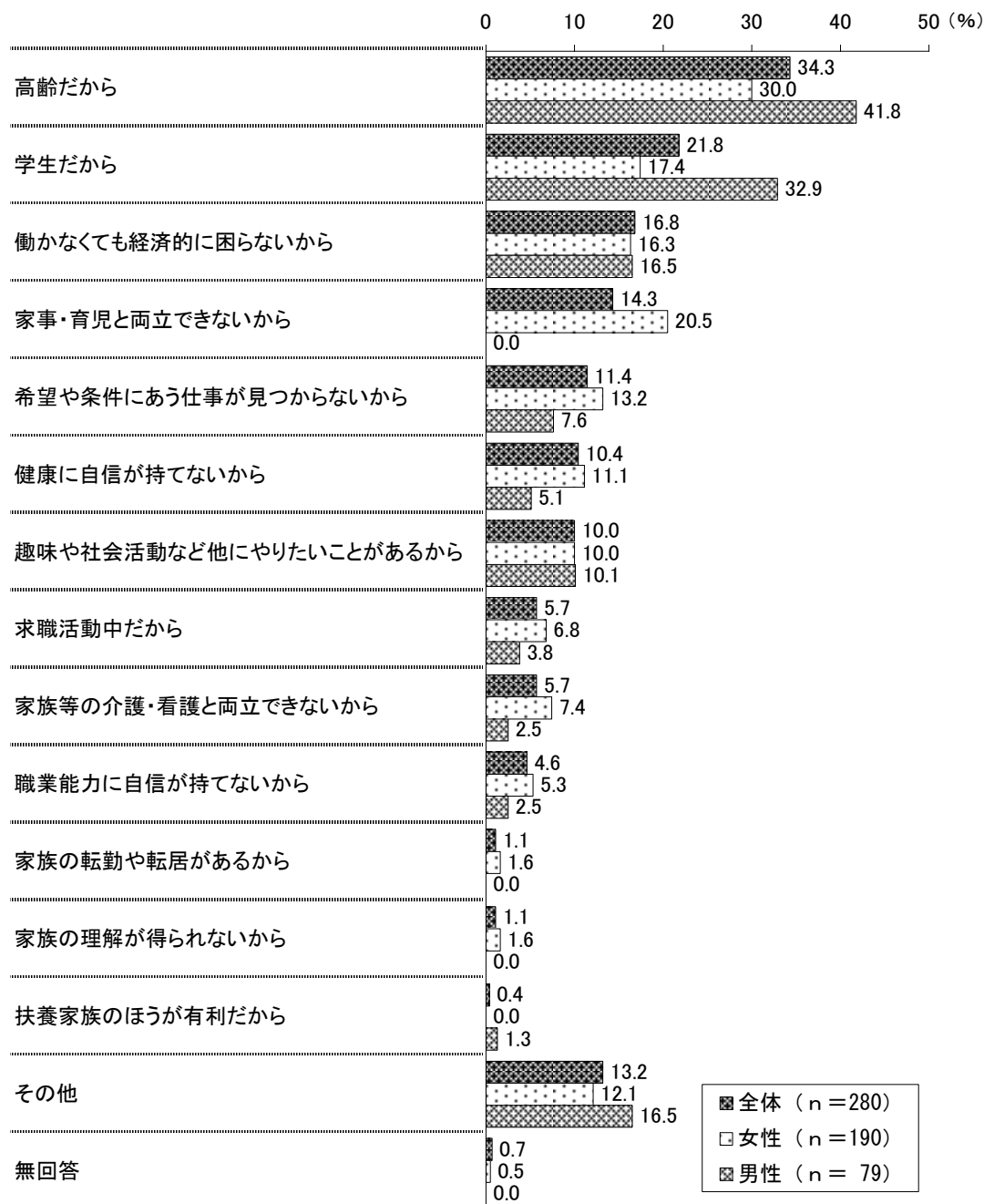
※「男性が育児・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」、「性別により賃金、昇給や昇進、昇格の評価にちがいがあ」、「性別により募集や採用にちがいがあ」、「性別により長時間労働、サービス残業、休日出勤にちがいがあ」、「女性が育児・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」は令和2年度調査から追加された選択肢。

※「わからない」は平成27年度調査から追加された選択肢。

### (3) 非就労理由

【問9で「仕事をしていない」と答えた方におたずねします】

問9-2 あなたがこの1か月間仕事をしなかった理由をお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



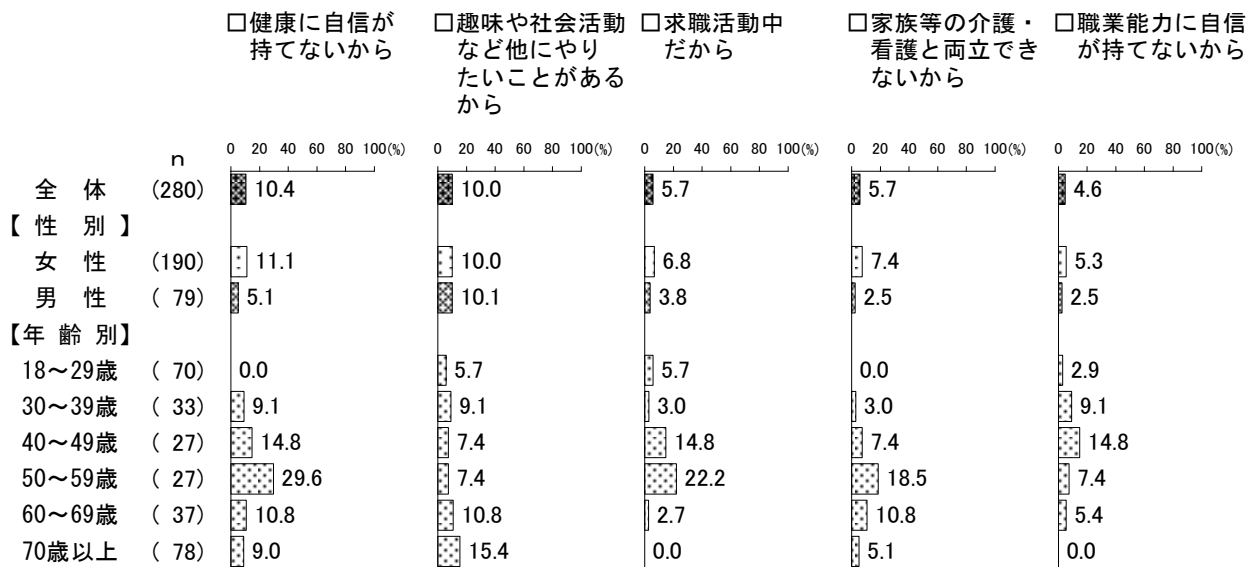
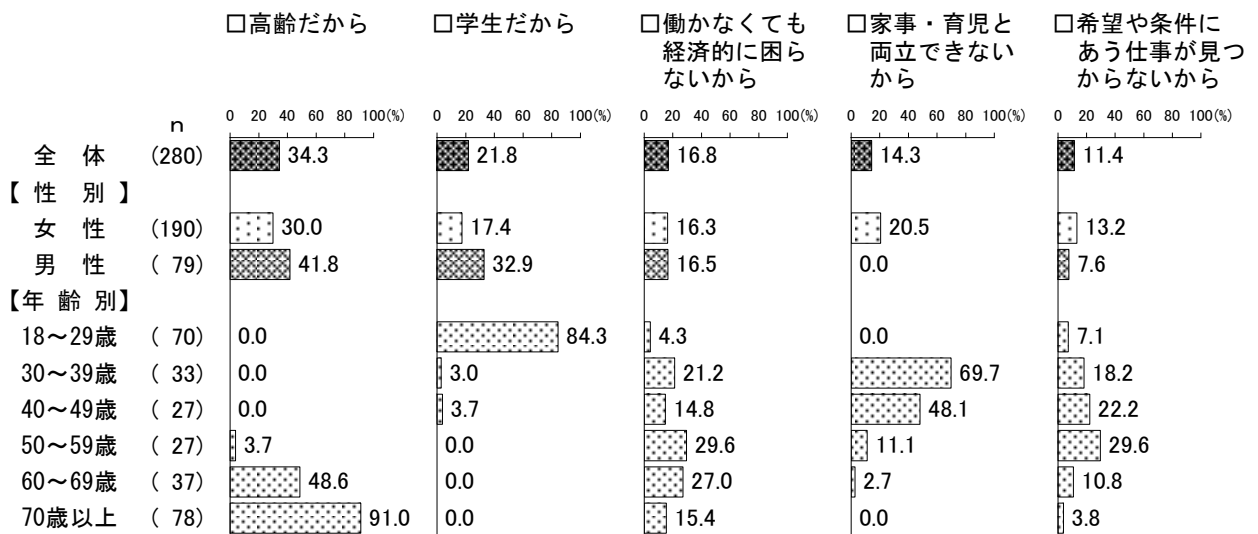
#### <全体>

この1か月間で「仕事をしていない」と答えた方に、仕事をしなかった理由を聞いたところ、全体では、「高齢だから」が34.3%で最も高く、次いで「学生だから」(21.8%)、「働かなくても経済的に困らないから」(16.8%)、「家事・育児と両立できないから」(14.3%)となっている。

<性別／年齢別>

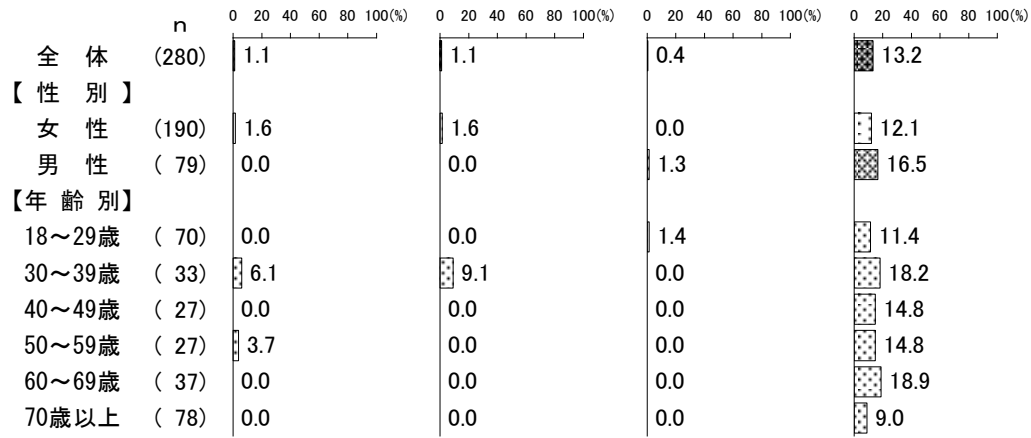
性別で見ると、「家事・育児と両立できないから」は女性（20.5%）が男性（0.0%）より20.5ポイント高くなっている。一方、「学生だから」は男性（32.9%）が女性（17.4%）より15.5ポイント、「高齢だから」は男性（41.8%）が女性（30.0%）より11.8ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「高齢だから」は70歳以上で91.0%と高くなっている。「学生だから」は18～29歳で84.3%と高くなっている。「家事・育児と両立できないから」は30～39歳で69.7%と高くなっている。



<性別／年齢別> (つづき)

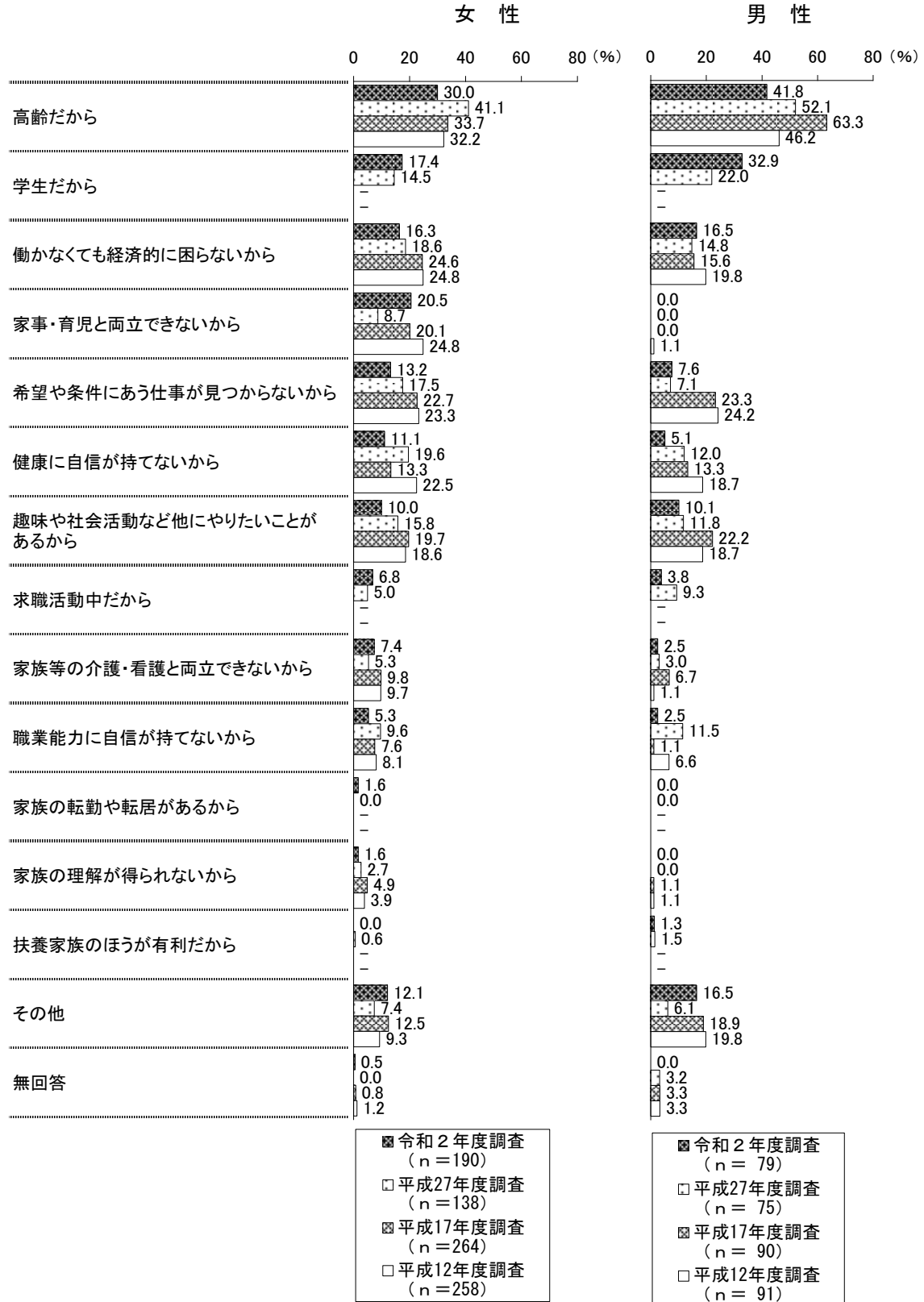
□ 家族の転勤や  
転居があるから    □ 家族の理解が  
得られないから    □ 扶養家族のほう  
が有利だから    □ その他



<経年比較>

過去の調査と比較すると、女性では「家事・育児と両立できないから」が平成27年度調査より11.8ポイント増加している。一方、「高齢だから」が平成27年度調査より11.1ポイント減少している。

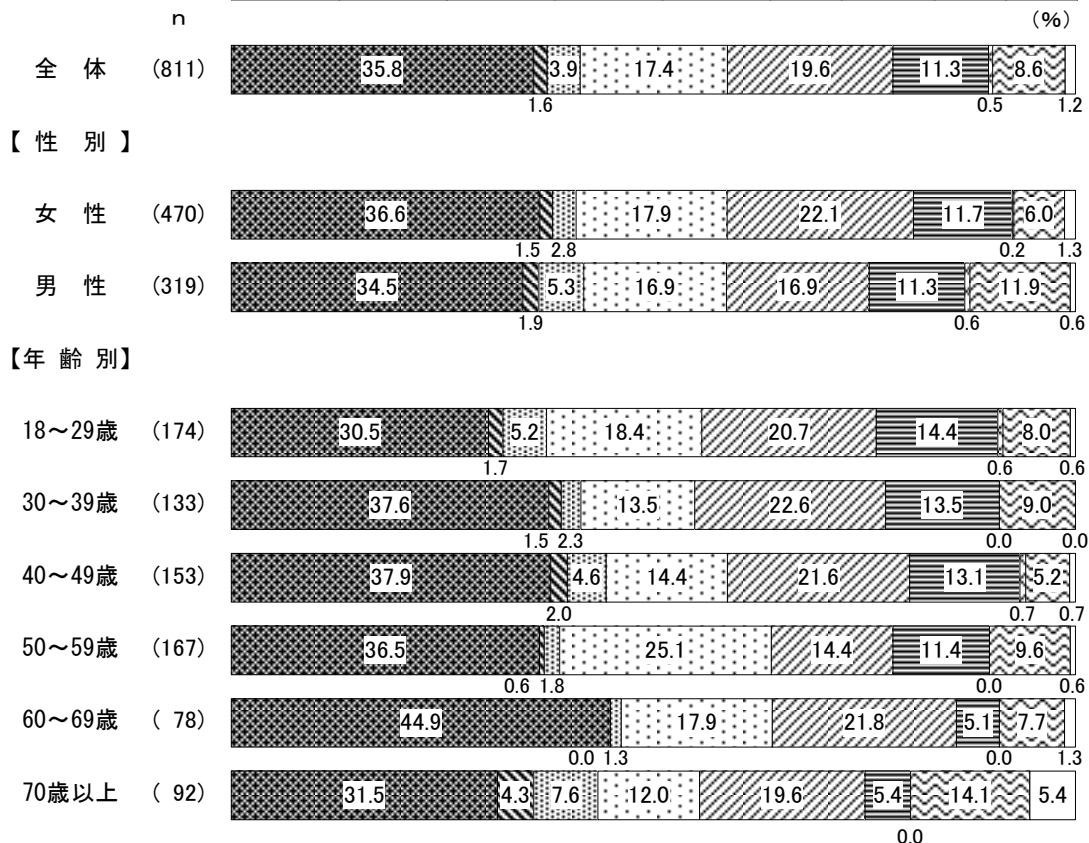
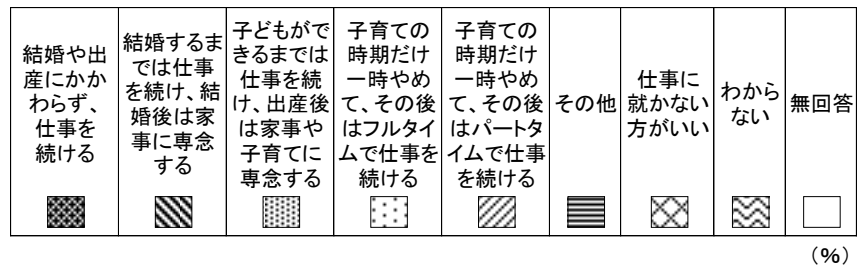
男性では「学生だから」が平成27年度調査より10.9ポイント増加している。一方、「高齢だから」が平成27年度調査より10.3ポイント減少している。



※「学生だから」、「求職活動中だから」、「家族の転勤や転居があるから」、「扶養家族のほう有利だから」は平成27年度調査から追加された選択肢。

#### (4) 望ましい女性の働き方

問10 あなたは、女性の望ましい働き方についてどうお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)



#### <全体／性別／年齢別>

女性の望ましい働き方について聞いたところ、全体では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が35.8%で最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(19.6%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(17.4%)となっている。

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」は女性(22.1%)が男性(16.9%)より5.2ポイント高くなっている。

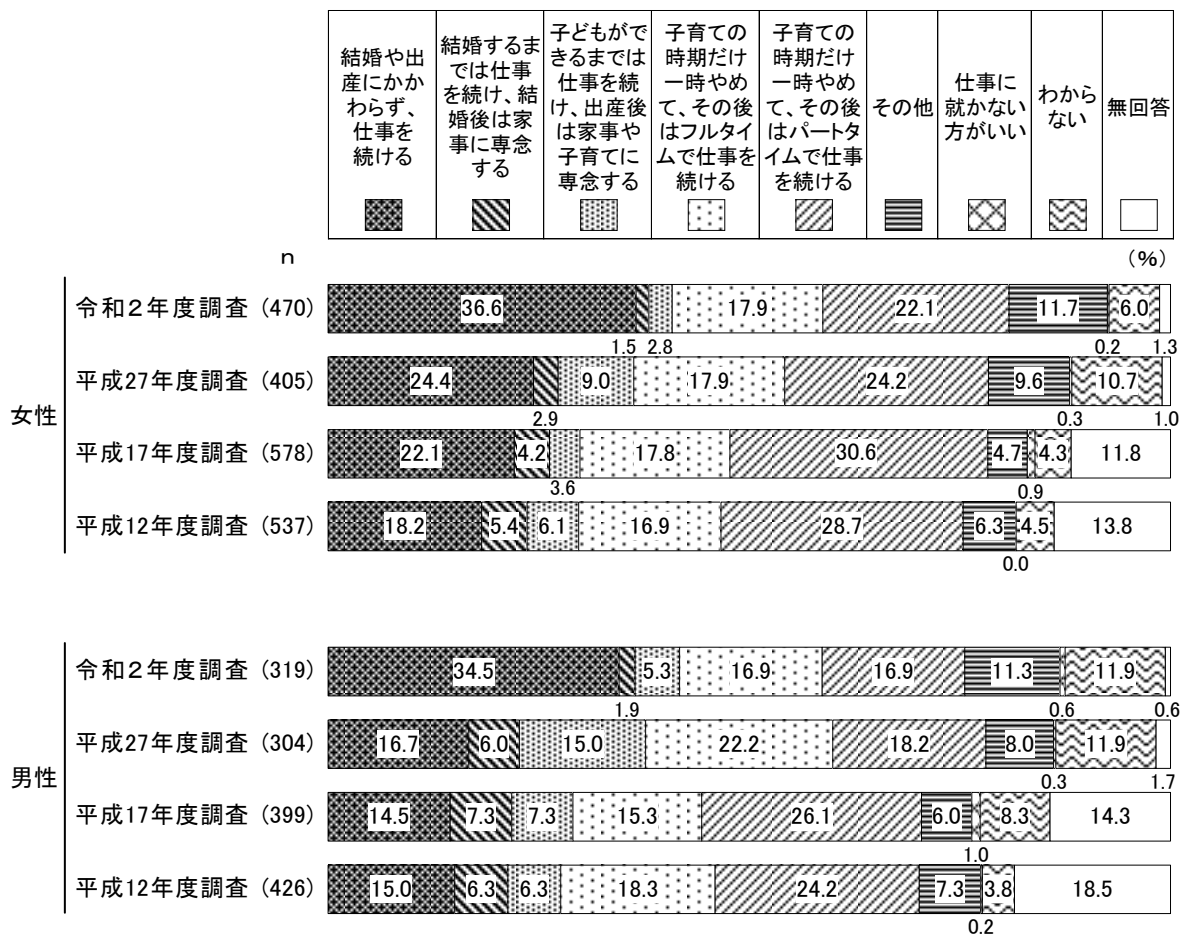
年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は60～69歳で44.9%と高くなっている。「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」は50～59歳で25.1%と高くなっている。



### <経年比較>

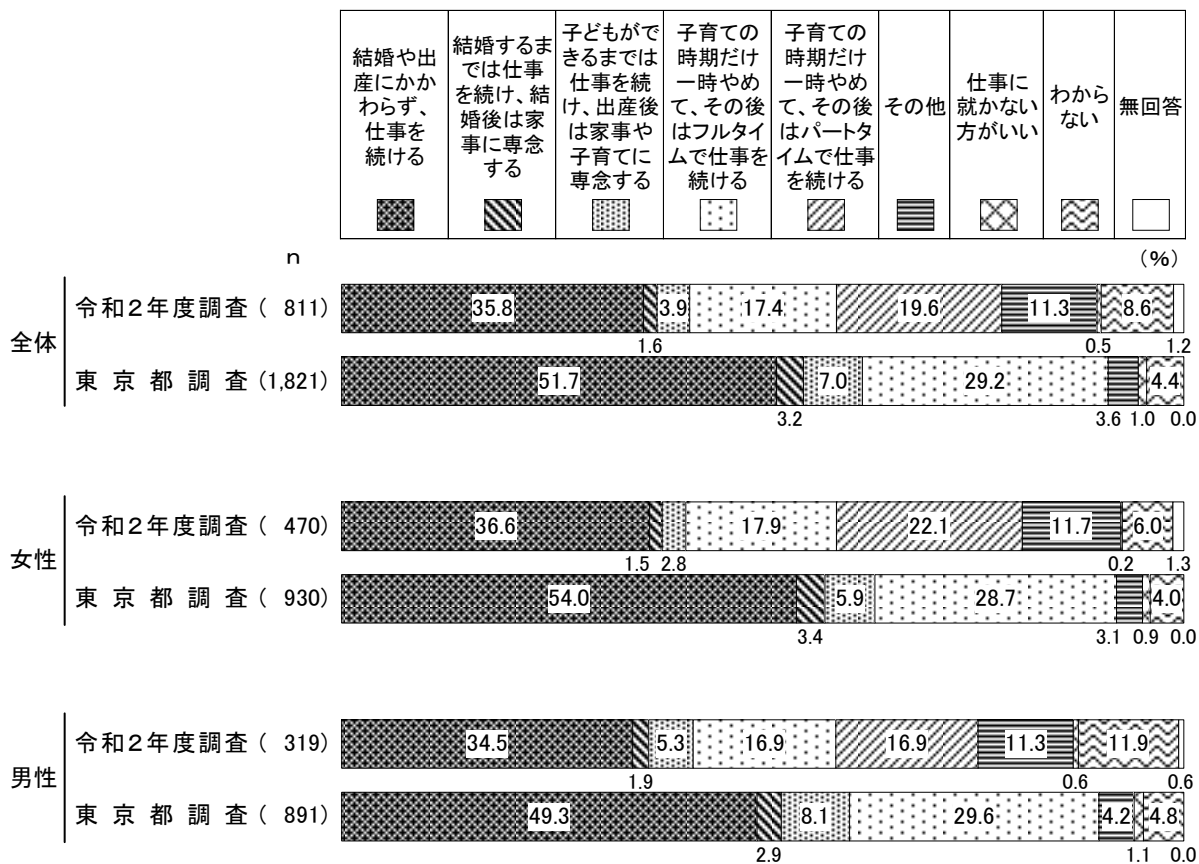
過去の調査と比較すると、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が平成12年度調査以降増加傾向にあり、平成27年度調査より12.2ポイント増加している。一方、「子どもができるまでは仕事を続け、出産後は家事や子育てに専念する」が平成27年度調査より6.2ポイント減少している。

男性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が平成27年度調査より17.8ポイント増加している。一方、「子どもができるまでは仕事を続け、出産後は家事や子育てに専念する」が平成27年度調査より9.7ポイント減少している。



## <東京都調査との比較>

東京都調査との比較は、選択肢が大幅に異なるため参考に図示する。



※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）

※「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は、東京都調査では「育児・介護等にかかわらず、職業をもち続ける方がよい」となっていた。

※「結婚するまでは仕事を続け、結婚後は家事に専念する」は、東京都調査では「結婚するまでは職業をもつ方がよい」となっていた。

※「子どもができるまでは仕事を続け、出産後は家事や子育てに専念する」は、東京都調査では「子供ができるまでは職業をもつ方がよい」となっていた。

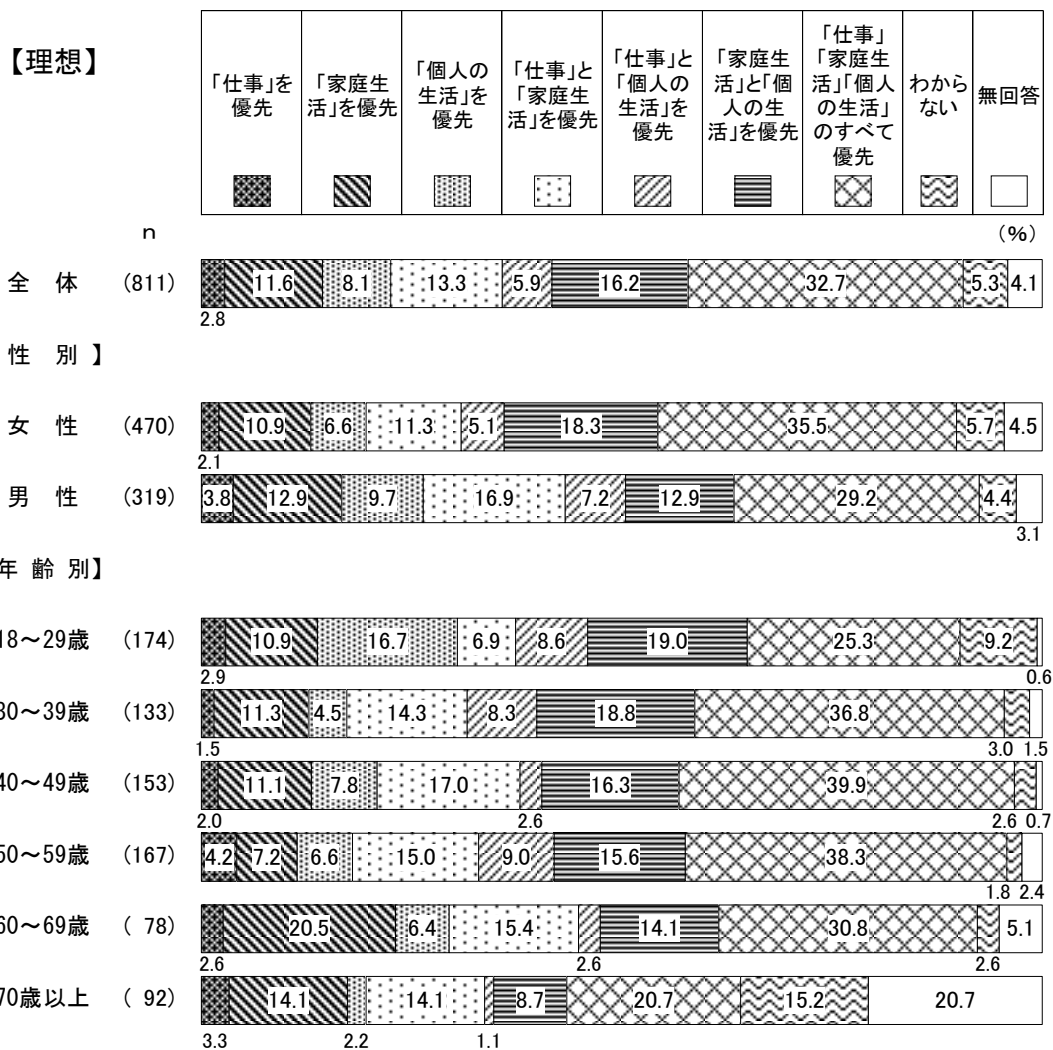
※「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」と「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の2つの選択肢は、東京都調査では「子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の1つの選択肢となっていたため、その値は「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」として表記している。

※「仕事に就かない方がいい」は、東京都調査では「職業をもたない方がよい」となっていた。

## 5. ワーク・ライフ・バランスについて

### (1) 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度（理想・現状）

問11 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について（1）あなたの理想に最も近い番号、（2）あなたの現状に最も近い番号1つに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）



#### <全体／性別／年齢別>

【理想】の「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について聞いたところ、全体では、『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先が32.7%で最も高く、次いで『家庭生活』と『個人の生活』を優先（16.2%）となっている。

性別でみると、『仕事』と『家庭生活』を優先は男性（16.9%）が女性（11.3%）より5.6ポイント高くなっている。一方、『家庭生活』と『個人の生活』を優先は女性（18.3%）が男性（12.9%）より5.4ポイント高くなっている。

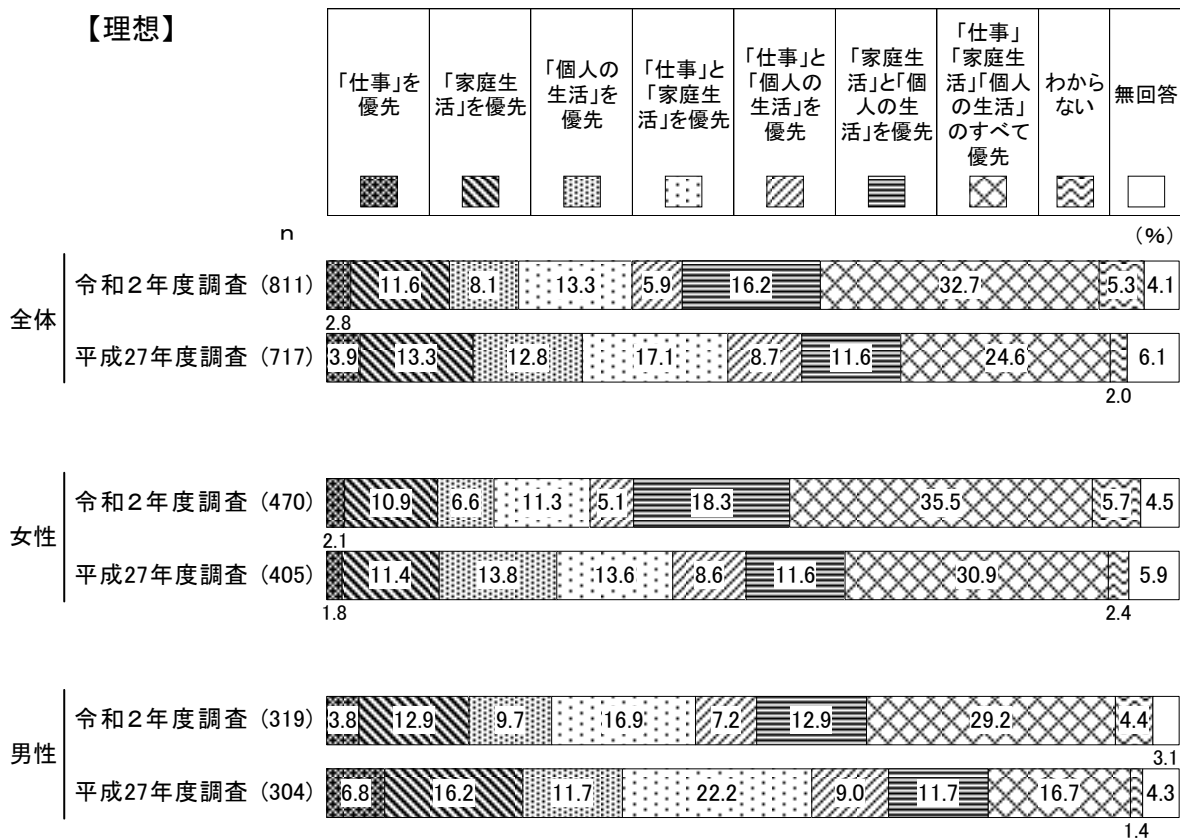
年齢別でみると、『家庭生活』を優先は60～69歳で20.5%と高くなっている。『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先は40～49歳で39.9%と高くなっている。

<経年比較>

【理想】を過去の調査と比較すると、全体では「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先」が平成27年度調査より8.1ポイント増加している。一方、「『個人の生活』を優先」が平成27年度調査より4.7ポイント減少している。

女性では「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が平成27年度調査より6.7ポイント増加している。一方、「『個人の生活』を優先」が平成27年度調査より7.2ポイント減少している。

男性では「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先」が平成27年度調査より12.5ポイント増加している。一方、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が平成27年度調査より5.3ポイント減少している。

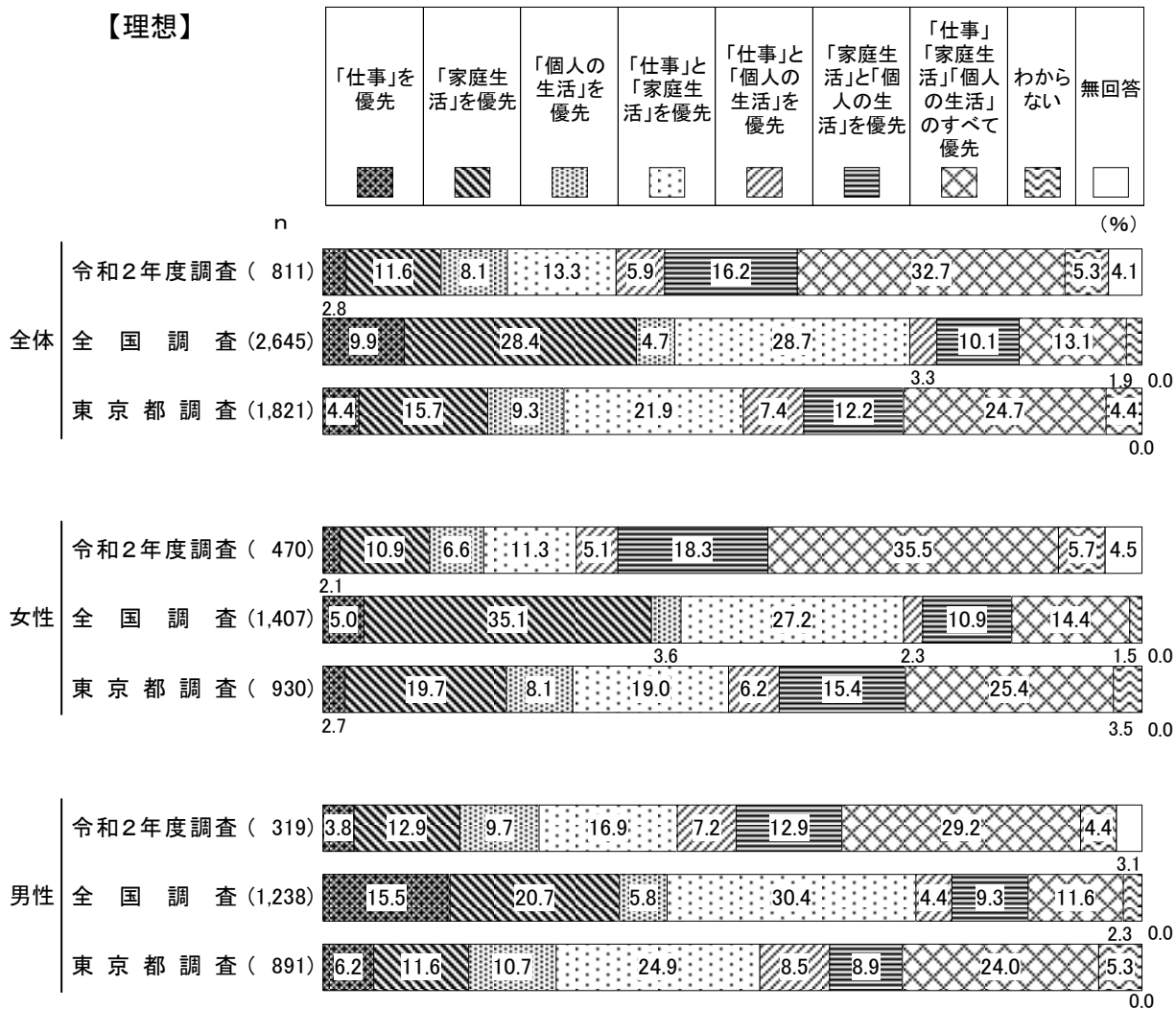


<全国・東京都調査との比較>

【理想】を全国及び東京都調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先が全国調査より19.6ポイント、東京都調査より8.0ポイント、それぞれ高くなっている。

女性では『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先が全国調査より21.1ポイント、東京都調査より10.1ポイント、それぞれ高くなっている。

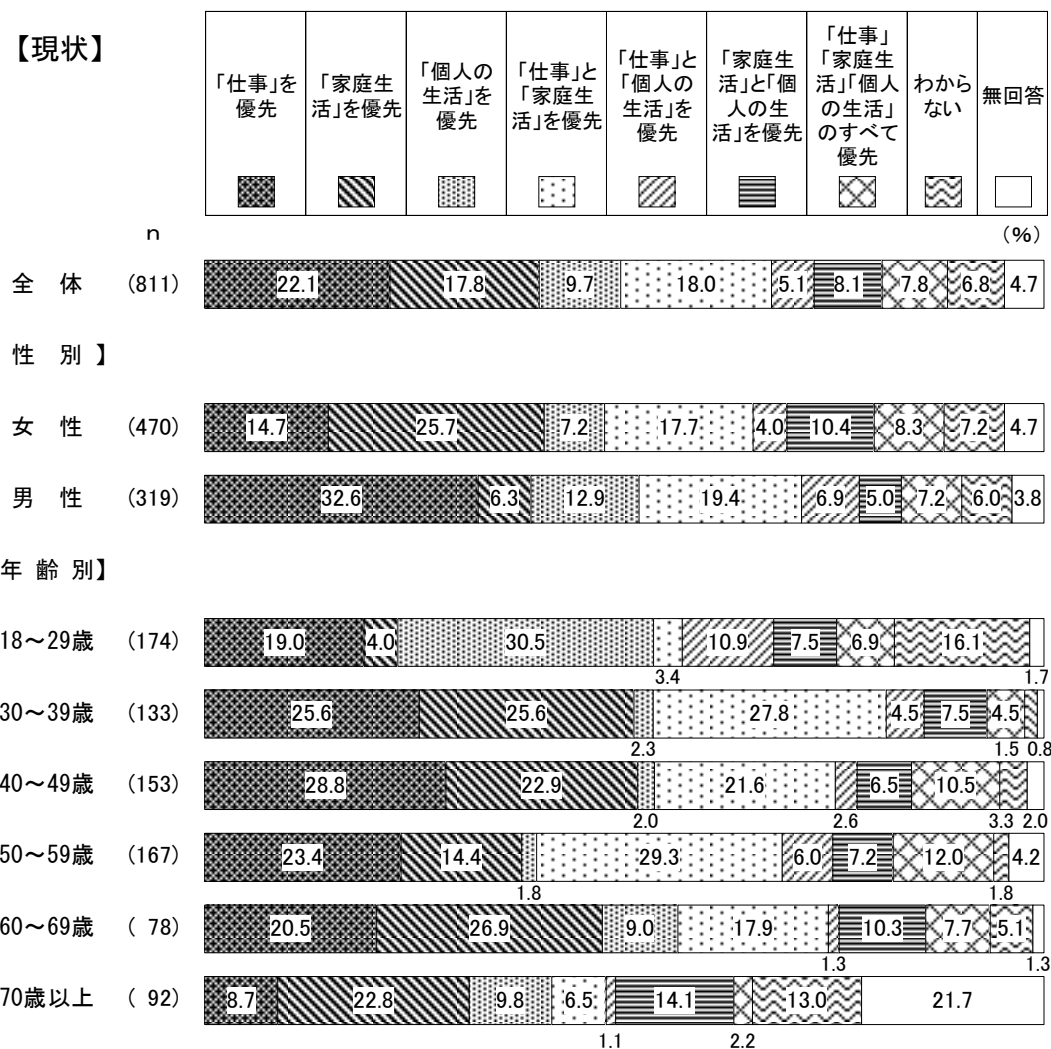
男性では『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先が全国調査より17.6ポイント、東京都調査より5.2ポイント、それぞれ高くなっている。



※全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月調査）  
 ※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）  
 ※「『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『地域・個人の生活』を優先したい」となっていた。  
 ※「『仕事』と『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。  
 ※「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。  
 ※「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先」は、全国調査では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。

問11 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について（1）あなたの理想に最も近い番号、（2）あなたの現状に最も近い番号1つに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

【現状】



<全体／性別／年齢別>

【現状】の「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について聞いたところ、全体では、『仕事』を優先が22.1%で最も高く、次いで、『仕事』と『家庭生活』を優先（18.0%）、『家庭生活』を優先（17.8%）、『個人の生活』を優先（9.7%）となっている。

性別で見ると、『家庭生活』を優先は女性（25.7%）が男性（6.3%）より19.4ポイント高くなっている。一方、『仕事』を優先は男性（32.6%）が女性（14.7%）より17.9ポイント高くなっている。

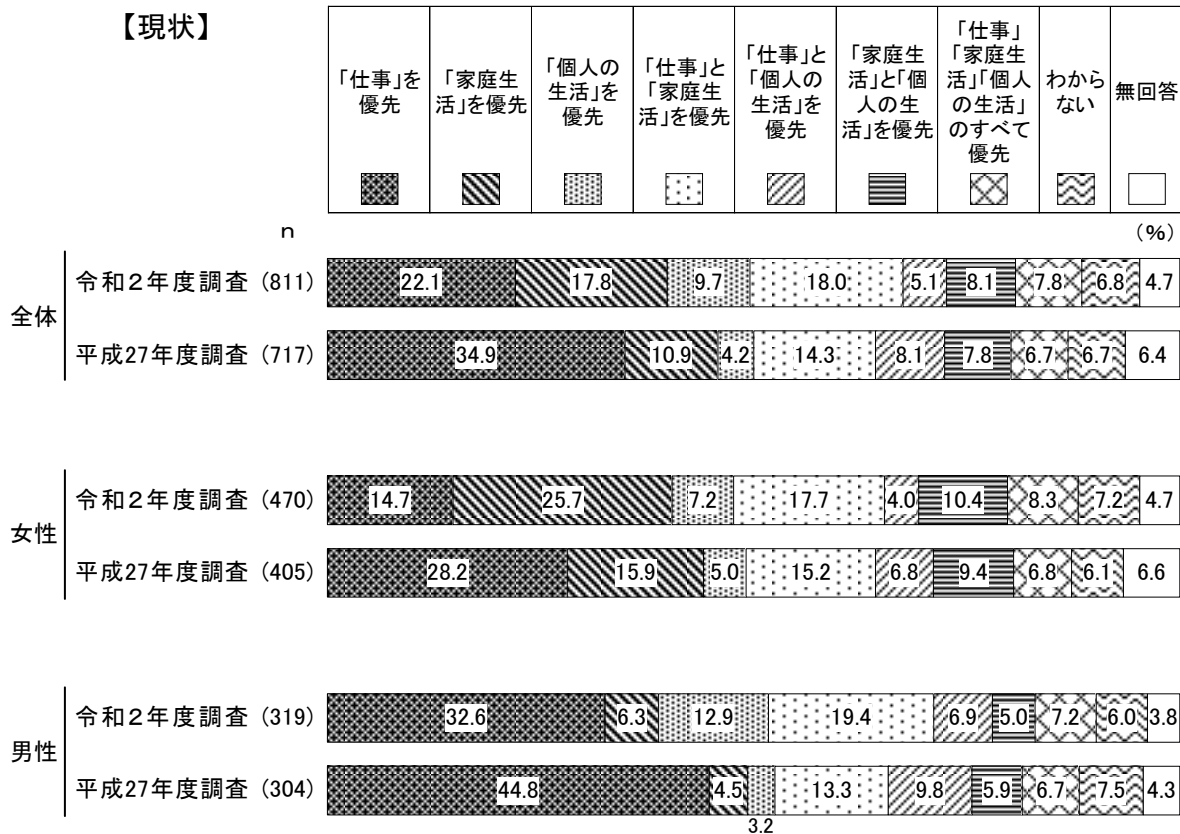
年齢別で見ると、『個人の生活』を優先は18～29歳で30.5%と高くなっている。『仕事』と『家庭生活』を優先は50～59歳で29.3%と高くなっている。

<経年比較>

【現状】を過去の調査と比較すると、全体では『家庭生活』を優先が平成27年度調査より6.9ポイント増加している。一方、『仕事』を優先が平成27年度調査より12.8ポイント減少している。

女性では『家庭生活』を優先が平成27年度調査より9.8ポイント増加している。一方、『仕事』を優先が平成27年度調査より13.5ポイント減少している。

男性では『個人の生活』を優先が平成27年度調査より9.7ポイント増加している。一方、『仕事』を優先が平成27年度調査より12.2ポイント減少している。

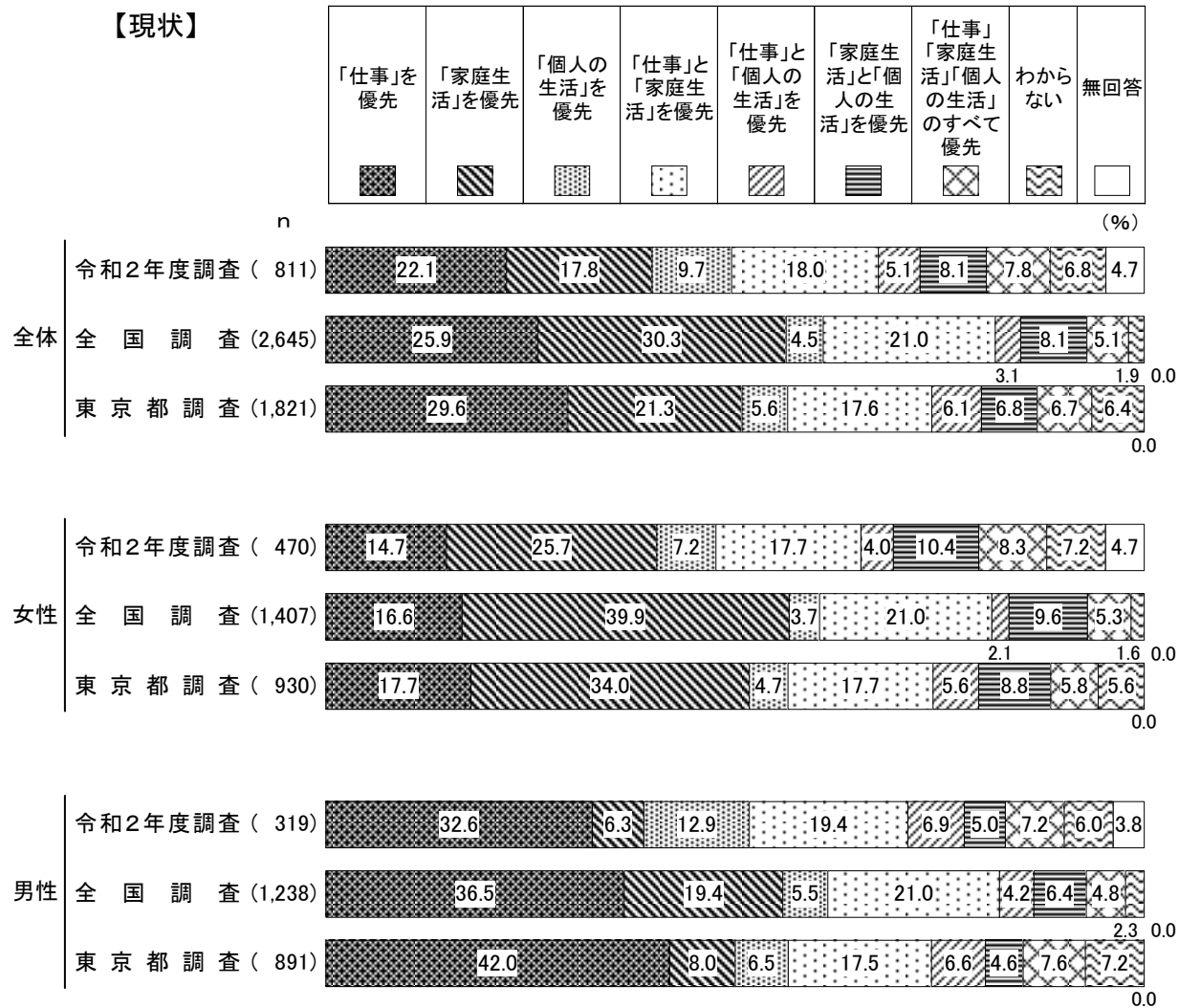


<全国・東京都調査との比較>

【現状】を全国及び東京都調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「『個人の生活』を優先」が全国調査より5.2ポイント、東京都調査より4.1ポイント、それぞれ高くなっている。

女性では「『個人の生活』を優先」が全国調査より3.5ポイント高くなっている。

男性では「『個人の生活』を優先」が全国調査より7.4ポイント、東京都調査より6.4ポイント、それぞれ高くなっている。



※全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月調査）

※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）

※「『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『地域・個人の生活』を優先したい」となっていた。

※「『仕事』と『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。

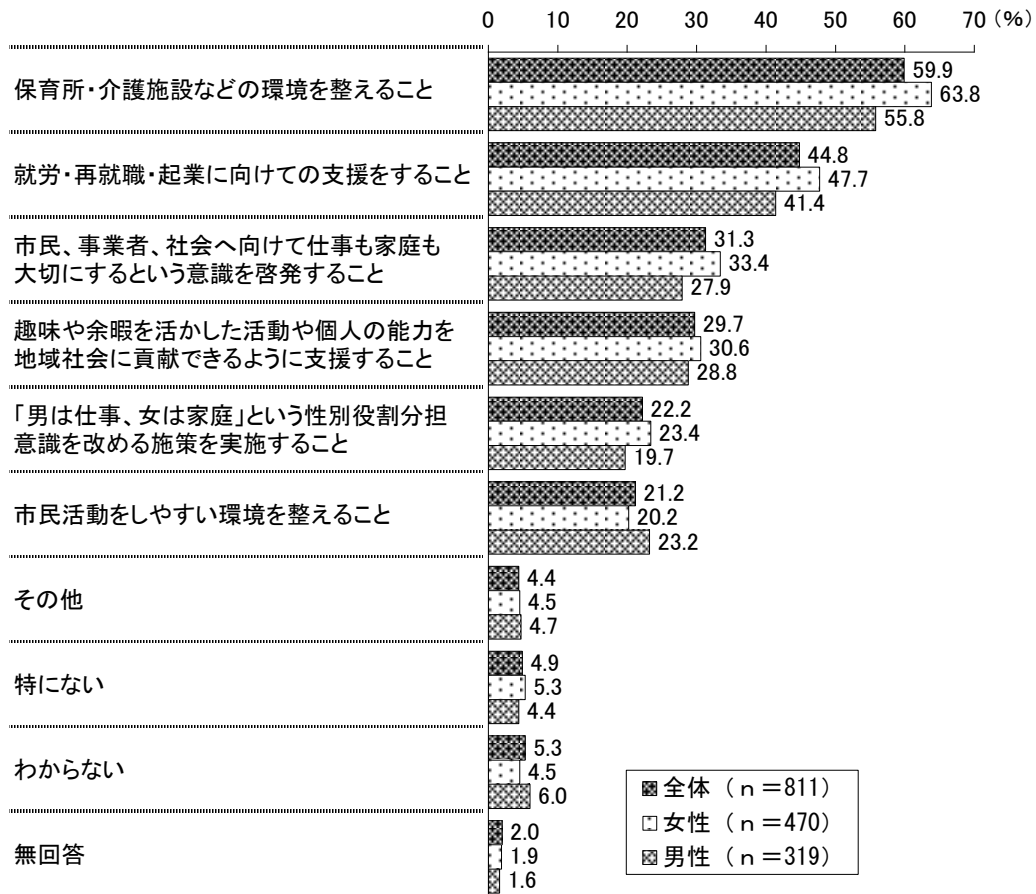
※「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」は、全国調査では「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。

※「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて優先」は、全国調査では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっていた。



(2) ワーク・ライフ・バランスを実現するための効果的な施策

問12 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するために、小平市がどのような施策を講じることが効果的だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



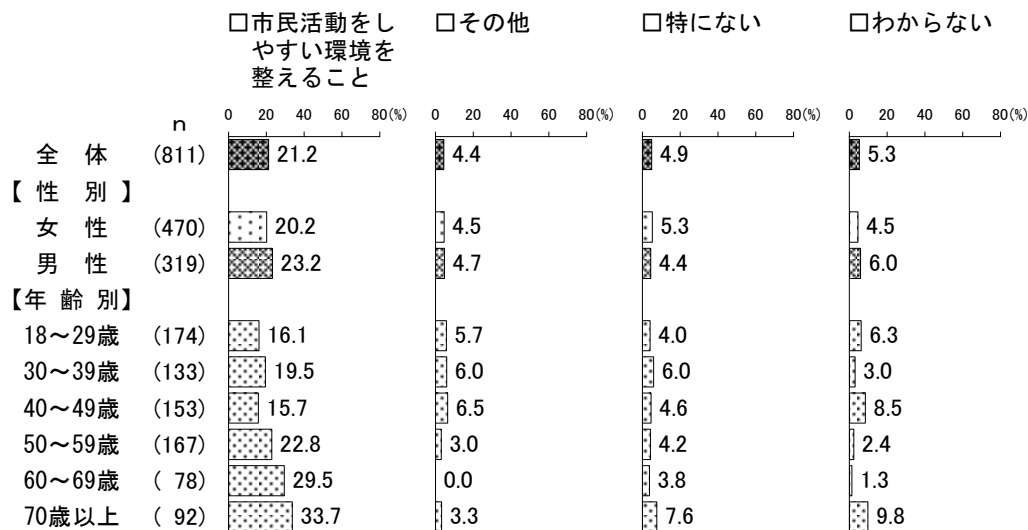
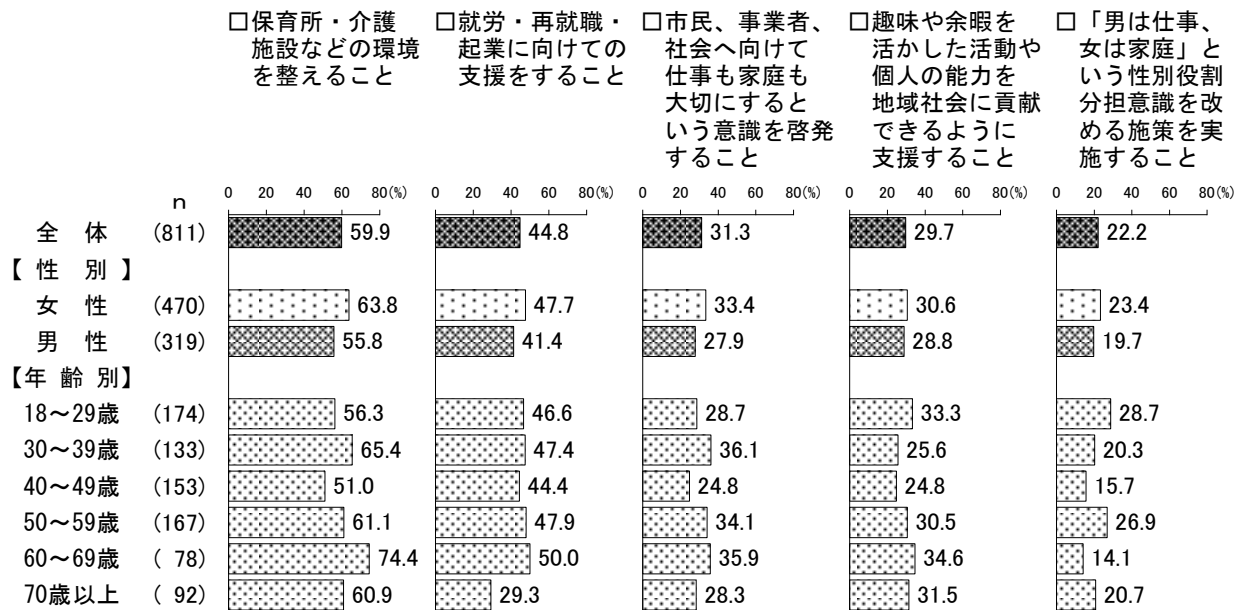
<全体>

ワーク・ライフ・バランスを実現するための効果的な施策を聞いたところ、全体では、「保育所・介護施設などの環境を整えること」が59.9%で最も高く、次いで「就労・再就職・起業に向けての支援をすること」(44.8%)、「市民、事業者、社会へ向けて仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」(31.3%)、「趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること」(29.7%)となっている。

<性別／年齢別>

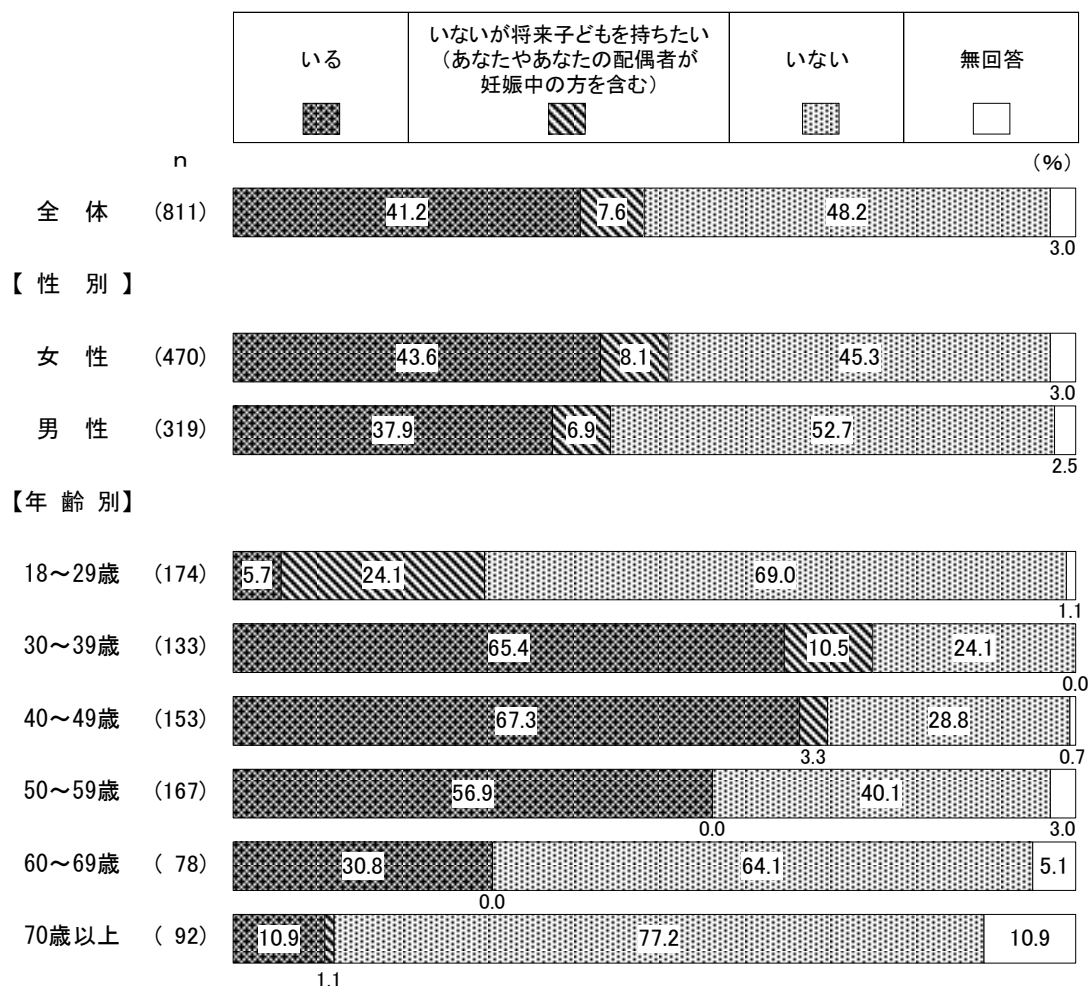
性別で見ると、「保育所・介護施設などの環境を整えること」は女性（63.8%）が男性（55.8%）より8.0ポイント、「就労・再就職・起業に向けての支援をすること」は女性（47.7%）が男性（41.4%）より6.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「市民活動をしやすい環境を整えること」は男性（23.2%）が女性（20.2%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「保育所・介護施設などの環境を整えること」は60～69歳で74.4%と高くなっている。「就労・再就職・起業に向けての支援をすること」は60～69歳で50.0%と高くなっている。



### (3) 同居の子どもの有無

問13 育児休業の取得状況についておたずねします。  
あなたに同居のお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)



#### <全体／性別／年齢別>

同居の子どもの有無を聞いたところ、全体では、「いる」が41.2%となっている。一方、「いないが将来子どもを持ちたい（あなたやあなたの配偶者が妊娠中の方を含む）」は7.6%、「いない」は48.2%となっている。

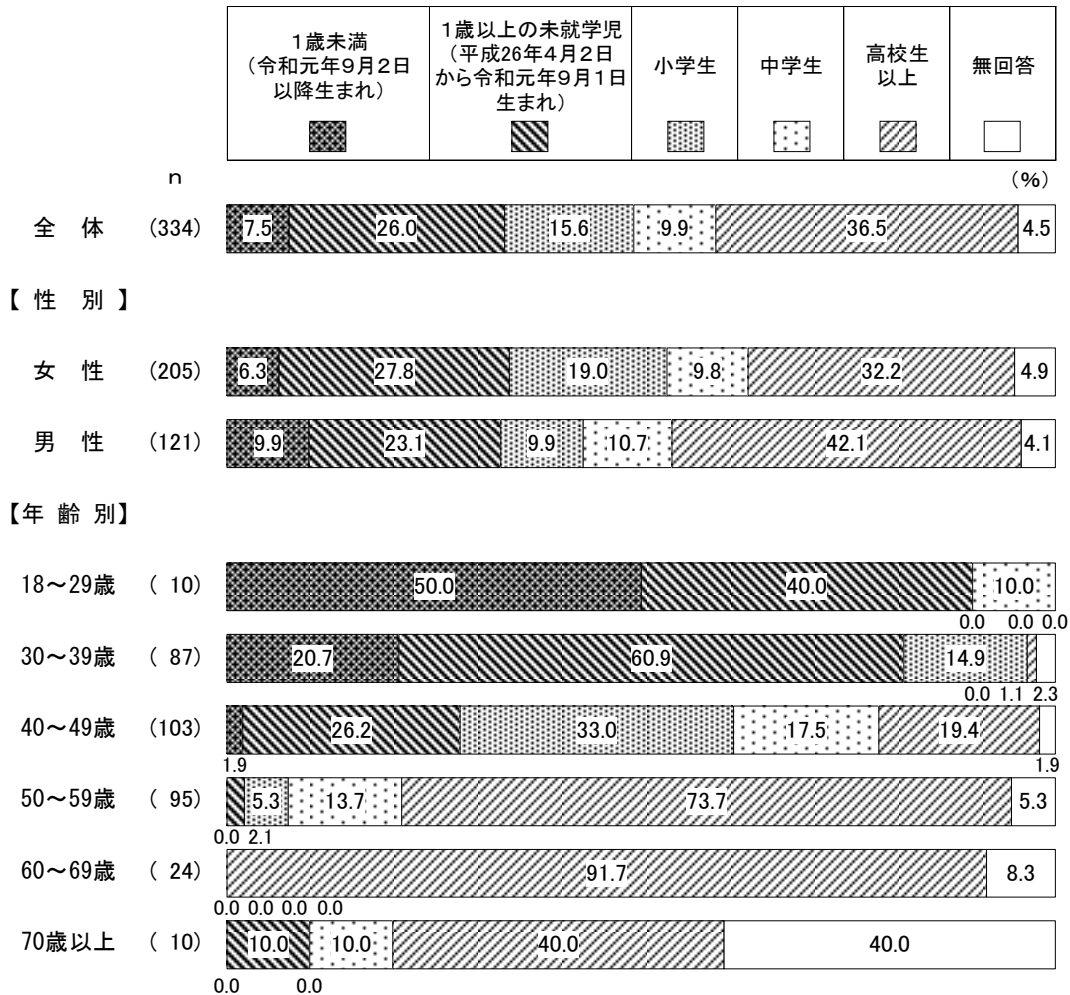
性別で見ると、「いる」は女性（43.6%）が男性（37.9%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「いる」は40～49歳で67.3%、30～39歳で65.4%と高くなっている。一方、「いない」は70歳以上で77.2%と高くなっている。

(4) 一番低年齢の子どもの成長段階

【問13で「いる」と答えた方におたずねします】

問13-1 一番低年齢のお子さんほどの成長段階にあたりますか。(○は1つ)



<全体／性別／年齢別>

同居の子どもが「いる」と答えた方に、一番低年齢の子どもの成長段階を聞いたところ、全体では、「高校生以上」が36.5%で最も高く、次いで「1歳以上の未就学児」(26.0%)、「小学生」(15.6%)、「中学生」(9.9%)となっている。

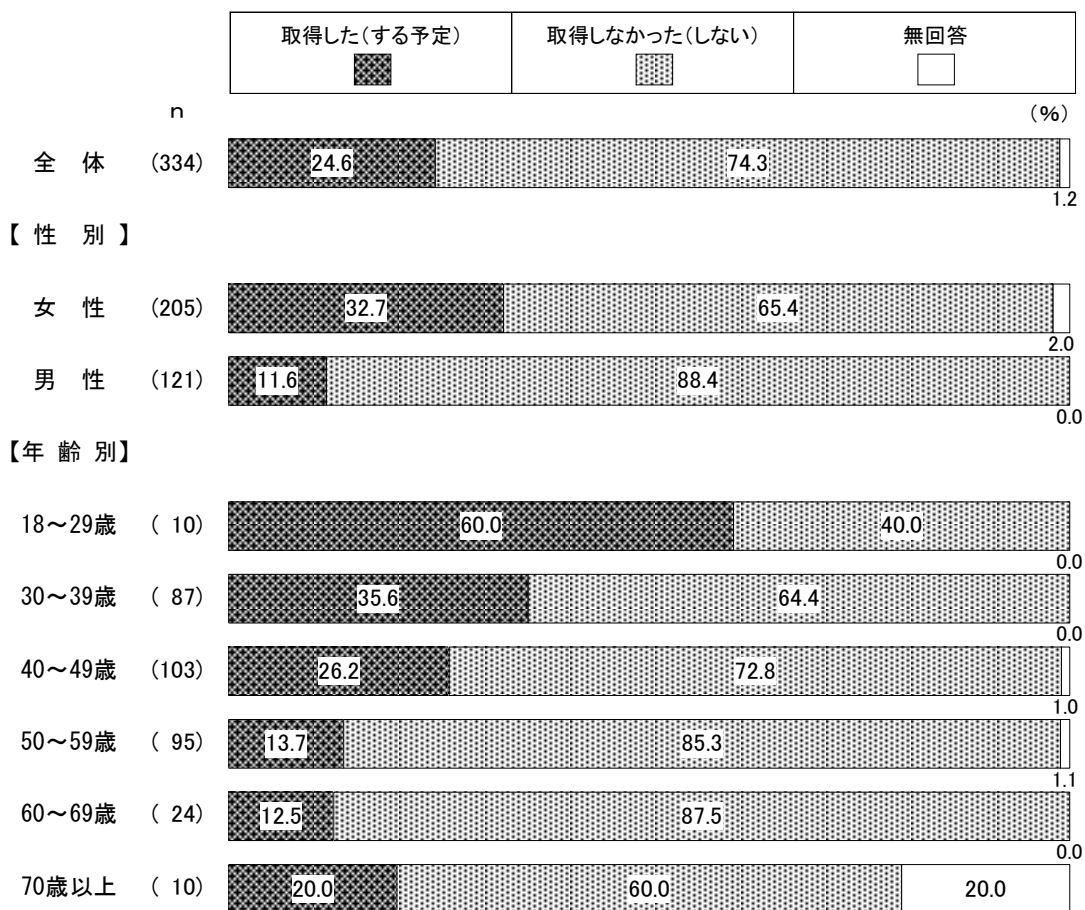
性別で見ると、「高校生以上」は男性(42.1%)が女性(32.2%)より9.9ポイント高くなっている。一方、「小学生」は女性(19.0%)が男性(9.9%)より9.1ポイント、「1歳以上の未就学児」は女性(27.8%)が男性(23.1%)より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「1歳以上の未就学児」は30~39歳で60.9%と高くなっている。「高校生以上」は60~69歳で91.7%と高くなっている。

## (5) 育児休業の取得状況

【問13で「いる」と答えた方におたずねします】

問13-2 あなたやあなたの配偶者が一番低年齢のお子さんを出産された時に、あなたは育児休業を取得しましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)



### <全体／性別／年齢別>

同居の子どもが「いる」と答えた方に、育児休業の取得状況を聞いたところ、全体では、「取得した(する予定)」が24.6%、「取得しなかった(しない)」は74.3%となっている。

性別で見ると、「取得した(する予定)」は女性(32.7%)が男性(11.6%)より21.1ポイント高くなっている。

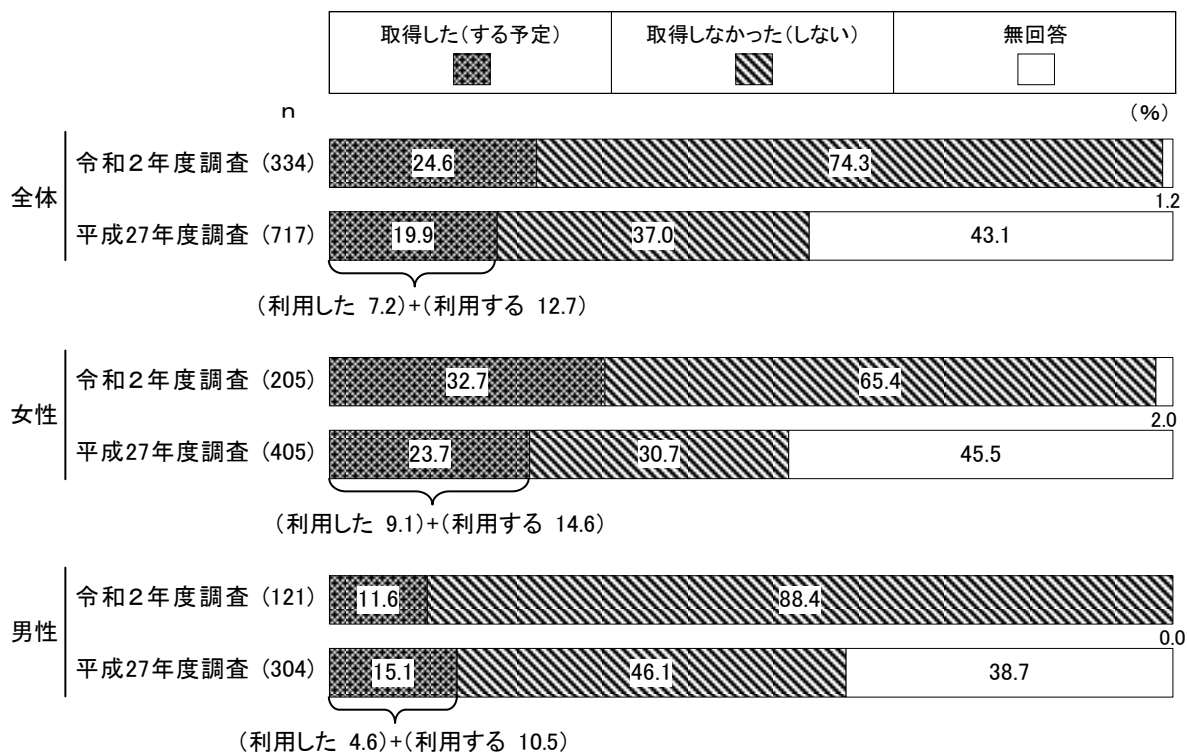
年齢別で見ると、「取得した(する予定)」は30～39歳で35.6%と高くなっている。一方、「取得しなかった(しない)」は60～69歳で87.5%、50～59歳で85.3%と高くなっている。

## <経年比較>

過去の調査と比較すると、回答対象者が異なるため参考にとどまるが、全体では「取得した（する予定）」が平成27年度調査より4.7ポイント増加している。

女性では「取得した（する予定）」が平成27年度調査より9.0ポイント増加している。

男性では「取得した（する予定）」が平成27年度調査より3.5ポイント減少している。



※この質問は、平成27年度調査では全員を対象に聞いていたが、令和2年度調査では同居の子どもがいると答えた方だけに聞いている。そのため、平成27年度調査の「利用する」は、これから子育てをされる方への選択肢であり、育児休業を取得するかどうかは未定だが、令和2年度調査はすでに出産し、産休中の方を想定した選択肢であり、育児休業を取得することが確かであることから、「取得した（する予定）」の回答者を育児休業取得者としている。

※平成27年度調査では、令和2年度調査にはない「わからない」の選択肢があった。「わからない」の値は「無回答」に含めて表記している。

## <性・一番低年齢の子どもの成長段階別>

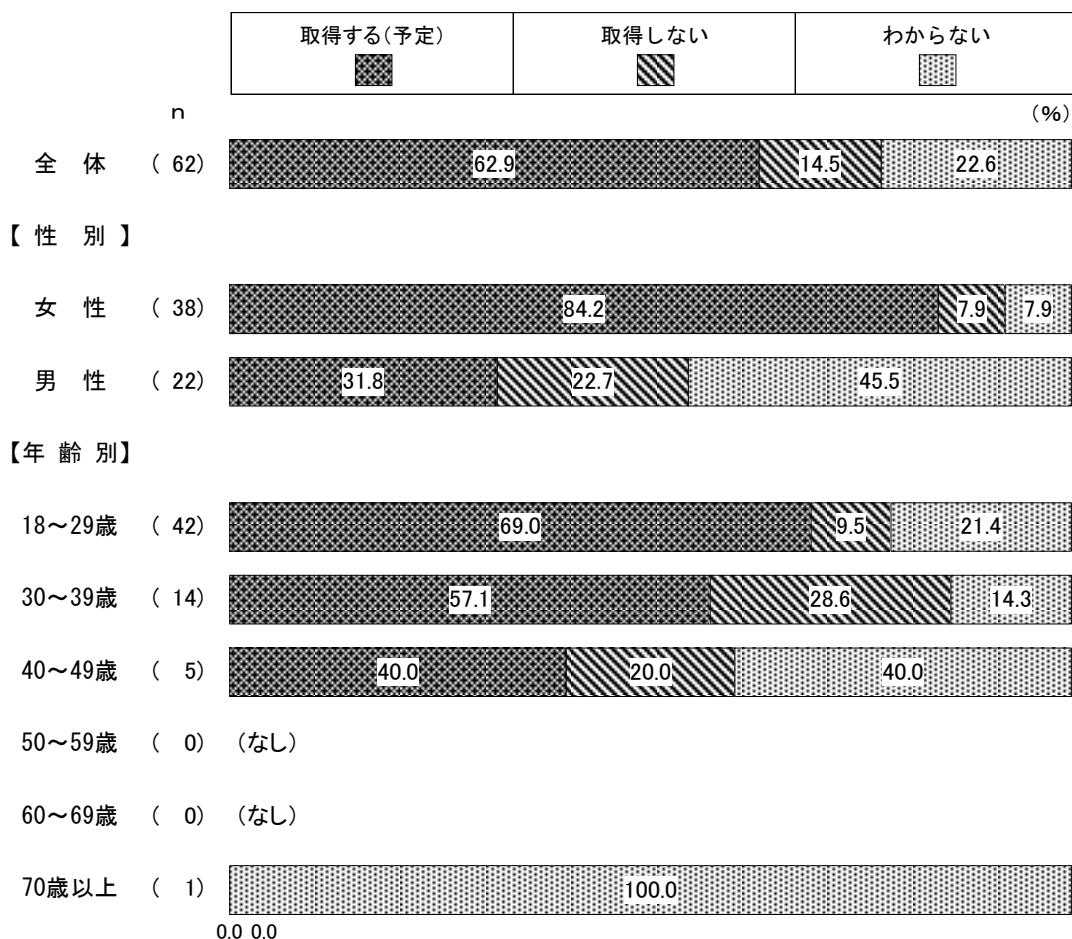
	女性				男性			
	全体	(取得した(する予定))	(取得しなかった(しない))	無回答	全体	(取得した(する予定))	(取得しなかった(しない))	無回答
全体	205 100.0	67 32.7	134 65.4	4 2.0	121 100.0	14 11.6	107 88.4	-
1歳未満(令和元年9月2日以降生まれ)	13 100.0	9 69.2	4 30.8	-	12 100.0	3 25.0	9 75.0	-
1歳以上の未就学児(平成26年4月2日から令和元年9月1日生まれ)	57 100.0	27 47.4	29 50.9	1 1.8	28 100.0	6 21.4	22 78.6	-
小学生	39 100.0	13 33.3	26 66.7	-	12 100.0	2 16.7	10 83.3	-
中学生	20 100.0	3 15.0	17 85.0	-	13 100.0	2 15.4	11 84.6	-
高校生以上	66 100.0	13 19.7	50 75.8	3 4.5	51 100.0	1 2.0	50 98.0	-
無回答	10 100.0	2 20.0	8 80.0	-	5 100.0	-	5 100.0	-

上段: 実数  
下段: %

## (6) 育児休業の取得意向

【問13で「いないが将来子どもを持ちたい」と答えた方におたずねします】

問13-3 あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業を取得しますか。また、これから子育てをされる方で、あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業を取得しますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)



### <全体/性別/年齢別>

同居の子どもは「いないが将来子どもを持ちたい」と答えた方に、育児休業の取得意向を聞いたところ、全体では、「取得する(予定)」が62.9%、「取得しない」は14.5%となっている。

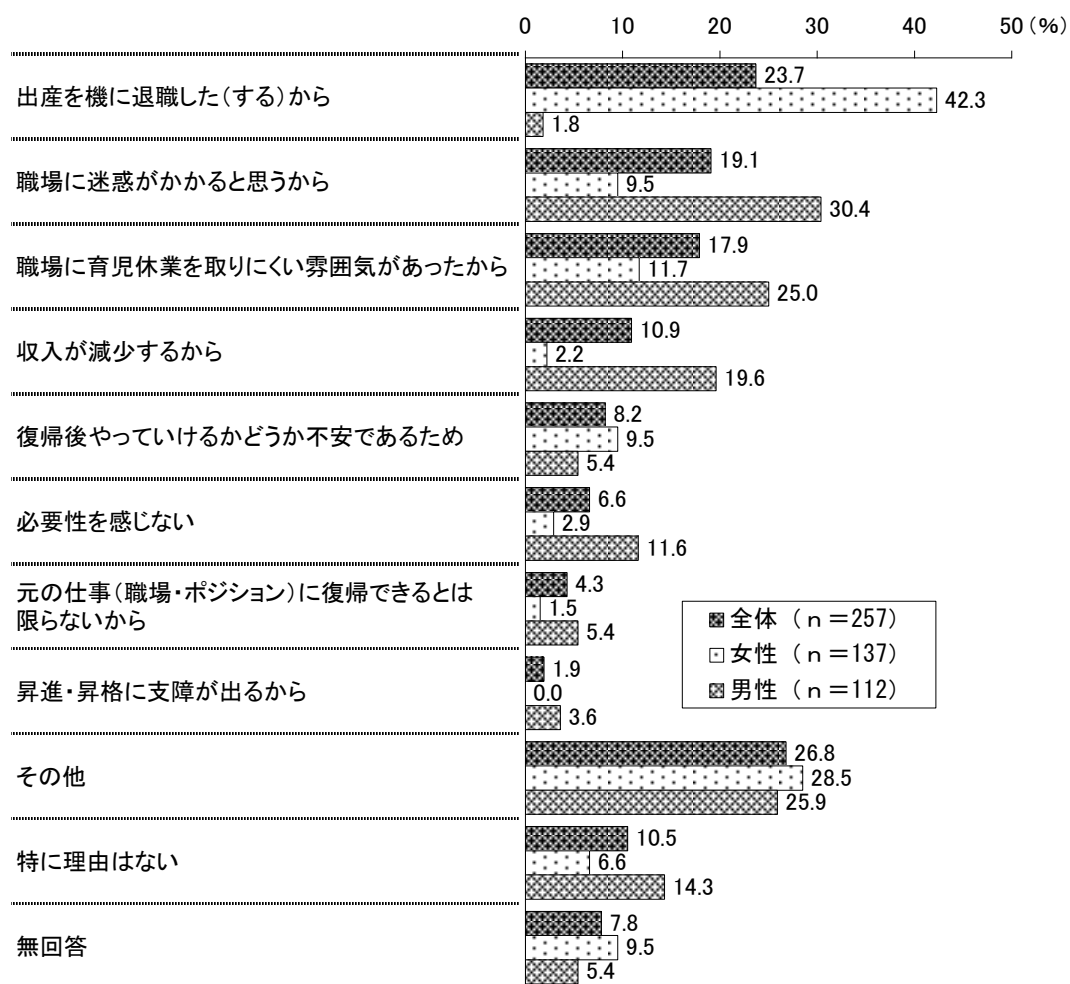
性別で見ると、「取得する(予定)」は女性(84.2%)が男性(31.8%)より52.4ポイント高くなっている。

年齢別は基数が少ないため参考に図示する。

## (7) 育児休業を取得しなかった（しない）理由

【問13-2で「取得しなかった（しない）」、問13-3で「取得しない」と答えた方におたずねします】

問13-4 あなたが、育児休業を取得しなかった（しない）理由は次のうちどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



### <全体>

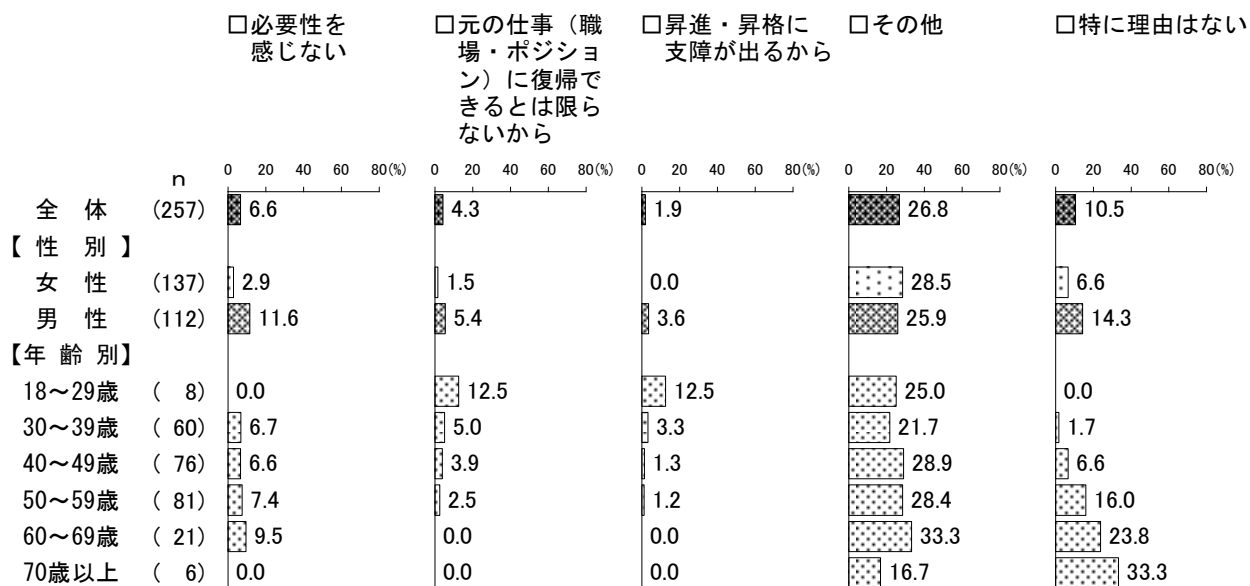
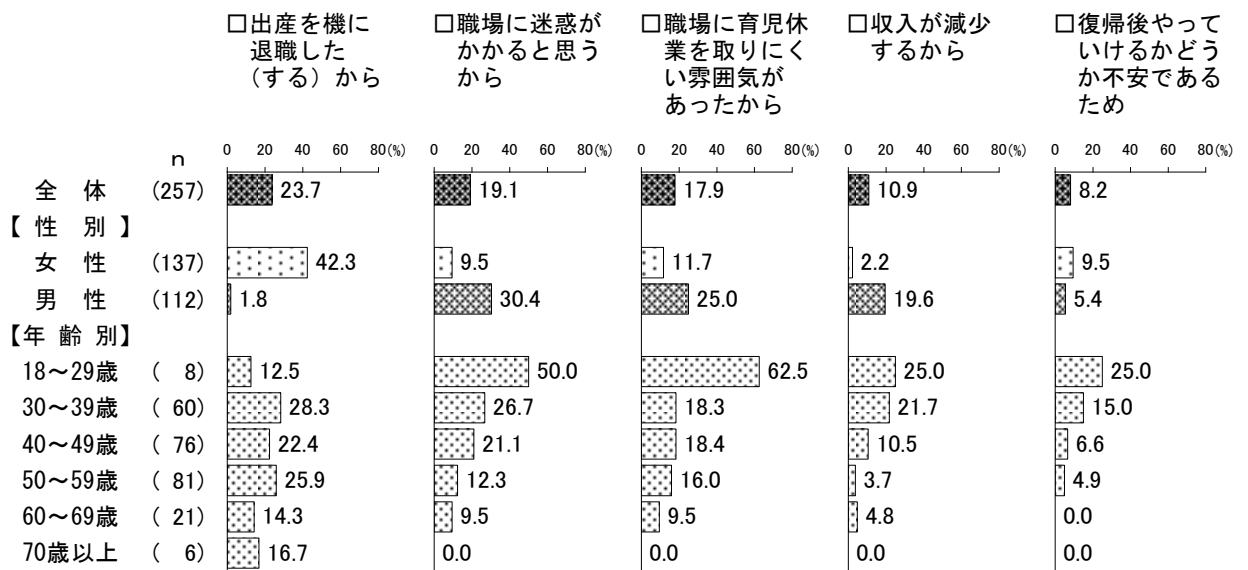
一番低年齢の子どもの出産時に育児休業を「取得しなかった（しない）」、または、将来育児休業を「取得しない」と答えた方に、育児休業を取得しなかった（しない）理由を聞いたところ、全体では、「出産を機に退職した（する）から」が23.7%で最も高く、次いで「職場に迷惑がかかると思うから」（19.1%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから」（17.9%）、「収入が減少するから」（10.9%）となっている。



<性別／年齢別>

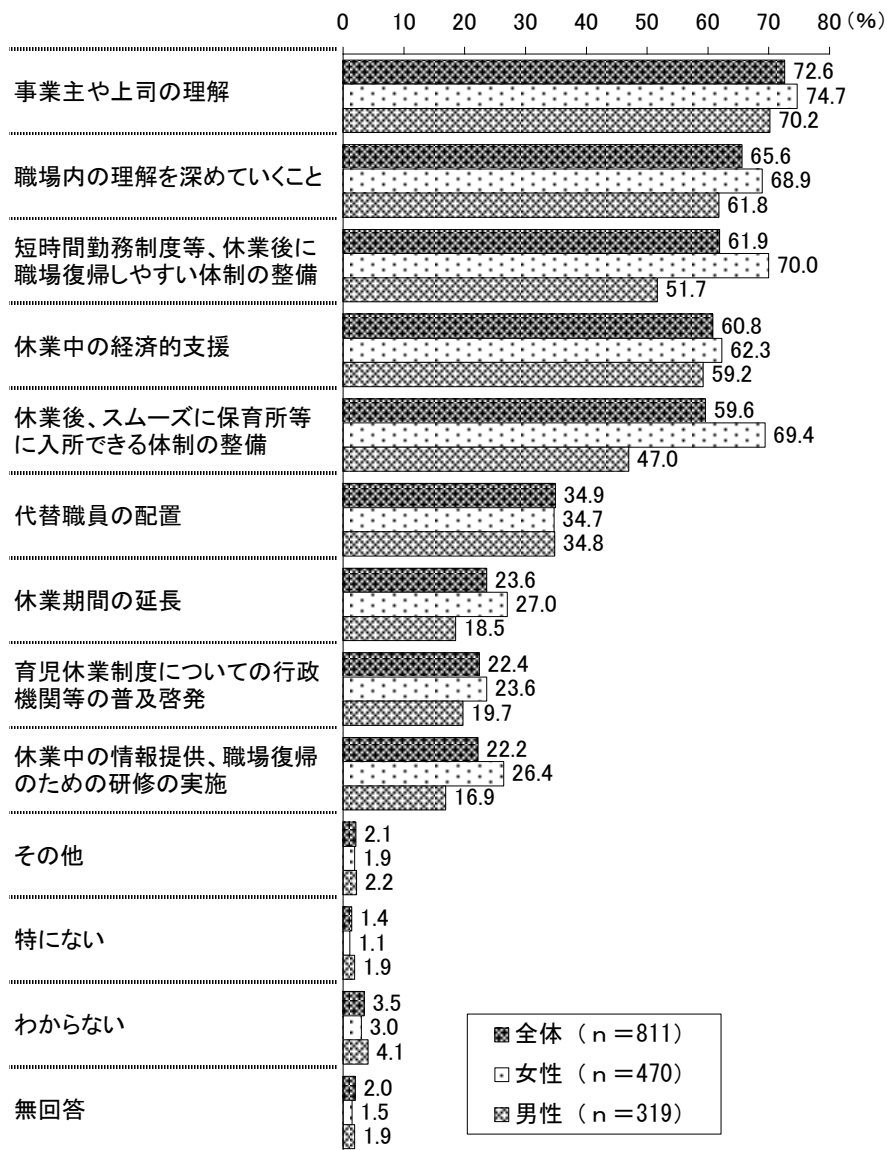
性別で見ると、「出産を機に退職した（する）から」は女性（42.3%）が男性（1.8%）より40.5ポイント高くなっている。一方、「職場に迷惑がかかると思うから」は男性（30.4%）が女性（9.5%）より20.9ポイント、「収入が減少するから」は男性（19.6%）が女性（2.2%）より17.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「出産を機に退職した（する）から」は30～39歳で28.3%と高くなっている。「職場に迷惑がかかると思うから」は30～39歳で26.7%と高くなっている。



(8) 育児休業を取得しやすくするために必要なこと

問14 あなたは、育児休業をさらに取得しやすくしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



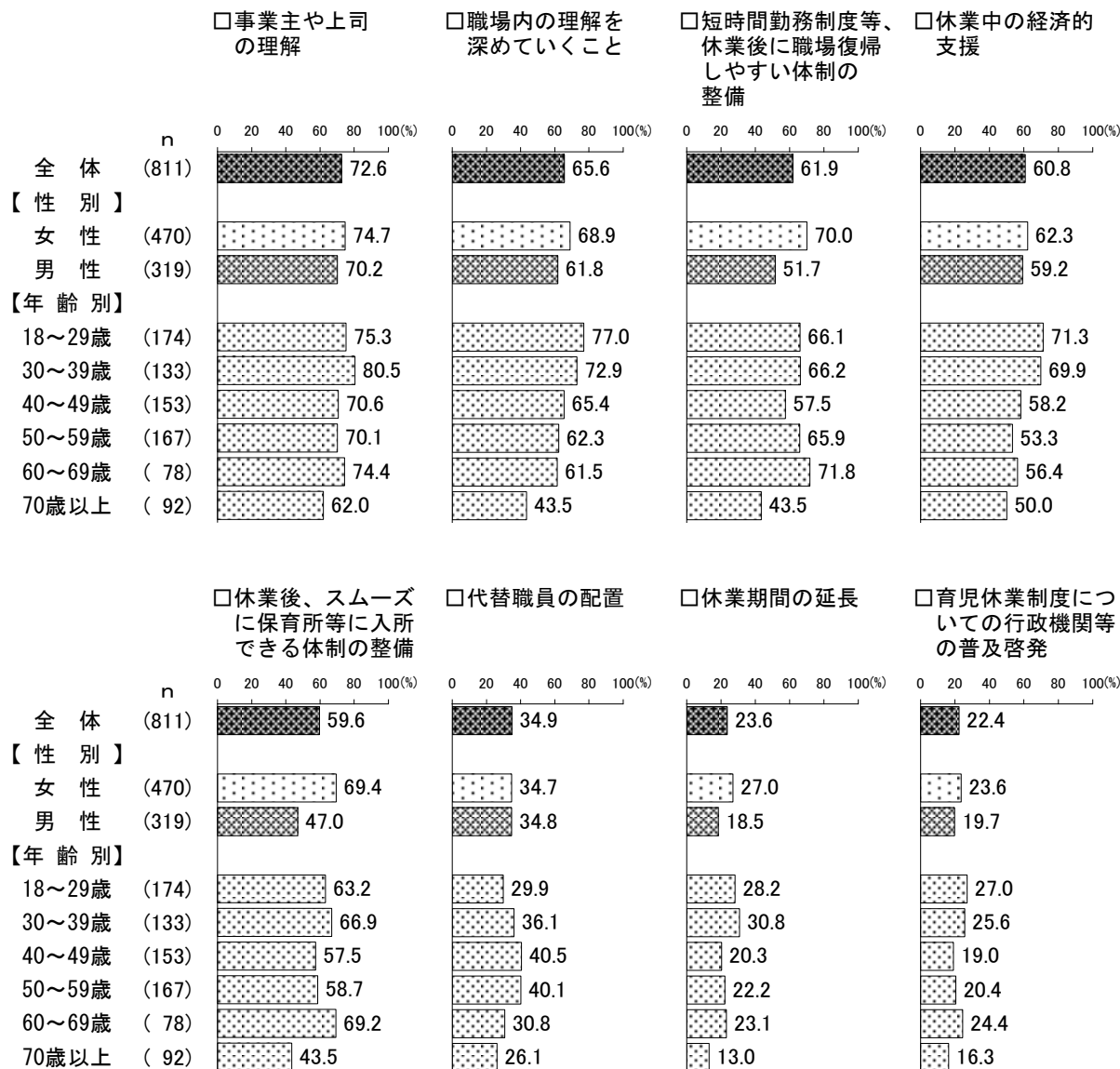
<全体>

育児休業を取得しやすくするために必要なことを聞いたところ、全体では、「事業主や上司の理解」が72.6%で最も高く、次いで「職場内の理解を深めていくこと」(65.6%)、「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」(61.9%)、「休業中の経済的支援」(60.8%)となっている。

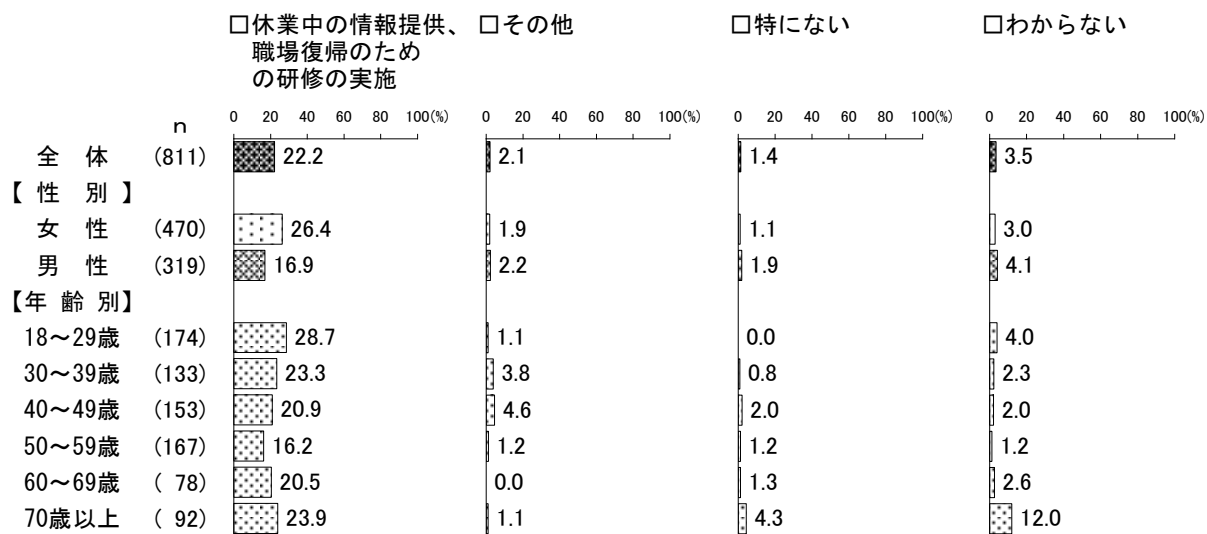
<性別／年齢別>

性別で見ると、「休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備」は女性（69.4%）が男性（47.0%）より22.4ポイント、「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」は女性（70.0%）が男性（51.7%）より18.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「事業主や上司の理解」は30～39歳で80.5%と高くなっている。「職場内の理解を深めていくこと」は18～29歳で77.0%と高くなっている。「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」は60～69歳で71.8%と高くなっている。



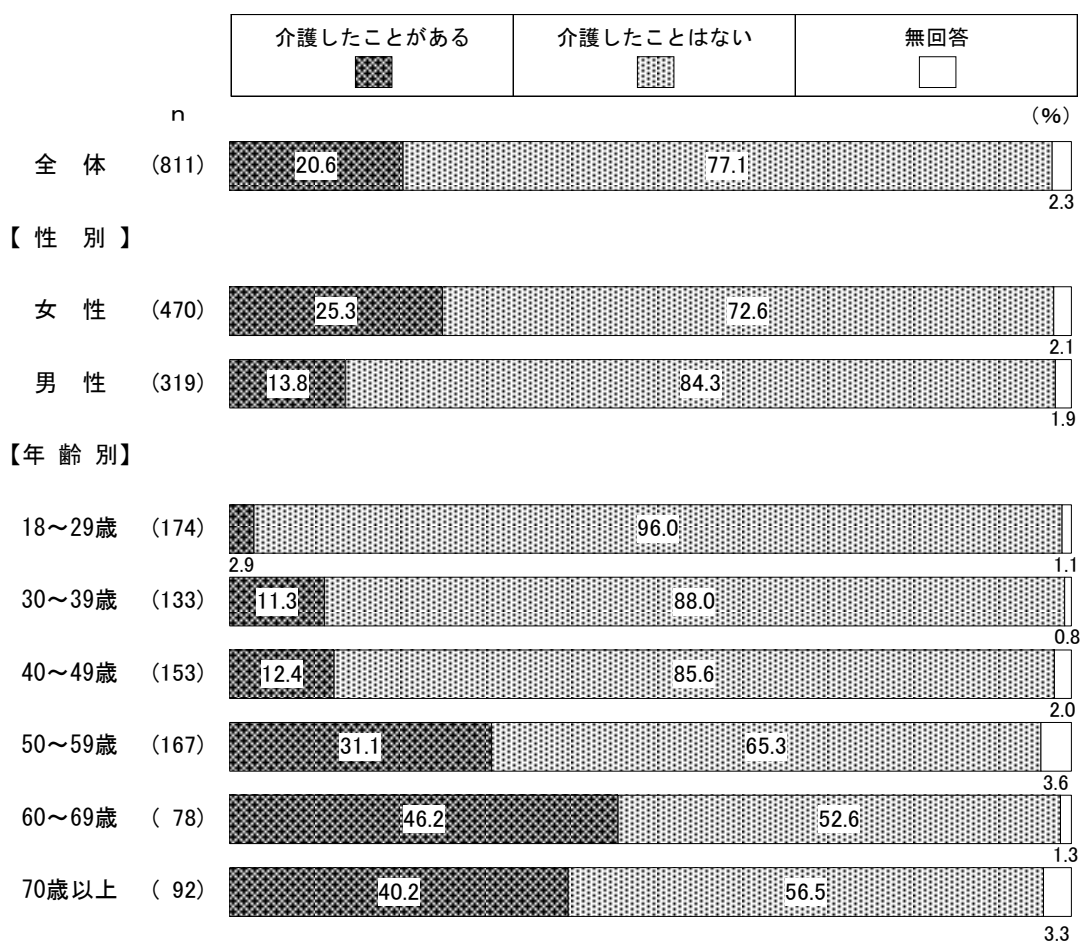
<性別／年齢別> (つづき)



## (9) 介護経験

問15 介護休業の取得状況についておたずねします。

あなたは、これまでどなたかを介護されたことはありますか。(○は1つ)



### <全体／性別／年齢別>

介護経験を聞いたところ、全体では、「介護したことがある」が20.6%、「介護したことはない」は77.1%となっている。

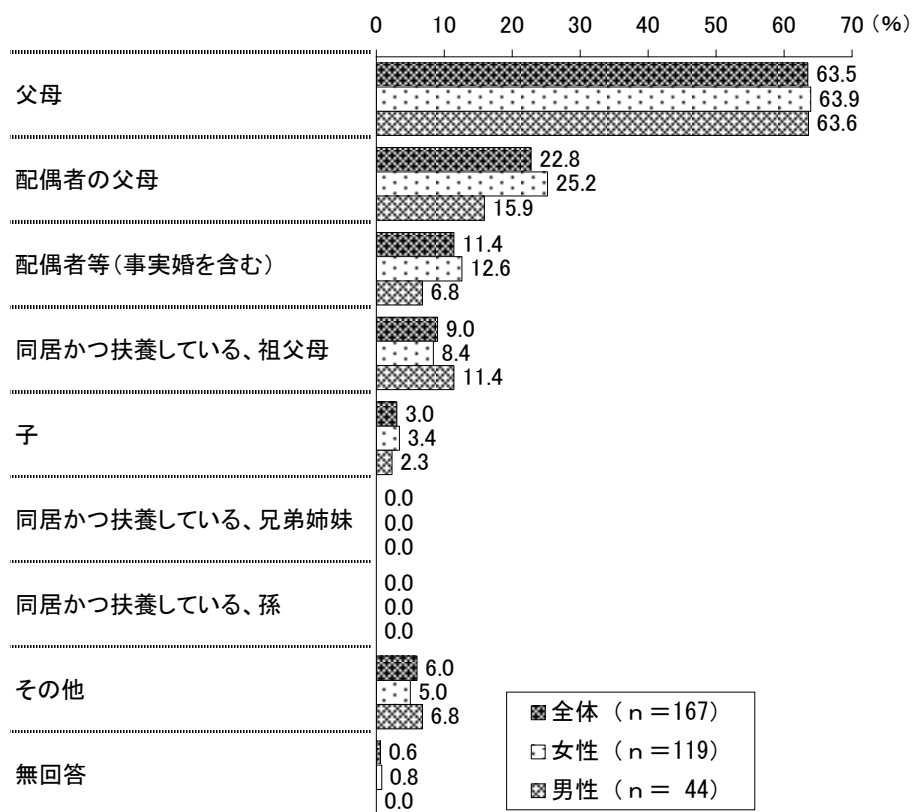
性別で見ると、「介護したことがある」は女性（25.3%）が男性（13.8%）より11.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「介護したことがある」は60～69歳で46.2%と高くなっている。一方、「介護したことはない」は18～29歳で96.0%と高くなっている。

(10) 要介護者との関係

【問15で「介護したことがある」と答えた方におたずねします】

問15-1 あなたが介護されていた方とはどのようなご関係にあたりますか。(〇はいくつでも)



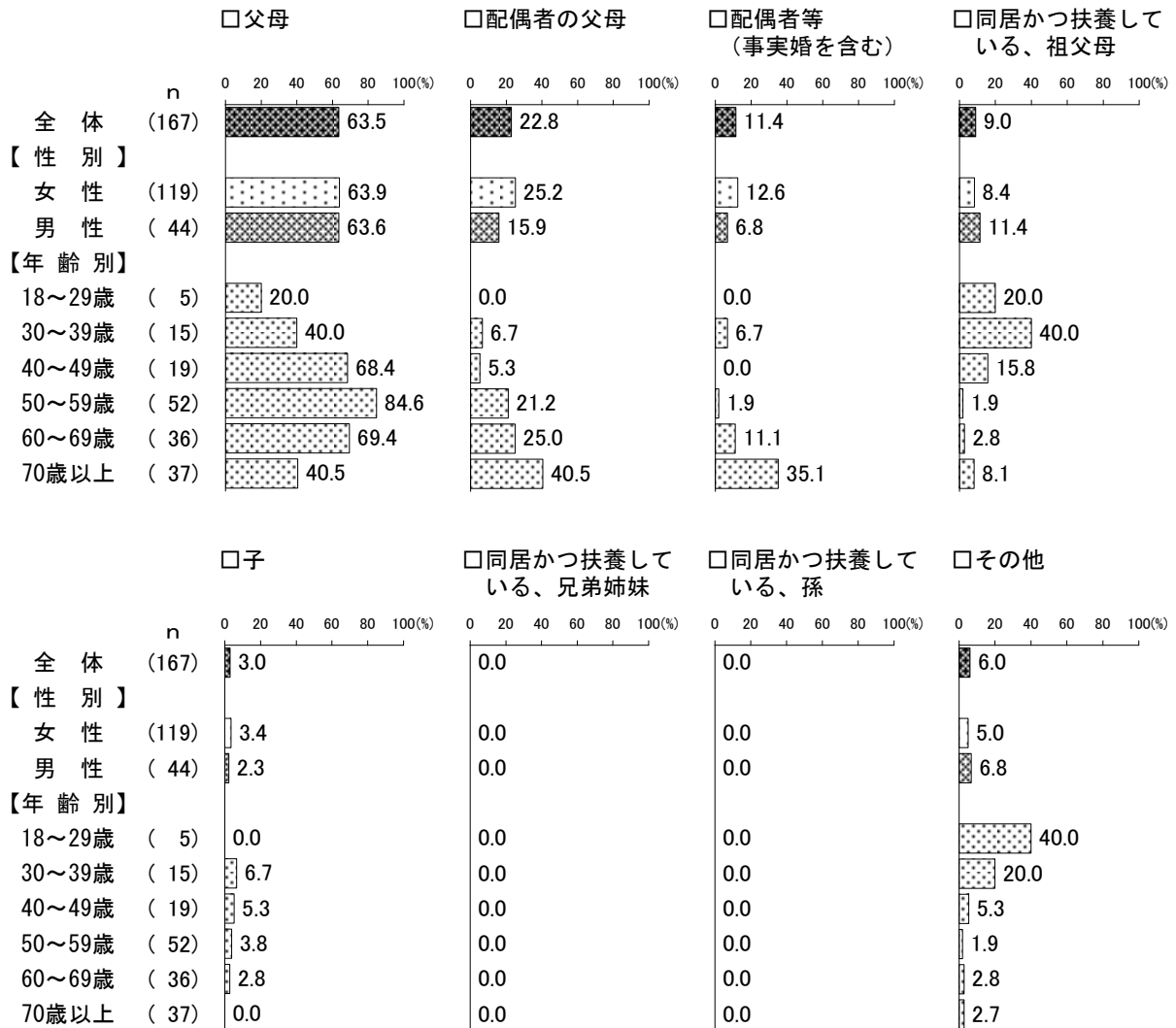
<全体>

「介護したことがある」と答えた方に、要介護者との関係を聞いたところ、全体では、「父母」が63.5%で最も高く、次いで「配偶者の父母」(22.8%)、「配偶者等(事実婚を含む)」(11.4%)、「同居かつ扶養している、祖父母」(9.0%)となっている。

<性別／年齢別>

性別で見ると、「配偶者の父母」は女性（25.2%）が男性（15.9%）より9.3ポイント、「配偶者等（事実婚を含む）」は女性（12.6%）が男性（6.8%）より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「同居かつ扶養している、祖父母」は男性（11.4%）が女性（8.4%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「父母」は50～59歳で84.6%と高くなっている。「配偶者の父母」は70歳以上で40.5%と高くなっている。「配偶者等（事実婚を含む）」は70歳以上で35.1%と高くなっている。

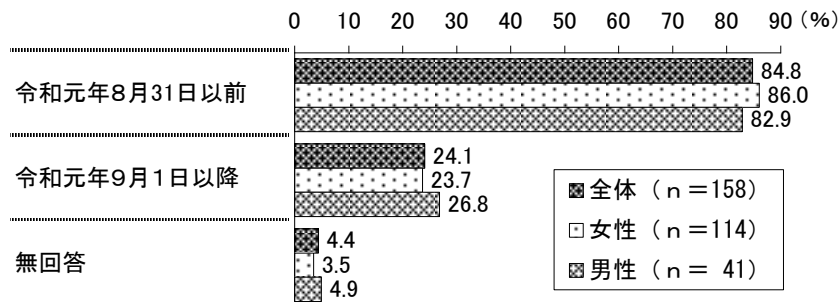


(11) 介護時期

【問15-1で「父母」「配偶者の父母」「配偶者等（事実婚を含む）」「子」「同居かつ扶養している、祖父母」「同居かつ扶養している、兄弟姉妹」「同居かつ扶養している、孫」と答えた方におたずねします】

問15-2 あなたが介護していた（している）時期は次のどれにあてはまりますか。

(○はいくつでも)



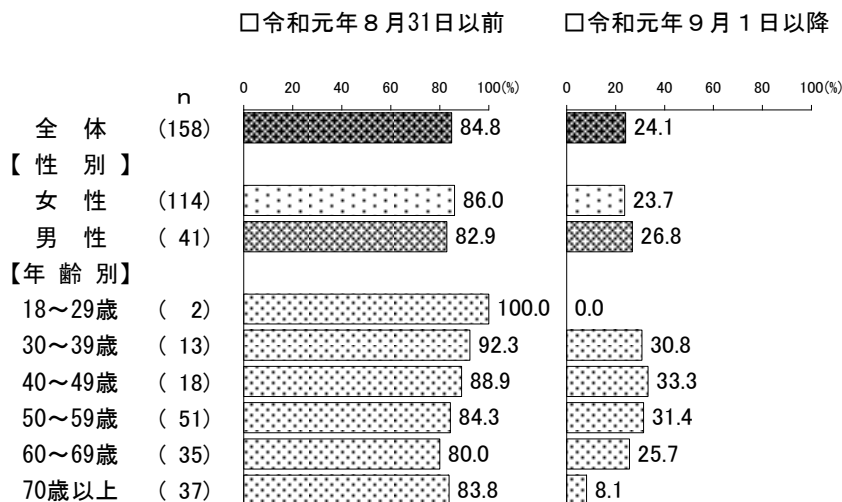
<全体>

要介護者が「父母」「配偶者の父母」「配偶者等（事実婚を含む）」「子」「同居かつ扶養している、祖父母」「同居かつ扶養している、兄弟姉妹」「同居かつ扶養している、孫」と答えた方に、介護していた（している）時期を聞いたところ、全体では、「令和元年8月31日以前」が84.8%「令和元年9月1日以降」は24.1%となっている。

<性別／年齢別>

性別で見ると、「令和元年8月31日以前」は女性（86.0%）が男性（82.9%）より3.1ポイント高くなっている。一方、「令和元年9月1日以降」は男性（26.8%）が女性（23.7%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「令和元年9月1日以降」は50～59歳で31.4%と高くなっている。

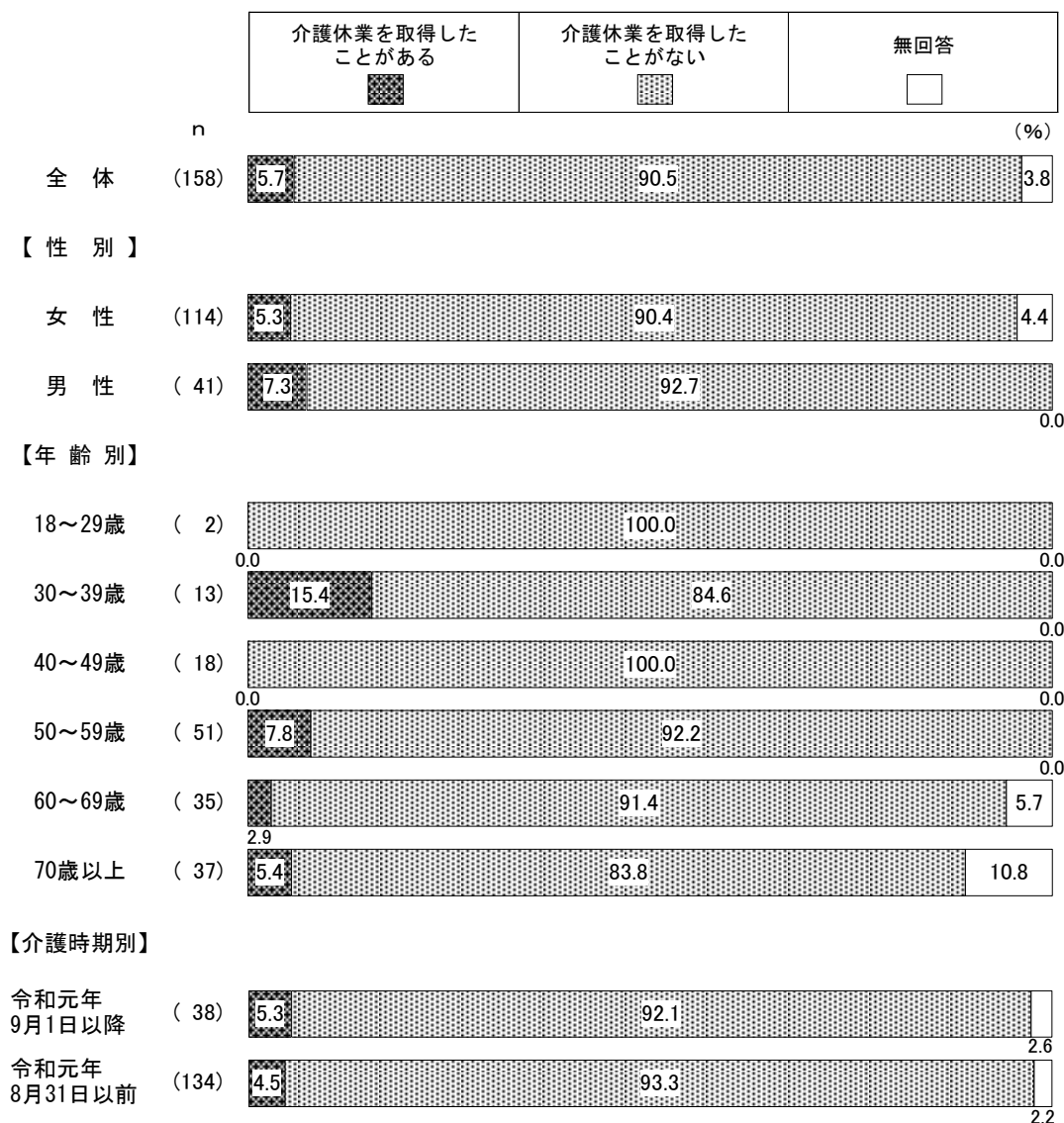




## (12) 介護休業の取得状況

【問15-1で「父母」「配偶者の父母」「配偶者等（事実婚を含む）」「子」「同居かつ扶養している、祖父母」「同居かつ扶養している、兄弟姉妹」「同居かつ扶養している、孫」と答えた方におたずねします】

問15-3 あなたは、介護休業を取得したことがありますか。（○は1つ）



### <全体／性別／年齢別／介護時期別>

要介護者が「父母」「配偶者の父母」「配偶者等（事実婚を含む）」「子」「同居かつ扶養している、祖父母」「同居かつ扶養している、兄弟姉妹」「同居かつ扶養している、孫」と答えた方に、介護休業を取得したことがあるか聞いたところ、全体では、「介護休業を取得したことがある」が5.7%、「介護休業を取得したことがない」は90.5%となっている。

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

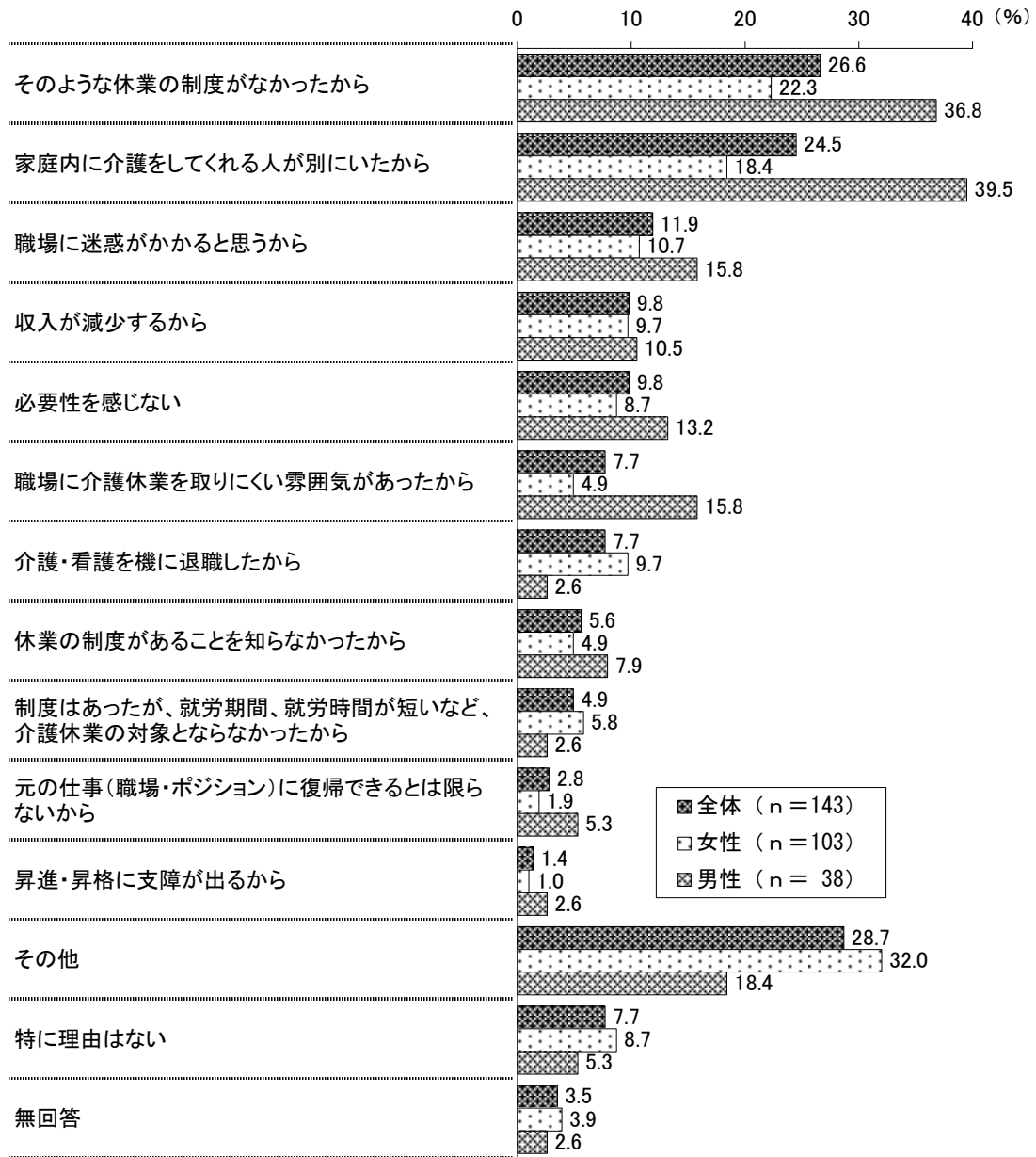
年齢別でみると、「介護休業を取得したことがある」は50～59歳で7.8%となっている。

介護時期別でみると、「介護休業を取得したことがある」は令和元年9月1日以降で5.3%、令和元年8月31日以前で4.5%となっている。

(13) 介護休業を取得しなかった理由

【問15-3で「介護休業を取得したことがない」と答えた方におたずねします】

問15-4 あなたが介護休業を取得しなかった理由は次のうちどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



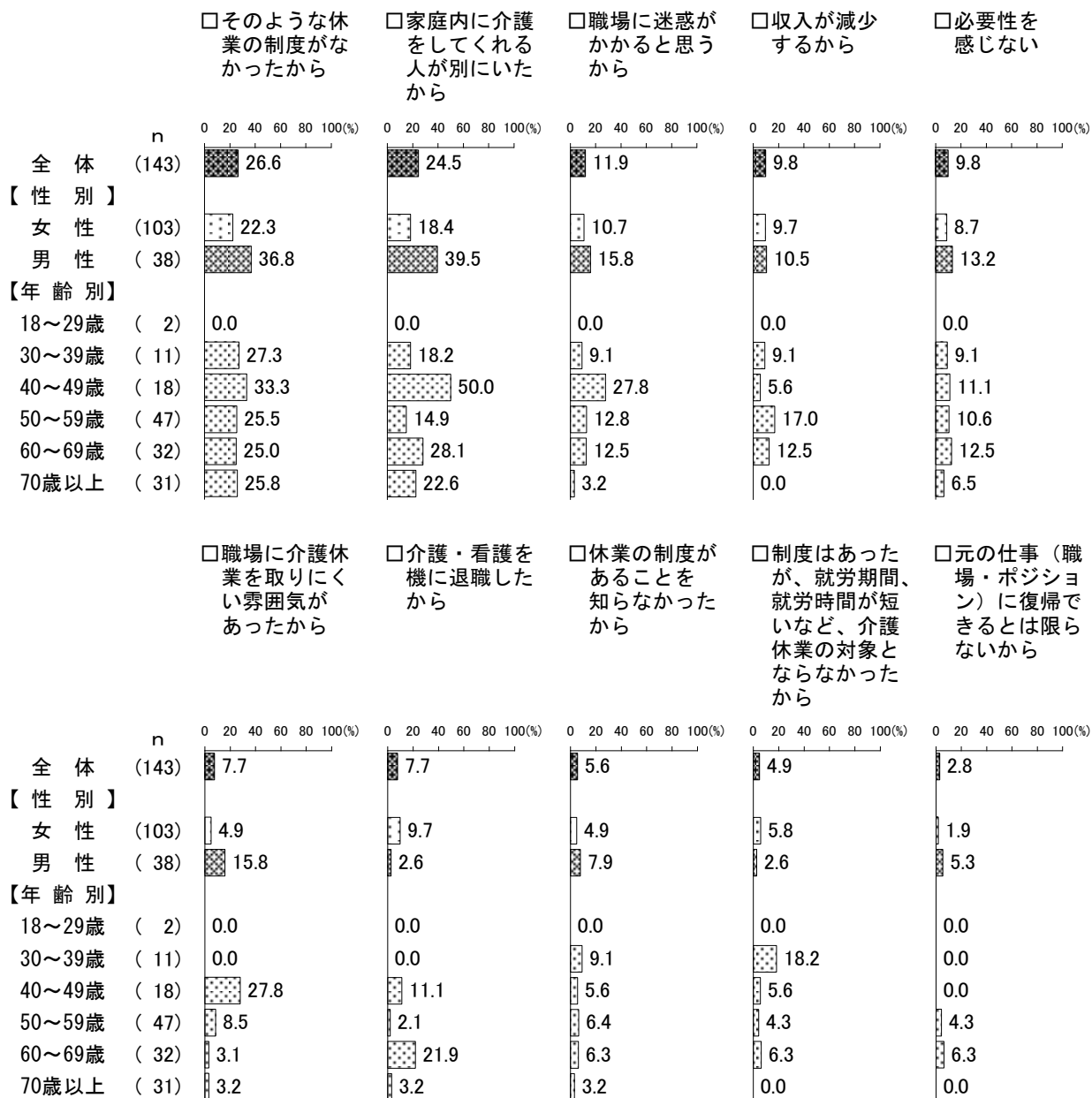
<全体>

「介護休業を取得したことがない」と答えた方に、介護休業を取得しなかった理由を聞いたところ、全体では、「そのような休業の制度がなかったから」が26.6%で最も高く、次いで「家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから」(24.5%)、「職場に迷惑がかかると思うから」(11.9%)となっている。

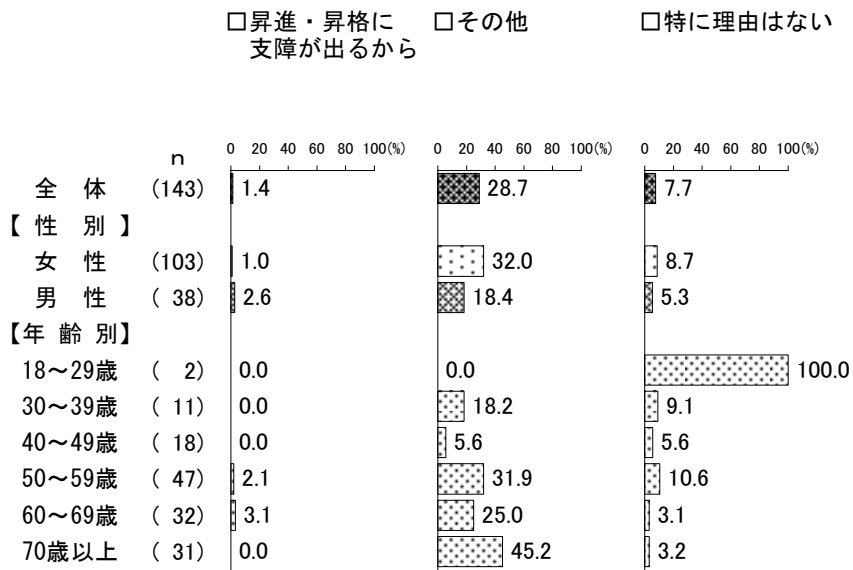
<性別／年齢別>

性別で見ると、「家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから」は男性（39.5%）が女性（18.4%）より21.1ポイント、「そのような休業の制度がなかったから」は男性（36.8%）が女性（22.3%）より14.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「介護・看護を機に退職したから」は女性（9.7%）が男性（2.6%）より7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから」は60～69歳で28.1%と高くなっている。「介護・看護を機に退職したから」は60～69歳で21.9%と高くなっている。



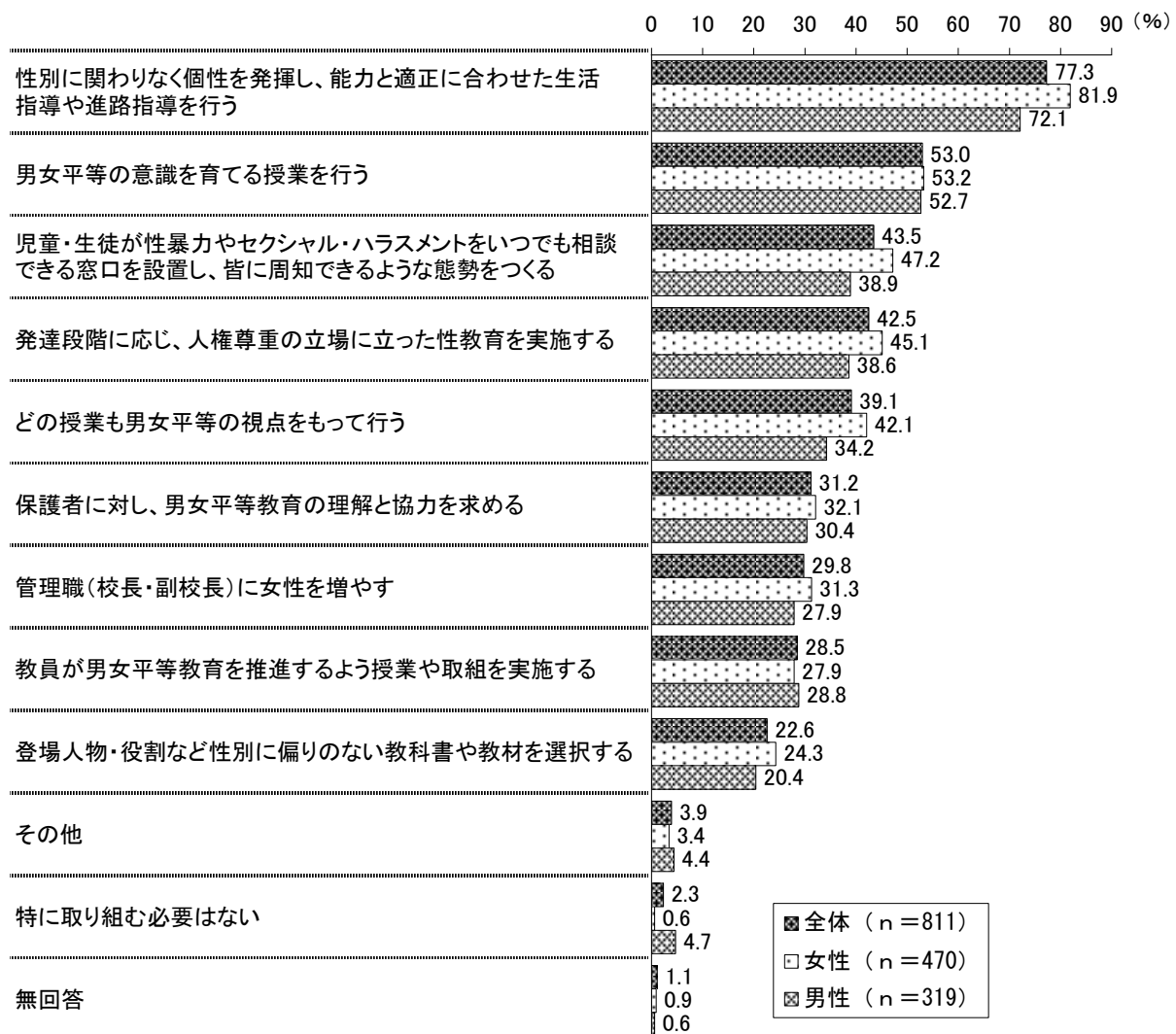
<性別／年齢別> (つづき)



## 6. 教育について

### (1) 男女平等教育を進める上で重要なこと

問16 学校（義務教育）で男女平等教育を進める上で、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



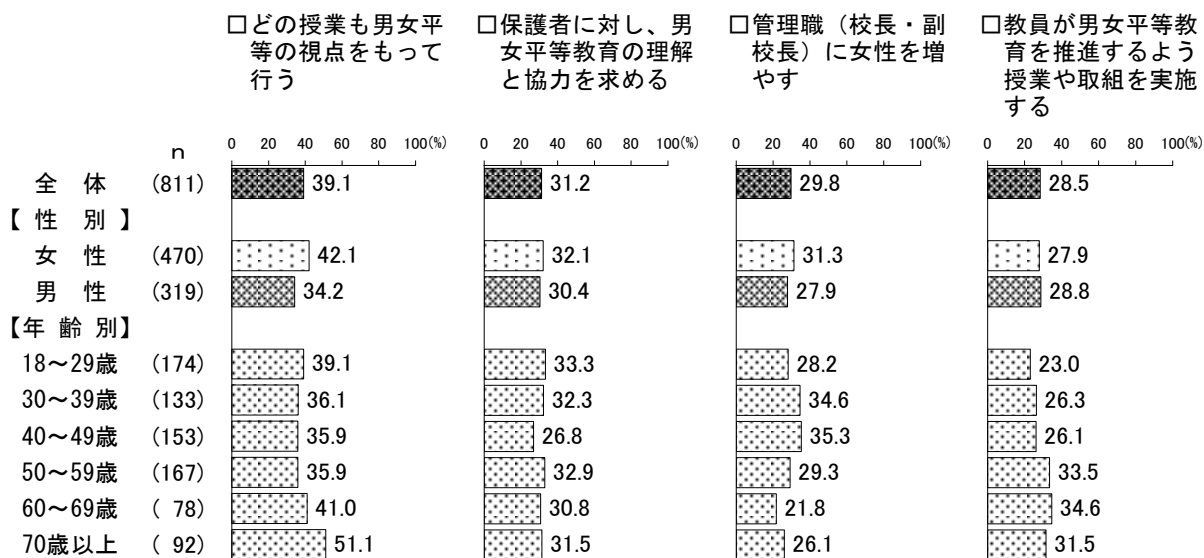
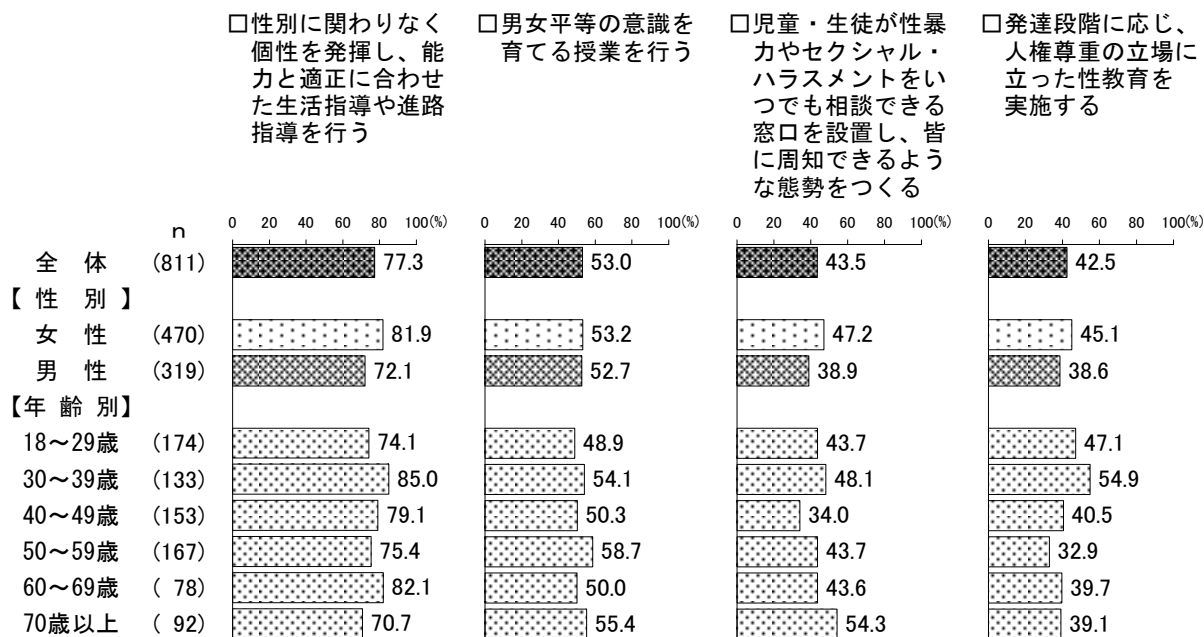
#### <全体>

男女平等教育を進める上で重要なことを聞いたところ、全体では、「性別に関わりなく個性を発揮し、能力と適正に合わせた生活指導や進路指導を行う」が77.3%で最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業を行う」(53.0%)、「児童・生徒が性暴力やセクシャル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆に周知できるような態勢をつくる」(43.5%)となっている。

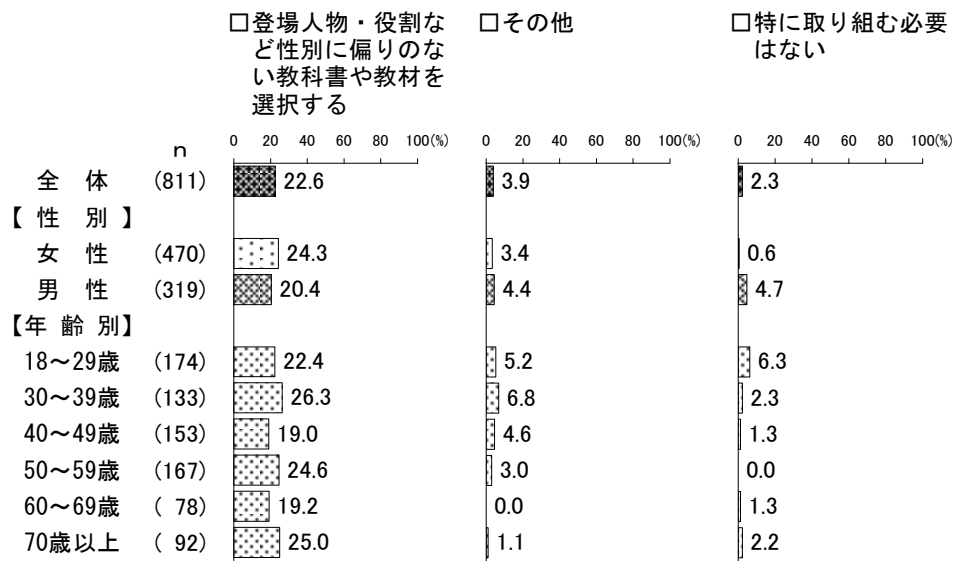
<性別／年齢別>

性別でみると、「性別に関わりなく個性を発揮し、能力と適正に合わせた生活指導や進路指導を行う」は女性（81.9%）が男性（72.1%）より9.8ポイント、「児童・生徒が性暴力やセクシャル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆に周知できるような態勢をつくる」は女性（47.2%）が男性（38.9%）より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「性別に関わりなく個性を発揮し、能力と適正に合わせた生活指導や進路指導を行う」は30～39歳で85.0%と高くなっている。「男女平等の意識を育てる授業を行う」は50～59歳で58.7%と高くなっている。「発達段階に応じ、人権尊重の立場に立った性教育を実施する」は30～39歳で54.9%と高くなっている。



<性別／年齢別> (つづき)

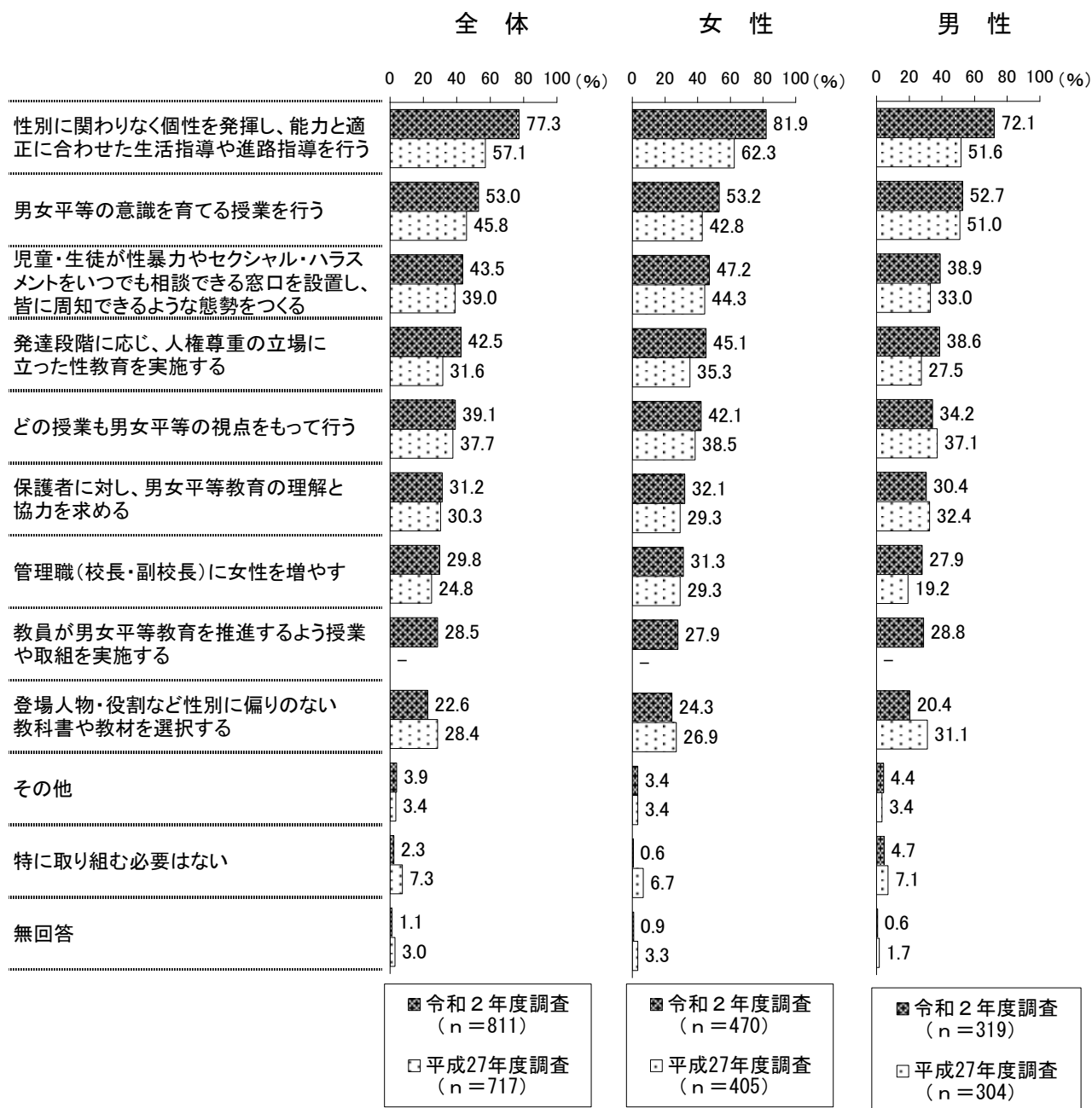


## <経年比較>

過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考にとどまるが、全体では「男女平等の意識を育てる授業を行う」が平成27年度調査より7.2ポイント増加している。

女性では「男女平等の意識を育てる授業を行う」が平成27年度調査より10.4ポイント増加している。

男性では「管理職（校長・副校長）に女性を増やす」が平成27年度調査より8.7ポイント増加している。



※「性別に関わりなく個性を發揮し、能力と適正に合わせた生活指導や進路指導を行う」は、平成27年度調査では「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」となっていた。

※「発達段階に応じ、人権尊重の立場に立った性教育を実施する」は、平成27年度調査では「発達段階に応じた性教育を実施する」となっていた。

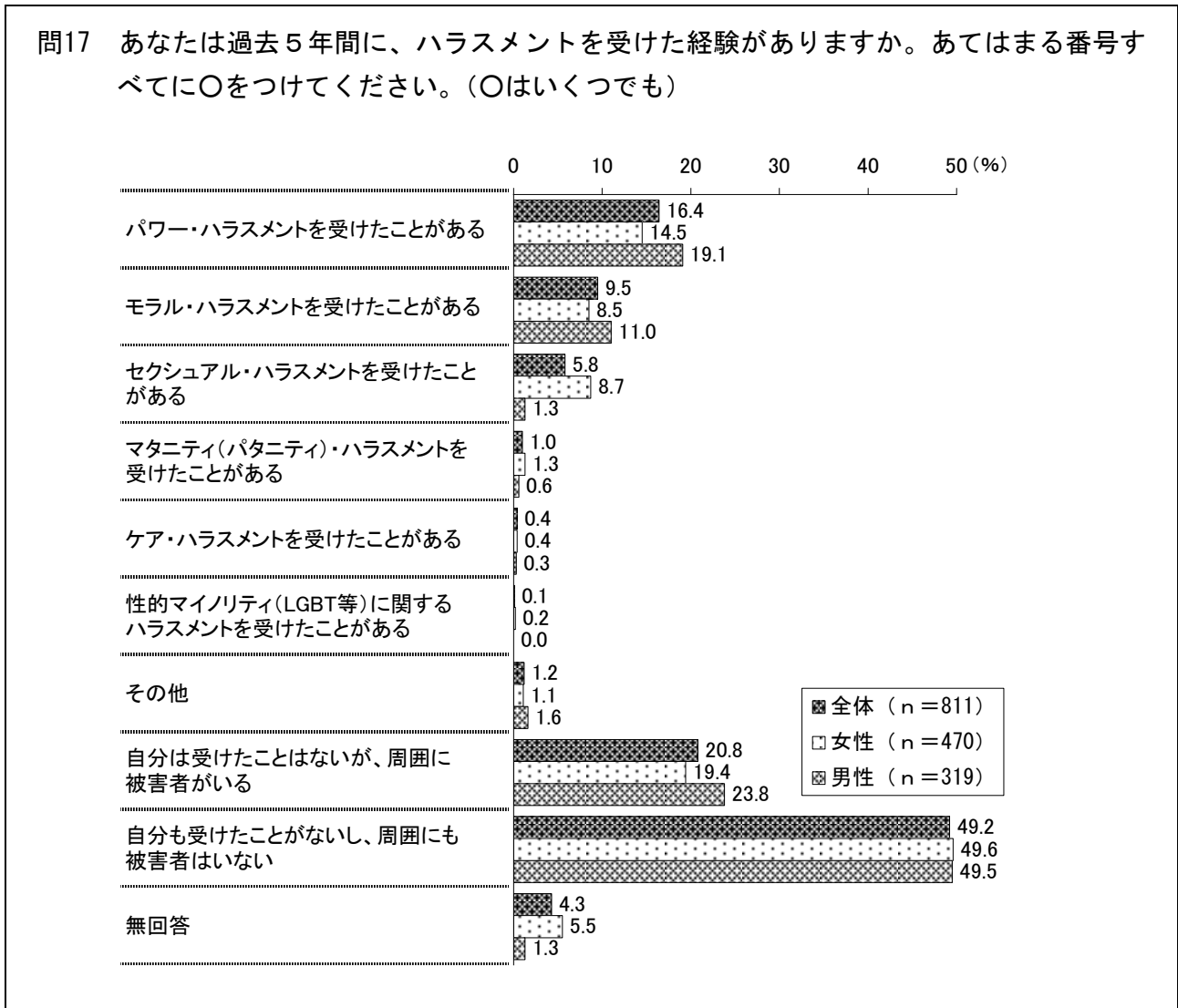
※「登場人物・役割など性別に偏りのない教科書や教材を選択する」は、平成27年度調査では「男女平等の視点に立った教科書や教材を選択する」となっていた。

※「教員が男女平等教育を推進するよう授業や取組を実施する」は令和2年度調査から追加された選択肢。



## 7. 人権について

### (1) ハラスメントを受けた経験



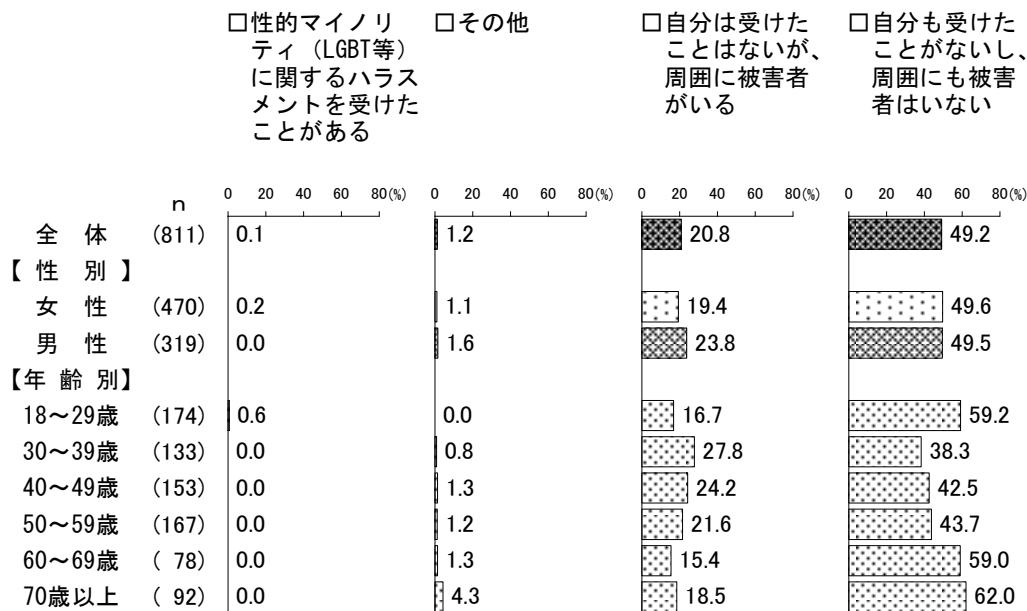
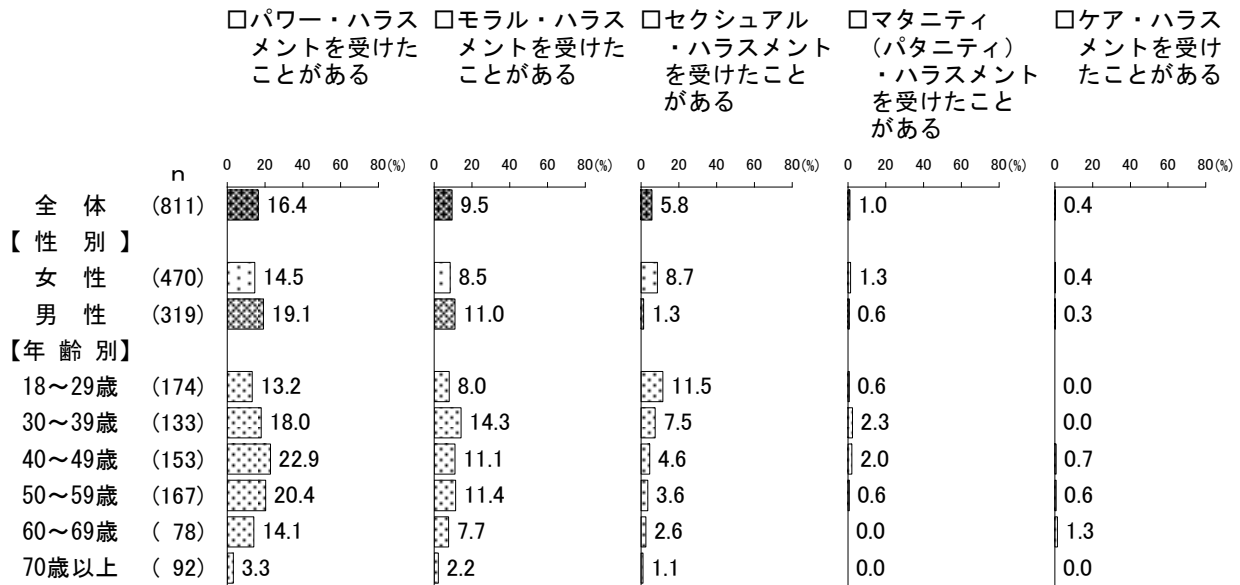
#### <全体>

ハラスメントを受けた経験を聞いたところ、全体では、「自分は受けたことはないが、周囲に被害者がいる」が20.8%、「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」は49.2%となっている。一方、受けた経験がある中では、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」が16.4%で最も高く、次いで「モラル・ハラスメントを受けたことがある」(9.5%)となっている。

## <性別／年齢別>

性別でみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は女性(8.7%)が男性(1.3%)より7.4ポイント高くなっている。一方、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」は男性(19.1%)が女性(14.5%)より4.6ポイント高くなっている。

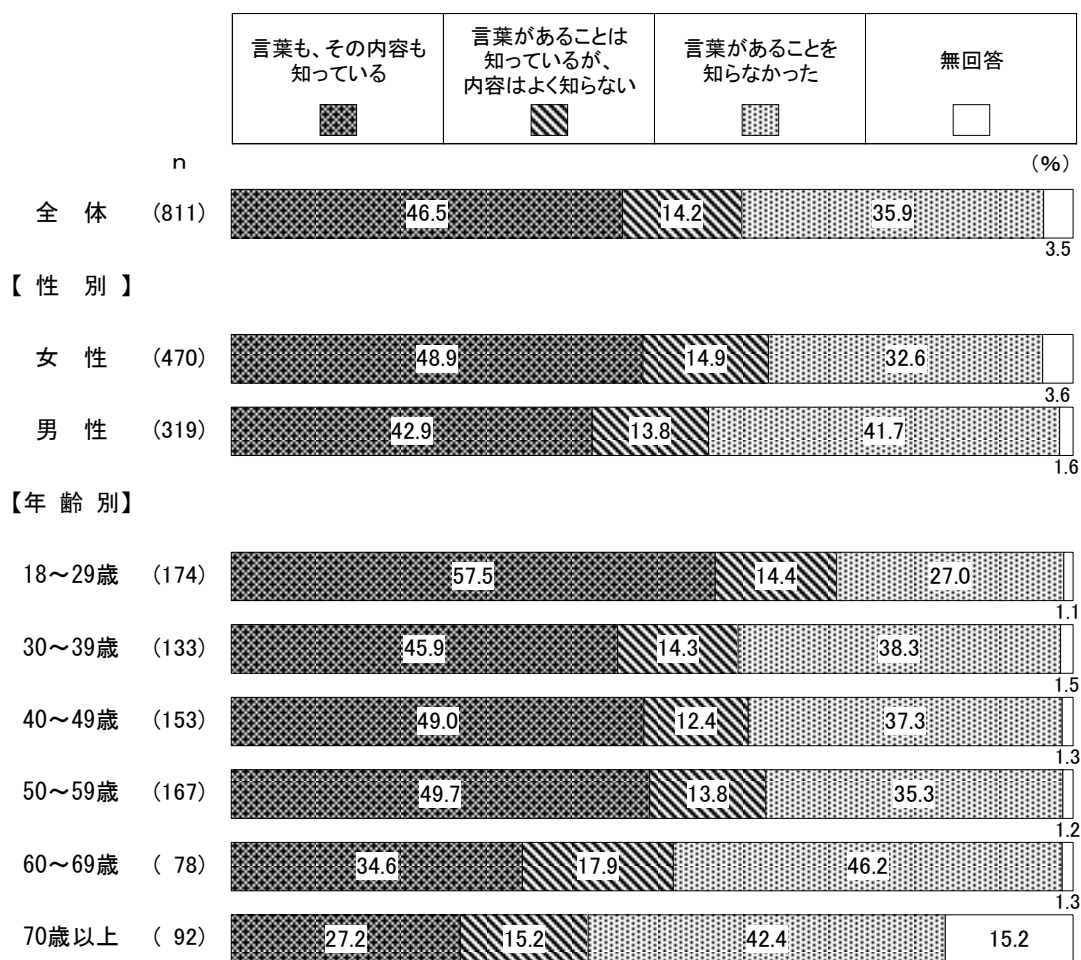
年齢別でみると、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」は40～49歳で22.9%と高くなっている。「モラル・ハラスメントを受けたことがある」は30～39歳で14.3%となっている。「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は18～29歳で11.5%となっている。



## (2)「デートDV」の認知度

問18 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について知っていますか。

(○は1つ)



### <全体／性別／年齢別>

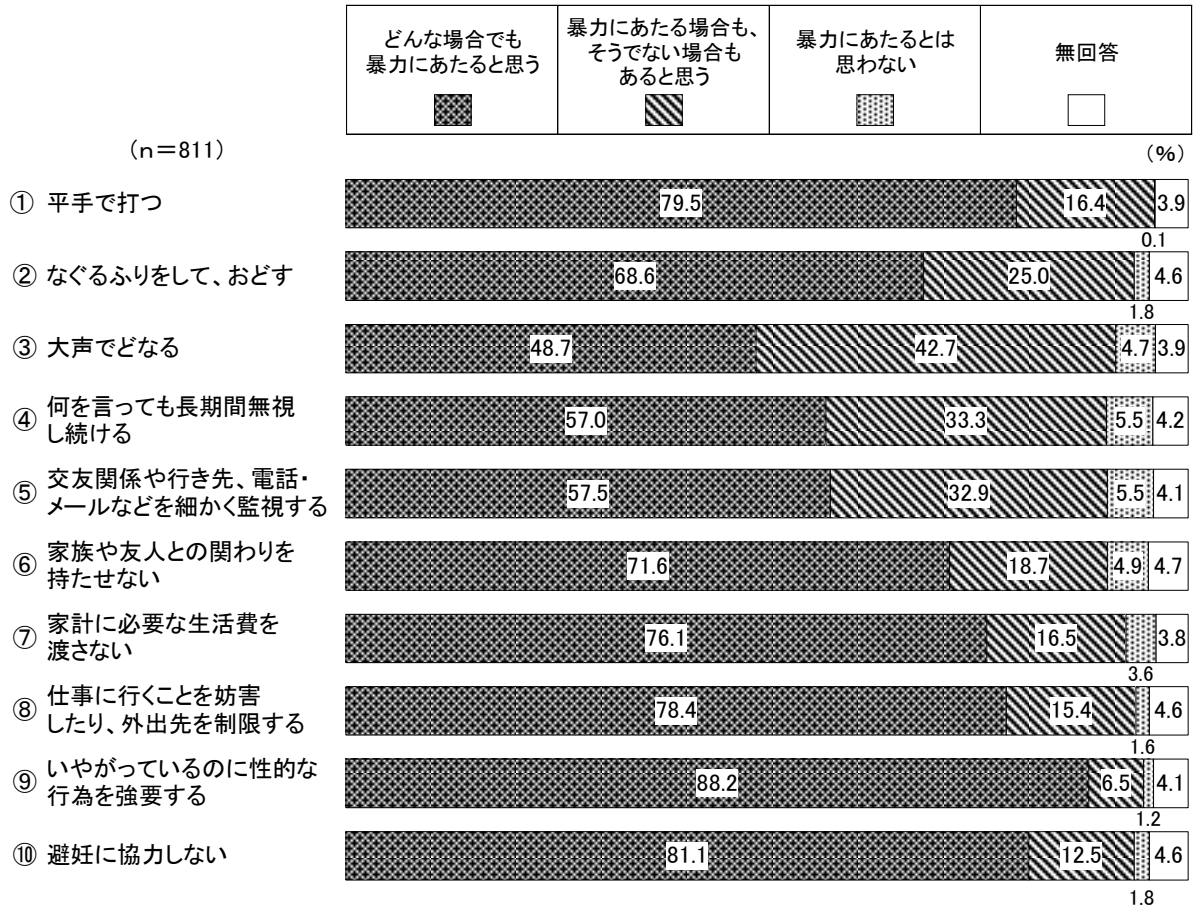
「デートDV」（交際相手からの暴力）について知っているか聞いたところ、全体では、「言葉も、その内容も知っている」が46.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は14.2%となっており、「言葉があることを知らなかった」は35.9%となっている。

性別で見ると、「言葉も、その内容も知っている」は女性（48.9%）が男性（42.9%）より6.0ポイント高くなっている。一方、「言葉があることを知らなかった」は男性（41.7%）が女性（32.6%）より9.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「言葉も、その内容も知っている」は18～29歳で57.5%と高くなっている。一方、「言葉があることを知らなかった」は60～69歳で46.2%と高くなっている。

### (3) 暴力の認識

問19 あなたは、次のようなことが配偶者や交際相手など親密な関係の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。①～⑩のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)



#### <全体>

暴力の認識を、10項目について聞いたところ、全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は“いやがっているのに性的な行為を強要する”が88.2%で最も高く、次いで“避妊に協力しない” (81.1%)、“平手で打つ” (79.5%)、“仕事に行くことを妨害したり、外出先を制限する” (78.4%) となっている。

一方、「暴力にあたるとは思わない」は“何を言っても長期間無視し続ける”と“交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する”がともに5.5%となっている。

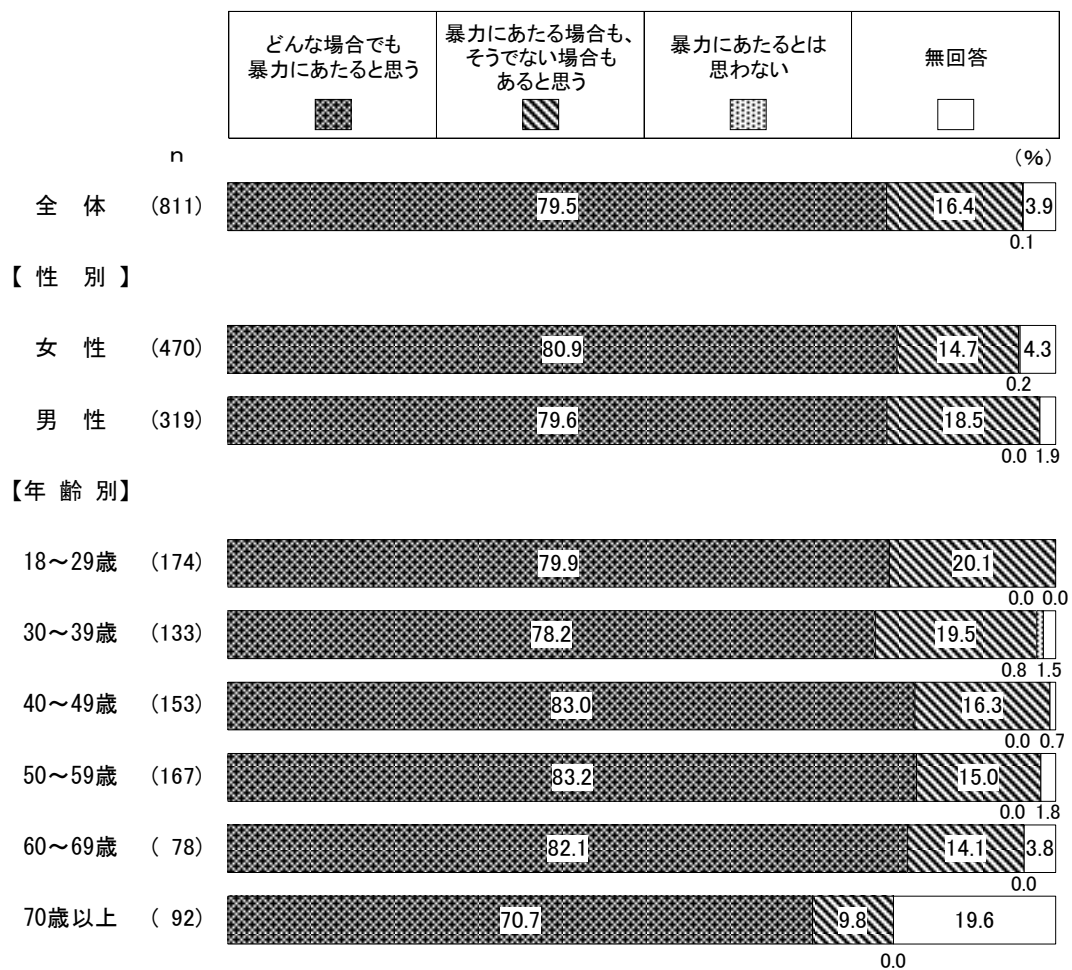
また、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は“大声でどなる”が42.7%で最も高く、次いで“何を言っても長期間無視し続ける” (33.3%)、“交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する” (32.9%) となっている。

<全体／性別／年齢別> ① 平手で打つ

「平手で打つ」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が79.5%、「暴力にあたるとは思わない」は0.1%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は16.4%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（18.5%）が女性（14.7%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50～59歳で83.2%、40～49歳で83.0%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は18～29歳で20.1%と高くなっている。

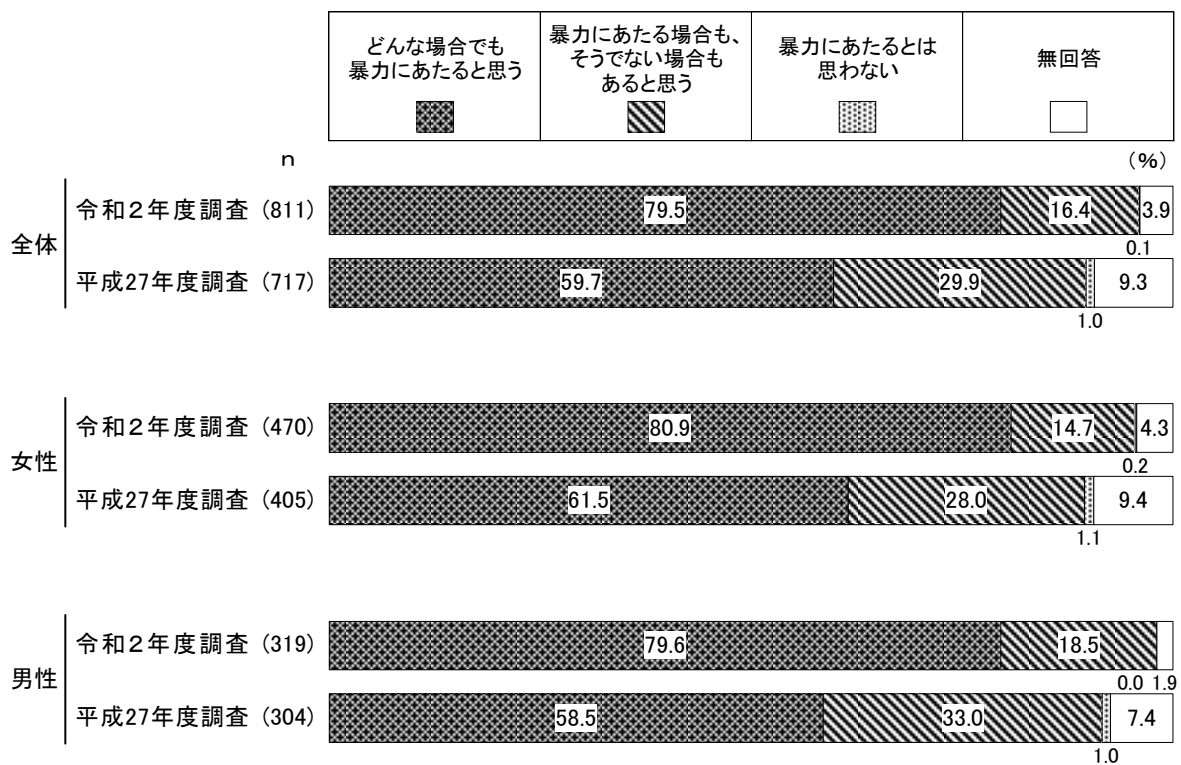


<経年比較> ① 平手で打つ

「平手で打つ」を過去の調査と比較すると、全体では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が平成27年度調査より19.8ポイント増加している。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が平成27年度調査より13.5ポイント減少している。

女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が平成27年度調査より19.4ポイント増加している。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が平成27年度調査より13.3ポイント減少している。

男性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が平成27年度調査より21.1ポイント増加している。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が平成27年度調査より14.5ポイント減少している。

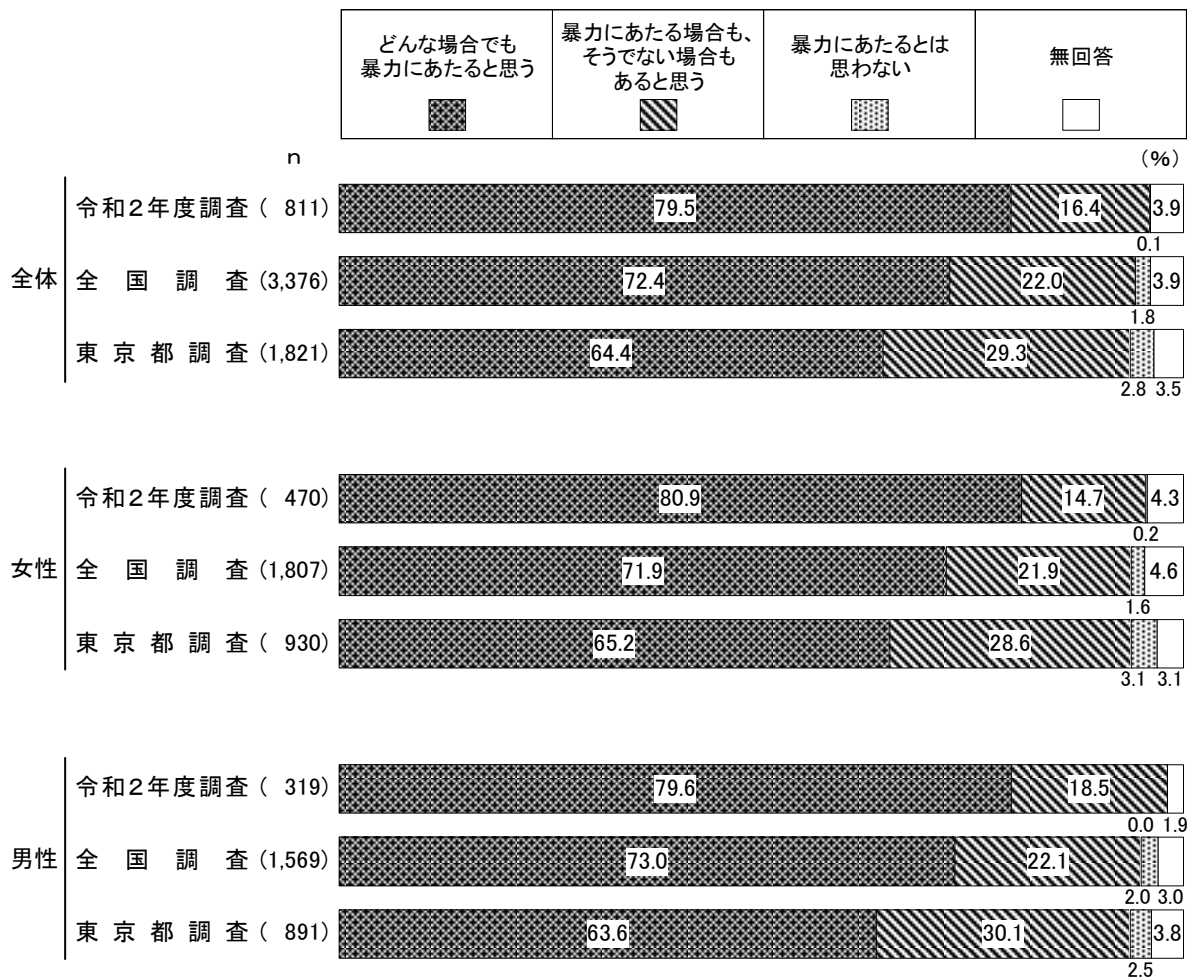


<全国・東京都調査との比較> ① 平手で打つ

「平手で打つ」を全国及び東京都調査と比較すると、全体では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が全国調査より7.1ポイント、東京都調査より15.1ポイント、それぞれ高くなっている。

女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が全国調査より9.0ポイント、東京都調査より15.7ポイント、それぞれ高くなっている。

男性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が全国調査より6.6ポイント、東京都調査より16.0ポイント、それぞれ高くなっている。



※全国調査：内閣府「男女間における暴力に関する調査」（平成29年12月調査）

※東京都調査：東京都「男女平等参画に関する世論調査」（平成27年7月調査）

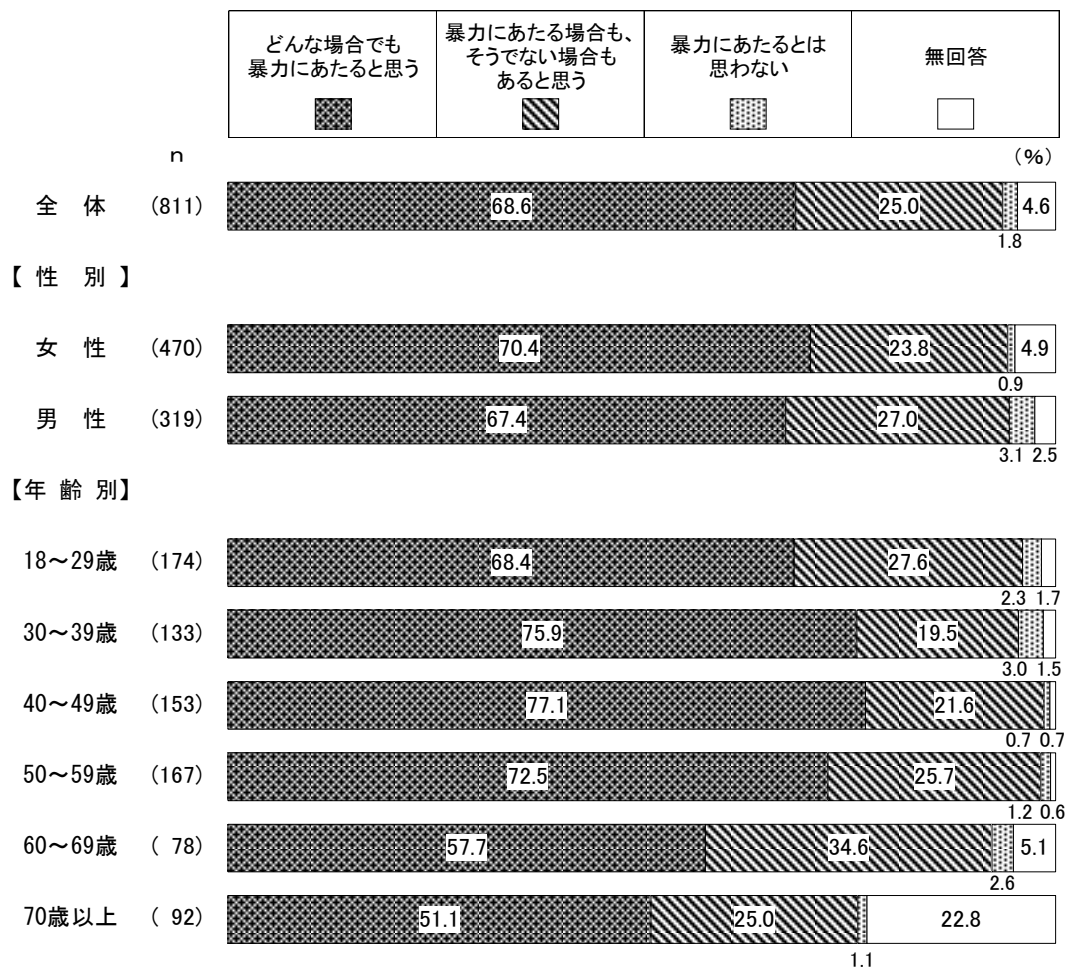
※全国及び東京都調査では、令和2年度調査にはない「わからない」の選択肢があった。「わからない」の値は「無回答」として表記している。

<全体／性別／年齢別> ② なぐるふりをして、おどす

「なぐるふりをして、おどす」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が68.6%、「暴力にあたるとは思わない」は1.8%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は25.0%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（27.0%）が女性（23.8%）より3.2ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（70.4%）が男性（67.4%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は40～49歳で77.1%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は60～69歳で34.6%と高くなっている。



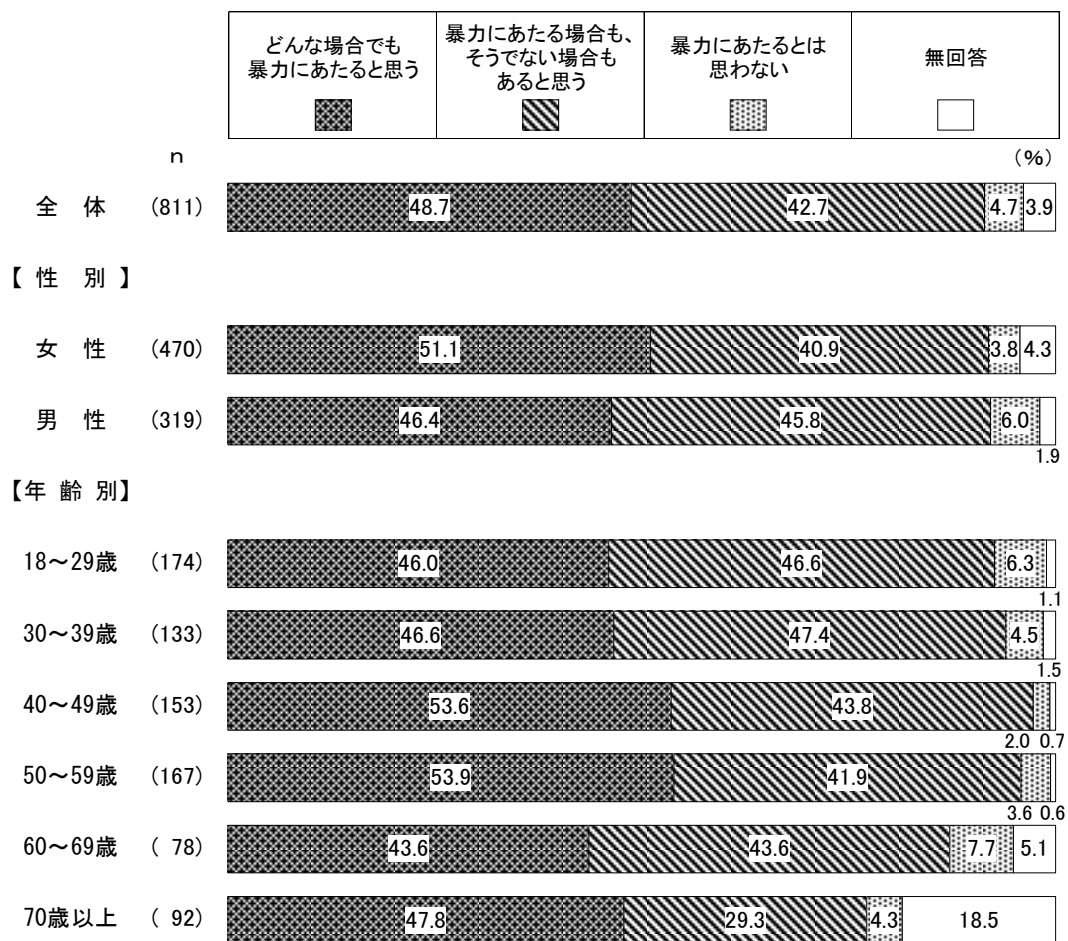


<全体／性別／年齢別> ③ 大声でどなる

「大声でどなる」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が48.7%、「暴力にあたるとは思わない」は4.7%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は42.7%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（45.8%）が女性（40.9%）より4.9ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（51.1%）が男性（46.4%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50～59歳で53.9%、40～49歳で53.6%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は30～39歳で47.4%と高くなっている。

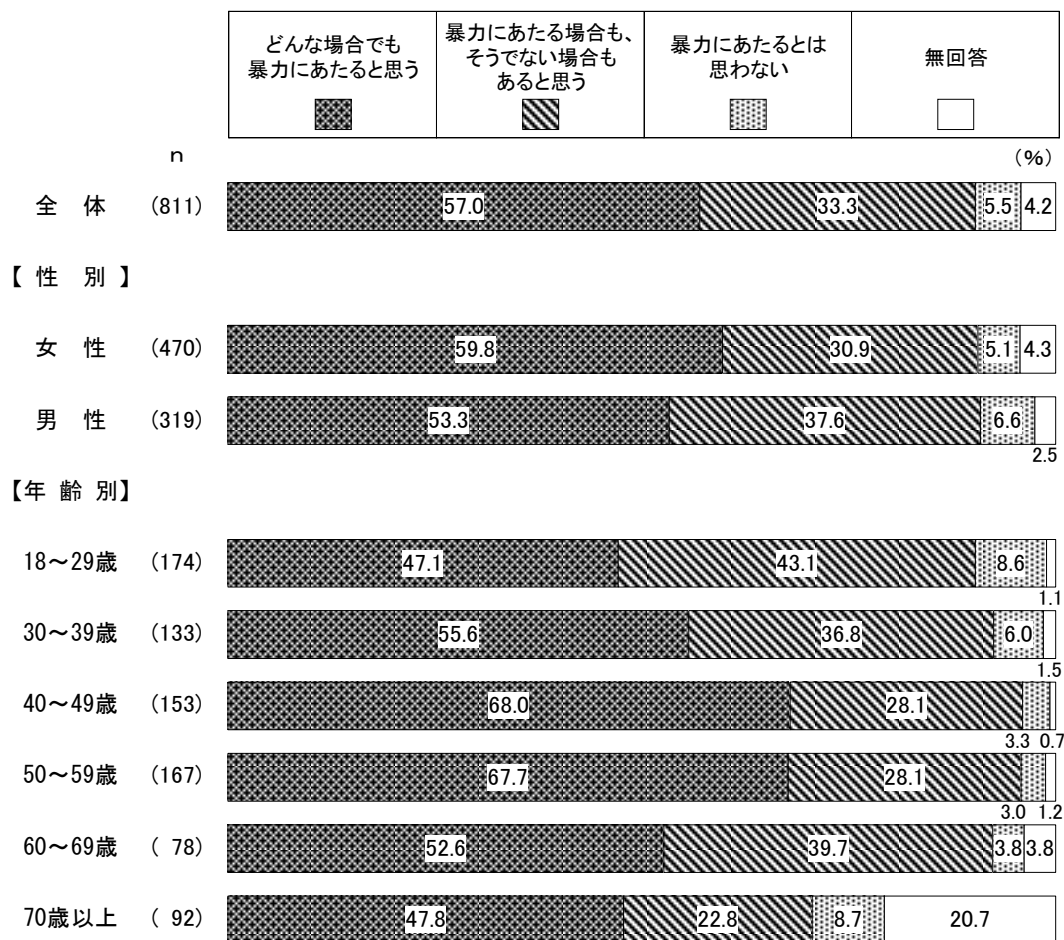


＜全体／性別／年齢別＞ ④ 何を言っても長期間無視し続ける

「何を言っても長期間無視し続ける」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.0%、「暴力にあたるとは思わない」は5.5%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は33.3%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（37.6%）が女性（30.9%）より6.7ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（59.8%）が男性（53.3%）より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は40～49歳で68.0%、50～59歳で67.7%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は18～29歳で43.1%と高くなっている。

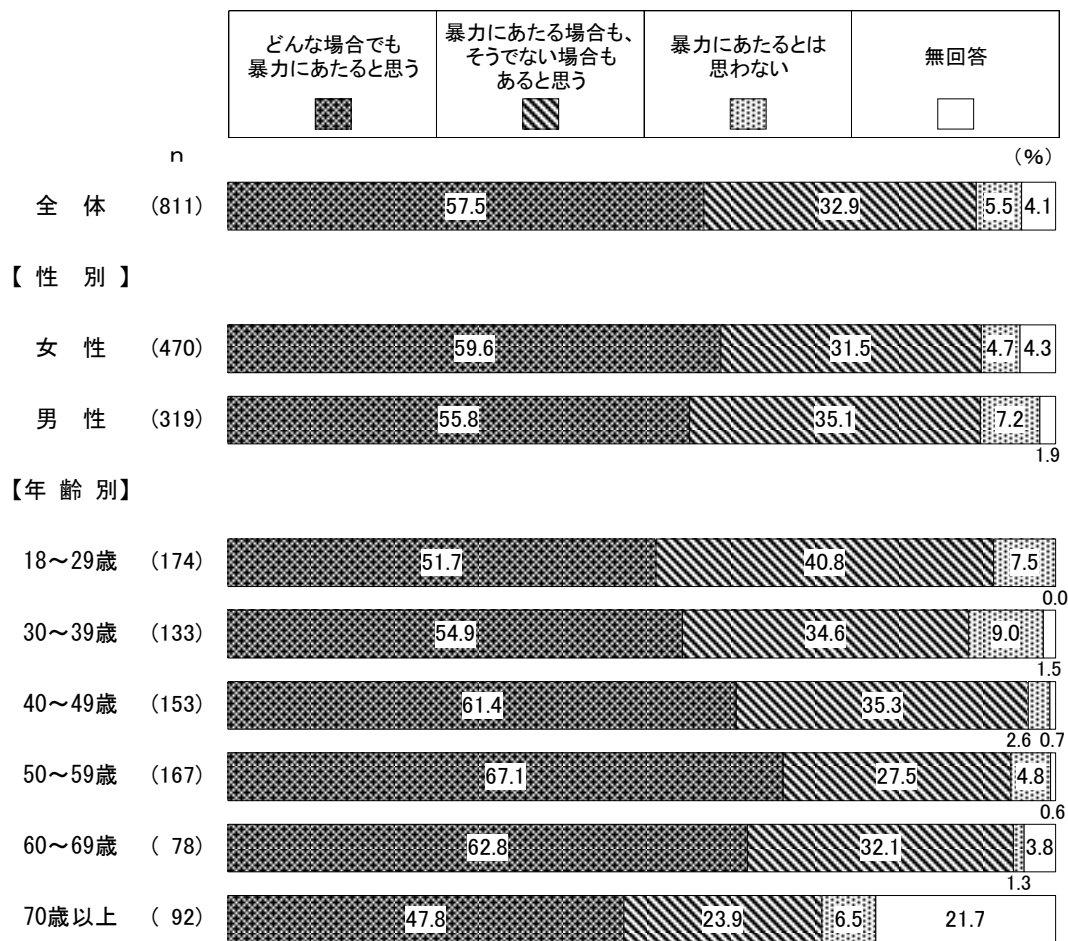


＜全体／性別／年齢別＞ ⑤ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.5%、「暴力にあたるとは思わない」は5.5%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は32.9%となっている。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（59.6%）が男性（55.8%）より3.8ポイント高くなっている。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（35.1%）が女性（31.5%）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50～59歳で67.1%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は18～29歳で40.8%と高くなっている。

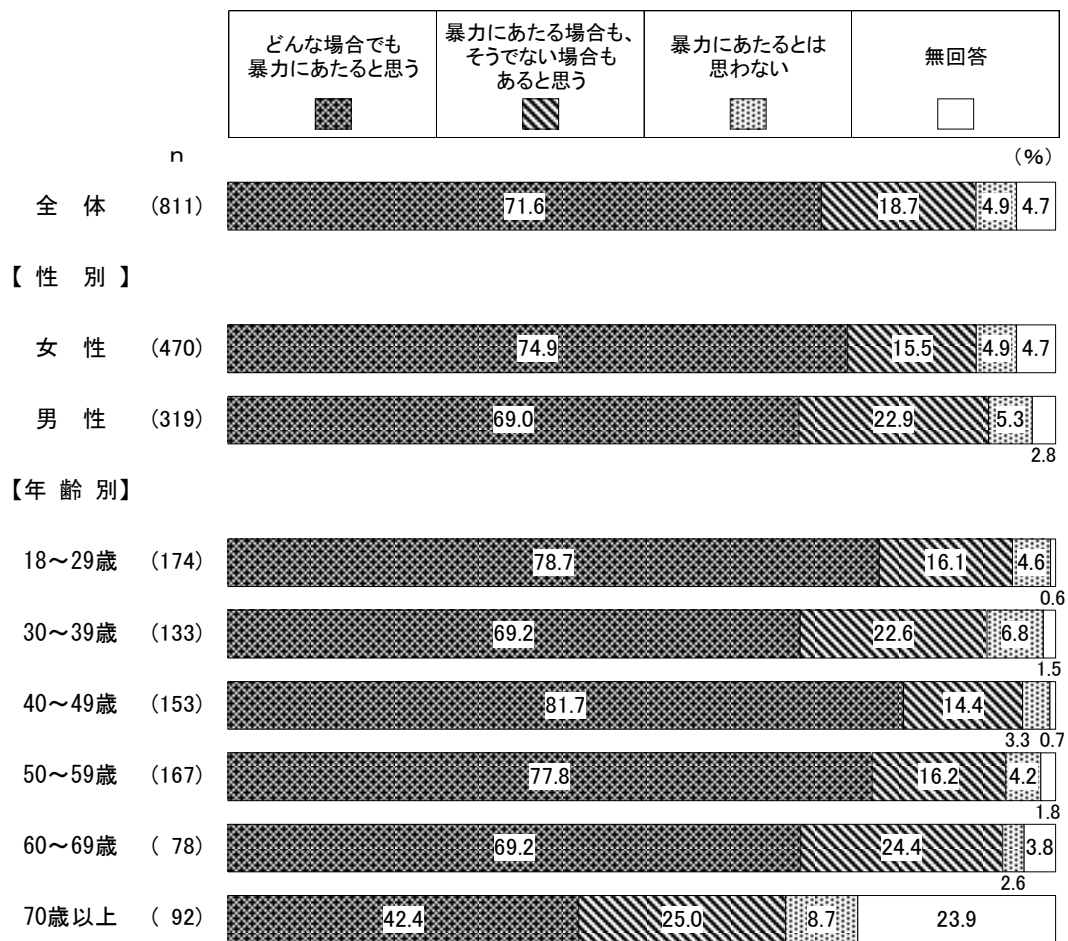


＜全体／性別／年齢別＞ ⑥ 家族や友人との関わりを持たせない

「家族や友人との関わりを持たせない」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が71.6%、「暴力にあたるとは思わない」は4.9%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は18.7%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（22.9%）が女性（15.5%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（74.9%）が男性（69.0%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は40～49歳で81.7%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は70歳以上で25.0%と高くなっている。

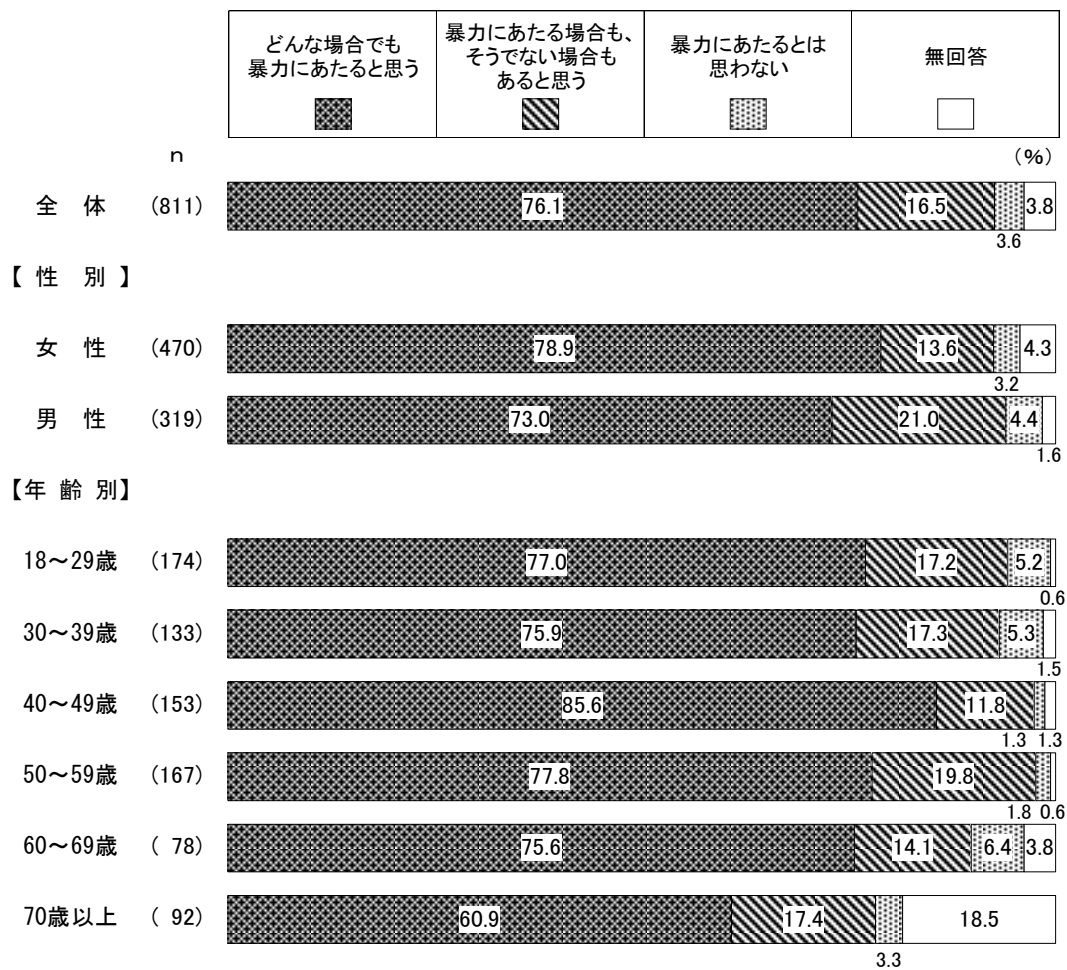


<全体／性別／年齢別> ⑦ 家計に必要な生活費を渡さない

「家計に必要な生活費を渡さない」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が76.1%、「暴力にあたるとは思わない」は3.6%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は16.5%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（21.0%）が女性（13.6%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（78.9%）が男性（73.0%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は40～49歳で85.6%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は50～59歳で19.8%となっている。

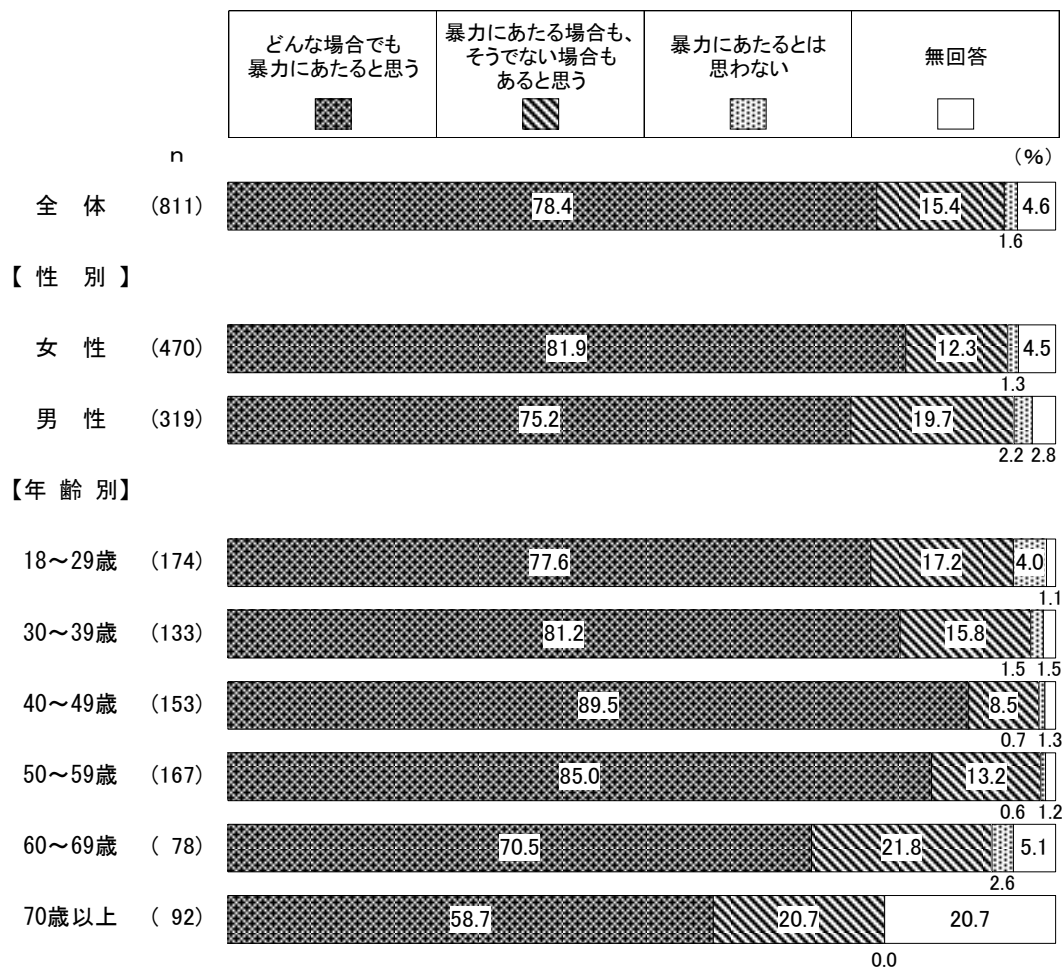


＜全体／性別／年齢別＞ ⑧ 仕事に行くことを妨害したり、外出先を制限する

「仕事に行くことを妨害したり、外出先を制限する」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が78.4%、「暴力にあたるとは思わない」は1.6%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は15.4%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（19.7%）が女性（12.3%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（81.9%）が男性（75.2%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は40～49歳で89.5%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は60～69歳で21.8%と高くなっている。

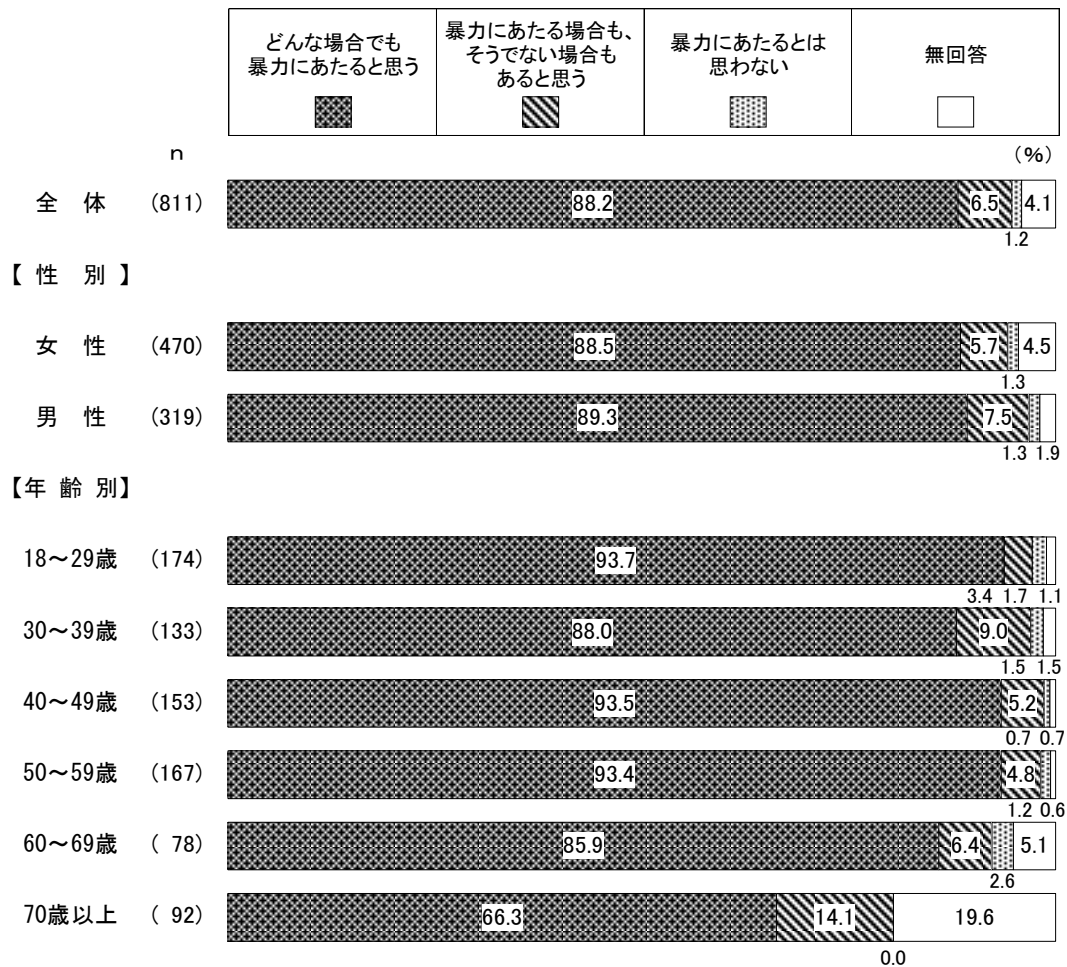


<全体／性別／年齢別> ⑨ いやがっているのに性的な行為を強要する

「いやがっているのに性的な行為を強要する」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が88.2%、「暴力にあたるとは思わない」は1.2%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は6.5%となっている。

性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は18～29歳で93.7%、40～49歳で93.5%、50～59歳で93.4%と高くなっている。

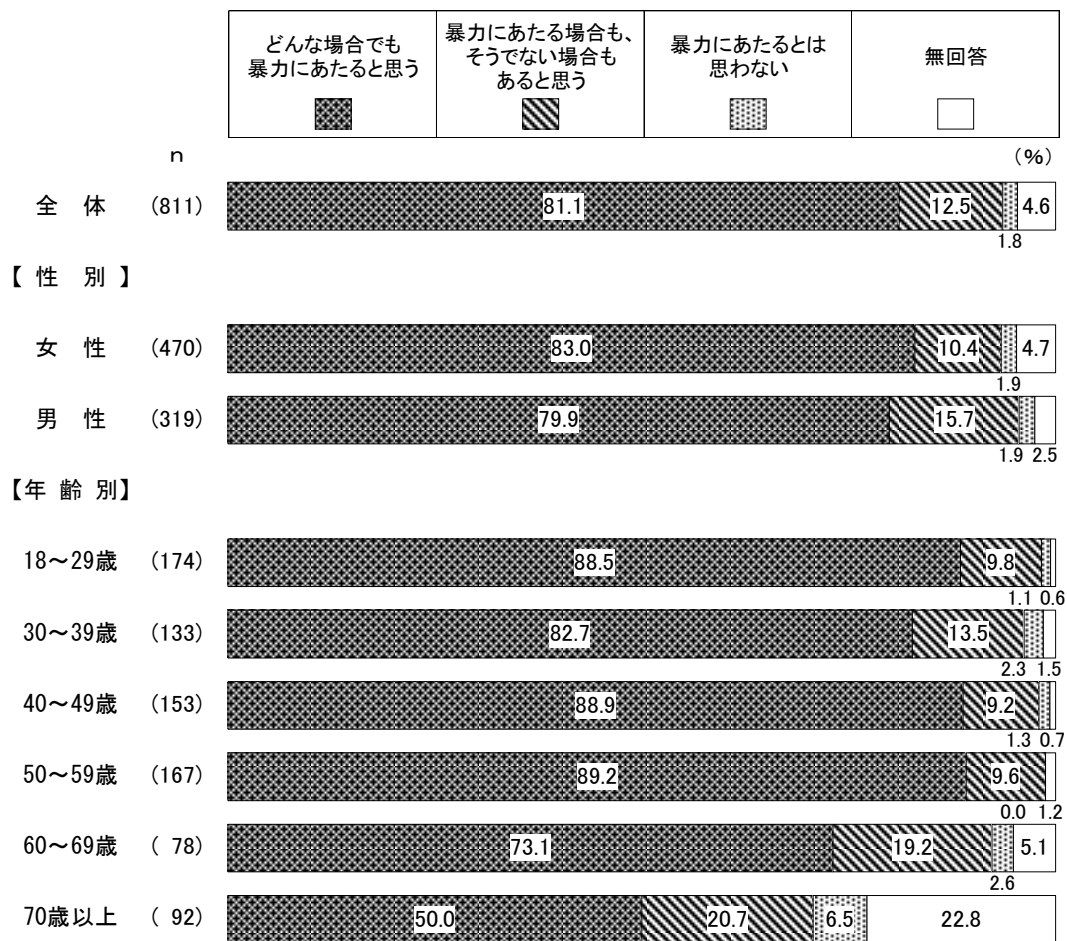


<全体／性別／年齢別> ⑩ 避妊に協力しない

「避妊に協力しない」を全体で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が81.1%、「暴力にあたるとは思わない」は1.8%となっており、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は12.5%となっている。

性別で見ると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性（15.7%）が女性（10.4%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（83.0%）が男性（79.9%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50～59歳で89.2%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は70歳以上で20.7%と高くなっている。

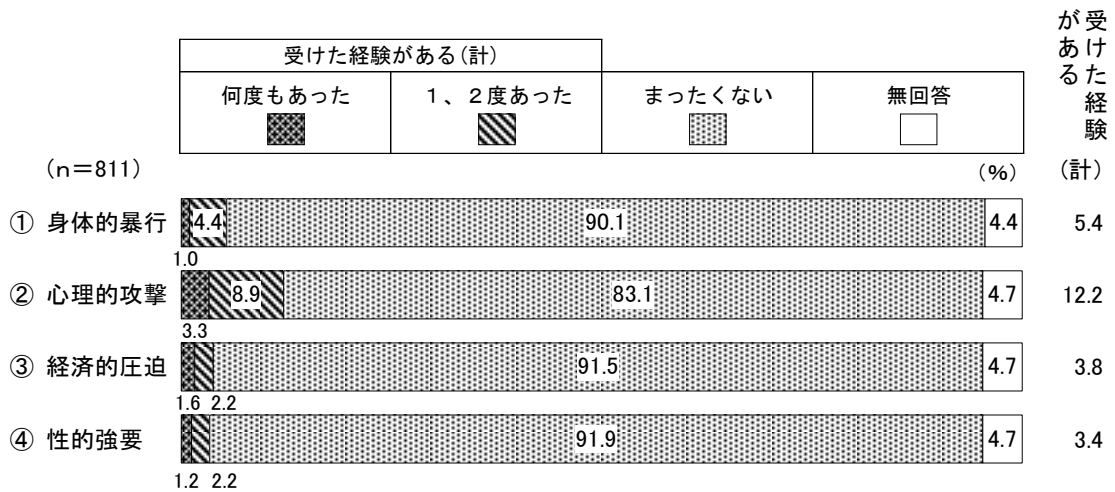




(4) DV被害経験

問20 あなたは過去5年間に、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。①～④のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)



<全体>

DV被害経験を、4項目について聞いたところ、全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『受けた経験がある(計)』は“心理的攻撃”が12.2%で最も高く、次いで“身体的暴行”(5.4%)となっている。

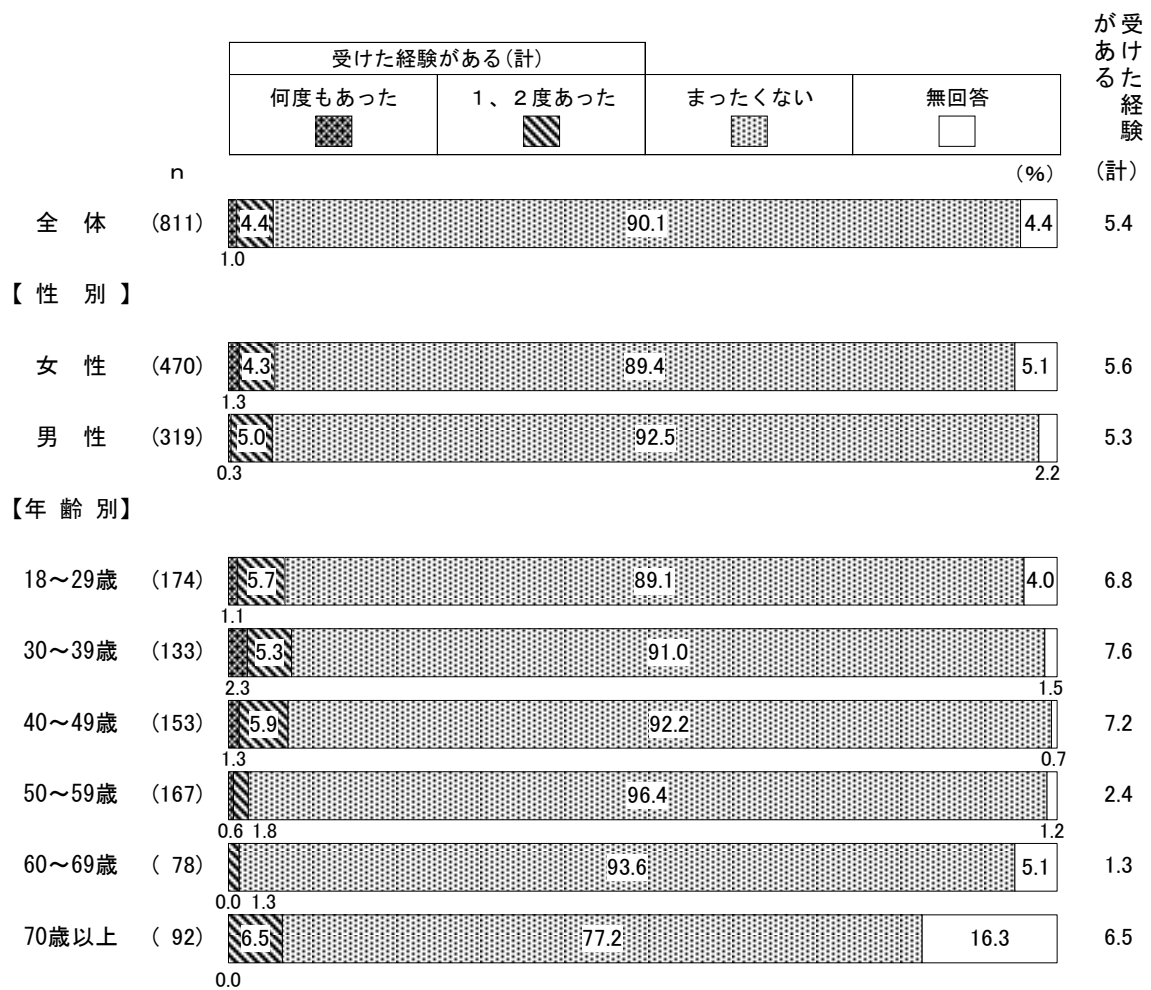
一方、「まったくない」は“性的強要”が91.9%で最も高く、次いで“経済的圧迫”(91.5%)、“身体的暴行”(90.1%)となっている。

<全体／性別／年齢別> ① 身体的暴行

「身体的暴行」を全体で見ると、『受けた経験がある（計）』が5.4%、「まったくない」は90.1%となっている。

性別で見ると、「まったくない」は男性（92.5%）が女性（89.4%）より3.1ポイント高くなっている。

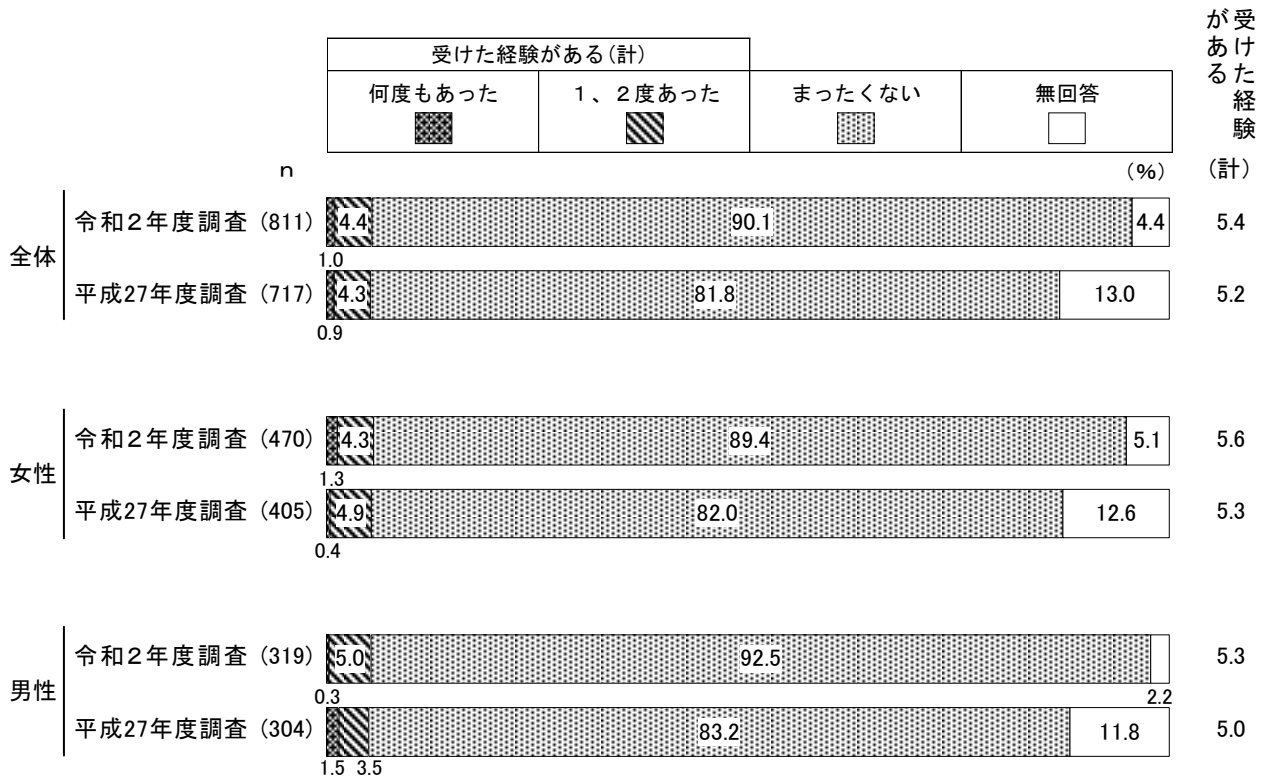
年齢別で見ると、「まったくない」は50～59歳で96.4%と高くなっている。



<経年比較> ① 身体的暴行

「身体的暴行」を過去の調査と比較すると、全体では「まったくない」が平成27年度調査より8.3ポイント増加している。

女性では「まったくない」が平成27年度調査より7.4ポイント、男性では「まったくない」が平成27年度調査より9.3ポイント、それぞれ増加している。

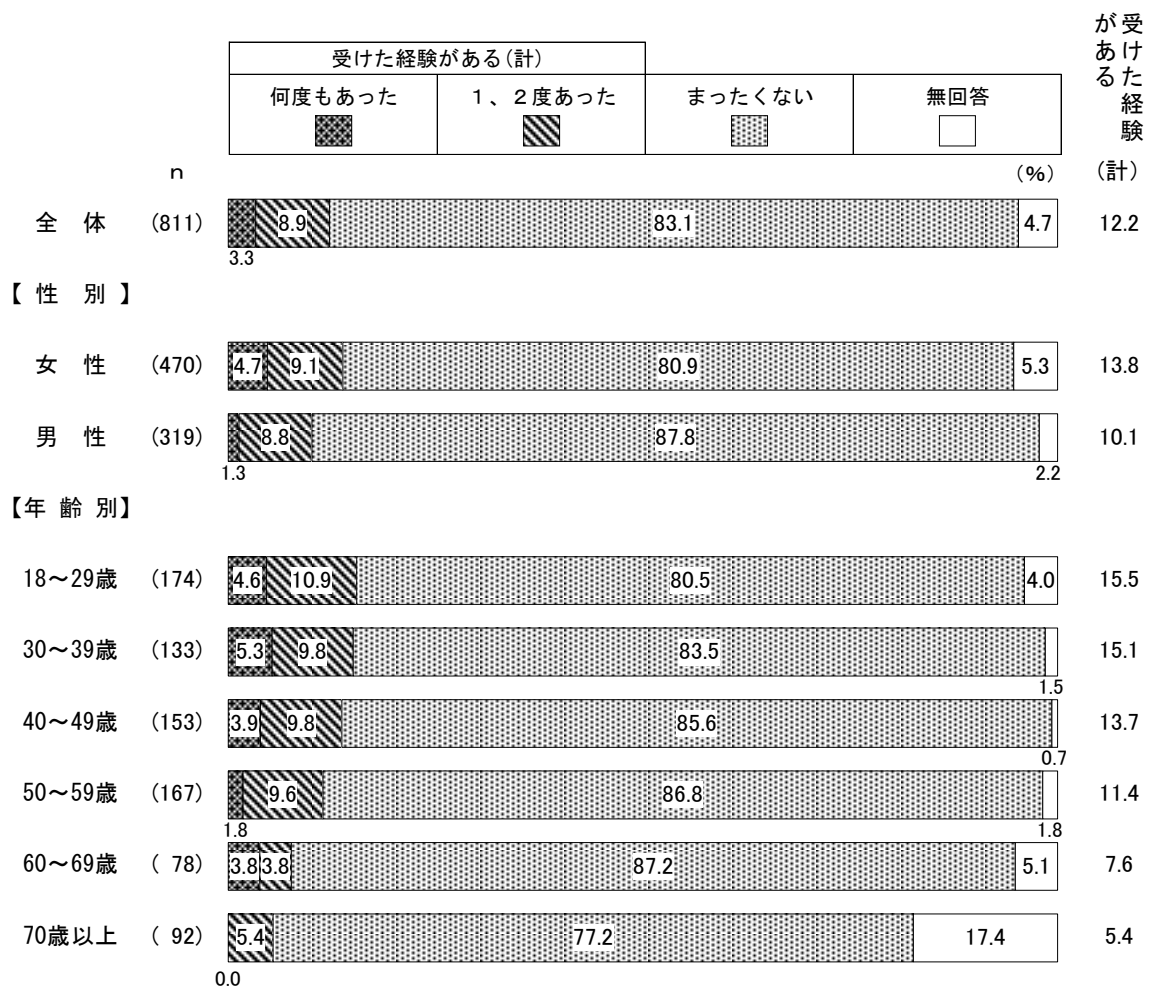


<全体／性別／年齢別> ② 心理的攻撃

「心理的攻撃」を全体で見ると、『受けた経験がある（計）』が12.2%、「まったくない」は83.1%となっている。

性別で見ると、『受けた経験がある（計）』は女性（13.8%）が男性（10.1%）より3.7ポイント高くなっている。一方、「まったくない」は男性（87.8%）が女性（80.9%）より6.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『受けた経験がある（計）』は18～29歳で15.5%、30～39歳で15.1%となっている。一方、「まったくない」は60～69歳で87.2%と高くなっている。

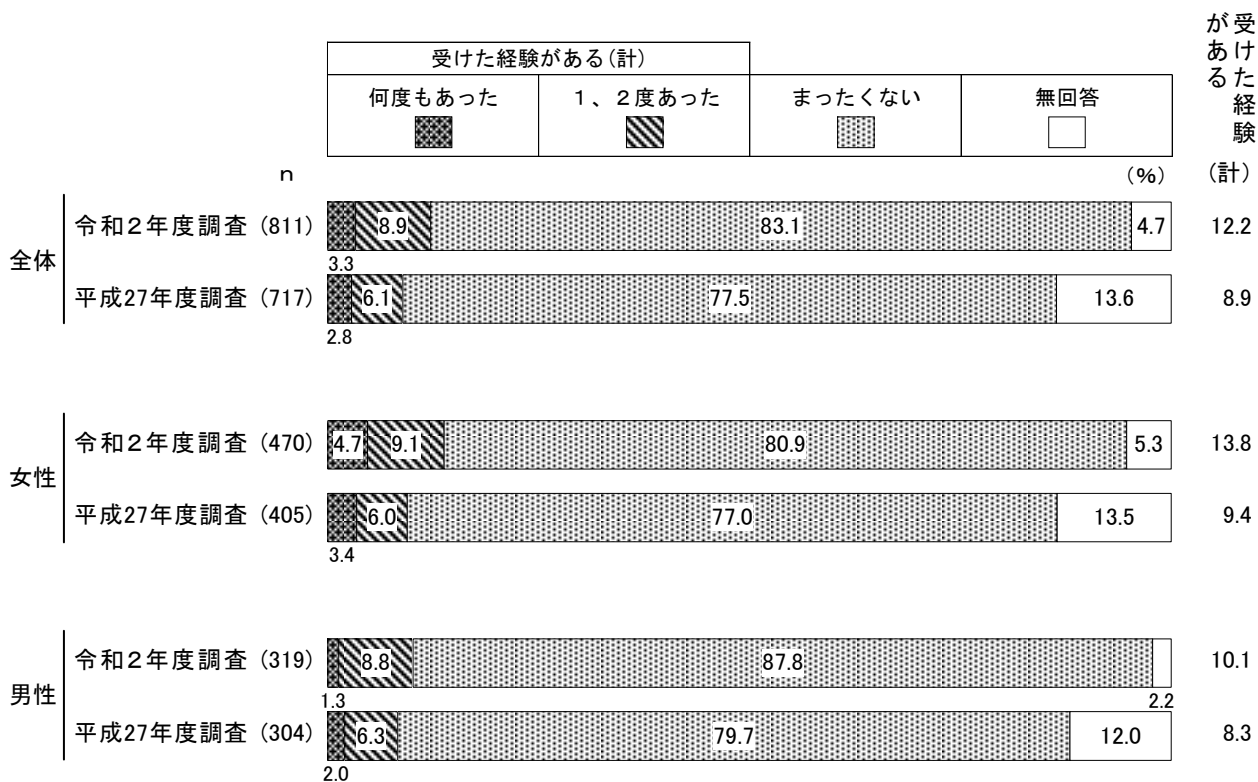


<経年比較> ② 心理的攻撃

「心理的攻撃」を過去の調査と比較すると、全体では『受けた経験がある（計）』が平成27年度調査より3.3ポイント、「まったくない」が平成27年度調査より5.6ポイント、それぞれ増加している。

女性では『受けた経験がある（計）』が平成27年度調査より4.4ポイント、「まったくない」が平成27年度調査より3.9ポイント、それぞれ増加している。

男性では「まったくない」が平成27年度調査より8.1ポイント増加している。

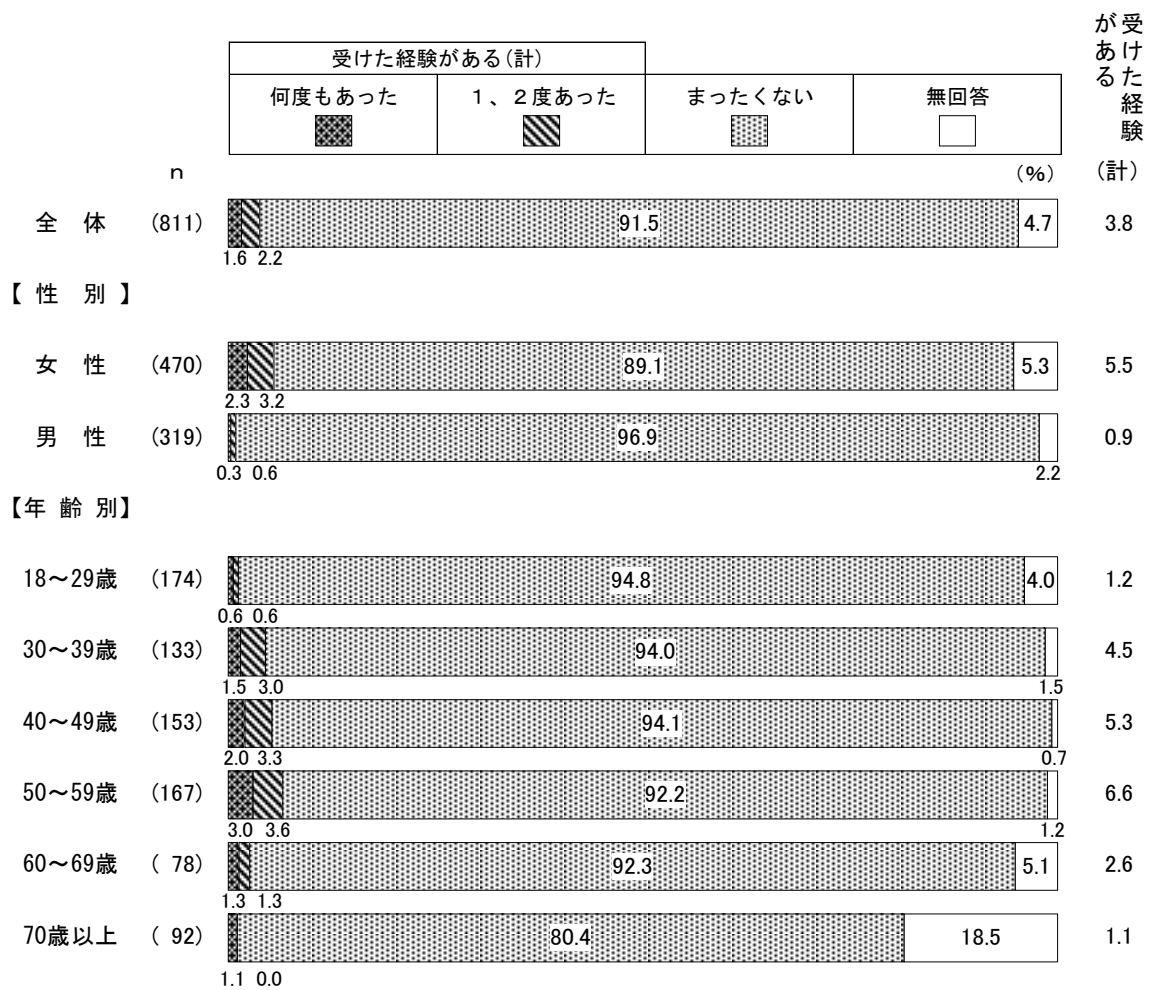


<全体／性別／年齢別> ③ 経済的圧迫

「経済的圧迫」を全体でみると、『受けた経験がある（計）』が3.8%、「まったくない」は91.5%となっている。

性別でみると、『受けた経験がある（計）』は女性（5.5%）が男性（0.9%）より4.6ポイント高くなっている。一方、「まったくない」は男性（96.9%）が女性（89.1%）より7.8ポイント高くなっている。

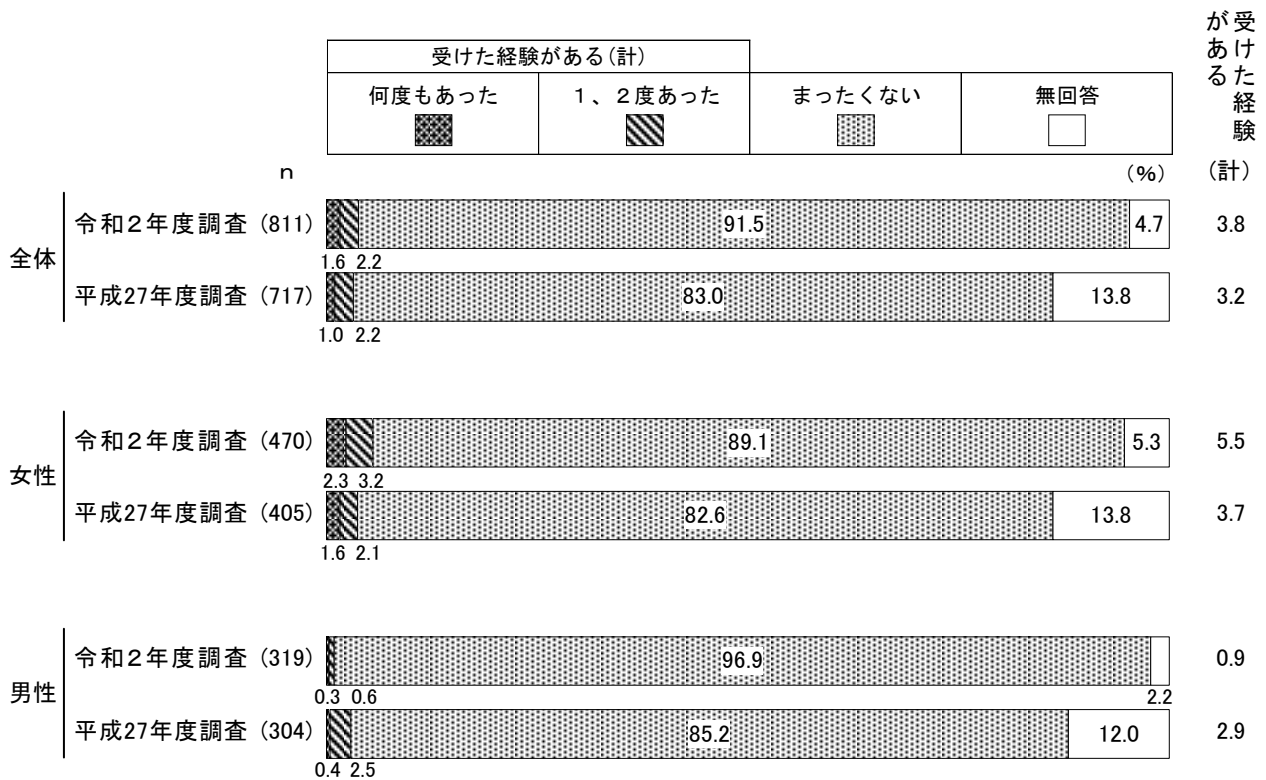
年齢別でみると、「まったくない」は18～29歳で94.8%、40～49歳で94.1%、30～39歳で94.0%と高くなっている。



<経年比較> ③ 経済的圧迫

「経済的圧迫」を過去の調査と比較すると、全体では「まったくない」が平成27年度調査より8.5ポイント増加している。

女性では「まったくない」が平成27年度調査より6.5ポイント、男性では「まったくない」が平成27年度調査より11.7ポイント、それぞれ増加している。

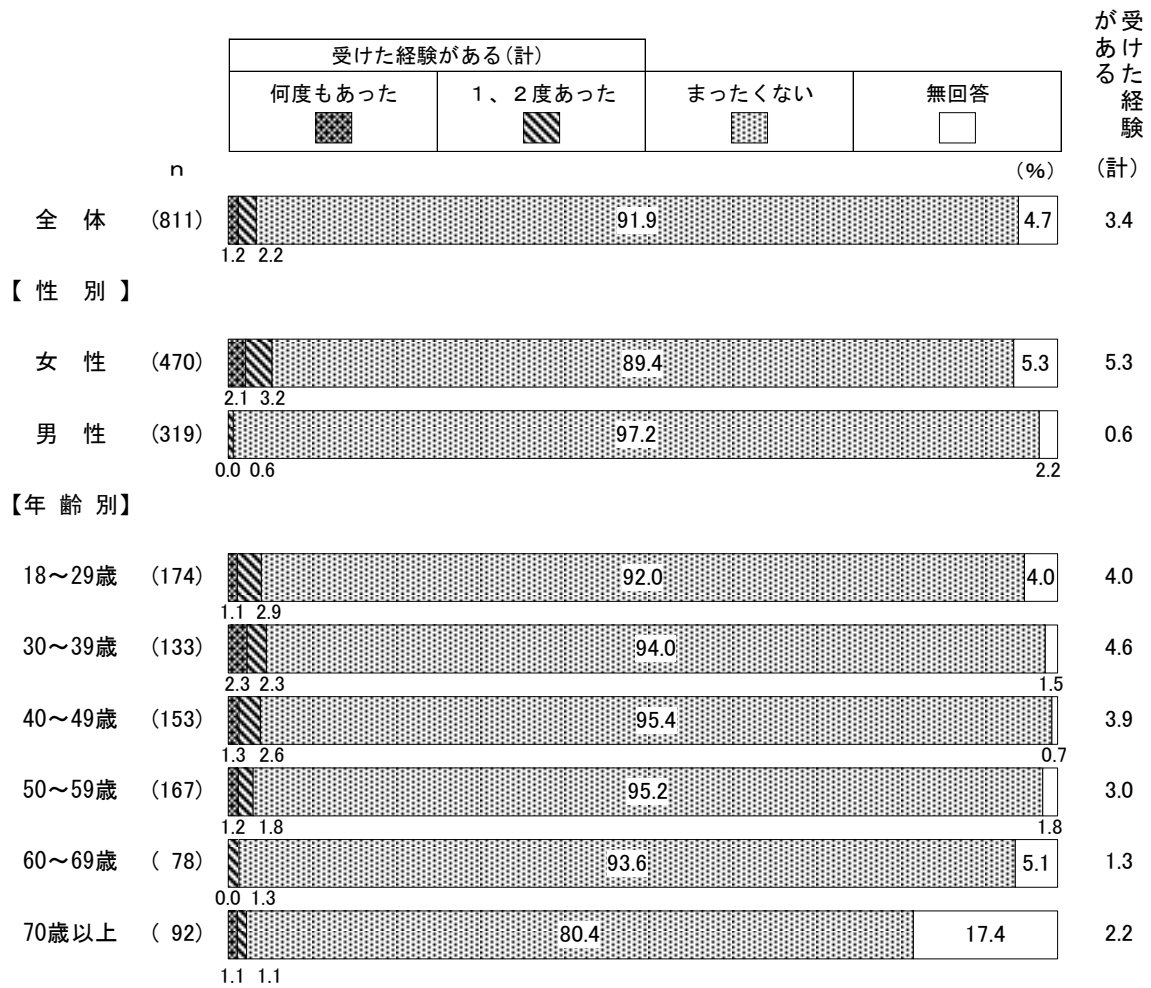


<全体／性別／年齢別> ④ 性的強要

「性的強要」を全体で見ると、『受けた経験がある（計）』が3.4%、「まったくない」は91.9%となっている。

性別で見ると、『受けた経験がある（計）』は女性（5.3%）が男性（0.6%）より4.7ポイント高くなっている。一方、「まったくない」は男性（97.2%）が女性（89.4%）より7.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「まったくない」は40～49歳で95.4%、50～59歳で95.2%と高くなっている。

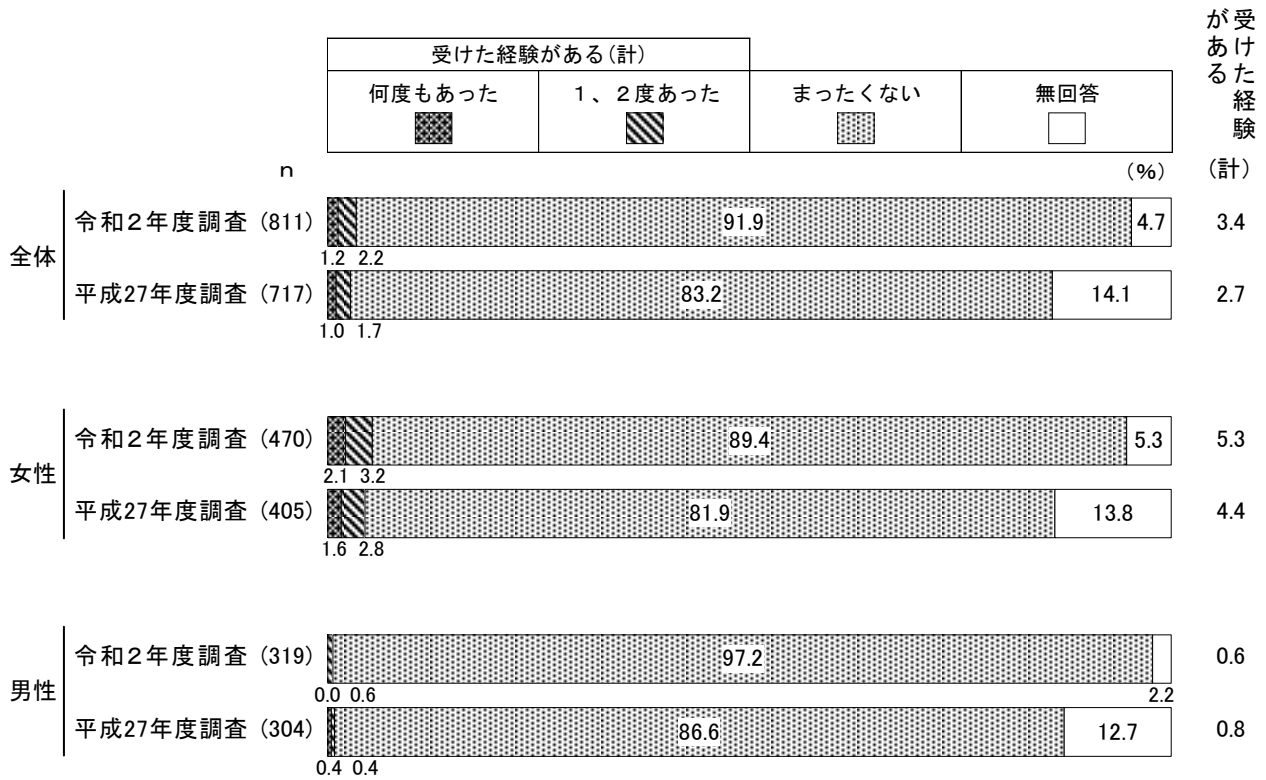




<経年比較> ④ 性的強要

「性的強要」を過去の調査と比較すると、全体では「まったくない」が平成27年度調査より8.7ポイント増加している。

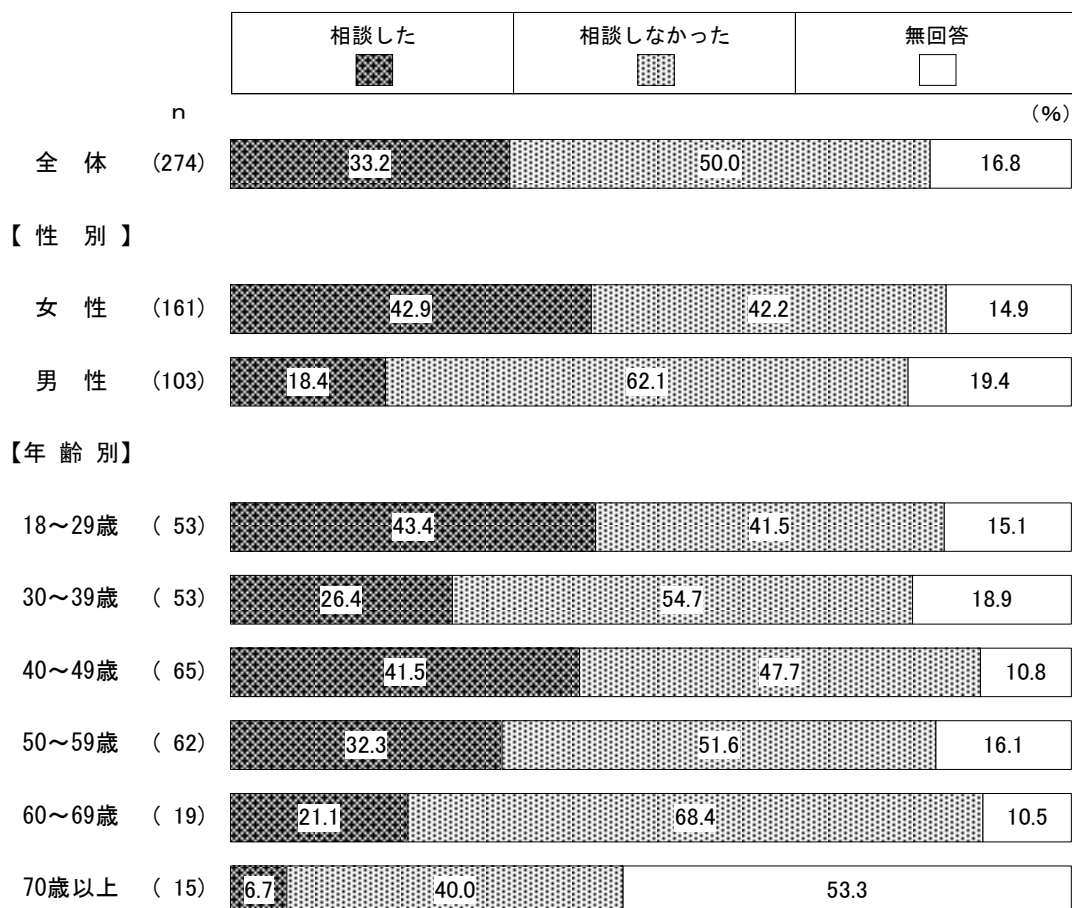
女性では「まったくない」が平成27年度調査より7.5ポイント、男性では「まったくない」が平成27年度調査より10.6ポイント、それぞれ増加している。



## (5) 相談経験

【問17で「なんらかのハラスメントを受けた」、問20で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方におたずねします】

問20-1 あなたはこれまでに、このような行為を受けたことを誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)



### <全体／性別／年齢別>

過去5年間に「ハラスメントを受けた」、または、「DV被害経験がある」と答えた方に、誰かに打ち明けたり、相談したことがあるか聞いたところ、全体では、「相談した」が33.2%、「相談しなかった」は50.0%となっている。

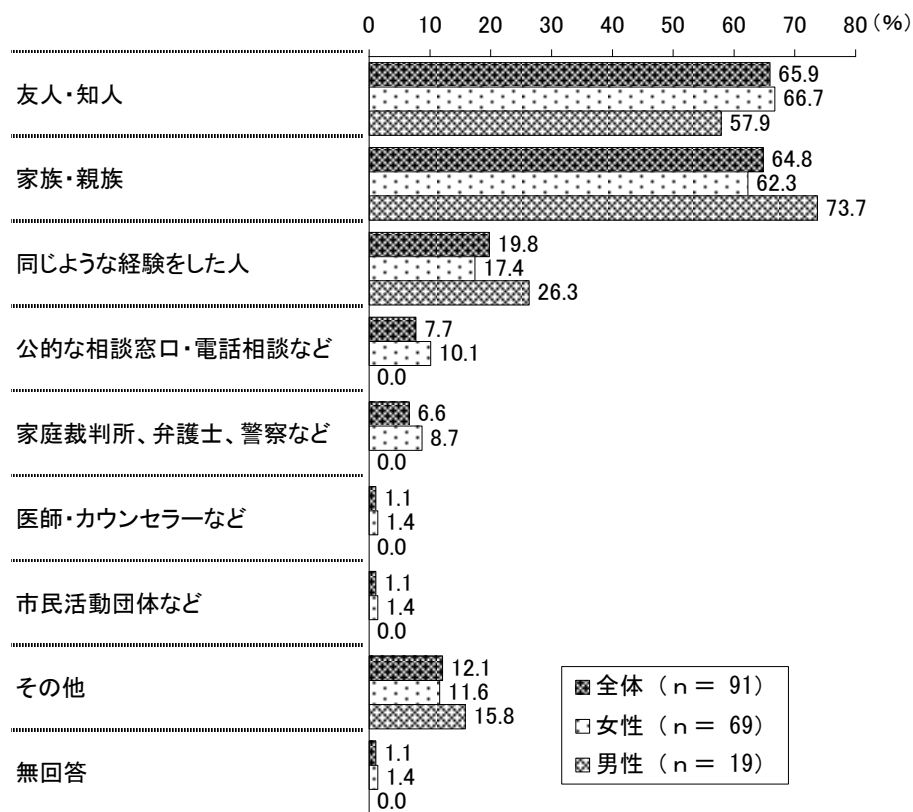
性別で見ると、「相談した」は女性（42.9%）が男性（18.4%）より24.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「相談した」は18～29歳で43.4%、40～49歳で41.5%と高くなっている。一方、「相談しなかった」は30～39歳で54.7%と高くなっている。

## (6) 相談相手

【問20-1で「相談した」と答えた方におたずねします】

問20-2 あなたはどこ（誰）に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

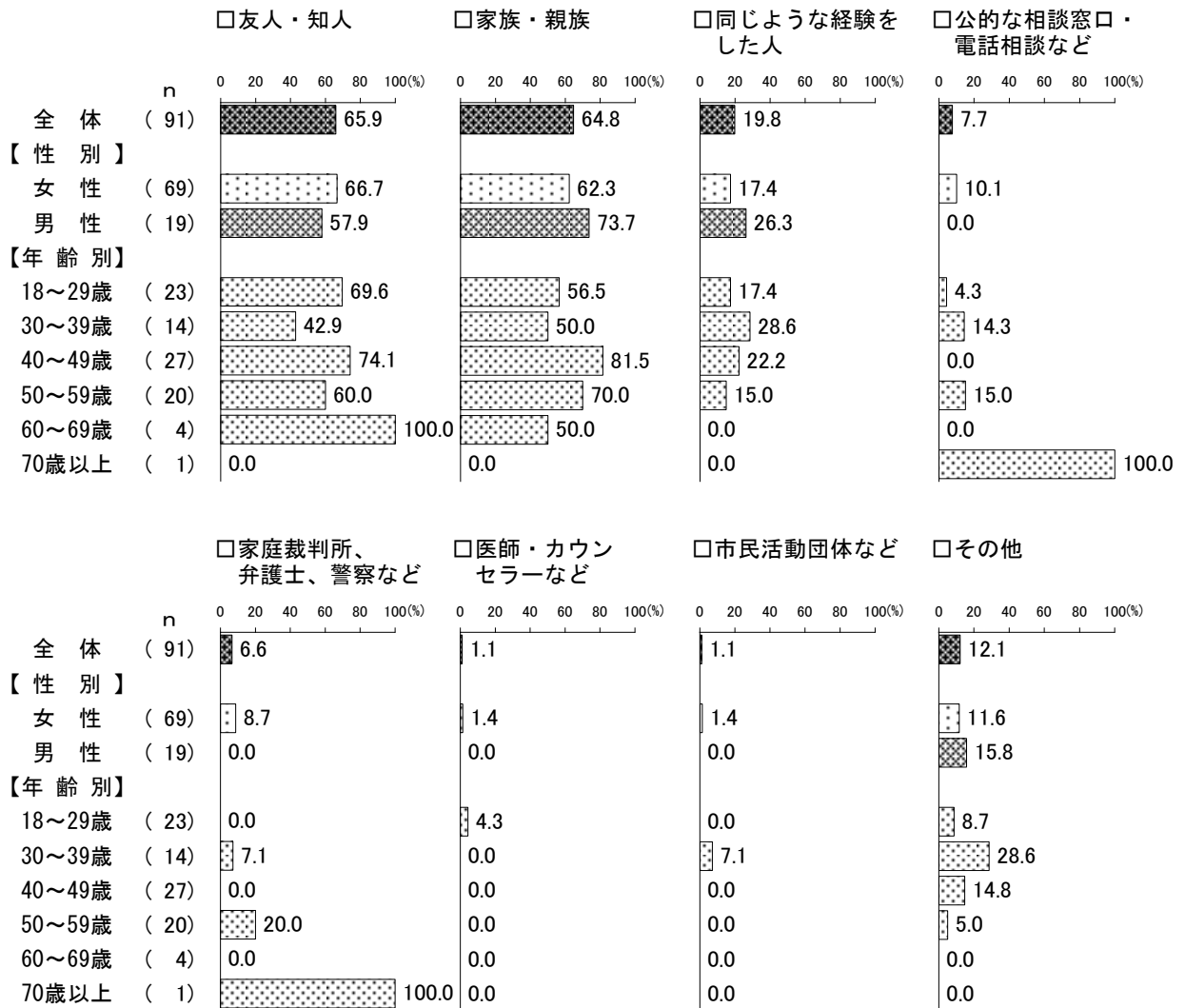


### <全体>

ハラスメントやDV被害を「相談した」と答えた方に、どこ（誰）に相談したか聞いたところ、全体では、「友人・知人」が65.9%で最も高く、次いで「家族・親族」（64.8%）、「同じような経験をした人」（19.8%）、「公的な相談窓口・電話相談など」（7.7%）となっている。

<性別／年齢別>

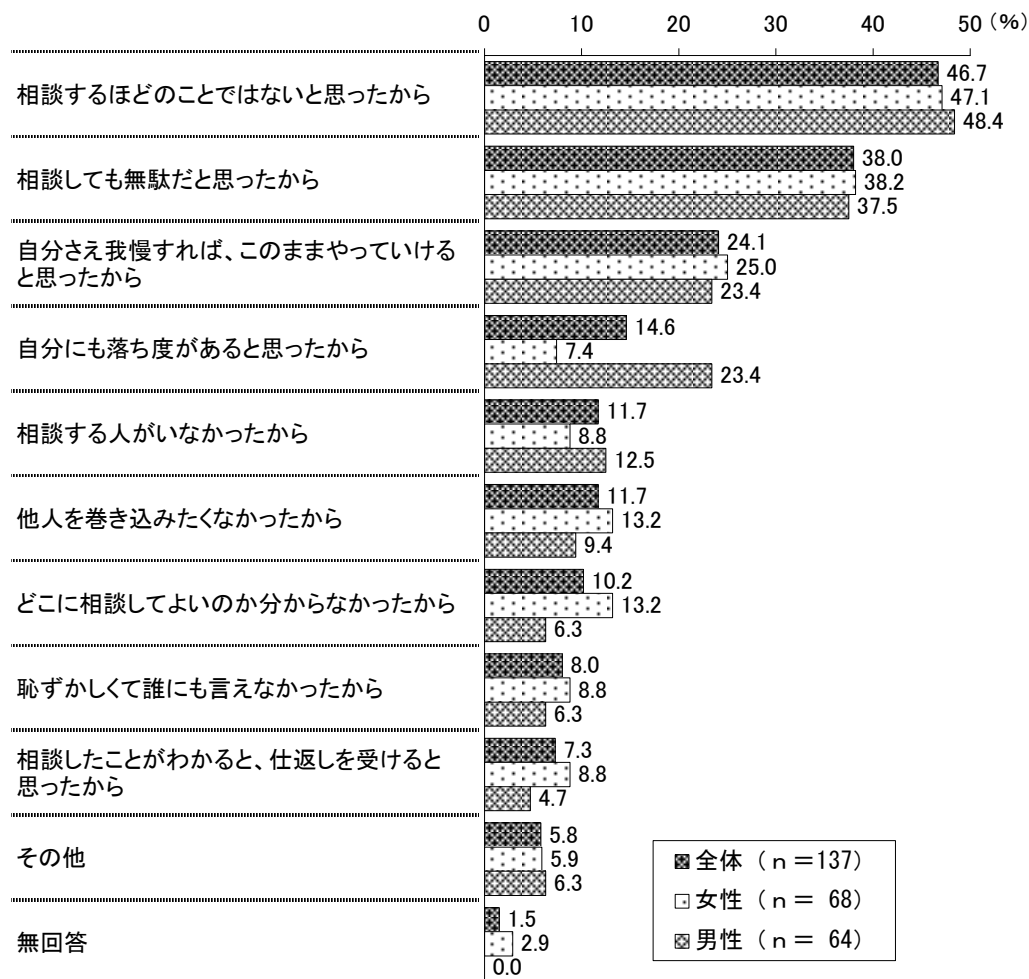
性別、年齢別は基数が少ないため参考に図示する。



## (7) 相談しなかった理由

【問20-1で「相談しなかった」と答えた方におたずねします】

問20-3 どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



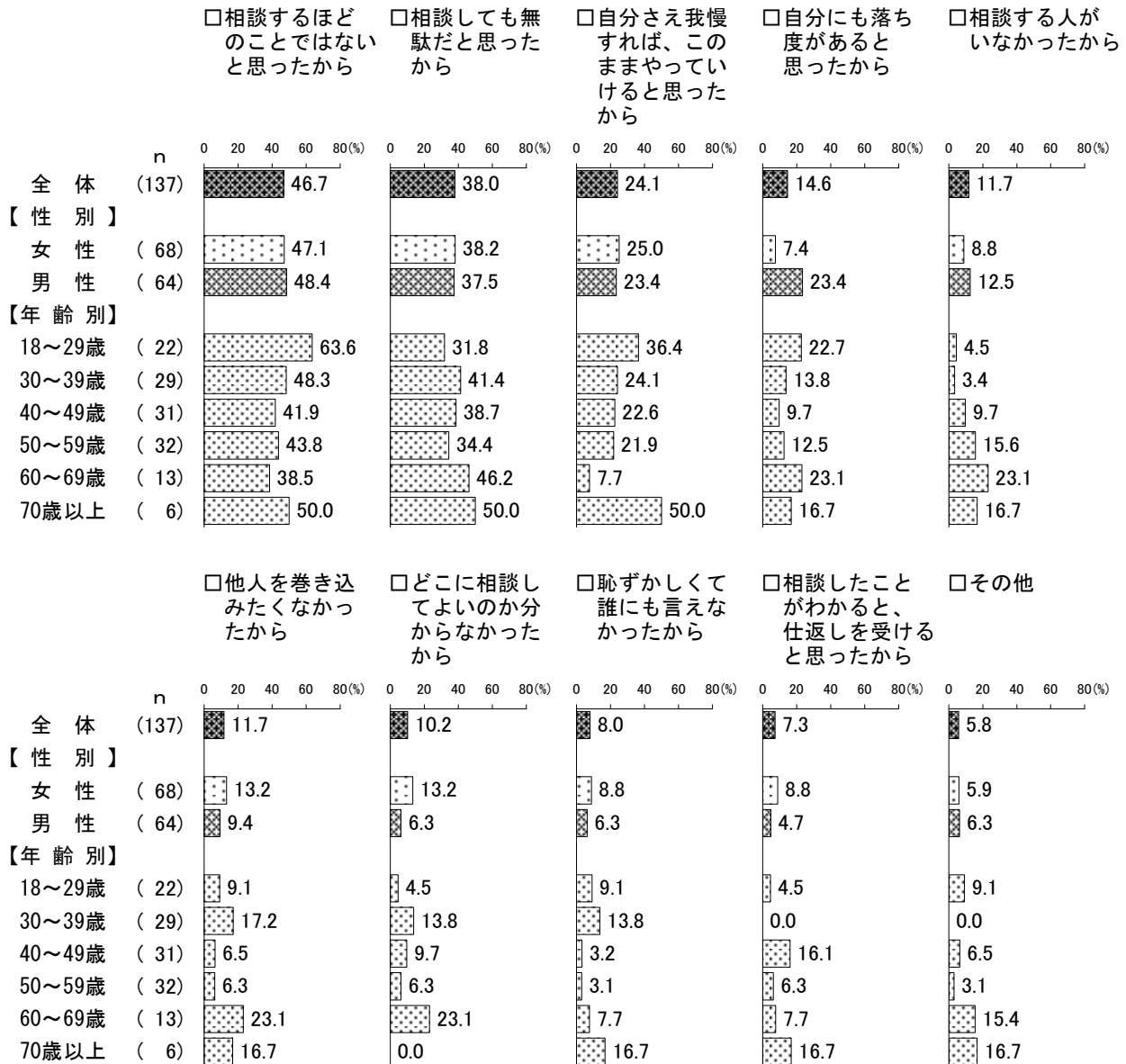
### <全体>

ハラスメントやDV被害を「相談しなかった」と答えた方に、相談しなかった理由を聞いたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が46.7%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(38.0%)、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」(24.1%)、「自分にも落ち度があると思ったから」(14.6%)となっている。

<性別／年齢別>

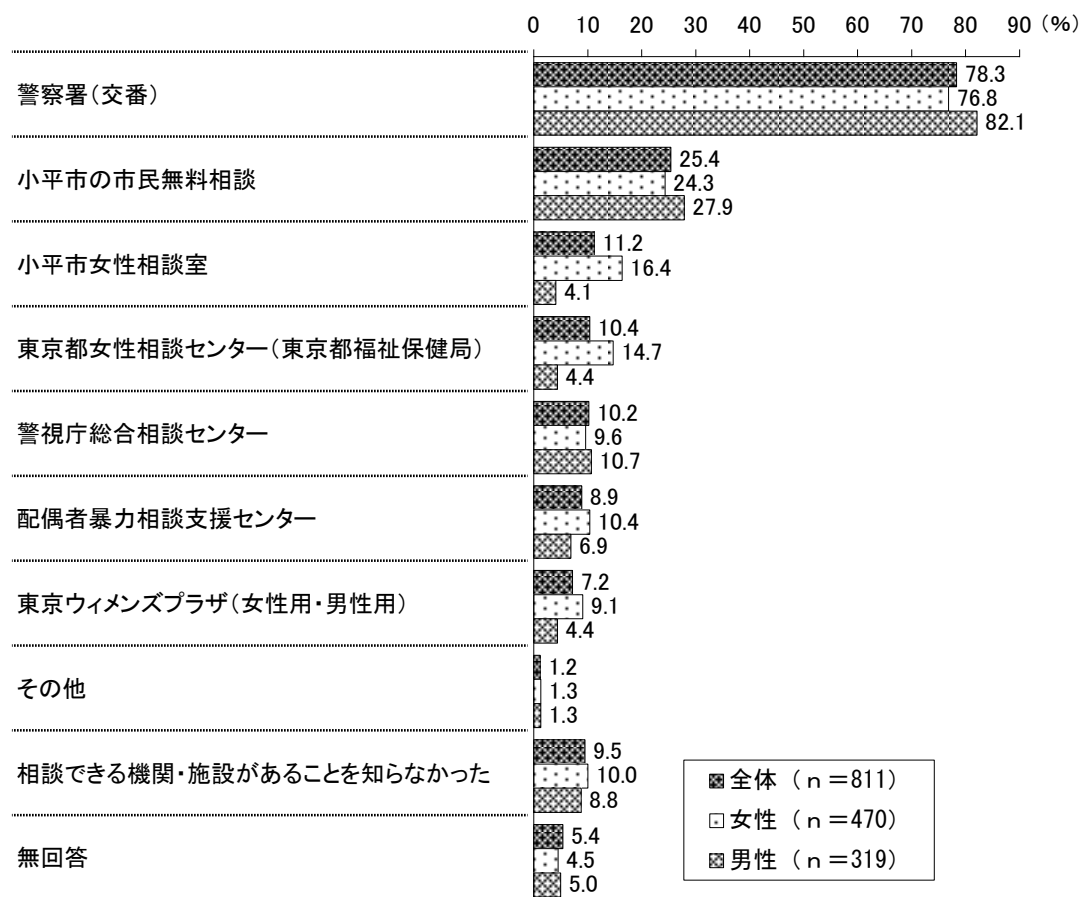
性別で見ると、「自分にも落ち度があると思ったから」は男性（23.4%）が女性（7.4%）より16.0ポイント高くなっている。一方、「どこに相談してよいのか分からなかったから」は女性（13.2%）が男性（6.3%）より6.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」は18～29歳で63.6%と高くなっている。「相談しても無駄だと思ったから」は30～39歳で41.4%と高くなっている。「自分さえ我慢すれば、このままやっていたら」は18～29歳で36.4%と高くなっている。



## (8) 相談機関や施設の認知度

問21 配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けた場合、相談できる機関や施設であなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



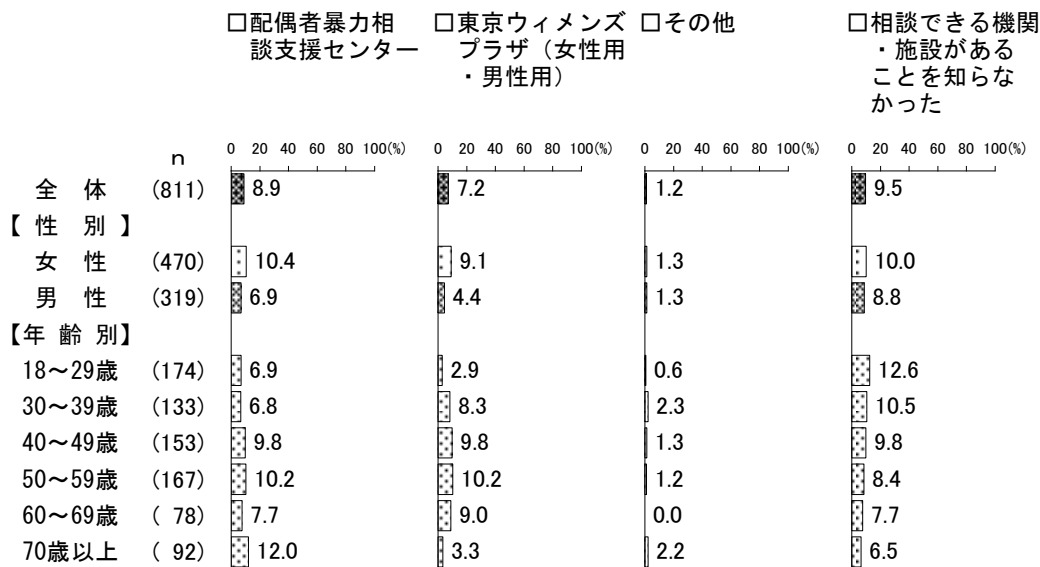
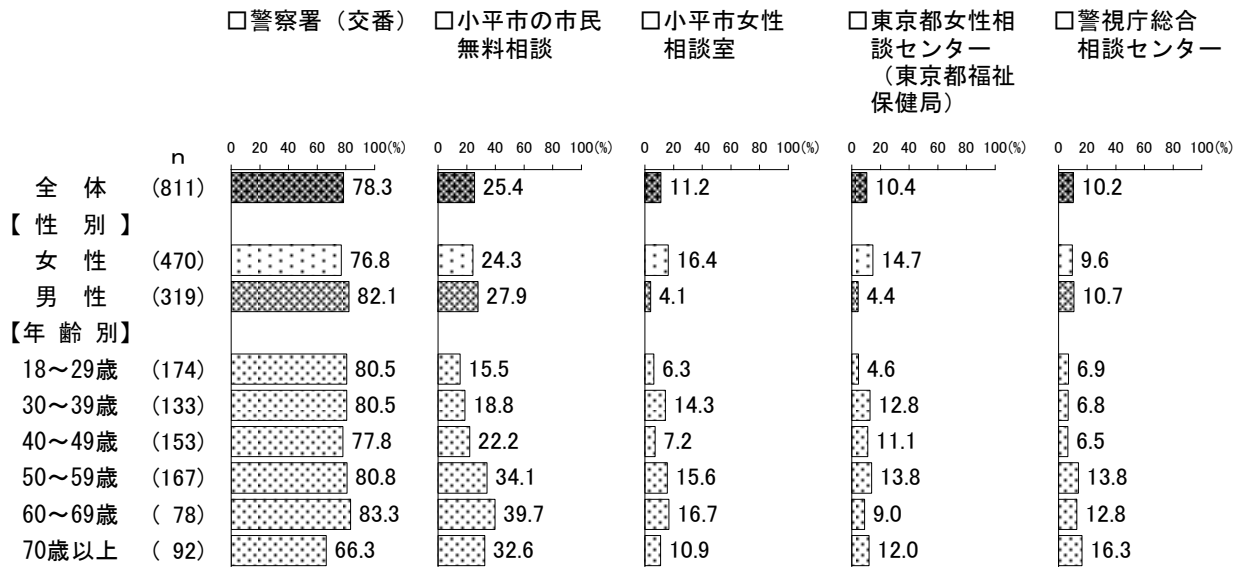
### <全体>

相談できる機関や施設で知っているものを聞いたところ、全体では、「警察署(交番)」が78.3%で最も高く、次いで「小平市の市民無料相談」(25.4%)、「小平市女性相談室」(11.2%)、「東京都女性相談センター(東京都福祉保健局)」(10.4%)となっている。

<性別／年齢別>

性別で見ると、「小平市女性相談室」は女性（16.4%）が男性（4.1%）より12.3ポイント、「東京都女性相談センター（東京都福祉保健局）」は女性（14.7%）が男性（4.4%）より10.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「警察署（交番）」は男性（82.1%）が女性（76.8%）より5.3ポイント高くなっている。

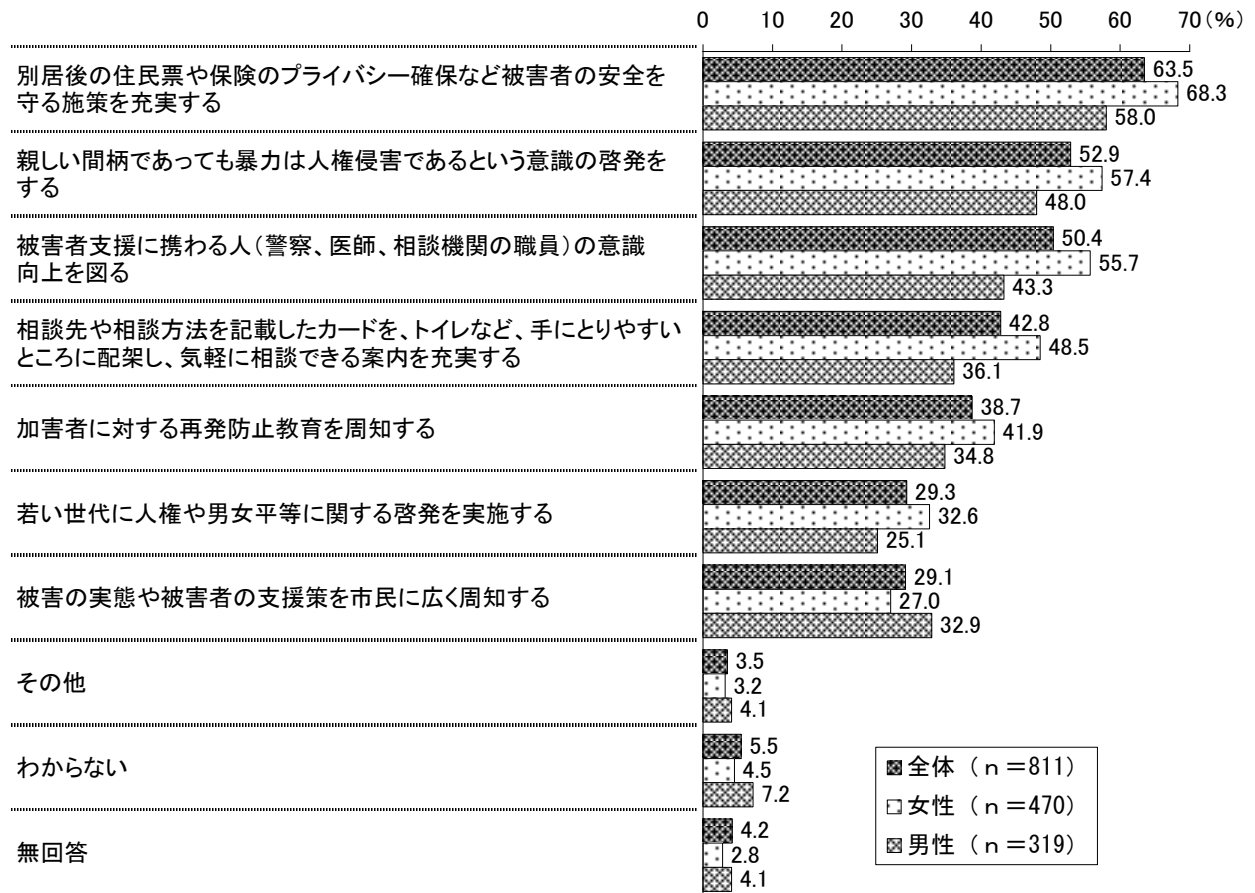
年齢別で見ると、「警察署（交番）」は60～69歳で83.3%と高くなっている。「小平市の市民無料相談」は60～69歳で39.7%と高くなっている。





(9) DVの防止や対策のために必要な事業

問22 あなたは、配偶者や交際相手などの暴力の防止や対策のために今後どのような事業が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



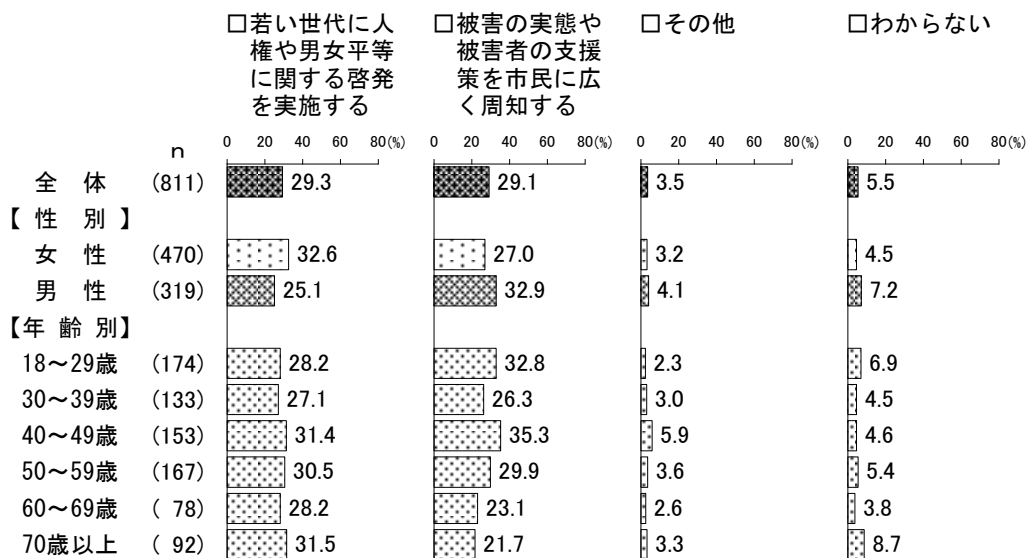
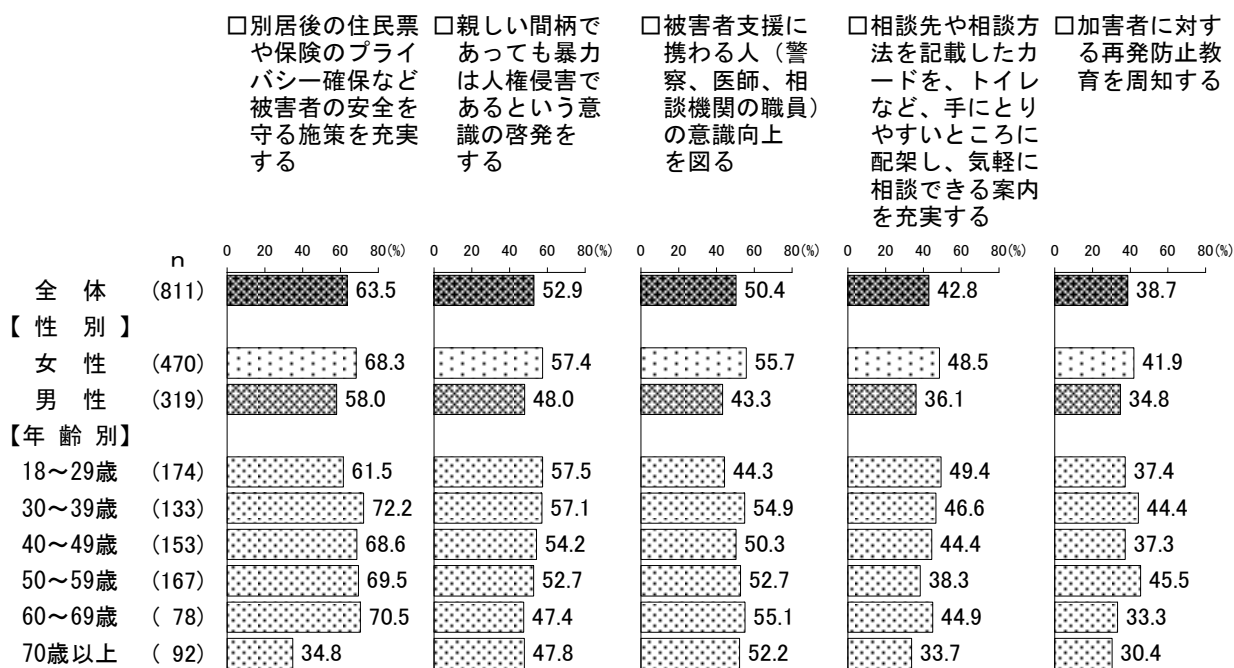
<全体>

DVの防止や対策のために必要な事業を聞いたところ、全体では、「別居後の住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」が63.5%で最も高く、次いで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」(52.9%)、「被害者支援に携わる人(警察、医師、相談機関の職員)の意識向上を図る」(50.4%)、「相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、手にとりやすいところに配架し、気軽に相談できる案内を充実する」(42.8%)となっている。

<性別／年齢別>

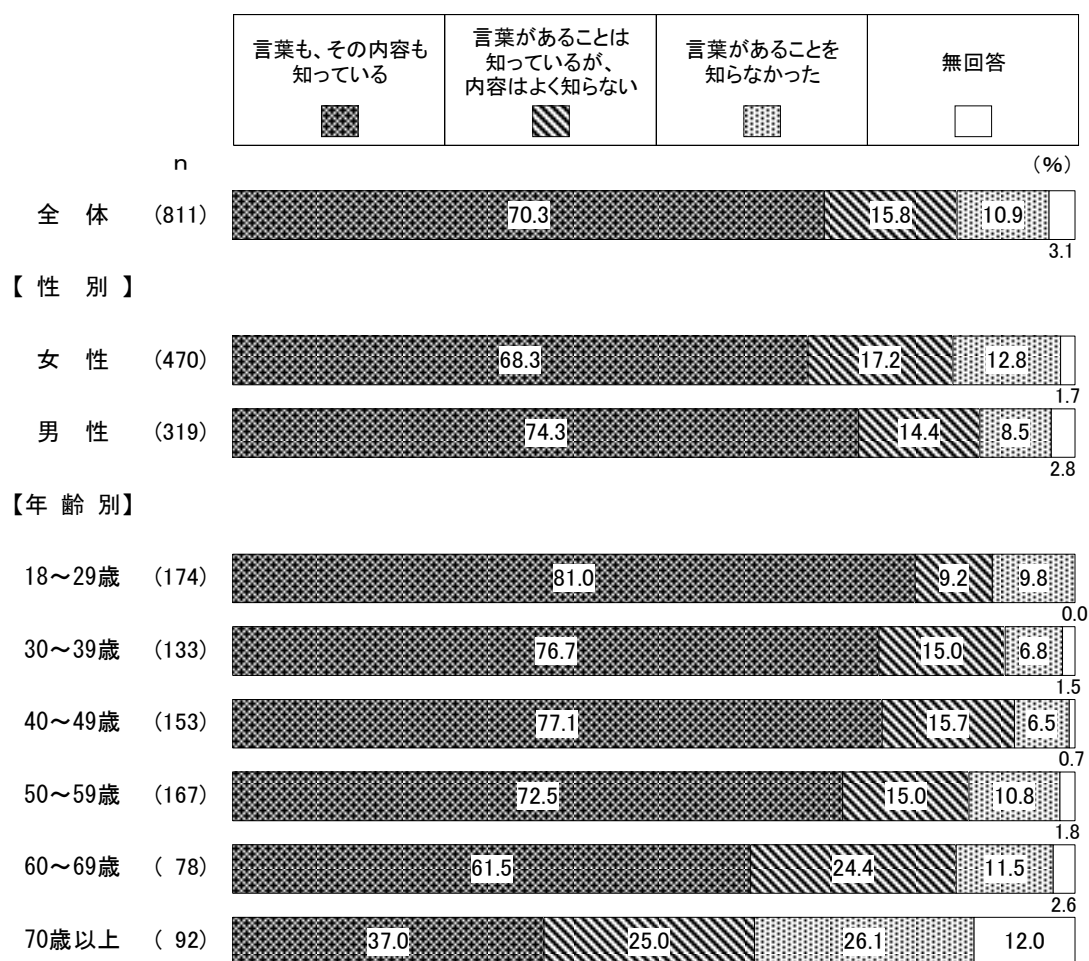
性別でみると、「被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関の職員）の意識向上を図る」は女性（55.7%）が男性（43.3%）より12.4ポイント、「相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、手にとりやすいところに配架し、気軽に相談できる案内を充実する」は女性（48.5%）が男性（36.1%）より12.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「被害の実態や被害者の支援策を市民に広く周知する」は男性（32.9%）が女性（27.0%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「別居後の住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」は30～39歳で72.2%と高くなっている。「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」は18～29歳で57.5%、30～39歳で57.1%と高くなっている。「被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関の職員）の意識向上を図る」は60～69歳で55.1%と高くなっている。



## (10) 性的マイノリティの認知度

問23 あなたは、性的マイノリティ(LGBT等)について知っていますか。(○は1つ)



### <全体／性別／年齢別>

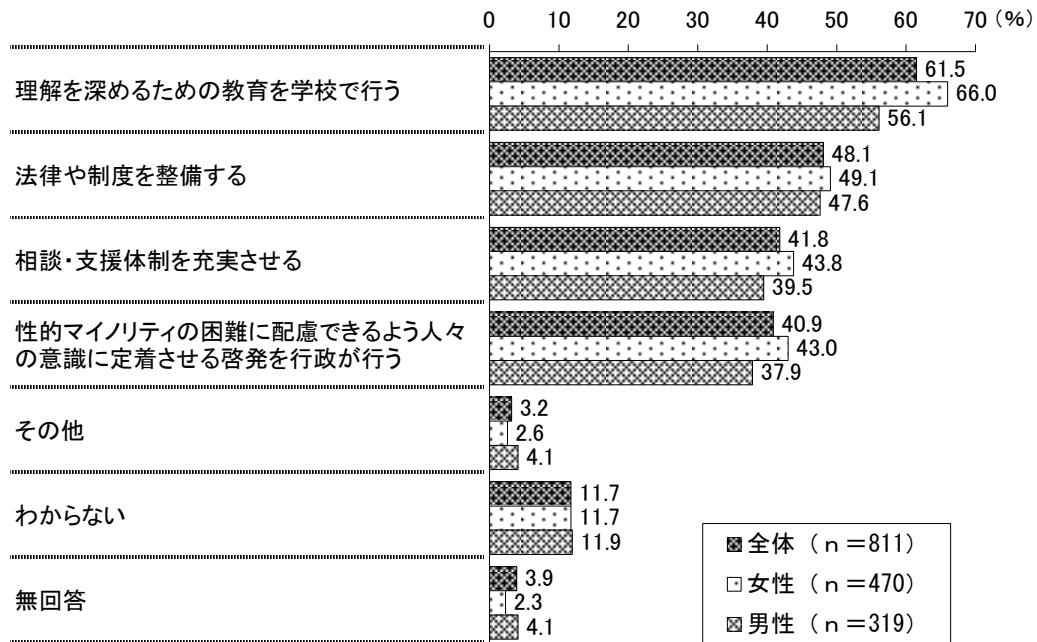
性的マイノリティについて知っているか聞いたところ、全体では、「言葉も、その内容も知っている」が70.3%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は15.8%となっており、「言葉があることを知らなかった」は10.9%となっている。

性別で見ると、「言葉も、その内容も知っている」は男性(74.3%)が女性(68.3%)より6.0ポイント高くなっている。一方、「言葉があることを知らなかった」は女性(12.8%)が男性(8.5%)より4.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「言葉も、その内容も知っている」は18～29歳で81.0%と高くなっている。一方、「言葉があることを知らなかった」は70歳以上で26.1%と高くなっている。

(11) 性的マイノリティの人権を守るために必要な対策

問24 あなたは、性的マイノリティ(LGBT等)の人権を守るために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



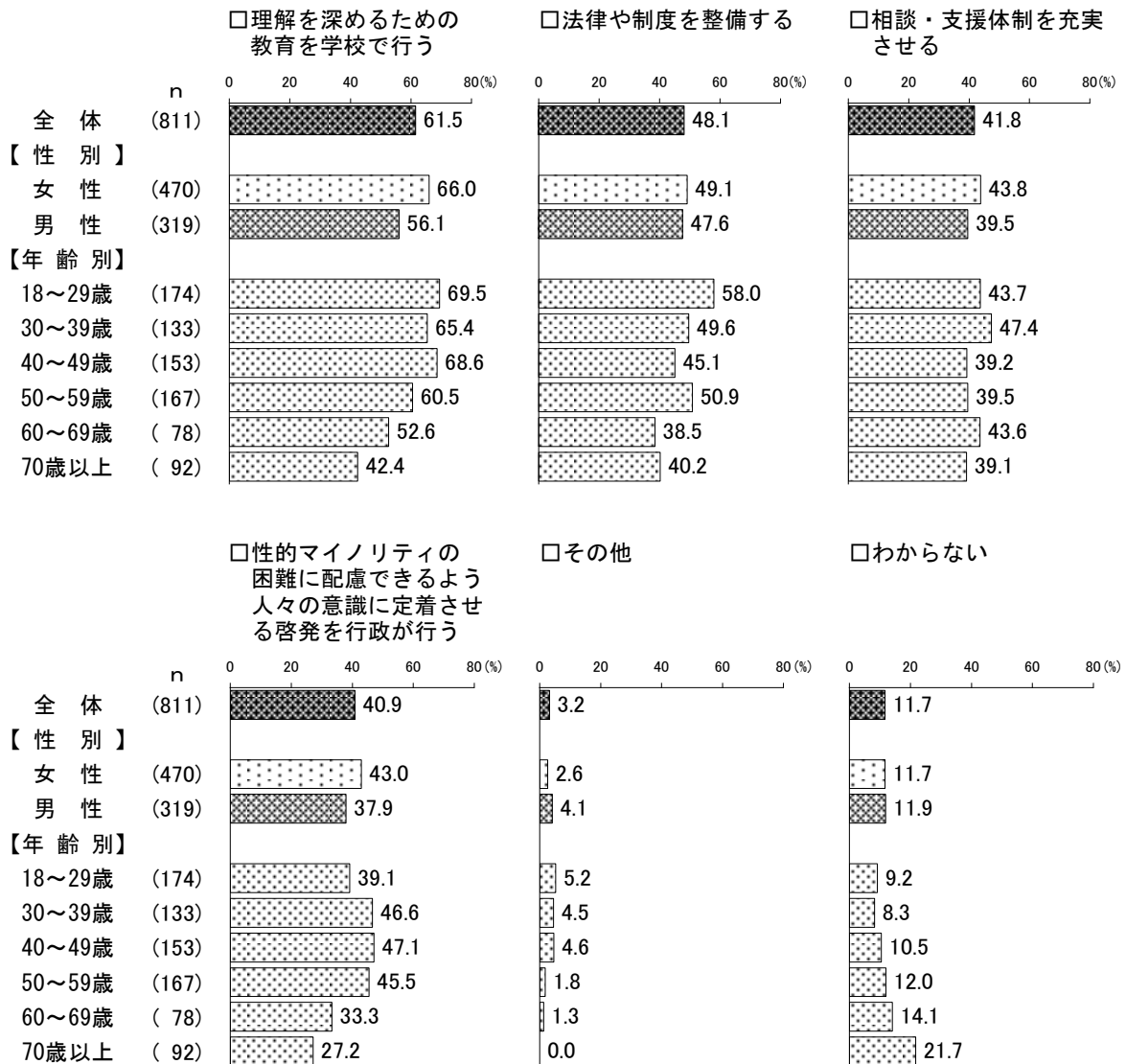
<全体>

性的マイノリティの人権を守るために必要な対策を聞いたところ、全体では、「理解を深めるための教育を学校で行う」が61.5%で最も高く、次いで「法律や制度を整備する」(48.1%)、「相談・支援体制を充実させる」(41.8%)、「性的マイノリティの困難に配慮できるよう人々の意識に定着させる啓発を行政が行う」(40.9%)となっている。

<性別／年齢別>

性別でみると、「理解を深めるための教育を学校で行う」は女性（66.0%）が男性（56.1%）より9.9ポイント、「性的マイノリティの困難に配慮できるよう人々の意識に定着させる啓発を行政が行う」は女性（43.0%）が男性（37.9%）より5.1ポイント、それぞれ高くなっている。

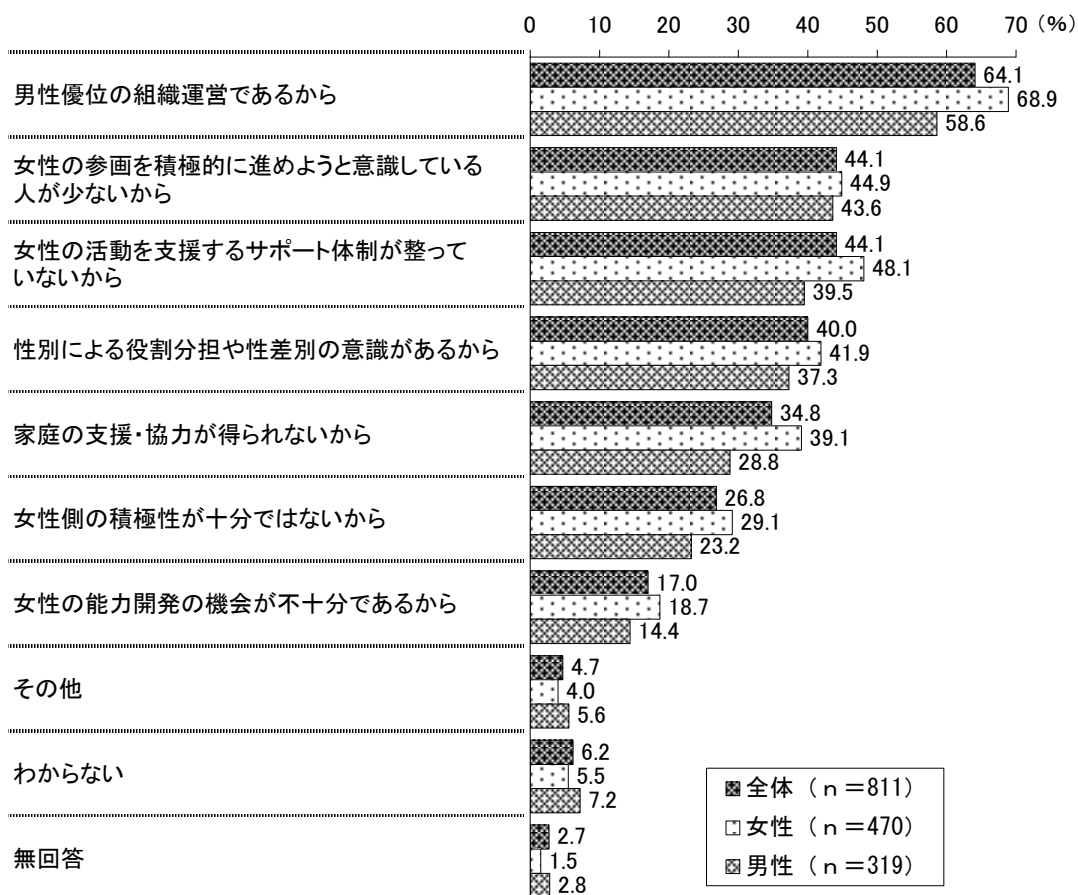
年齢別でみると、「理解を深めるための教育を学校で行う」は18～29歳で69.5%と高くなっている。「法律や制度を整備する」は18～29歳で58.0%と高くなっている。「相談・支援体制を充実させる」は30～39歳で47.4%と高くなっている。



## 8. 女性活躍推進について

### (1) 政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由

問25 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



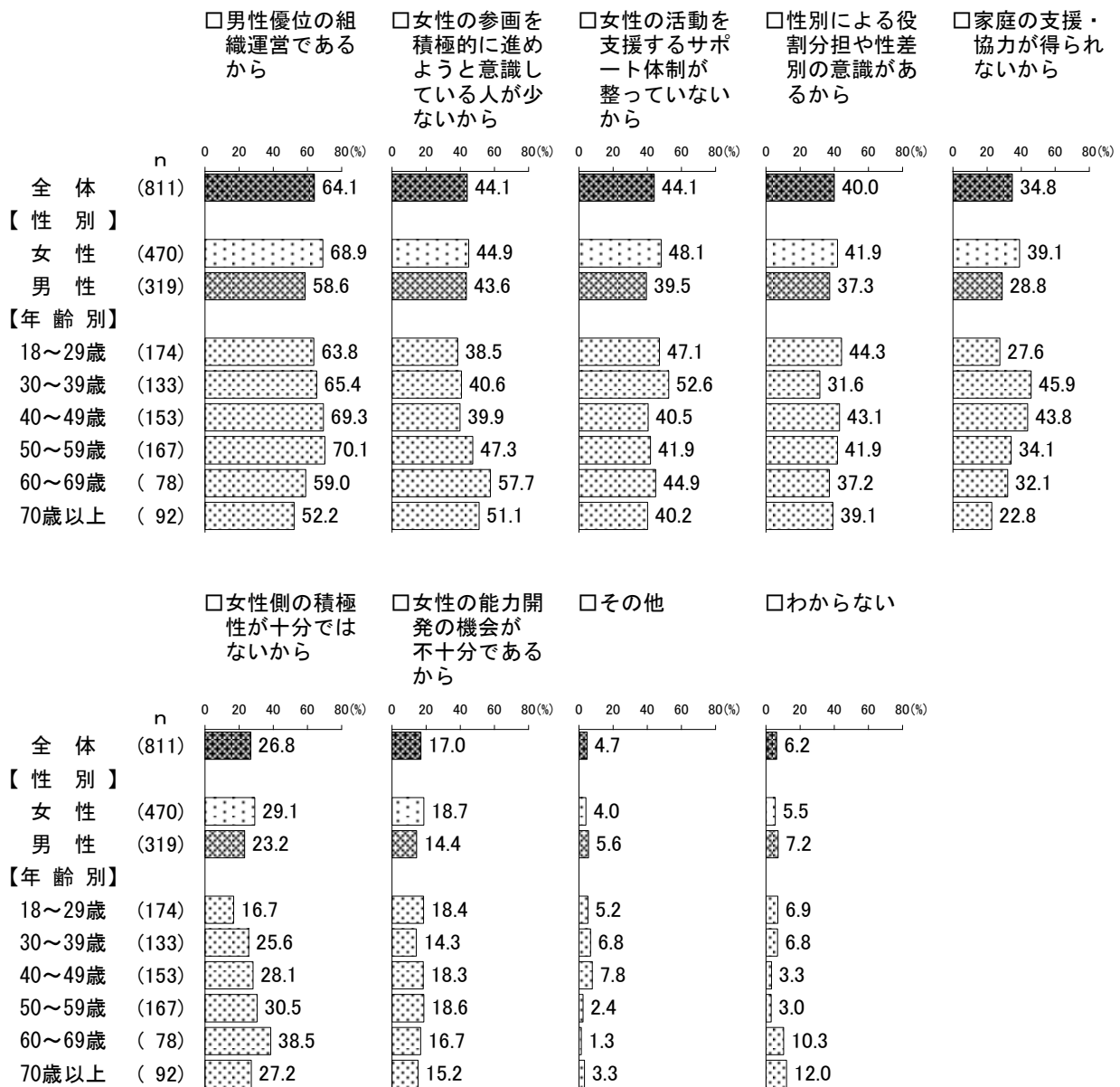
#### <全体>

あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何か聞いたところ、全体では、「男性優位の組織運営であるから」が64.1%で最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」と「女性の活動を支援するサポート体制が整っていないから」（ともに44.1%）、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」（40.0%）となっている。

## <性別／年齢別>

性別で見ると、「男性優位の組織運営であるから」は女性（68.9%）が男性（58.6%）より10.3ポイント、「家庭の支援・協力が得られないから」は女性（39.1%）が男性（28.8%）より10.3ポイント、それぞれ高くなっている。

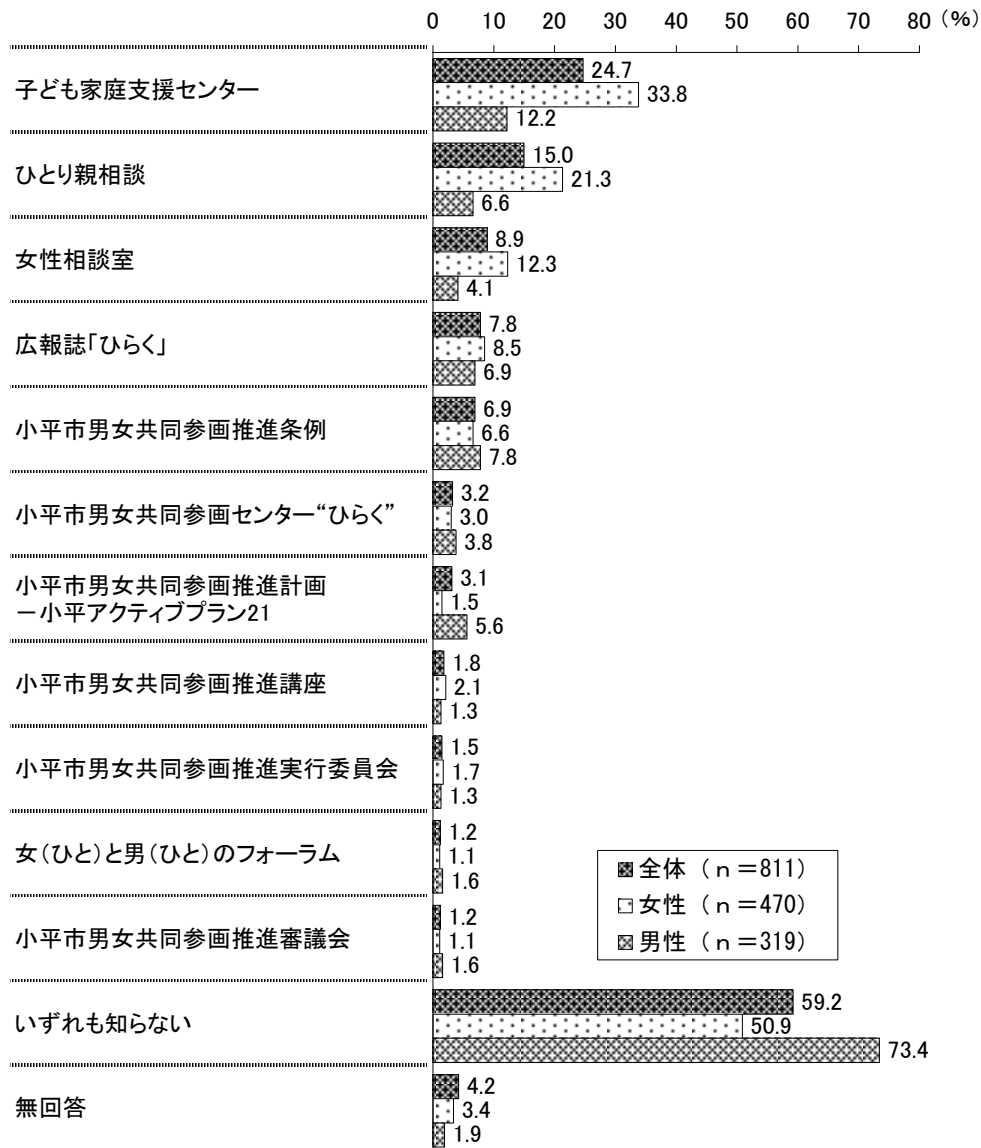
年齢別で見ると、「男性優位の組織運営であるから」は50～59歳で70.1%と高くなっている。「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」は60～69歳で57.7%と高くなっている。「女性の活動を支援するサポート体制が整っていないから」は30～39歳で52.6%と高くなっている。



## 9. 小平市の男女共同参画に関する施策について

### (1) 市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度

問26 あなたは、小平市で取り組んでいる下記にあげる男女共同参画施策を知っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



#### <全体>

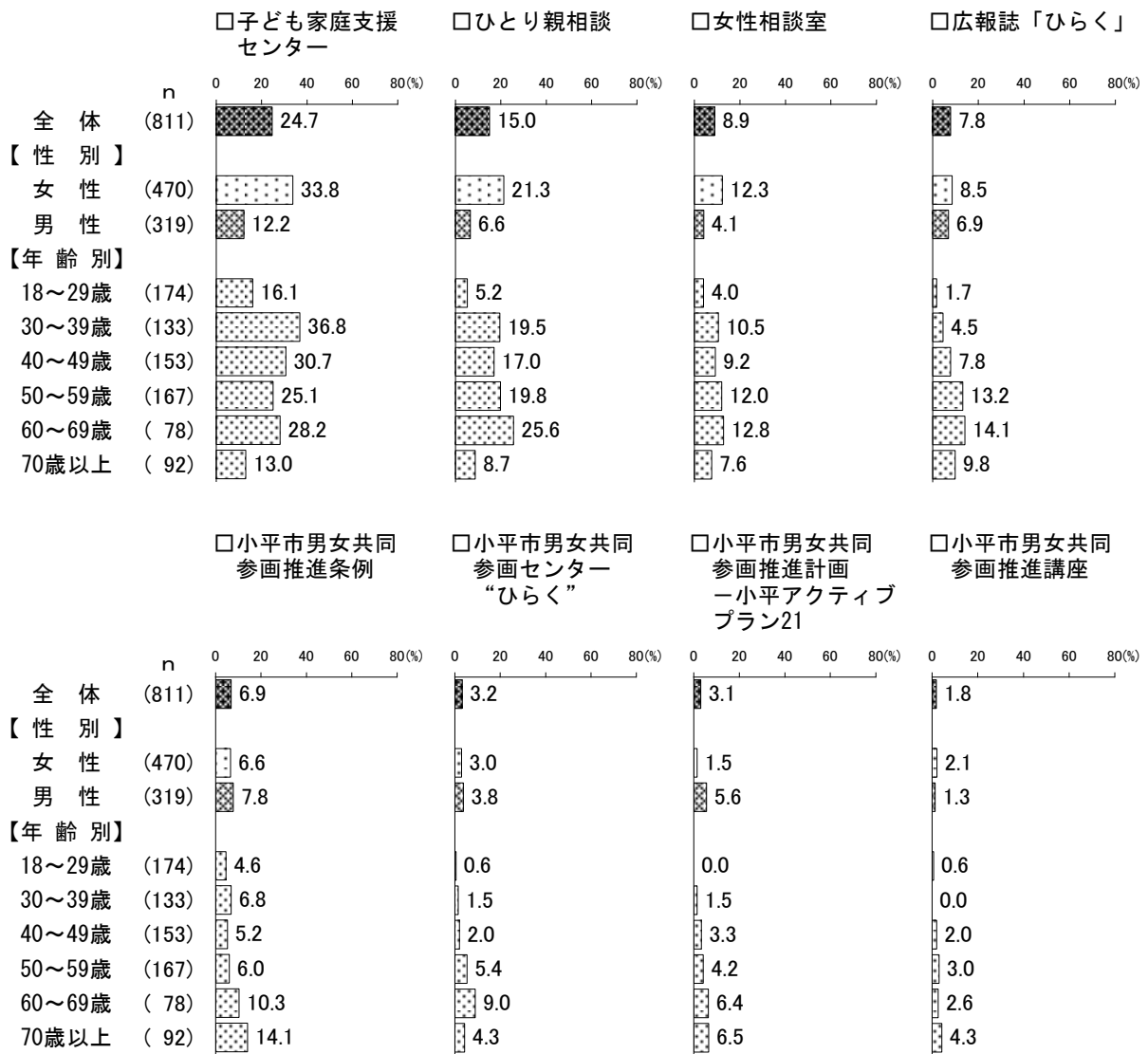
市で取り組んでいる男女共同参画施策で知っている施策を聞いたところ、全体では、「子ども家庭支援センター」が24.7%で最も高く、次いで「ひとり親相談」(15.0%)、「女性相談室」(8.9%)となっている。一方、「いずれも知らない」は59.2%となっている。



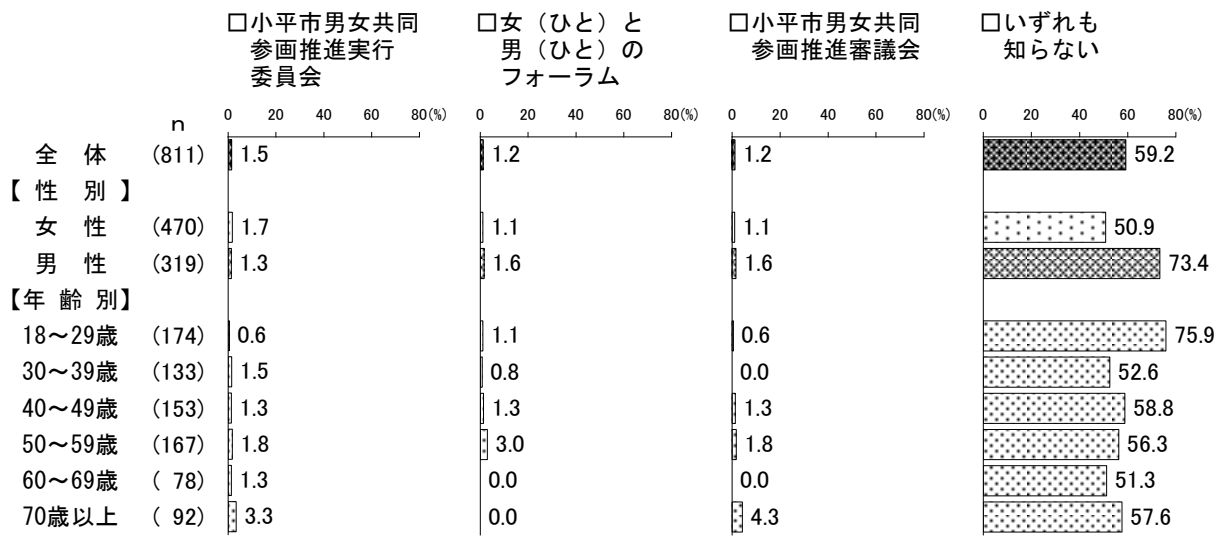
<性別／年齢別>

性別で見ると、「子ども家庭支援センター」は女性（33.8%）が男性（12.2%）より21.6ポイント、「ひとり親相談」は女性（21.3%）が男性（6.6%）より14.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「いずれも知らない」は男性（73.4%）が女性（50.9%）より22.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「子ども家庭支援センター」は30～39歳で36.8%と高くなっている。「ひとり親相談」は60～69歳で25.6%と高くなっている。「いずれも知らない」は18～29歳で75.9%と高くなっている。



<性別／年齢別> (つづき)

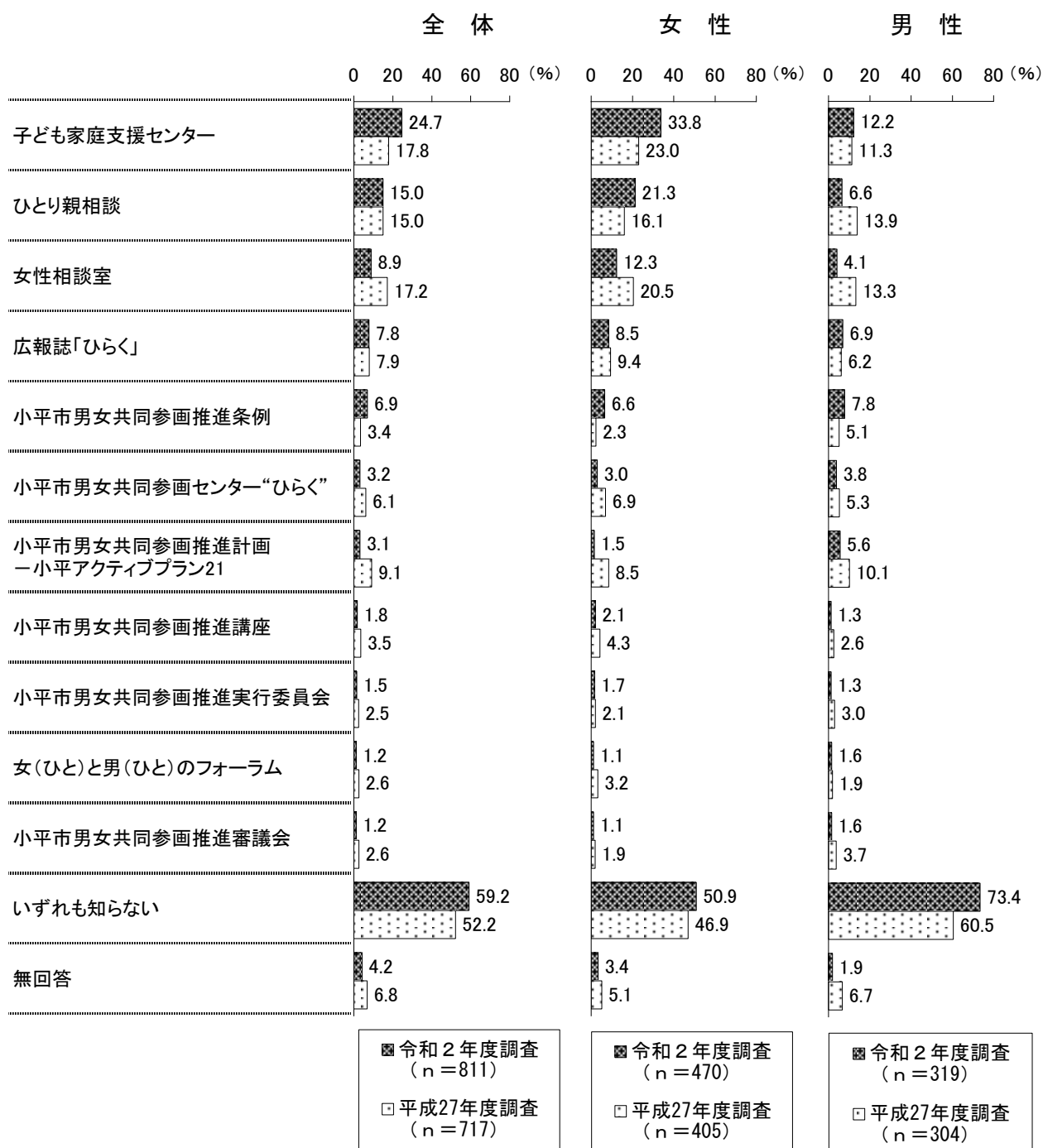


### <経年比較>

過去の調査と比較すると、全体では「いずれも知らない」が平成27年度調査より7.0ポイント、「子ども家庭支援センター」が平成27年度調査より6.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「女性相談室」が平成27年度調査より8.3ポイント、「小平市男女共同参画推進計画－小平アクティブプラン21」が平成27年度調査より6.0ポイント、それぞれ減少している。

女性では「子ども家庭支援センター」が平成27年度調査より10.8ポイント、「ひとり親相談」が平成27年度調査より5.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「女性相談室」が平成27年度調査より8.2ポイント、「小平市男女共同参画推進計画－小平アクティブプラン21」が平成27年度調査より7.0ポイント、それぞれ減少している。

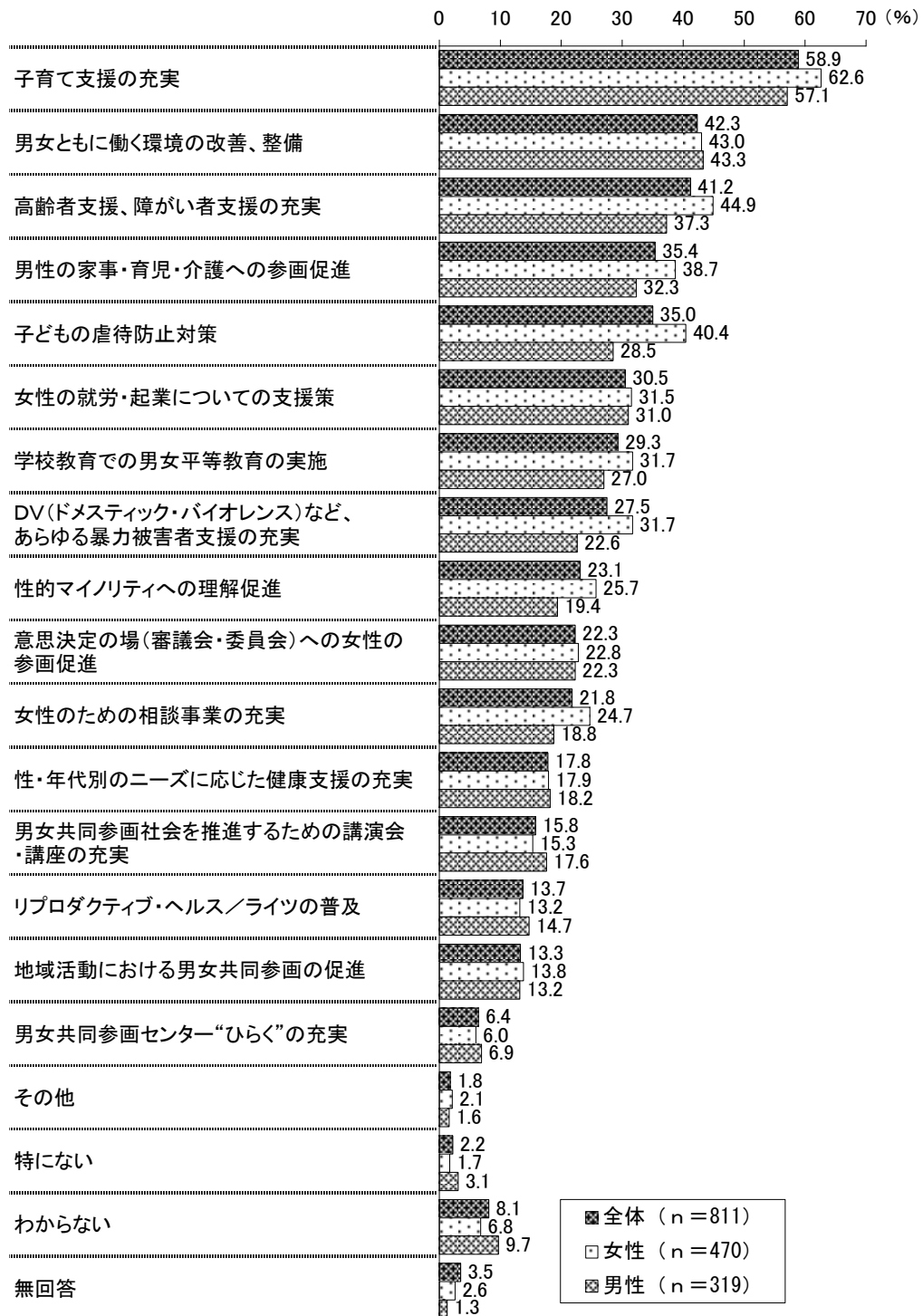
男性では「いずれも知らない」が平成27年度調査より12.9ポイント増加している。一方、「女性相談室」が平成27年度調査より9.2ポイント、「ひとり親相談」が平成27年度調査より7.3ポイント、それぞれ減少している。



(2) 男女共同参画社会を推進するために力をいれるべきこと

問27 あなたは、男女共同参画社会を推進するため、今後、小平市ではどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)



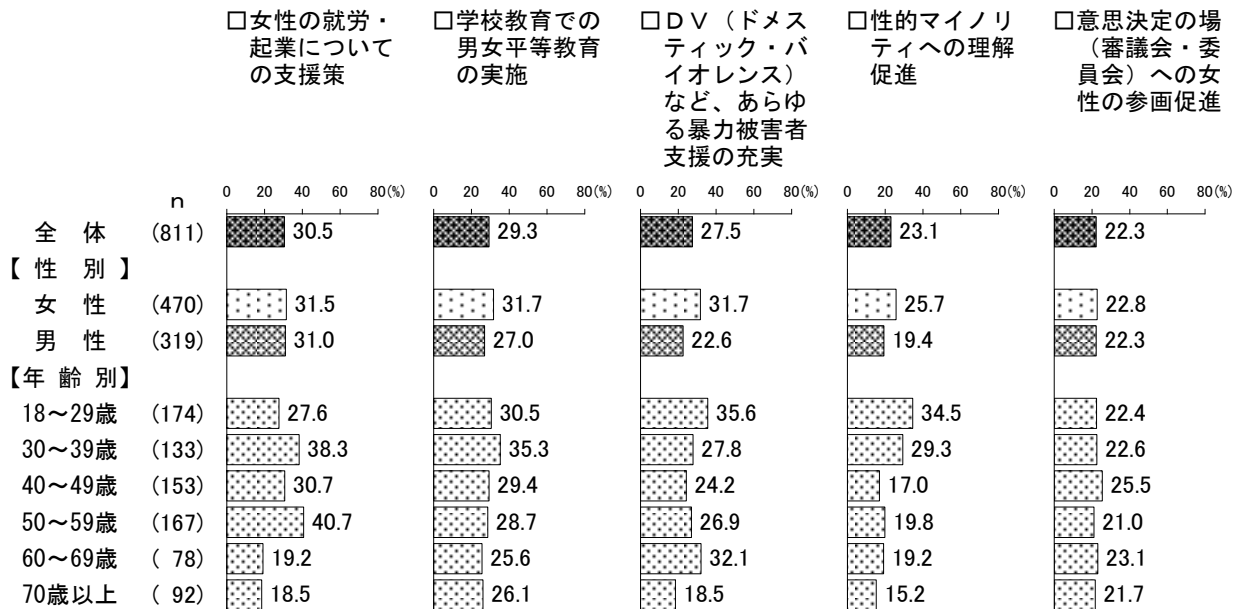
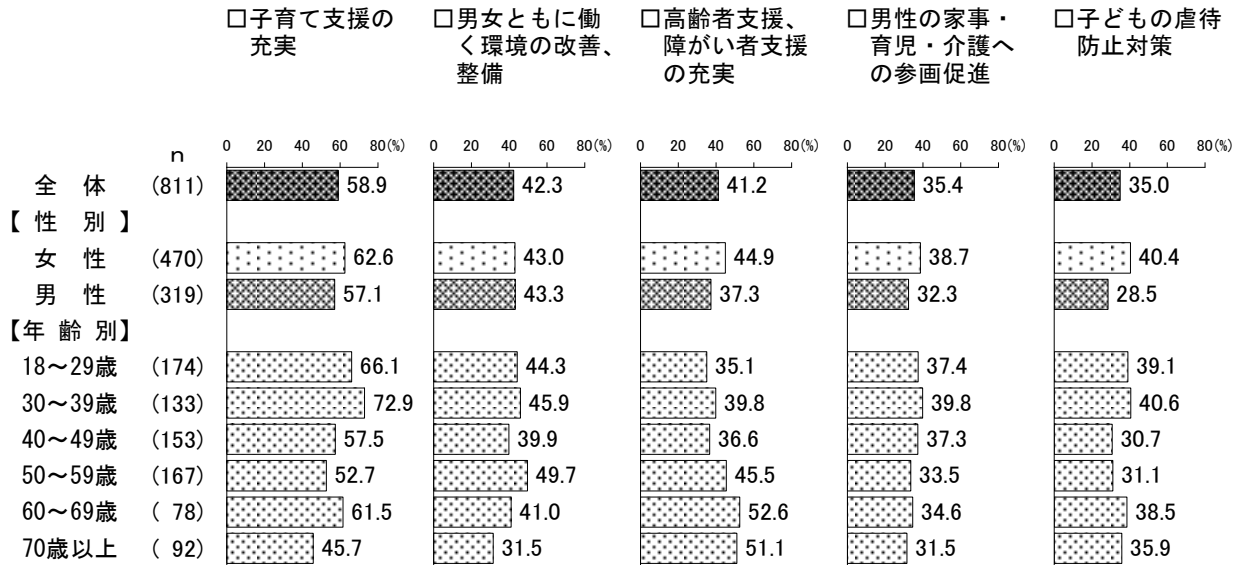
<全体>

男女共同参画社会を推進するために力をいれるべきことを聞いたところ、全体では、「子育て支援の充実」が58.9%で最も高く、次いで「男女ともに働く環境の改善、整備」(42.3%)、「高齢者支援、障がい者支援の充実」(41.2%)となっている。

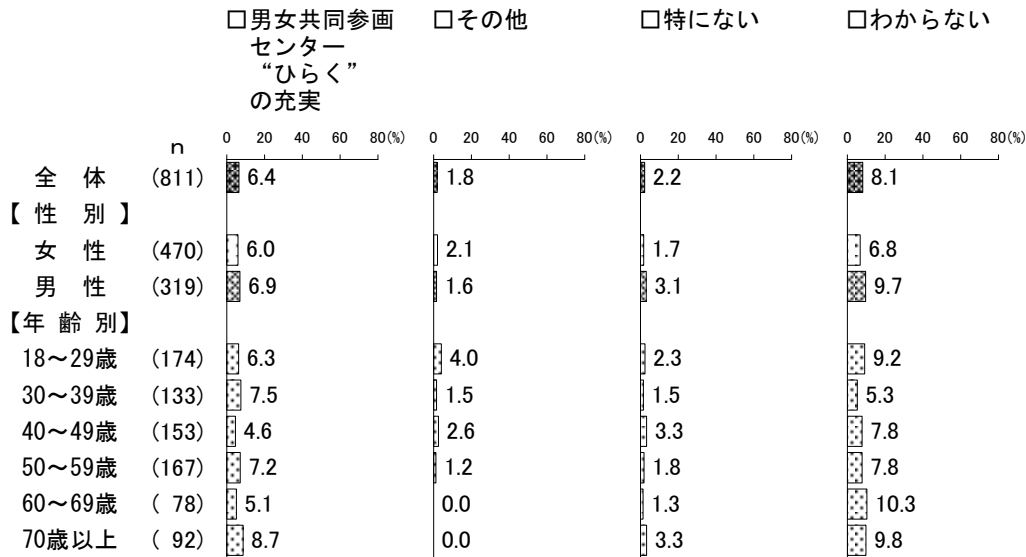
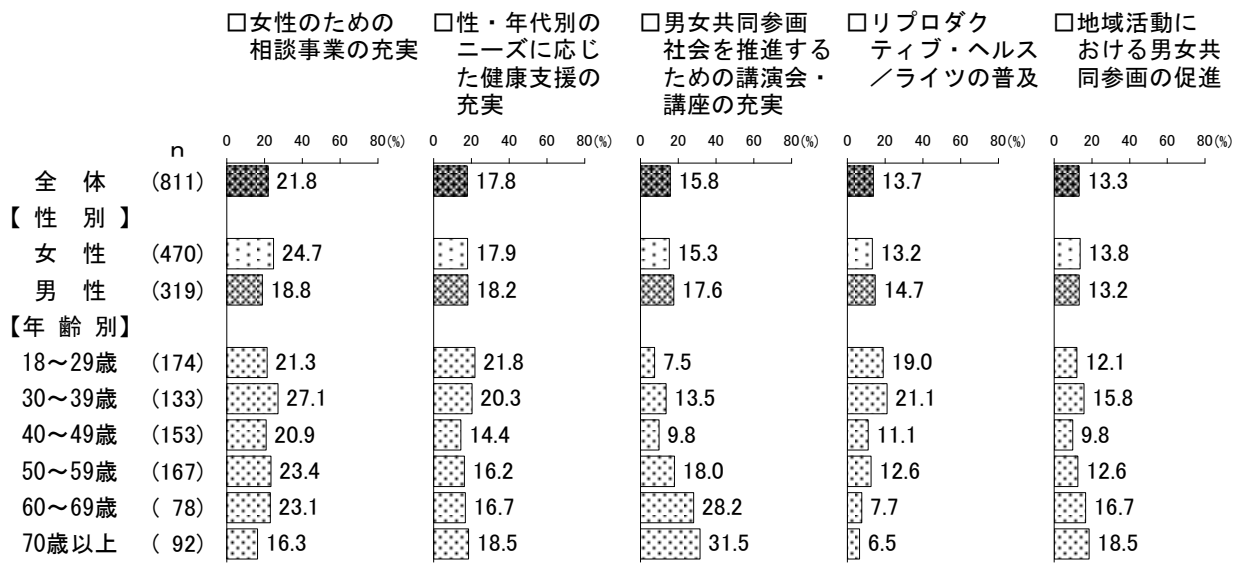
<性別／年齢別>

性別で見ると、「子どもの虐待防止対策」は女性（40.4%）が男性（28.5%）より11.9ポイント、「DV（ドメスティック・バイオレンス）など、あらゆる暴力被害者支援の充実」は女性（31.7%）が男性（22.6%）より9.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「子育て支援の充実」は30～39歳で72.9%と高くなっている。「男女ともに働く環境の改善、整備」は50～59歳で49.7%と高くなっている。「高齢者支援、障がい者支援の充実」は60～69歳で52.6%と高くなっている。



<性別／年齢別> (つづき)



## 10. 自由意見

ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご意見・ご要望を自由に回答してもらったところ、108名から109件の回答がありましたので、代表的な意見を抜粋して掲載します。

主な意見・要望	件数
市の広報について	11件
男女平等教育の促進	8件
少子化対策・子育て支援について	8件
男らしさ、女らしさ・それぞれの特性・性差	4件
就業、育児休業・介護休暇、労働条件	2件
介護について	2件
市の男女共同参画推進施策全般について	8件
男女共同参画推進以外の市への要望	20件
本調査について	40件
その他	6件
合計	109件

### 市の広報について

- ・ 市の取り組みで知らないことが沢山あるのでみんなが知れるように工夫してほしい。  
(女性・18～29歳)
- ・ 男女共同参画推進計画という物がある事を、今回のアンケートで初めて知った。(女性・18～29歳)
- ・ 市の取組は意外に沢山色々なことをやっているのので、それをもっと多くの人に認識させて頂きたいなと思います。就業サポートや趣味の教室など、コロナがおちついたらまた利用したいなと思っております。(女性・18～29歳)

### 男女平等教育の促進

- ・ 男女平等は学校で学習しましたが、実行力がともなわず、実際アメリカでのホームステイを毎年夏期3週間、20年間行って、彼等の生活を拝見して、やっと自己変革、自分で本当に理解して変わりました。他人から言われただけでは変わりませんね。家庭内DVと、幼児虐待等のニュースに胸が痛んでいます。特に家庭内で母親の息子に対する教育を大切にしたいですね。男女平等の意識はここから始まる様に思えます。(男性・70歳以上)
- ・ 社会全体の意識を変えていくには、小さい頃からの教育が必要だと思います。長期にわたる取り組みとなると思いますが、必要なことなので頑張ってください。(男性・50～59歳)
- ・ 育ってきた環境や生活スタイルで個人の考えは、狭い世界にとらわれがちですが、子供の頃から、いろんな世界があり、いろんな選択肢があるということを、子供たちにつたえてあげられる社会になるといいと思います。全ての子供たちを平等に。それには学校教育の場がとても大切なのかも思いません。家庭の中でおしえてもらえない子供も多くいると感じています。(女性・40～49歳)

- ・十分に男女平等であり、そうでない、そうならないのは、一部にそういった考えを持っている方が組織内の上位にいて、諦めているからだと思います。また、制度としては平等なので、そこに向かう意識があるかどうかは今の問題だと思います。物理的サポートより、意識教育や、モチベーション向上の方がとても大切だと思います。(男性・30～39歳)

### 少子化対策・子育て支援について

- ・出産に対するサポート、不妊治療に対するサポート手厚くしてほしいです。(回答したくない・18～29歳)
- ・小平市が子供を産み育てやすい市になってくれると嬉しいです。正直なところ、子供をもつことへの不安がとても大きいです。今後結婚を予定しておりますので、長く小平市民でいられるよう、出産・子育て支援の拡充をぜひともよろしくお願いいたします。(女性・18～29歳)
- ・お見合いパーティーなんか開いて頂けると、嬉しいです。(男性・18～29歳)
- ・子どもが0～3歳の頃まで公民館などで行われる保育付きの講座が参加でき、友人ができたり、地域のつながりを感じられた。いろんな世代が参加できる講座など充実させてほしいです。(女性・40～49歳)

### 男らしさ、女らしさ・それぞれの特性・性差

- ・家庭内の役割も、性的マイノリティーも、人それぞれと言う事をみんなが受け入れられたらいいと思う。社会活動では、能力のある女性が男性と同じように評価され、それぞれが道を選べるとよいと思う。(女性・40～49歳)
- ・チャンスは平等に与えられるべきではあるが、それぞれの得意分野を活かし、個々が輝ける未来を望みます。(女性・40～49歳)
- ・「働く」という言葉について。家事・育児・介護などは生きていくうえでも社会にとっても必要不可欠なエッセンシャルワークであると考えます。これらの仕事を女性がすることが自然な社会の流れがありました。ですので、F4のように、外で働いていなければ働いていないことになる言葉使いに違和感を感じます。問1では「外で働く」という言い方をしていますが、こちらは「家庭を守る」という言葉と対比し、一応どちらも大事な仕事としてとらえているようにも思えます。一般的に、外で働くこと、金銭的収入を得る仕事を「働く」と言うことはわかるのですが、家事・育児・介護は不可欠な仕事であり、十分に忙しいのに「働いていない」となるのは、何かおかしいと感じます。外で働くことも、家庭で働くことも「働く」ことであり、どちらも重要で尊重されるべき仕事なのだという意識をしっかりと持てるようになると、男性の家事・育児・介護への参加も進むと思いますし、結果、女性が外で働きやすくなり、バランスのよい生き方、男女共同参画が進むのではないかと思います。(女性・50～59歳)

### 就業、育児休業・介護休暇、労働条件

- ・女性が出産後、育児だけでなく、自らの体調を整えるため休業するのは、当然のこと。その間に、子の健診や予防接種などが次々にあり、休業中の母が付きそい、情報共有を全て夫(父)にするのは困難。父が全ての子の状況(予防接種がどこまで済んでるかなど)を把握する、している家庭は少ないと思う。母が職場復帰しても、子の体調不良の際に、一番状況を分かっている母がよばれてしまうことも仕方ない。家事や育児を、母、妻がしているからこそその男性が働ける環境だと思う。(女性・30～39歳)



- ・小平市内の複数の認可保育所で、先生、特に男性は言葉遣いや怒鳴る、女性はダルイなどの発言や泣く子を長時間無視するなど、子どもに対する暴言を目にしています。保育所の増設も大きな課題ですが、安心して子どもを預けられる保育所を増やすことをぜひお願いしたいと思います。育休復帰までの猶予がなく、仕方なくどこでもよいと選ばざるを得なかった人や、安心して預けられるところに決まるまで約3年育休を取得せざるを得なかった人がいます。アンケート中に学校での教育の重要性を選択する設問があったように、幼児期にとっても保育所の先生の態度はとても重要だと思います。(女性・30～39歳)

### 介護について

- ・健康で、男、女共に助け合って生活できることはすばらしい事です。余裕のある方は、他の人のために生きましょう。82歳で介護職の東京都のテストを受け合格し、若い方を助けています。(現在82歳です。)(女性・70歳以上)
- ・介護施設(安く利用できる)の充実。私たちは長男長女なので4人の面倒を見なくてははいけない。他の兄弟は、独身や生活保護など期待できない。父(自営)は介護施設で15万円近く(持ち出し10万円近く)かかっている所以他3人と思うと、どうすればよいか教えてもらいたい。主人は、あと2年で退職です(私はパートです)。先日、母(活動的な)が大腿骨頸部骨折になりました。昔は、重い荷物をリヤカーで引いて、骨には自信があるような事を言っていたのに。健康診断で骨密度を気軽に調べる事はできないでしょうか。又、1日に必要なカルシウム量又は運動をおしえてもらいたい。(女性・50～59歳)

### 市の男女共同参画推進施策全般について

- ・性的マイノリティへの意識改革の一環として、公的書類での“男女”という表記を控えるべきだと思います。性別は“男女”のみではないし、LGBTは性的指向であり“性的マイノリティ”とまとめられるほど単純なものではありません。“性”に対する意識改革が性的マイノリティの意識改革につながると思います。小平市がこのアンケートを機に東京ひいては日本、世界の平等を実現するパイオニアとなってほしいです。(女性・18～29歳)
- ・友人がLGBTなのですが、どちらの性別の人も利用できるトイレがどこにあるのかマップなどあるといいなと申しております。(女性・30～39歳)
- ・そもそも、多様性のある今の時代で男、女として考え方や意見を求めるのが時代遅れな気がします。男性でも個人によって考え方がちがうし、女性でも古い考えを良しとしている人もいます。小平ではダイバーシティの観点で施策を進められると、この地で長く生活していきたいと思えるようになります。(女性・30～39歳)

### 男女共同参画推進以外の市への要望

- ・子供の有無に関係なく、低所得層には給付金や家賃支援などのサポートをしてもらいたい。生きていく為の明るい希望が欲しい。(女性・30～39歳)
- ・男女共同参画推進も大切ですが、女性子供が安心して生活できる環境作りが先だと思います。まず小平市は玉川上水沿いの環境(道・街灯、監視カメラ等)をどうにかしてほしいです!暗くて汚なくて怖いです。(女性・50～59歳)
- ・災害時の避難場所の確保、ペットと避難できる場所の確保、高齢者が住める一般住宅の増加。  
(男性・50～59歳)

## 本調査について

- ・ 若い人向けのアンケートだと思う。当事者年代を対象にした方がよい。(女性・70歳以上)
- ・ インターネット媒体を用いて調査を行う方がよいのではないのでしょうか。記入漏れがわかるので今後はそちらの方がありがたいです。(女性・18～29歳)
- ・ アンケートの項目がそもそも偏っている。当てはまらない人にとっては意味がない。時間、お金の無駄。(女性・40～49歳)
- ・ 意識調査の郵送と同様に、その結果と、このアンケートによってなされた事象や変革をお知らせ下さい。(女性・50～59歳)
- ・ L G B Tがさげばれている現在、性差では語りきれないと感じています。ご設定頂いた質問は、切り口が明確ではあるものの、様々な要素をつい思い描いてしまい、私自身はお答えがしにくいものでした。調査に適さない人間であったように思われ誠に申し訳なく存じます。

(回答したくない・50～59歳)

## その他

- ・ がんばって下さい。(女性・30～39歳)
- ・ 小平市いつもありがとう。(男性・40～49歳)
- ・ お役立ていただけると幸いです。(男性・18～29歳)